講義名	言語学入門						
教員名	八木橋　宏勇						
講義コード	125131100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本授業のテーマは「広く深い＜ことば＞の世界を＜分析的に＞探究する」である。従来「音声学・音韻論」「形態論」「意味論」「統語論」と分業されていた言語の諸側面を、「認知言語学」「社会言語学」「語用論」の理論的枠組みを用いて統合的に論じつつ、主として日本語と英語を対照させながら、語・句・文・談話レベルの言語現象を分析的に考えるトレーニングを行っていく。これにより、＜ことば＞に対する解像度を高めつつ、身の回りにあふれている＜ことばの不思議＞に気づく力、＜ことばの不思議＞を一つひとつ分析的に捉え＜納得した理解を得る経験＞を積み重ねて行く。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

次の 3 点を到達目標とする。
①先人達が築いてくださった言語理論（の一つ）を体系的に学ぶことにより、身の回りの言語現象を分析的に捉えられるようにする。
②発展的で意義のある疑問を抱き、考え抜いてその疑問を解決に導く、という主体的な思考経験を積み重ねることにより、「問題発見力」「問題解決力」を「学問を通して」身につける。
③上記②をとおして、＜ことばの不思議＞に対する言語学の理論的貢献を体感し、アカデミックな基礎体力を涵養する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・「英語学の歴史と対照研究」を理解する。	【予習】テキスト第 1 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第２回	カテゴリー化 ・一般認知能力が言語に反映されている諸相を理解する。	【予習】テキスト第 2 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第３回	事態把握 ・状況の捉え方と言語表現の関係性を理解する。	【予習】テキスト第 3 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第４回	メタファー・メトニミー・シネクドキー ・比喩に満ちた日常言語の諸相を理解する。	【予習】テキスト第 4 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第５回	文法化 ・文法がいかに発生してきているか理解する。	【予習】テキスト第 5 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第６回	構文 ・意味を伝える言語形式の諸相を理解する。	【予習】テキスト第 6 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第７回	メンタルコーパス ・母語話者が具備する言語知識の諸相を理解する。	【予習】テキスト第 7 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第８回	イメージ・スキーマと意味拡張 ・意味が広がるメカニズムを理解する。	【予習】テキスト第 8 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第９回	バリエーション ・日本の方言、イギリス英語、アメリカ英語、そして世界の英語の諸相を理解する。	【予習】テキスト第 9 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第１０回	状況に応じた言語変種の選択 ・人がことばを切り替える諸相を理解する。	【予習】テキスト第 10 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第１１回	ポライトネス ・言語的配慮のメカニズムの諸相を理解する。	【予習】テキスト第 11 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第１２回	言語とコミュニケーション ・言語文化圏によって異なる「好まれる言い廻し／コミュニケーション」について理解する。	【予習】テキスト第 12 章を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第１３回	ジェンダー ・言語学が女性と男性をどう見て来たかを理解する	【予習】配布資料を熟読。 【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60
第１４回	授業のまとめ	【復習】授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	60

〔授業の方法〕

各回の授業は、「担当者による講義」と「履修者によるディスカッション・グループワーク」の二本立てで構成される。講義に必要な資料は適宜配布する。
評価にあたっては、身の回りの言語現象を「学問的・分析的に見る眼」が身につけられているかどうかという観点で行うため、授業で提示される「理論的考え方」や「分析手法」に関する理解を積極的に積み重ねるようにしてほしい。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
ディスカッション・グループワークに関しては、授業内でフィードバックする時間を設ける。また、課題については、Course Power の機能を使って個別にコメントを返却する。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）50%
レポート 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①身の回りの言語現象を分析的に捉えることができる。
②身の回りの言語現象について発展的で意義のある疑問を抱き、考え抜いてその疑問を解決に導くことができる。
③＜ことばの不思議＞に対して学問的・分析的に考え、自らの解を導くことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
多々良直弘・松井真人・八木橋宏勇『実例で学ぶ英語学入門』朝倉書店, 2022 年, ISBN:9784254510720, 3,190 円（定価・税込）

〔参考書〕
履修者の興味関心に合わせて授業内で随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	英語圏文化入門						
教員名	小林　英里						
講義コード	125131110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
近代ヨーロッパにおける「人・金・もの」の移動は、政治経済上の不均衡を生み出すとともに、「宗主国」と「植民地」、「富めるもの」と「貧者」、「社会の主流」と「社会的弱者」、そして「男」と「女」という、ヒエラルキーをともなう想像上の区分を創出してきたといえる。本講義では映画を題材に、文化研究の基本的な概念である「階級」「ジェンダー」「人種」を中心にして、また「他者」「マイノリティ」「アイデンティティ」「ディアスポラ」「ホロコースト」といった批評概念にも目配りをしながら、英語英米文学科のフォーカスのひとつ「文化とコンテクスト」の基本的視座を学ぶ。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
本学のディプロマポリシー【DP1】（専門分野の知識・技能）、【DP2】（教養の習得）、【DP3】（課題の発見と解決）、【DP4】（表現力、発信力）を実現するために、以下の３点を到達目標とする。
①文化研究および現代批評理論の基本的な概念を学ぶ。
②具体的な作品分析を通じて、現代社会の課題の発見と解決について考察する。
③授業を通じて、「取り残される」人のいない包摂的な社会の実現について考察する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：授業内容の説明――文化研究とは？	あらかじめシラバスに目を通し、授業内容を確認する。	60
第２回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』（本橋哲也、大修館書店、2006 年）序章	授業内容を確認する。	60
第３回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第２章（１）	授業内容を確認する。	60
第４回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第２章（２）	授業内容を確認する。	60
第５回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第 2 章 (3)	授業内容を確認する。	60
第６回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第５章 (1)	授業内容を確認する。	60
第７回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第 5 章 (2)	授業内容を確認する。	60
第８回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第 5 章 (3)	授業内容を確認する。	60
第９回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第 13 章 (1)	授業内容を確認する。	60
第１０回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第 13 章 (2)	授業内容を確認する。	60
第１１回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第 13 章 (3)	授業内容を確認する。	60
第１２回	「ディアスポラ」についての考察 (1)	授業内容を確認する。	60
第１３回	「ディアスポラ」についての考察 (2)	授業内容を確認する。	60
第１４回	総括	授業内容を確認する。	60

〔授業の方法〕
講義形式。テキストを読んでから、実際に映画を視聴する。その後、授業で扱う単元や章がそれぞれ終わるときに、コースパワーを通じてレスポンス・ペーパーやレポートを提出する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業中に前回のレスポンス・シートの講評をできる限りおこなう。

〔成績評価の方法〕

コースパワーを通じた各単元ことのレスポンス・シートおよびレポート（80%）、平常点（20%）で評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
世界史の近現代史（高校の教科書のレベルで可）の基本的知識があることが望ましい。

〔テキスト〕
とくになし。コースパワーを通じて、教材を提示する。

〔参考書〕
購入の必要はないが、参考にして欲しい。
『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』　（本橋哲也著、大修館書店、2006 年） ISBN 4-469-213-1-2

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(3)初年次教育,(6)ＩＣＴ活用

26/2/9 15 時 45 分

講義名	英語圏芸術・思想入門						
教員名	日比野　啓						
講義コード	125131120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
1927 年に初演されたミュージカル『ショウ・ボート』Show Boat (1927)とその映画化作品を鑑賞し、ミシシッピ川の表象、20 世紀初頭の黒人文化、シカゴ万国博覧会など、合衆国の芸術・文学で共通して扱われる複数の主題について学びます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
#1 合衆国の人種差別の歴史について学ぶ
#2 19 世紀の南部社会について学ぶ
#3 合衆国における大衆文学や演劇の歴史について学ぶ
#4 20 世紀初頭の黒人文化について学ぶ
#5 文化地理学・観光文化学の視点を学ぶ
これらの目標を達成することによって、DP1/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション／映画鑑賞:『ショウ・ボート』Show Boat（1951、147 分）	映画『ショウ・ボート』Show Boat（1951、147 分）の製作過程を調べておいてください。	100
第２回	映画鑑賞:『ショウ・ボート』(続き)	映画『ショウ・ボート』でどんな主題が扱われているかを考えておいてください。	100
第３回	講義：合衆国の人種差別の歴史	映画『ショウ・ボート』において人種差別がどのように描かれているかを考えておいてください。	100
第４回	講義：文化地理学とは何か：19 世紀の南部	映画『ショウ・ボート』において 19 世紀の南部がどのように描かれているかを考えておいてください。	100
第５回	講義：ミシシッピ川と蒸気船の表象:『蒸気船ウィリー』Steamboat Willie (1928) とアニメーションの歴史	映画『ショウ・ボート』においてミシシッピ川と蒸気船がどのように描かれているかを考えておいてください。	100
第６回	講義：エドナ・ファーバーと大衆小説	エドナ・ファーバーの原作小説『ショウ・ボート』の抜粋を読んでおいてください。	100
第７回	講義：大衆文化としての演劇	オスカー・ハマースタイン二世の戯曲『ショウ・ボート』の抜粋を読んでおいてください。	100
第８回	講義：黒人音楽とジェローム・カーン	黒人音楽とジェローム・カーンの音楽の特徴について考えておいてください。	100
第９回	講義：フェミニズムと 1950 年代のアメリカ社会	映画『ショウ・ボート』において女性がどのように描かれているかを考えておいてください。	100
第１０回	映画鑑賞:『ショウ・ボート』Show Boat（1936、113 分）鑑賞	映画『ショウ・ボート』Show Boat（1936、113 分）の製作過程を調べておいてください。	100
第１１回	映画鑑賞:『ショウ・ボート』(続き) ／講義：合衆国における映画の歴史	『ショウ・ボート』の二つの映画化作品を比較・対照し、その相違を考えておいてください。	100
第１２回	講義：20 世紀初頭の黒人文化	映画『ショウ・ボート』において俳優ポール・ロブスンが果たした役割を調べておいてください。	100
第１３回	講義:観光文化学とは何か:シカゴ万国博覧会 (1893 年)	合衆国文化においてシカゴ万国博覧会が持っていた意味を調べておいてください。	100
第１４回	まとめ：到達度確認試験	到達度確認試験のための準備として、全体で学んだことを復習しておいてください。	100

〔授業の方法〕
講義形式。前週に学んだ知識についてたずねる小テストをオンラインで毎週実施します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
全ての小テストについて実施後に解説を行います。

〔成績評価の方法〕

小テスト：4 点×12 回
到達度試験：52 点

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。毎回資料を配布します。

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(6)ＩＣＴ活用

講義名	言語学 A						
教員名	田辺　春美						
講義コード	125131200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

＜英語史＞

英語という言語がどのようにして発達してきたかを概観する． どの言語も時の流れの中で変化するが、英語が被った変化は目覚ましく、他のヨーロッパの言語には見られない方法で、疑問文や否定文、進行形を作る。語彙の多さも類を見ない。本講義では、印欧祖語から古英語、チョーサーの中英語、シェイクスピアの初期近代英語を経て現代英語へと時代が変遷するにつれて生じた、発音，スペリング，形態，文法，語彙の変化とそのメカニズムについて学ぶ．

英語の歴史について学ぶことは現代英語をよりよく理解することにつながるので、選択科目ではあるが英語英米文学科の学生の多くに履修してほしい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。

（1）英語の始まりから現代英語までどのような変化があったか概略を理解する。

（2）標準英語がどのように成立したのか理解する。

（3）発音、語彙、形態、文法の変化はそれぞれ英語という言語の内的なメカニズムと文化的な事情により、個別に発達していることを理解する。

（4）標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について考察を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の紹介 英語史の概観ー古英語・中英語・近代英語時代	【予習・復習】『ファンダメンタル英語史』第１、２章、配付資料を読み、内容を理解する。	60 分
第２回	英語のルーツ 印欧祖語、グリムの法則	【予習】『ファンダメンタル英語史』第３章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第３回	古英語の豊富な語尾変化ー格変化、名詞	【予習】『ファンダメンタル英語史』第５章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題に取り組む。	６０分
第４回	古英語の豊富な語尾変化ー指示代名詞、人称代名詞	【予習】『ファンダメンタル英語史』第５章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第５回	古英語の語彙 ヴァイキングが英語に与えた影響	【予習】『ファンダメンタル英語史』第６章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第６回	古英語の豊富な語尾変化ー動詞、法	【予習】『ファンダメンタル英語史』第７章、内容を理解する。 【復習】課題、練習問題に取り組む。	６０分
第７回	古英語から中英語へー語彙の変化 The Canterbury Tales からの抜粋	【予習】『ファンダメンタル英語史』第９章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】課題、練習問題に取り組む。	６０分
第８回	古英語から中英語へー語順の変化	【予習】『ファンダメンタル英語史』１０章を読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第９回	中英語から近代英語へー否定文・疑問文の do の発達	【予習】『ファンダメンタル英語史』１２章を読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１０回	助動詞の意味変化	【予習】配布資料を読み、内容を理解する。寺澤『英語の歴史』第４章の２文法を読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１１回	綴りと発音の不一致 大母音推移	【予習】『ファンダメンタル英語史』１３章を読み内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１２回	標準英語の発達ージョンソンの辞書と規範文法	【予習】配布資料を読み、内容を理解する。グッデン『物語　英語の歴史』の IV-I を読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１３回	現代の英語に見られる変化	【予習】配布資料を読み、内容を理解する。寺澤『英語の歴史』第６章現代の英語の３差別撤廃運動、４性差とフェミニズムを読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１４回	到達度確認試験実施	【復習】教科書や配布資料を見直し、復習する。	１２０分

〔授業の方法〕

教科書、配布プリントをもとにした講義と練習問題。毎回授業の内容に関する簡単な課題を宿題として出す。課題の成績は平常点の一部となる。

補助教材として、DVD 教材であるメルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』、BBC の『ストーリー　オブ　イングリッシュ』を視聴しながら、楽しく進めたい。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業期間中の課題は授業内またはコースパワーで、到達度確認試験はコースパワーでフィードバックする。

〔成績評価の方法〕
平常点と到達度確認試験による。授業への積極的参加、課題、コメントシートなどの平常点が６０％、到達度確認試験が４０％。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。次の点に着目し，その達成度により評価する。
（1）英語の始まりから現代英語までの歴史の概略を説明できる。
（2）標準英語がどのように成立したのか説明できる。
（3）英語の発音、語彙、形態、文法の変化のメカニズムを理解している。
（4）標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について概要を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：言語学入門
関連科目：言語学 B、言語と社会研究発展 A、社会言語学

〔テキスト〕
児馬修　『ファンダメンタル英語史　改訂版』　ひつじ書房、1728 円、ISBN 978-4-89476-877-2

〔参考書〕
「購入の必要なし」
寺澤盾『英語の歴史』（中公新書）、中央公論社、902 円、ISBN 978-4-12-101971-4 [Kindle あり]
家入葉子『ベーシック英語史』ひつじ書房、1600 円＋税、ISBN 978-4-89476-349-4
P. グッデン『物語　英語の歴史』田口孝夫監訳、悠書館、2600 円+税、ISBN 9784-9-03487-52-6
西光 義弘他『日英語対照による英語学概論　増補版』くろしお出版、1999 年、2750 円、　ISBN 978-4-87424-169-1
堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解 --- 納得して英語を学ぶために』中央大学出版部、950 円、ISBN 978-4805727041
堀田隆一『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社、2376 円、　ISBN 978-4-627-40168-9
唐澤一友『英語のルーツ』春風社、2000 円、ISBN 978-4-86110-283-7
宇賀治正朋『英語史』（現代の英語学シリーズ８），開拓社，3500 円，ISBN 4-7589-0218-6.
メルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』アーティストハウス，1800 円. ISBN 4-04-898174-9.
R. McCrum , W. Cran and R. MacNeil, The Story of English, BBC Publications, ISBN 0-563-20620-9.
David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, Cambridge: CUP, ISBN 0-521-40179-8.
David Crystal, Evolving English: One Language, Many Voices, British Library, ISBN 978-0-7123-5098-3.
DVD メルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』
DVD　『ストーリー　オブ　イングリッシュ』

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	言語学 B						
教員名	石井　透						
講義コード	125131210	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
生成文法に基づいて、英語の多種多様な構文を分析し、従来の学校文法だけからではわからなかった、人間の言語がもつ複雑で興味深い特性、そしてその背後で作用しているさまざまな普遍的原理・人間の言語処理のしくみについて学びます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
(1) 英語の各構文を分析してその性質を正確に理解し、自分でも使えるようにする。
(2) それらの構文の背後で作用している普遍的原理・脳の言語処理のしくみについて、深く理解し説明できるようにする。
以下のディプロマポリシーを到達目標とします。
DP1-1　英語英米文学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。
DP1-2　文化的他者とのコミュニケーションにおいて基礎的な技能となる英語力を修得している。また、そのために必要な言語・社会・文化・歴史・芸術・思想に関する専門的な知識の中から個人の関心に応じて必要なものを修得している。
DP1-5　第一・第二外国語習得論や語用論等、英語教育に必要な実践的知識や技能を修得している。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 生成文法理論の基本的な考え方、特に生得仮説(innateness hypothesis)について学ぶ。	生成文法理論の基本的な考え方について、テキストの Chapter 1: What is Linguistics? (p. 5 – p. 7, l. 16; p. 8, l. 18 – p. 11)を復習する。	60 分
第２回	生成文法理論の背景について学ぶ。	生成文法理論の背景について、テキストの Chapter 5, Section 5.1: Some Background Concept (pp. 143-148))を復習する。	60 分
第３回	英語の Yes/No 疑問文、及び助動詞と本動詞について学ぶ。	英語の Yes/No 疑問文、及び助動詞と本動詞について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 148-156)を復習する。	60 分
第４回	主語の概念について学ぶ。	主語の概念について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 156-163)を復習する。	60 分
第５回	統語的構成素について学ぶ。	統語的構成素について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 163-168)を復習する。	60 分
第６回	統語的構成素テストについて学ぶ。	統語的構成素テストについて、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 168-173)を復習する。	60 分
第７回	構造的多義性と不連続な依存関係について考察し分析する。	構造的多義性と不連続な依存関係について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 174-179)を復習する。	60 分
第８回	句構造規則、回帰性、変換規則について理解する。	句構造規則、回帰性、変換規則について、テキストの Chapter 5, Section 5.3: A More Formal Account of Early Transformational Theory (pp. 187-194))を復習する。	60 分
第９回	依存関係、特に Wh 疑問文について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特に Wh 疑問文について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198)を復習する。	60 分
第１０回	依存関係、特に受動文と繰り上げ文について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特に受動文と繰り上げ文について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198)を復習する。	60 分
第１１回	依存関係、特にコントロール動詞について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特にコントロール動詞についてテキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198) More on Dependencies (Control Verbs) を復習する。	60 分
第１２回	照応形と束縛原理について学び分析する。	照応形と束縛原理について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 198-200), Chapter 11, Section 11.4 Special Topics (pp. 493-494)を復習する。	60 分
第１３回	句構造規則と変換規則の発展ついて学ぶ。	句構造規則と変換規則の発展について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 200-201), を復習する。	60 分
第１４回	原理とパラメータ理論について学ぶ。 小テスト	原理とパラメータ理論について、テキストの Chapter 11, Section 11.4 Special Topics (p. 492, pp. 424-426)を復習する。	60 分

〔授業の方法〕
テキストに沿って講義形式で行います。前の授業で学んだことを前提に次の授業が進んでいきますので、授業には毎回出席するようにして下さい。ある程度以上出席していないと成績評価の対象になりません。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業中に課題や試験に対するフィードバックの時間をとります。さらに、授業の前後に時間をとりますので、質問などのある方は事前に連絡して下さい。

〔成績評価の方法〕
学期末に「到達度確認小テスト」を行います。「到達度確認小テスト」70%、平常点(授業への参加状況)30%で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語学入門

〔テキスト〕
Akmajian, A. A. Farmer, L. Bickmore, R. Demers, R. Harnish (2017) Linguistics: An Introduction to Language and Communication (Seventh Edition), MIT Press. Chapter 1: What is Linguistics? (pp. 5-11), Chapter 5: Syntax: The Study of Sentence Structure, Chapter 11: Language Acquisition (pp. 492-496)、「購入の必要なし」

〔参考書〕
授業の際に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	言語と社会研究基礎 A						
教員名	ジャマール　モーリス						
講義コード	125131220	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

This course introduces students to the story of English and its role in today's world. We explore some of the core issues concerning English such as its history, its varieties and its status among native speakers. We will also consider political and social issues surrounding English such as its positive and negative impacts on other languages and cultures. By the end of the course, students will have a deeper, richer understanding of English around the world.

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

In addition to content goals (see below), students will develop the following skills:
· Independent learning
· Discussion and argument-building skills
· Group and teamwork management
· Time management techniques
· Critical thinking development
The course will be taught in accordance with Seikei University's Diploma Policy goals, Nos. 1, 2, 3 and 4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Course overview	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第２回	. The Story of English (1) The history of the origins and spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第３回	. The Story of English (2) The history of the origins and spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第４回	English varieties: Comparison of grammatical and lexical differences between English varieties.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第５回	The Sounds of English: Comparison of phonological differences between the dominant English varieties.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第６回	Standard English (1)? An overview of the debate surrounding 'standard' English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第７回	Standard English (2)? Language and power; features that convey high and low status in English varieties	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第８回	Krachu's Model: English users around the world.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第９回	Linguistic Imperialism: The negative side/consequences of the spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１０回	Language Ownership: Who owns English? Who gets to say what's 'correct' and what's 'bad' English?	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１１回	Cultural Politics and English as an International Language	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１２回	English and its contribution to Language Death.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１３回	Language and Identity: At the national, local and individual level.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１４回	The Future of English as the World's Language: Will /Should English continue to be the world's dominant language?	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes

〔授業の方法〕

The class will comprise of a balance between teacher-led instruction and pair and group work discussions and debates.

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
・ Classwork: 50%
・ Homework: 25%
・ Reflection Sheet: 25%

〔成績評価の基準〕
Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
Materials will be provided by the teacher

〔参考書〕
A reading list will be provided by the teacher.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Questions are accepted immediately before and after class.
Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	言語と社会研究基礎 B						
教員名	町田　章						
講義コード	125131230	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では，ことばと認知の関係，さらには，ことばと文化の関係について学びます。その際，特に，日本語との比較を通して英語話者のものの見方や思考法，文化の違いについて考察します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
身近に潜んでいることばの不思議に気づくことができる。
気づいた言語現象を自らの力で分析することができる。
そのような能力を使い社会の様々な現象を考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	教科書の目次に目を通してくる。	60 分
第２回	経験科学としての言語学	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第３回	意味とは何かⅠ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第４回	意味とは何かⅡ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第５回	用法基盤モデルⅠ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第６回	用法基盤モデルⅡ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第７回	プロトタイプ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第８回	メタファー・メトニミー	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第９回	概念メタファー	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１０回	主観性Ⅰ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１１回	主観性Ⅱ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１２回	間主観性Ⅰ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１３回	間主観性Ⅱ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１４回	まとめ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分

〔授業の方法〕
授業はパワーポイントを用いた講義式ですが，頻繁に隣近所の学生同士でディスカッションを行います。
試験は，授業内で論述式のテストを行います。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
なし。

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回，授業終了時に質問コメントのリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーで出された質問コメントに対しては，次の授業で回答します。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパー）50%，小テスト 50%。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
『AI 時代になぜ英語を学ぶのか』, 町田章, 文藝春秋, 1155 円, ISBN: 978-4166615179

〔参考書〕
『AI 時代に言語学の存在意味はあるのか？』, 町田章, ひつじ書房, 2200 円, ISBN: 978-4-8234-1207-3
『認知統語論』町田章（他）, くろしお出版, 4500 円, ISBN: 978-4-87424-888-1

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	言語と社会研究基礎 C						
教員名	熊　可欣						
講義コード	125131240	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

この授業では、言葉を操る際の「心」や「脳」の情報処理メカニズムと、それが「社会」的な文脈とどのように関わっているのかを、心理言語学の視点から明らかにしていきます。日常的な言語現象に対する素朴な疑問を出発点としつつ、それらを単なる主観的な経験に留めず、実験から得られた定量的なデータや理論的枠組みを用いて客観的に分析・理解するための科学的な視座を養います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1、DP2、DP3、DP4 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。

1. 言語が人間の認知や社会的相互作用に及ぼす影響について、心理言語学の基本的な概念や用語を用いて説明できる。
2. 言語学習やコミュニケーションにおける自身の経験を、先行研究の知見や理論と結びつけ、論理的に考察することができる。
3. 自身の関心に基づくテーマについて情報を収集・整理し、グループワークを通して、分かりやすく提示・発表できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	ガイダンス	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第 2 回	バイリンガルの脳：複数言語の同時処理	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第 3 回	言語が変える「知覚」と「思考」(1)	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第 4 回	言語が変える「知覚」と「思考」(2)	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第 5 回	外国語学習が脳に与える恩恵	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第 6 回	記憶の仕組み：心内辞書	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第 7 回	言語と感情：意思決定における「外国語効果」	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第 8 回	言語の社会的影響力	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第 9 回	社会の鏡としての言葉 (1)	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１０回	社会の鏡としての言葉 (2)	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１１回	ポスター制作ワークショップ：自分の関心を深掘りする	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１２回	ポスター制作ワークショップ：論理構成のブラッシュアップ	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１３回	成果発表会 I	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１４回	成果発表会 II & 総括	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60

〔授業の方法〕

本授業は、教員による講義と受講生同士のグループディスカッションを交えて進めます。毎回の授業の終わりには、その日の内容の理解度を確認し、自身の考察を深めるためのリアクション・ペーパー（または小テスト）を実施します。第 11 回以降は、自身の関心に基づいたポスター制作と発表に向けたワークショップ形式を取り入れます。最終回近辺では、学生グループによる発表会とピアレビューを実施し、互いの知見を共有することで学びの統合を図ります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業の冒頭に、前回の授業で出した課題についてフィードバックを行う。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）：授業への参加状況および課題への取り組みを総合的に評価する。
ポスター発表（40%）
ピアレビュー・貢献度（10%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
1. 言語が人間の認知や社会的相互作用に及ぼす影響について、心理言語学の基本的な概念や用語を用いて説明できるか。
2. 言語学習やコミュニケーションにおける自身の経験を、先行研究の知見や理論と結びつけ、論理的に考察することができるか。
3. 自身の関心に基づくテーマについて情報を収集・整理し、グループワークを通して、分かりやすく提示・発表できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
適宜、資料の配布を行う。

〔参考書〕
授業内で必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング,(6)ＩＣＴ活用

講義名	対人関係の言語学 315						
教員名	ジャマール　モーリス						
講義コード	125131270	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

The aim of this course is to help student have a deeper understanding how English is used in real life, in the real world, in real communication situations. The course takes you beyond simply vocabulary, grammar, structure and 'speaking skills'. It will give you a richer knowledge about HOW people communicate through the language choices they make and how you can make those choices. As well as English, this course will also give you a better understanding of how your own language, Japanese, works as well.

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

By the end of the course, you will be able to understand:
1. the meaning and mechanics of social contexts.
2. Language and social roles.
3. how politeness works in English.
4. how politeness works in Japanese.
5. how language changes depending on cultural contexts.

The course will be taught in accordance with Seikei University's Diploma Policy goals, Nos. 1 and 4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Course introduction/meeting the teacher and other students.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第２回	What is communication 1?	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第３回	What is communication 2?	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第４回	Choosing the right words (1)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第５回	Choosing the right words (2)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第６回	Language and social context: who are you talking to? (1)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第７回	Language and social context: who are you talking to? (2)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第８回	How we organise conversation: The work os H.P. Grice	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第９回	How to be polite (1): Saying exactly what you mean.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１０回	How to be polite (1): Saying exactly what you mean. (2)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１１回	Language and Culture: The work of Milton Bennett.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１２回	Pragmatic tools: implicature and entailment	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１３回	Pragmatics and the voice: pronunciation and intonation.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１４回	Course Review/Test	course reflection sheet	60 minutes

〔授業の方法〕

There will be some teacher led classes but most of the time, students will work in pairs and small groups.

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

Classwork: 50%
Homework & Assignments: 25%
End of term test & Reflection sheet: 25%

〔成績評価の基準〕
Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Diploma Policy Regulations, especially:
DP1-1
DP1-2
DP1-5

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
None.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the teacher. There is no set textbook.

〔参考書〕
A reading list will be provided at the beginning of the course.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Questions are accepted immediately before and after class.
Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.

〔特記事項〕

講義名	英語史Ｂ412						
教員名	田辺　春美						
講義コード	125131300	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

<『カンタベリー物語』を読む>

後期中英語期を代表する詩である Geoffrey Chaucer の The Canterbury Tales は、英語英米文学科の学生なら誰でも知っている有名な詩人です。この物語は、千夜一夜物語のように巡礼者が順番に話をする枠組みを持ち、２４の物語群から成り立っています。登場人物の中で、ジェンダー論への関心から最近大いに注目を浴びているのが、雄弁闊達な愛と人生の達人である女性、The Wife of Bath です。彼女が語る物語は、１４世紀とは思えない現代的な発想で女性の願望を高らかに歌います。物語を丁寧に読むことで、14 世紀のロンドン方言の発音、語彙、文法に習熟し、英語がどのようにして現代英語へと発達したのか考察します。図書館にある写本のファクシミリ版で写本研究も行います。

中英語の原文でしかも１４世紀と聞くと難しそうな印象があるかもしれませんが、意外に現代英語に通じるところもあります。前提知識がなくても学部生に簡単に読みこなせるように、補助資料を用意するので安心してとってください。詩の形式をとっていますが、英語も内容も物語なのでその点は読みやすいと言えます。このようなテキストに触れる機会は大学以外では得られない貴重なものなので、ぜひ学問の扉を開いて下さい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-2（教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。

（１）中英語の文法、語彙、発音などの概略を理解する。

（２）中英語と現代英語の違いを知り、詩行分析ができるようになる。

（３）The Wife of Bath 自身と彼女の語る Tale から当時の文化的な背景について考察を深め、ヨーロッパ中世の文化、特に女性の心性を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	中英語時代の紹介 Geoffrey Chaucer とはどのような詩人か 『カンタベリー物語』の紹介 写本について	シラバスを読む Chaucer はどのような作品を書いたか調べる	60 分
第２回	中英語の発音、語彙、文法、方言	配布資料を読む	60 分
第３回	General Prologue, Portrait of the Wife of Bath ll. 447-78	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第４回	The Wife of Bath's Tale ll. 857-881	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第５回	The Wife of Bath's Tale ll. 882-912	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第６回	The Wife of Bath's Tale ll. 913-960	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第７回	The Wife of Bath's Tale ll. 961-1004	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第８回	The Wife of Bath's Tale ll. 1005-1047	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第９回	エレズミア写本研究 図書館にあるエレズミア写本、キャクストン版の印刷本のファクシミリ版を使って、中世の写本の文字の読み方、初期印刷本の作成について学ぶ	配布資料を読む。	60 分
第１０回	The Wife of Bath's Tale ll. 1048-1103	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第１１回	The Wife of Bath's Tale ll. 1104-1162	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第１２回	The Wife of Bath's Tale ll. 1163-1212	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第１３回	The Wife of Bath's Tale ll. 1213-1264	配布資料を使ってテキストを読む。	60 分
第１４回	まとめ 達成度確認試験	授業で扱ったところを復習する。	120 分

〔授業の方法〕

授業は講義形式だが、受講者の人数によっては演習方式により行う。コースパワーを通して、毎回授業中あるいは宿題として課題を出す。

「英語史 A312」でも中英語は学習するが、回数も少なくテキストそのものを読むわけではないので、後期からの受講でも全員が理解できるようにゆっくりと解説をする。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

課題や試験の解説、講評は授業内に行うか、個別にコースパワーを通して行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（毎回の授業への参加、貢献と課題の達成度）５０％と授業最終回の到達度確認テスト５０％により、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語学入門
イギリス文学史

〔テキスト〕
「購入の必要なし」
初回に説明する。

〔参考書〕
Edition（刊本）
Benson, D. Larry ed. The Riverside Chaucer, 3rd ed. Boston, Mass. : Houghton Miffin, c1987［5F 南・洋図書 821.17/C36］
教科書版
Winny, James ed. The Wife of Bath's Prologue & Tale : from the Canterbury Tales, Cambridge: CUP, 1965, 2nd ed. 1994.［5F 南・洋図書 821.17/284］
Croft, Steven ed. The Wife of Bath, Oxford student texts, OUP, 2007.［自動書庫 821.17/C93 一般資料, 5F 南・洋図書 821.17/C93］
Valerie, Allen and David Kirkham ed. The Wife of Bath's Prologue and Tale, Cambridge School Chaucer, CUP, 1998. 2nd ed. 2016.
日本語による解説
P. グッデン『物語　英語の歴史』田口孝夫監訳、悠書館、2012.　［4F 北・和図書 830.2/G65］
狩野晃一編『チョーサー巡礼 : 古典の遺産と中世の新しい息吹きに導かれて』悠書館, 2022.［ 5F 南・和図書 931.4/C36/k］1, 2, 3 章
末松良道「カンタベリー巡礼研究序説」武蔵野大学英文学会編『武蔵野英米文学』36, 2003, pp. 1-19.
グロッサリー・辞書
Davies, Norman comp. A Chaucer Glossary, Oxford: OUP, 1979.［5F 南・洋図書 821.17/103 参考資料, 文学部共同研究室 821.17/103/A 禁帯出］
Oxford English Dictionary Online <https://oed.com>
Middle English Dictionary <https://quod.lib.umich.edu/m/middle-english-dictionary/dictionary/>

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	英語学研究発展Ａ415						
教員名	熊　可欣						
講義コード	125131320	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、私たちが言葉を操る際のメカニズムを心理言語学の視点から考察します。まずは母語話者の言語処理の仕組みを理解し、その上で、外国語（特に英語）学習者のプロセスがそれとどのように異なるのか（あるいは共通しているのか）を検討します。音声、語彙、文法などの各側面について、研究者がどのような実験や調査で謎を解き明かしてきたのか、そのプロセスを解説します。既存の研究事例をヒントに、「もし自分なら、この疑問をどうやって確かめるか」というアイデアを練る体験を通じて、自身の言語経験を客観的に捉え直すとともに、専門的な探究に不可欠な思考力を養います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1、DP2、DP3、DP4、DP5 を実現するため、次の３点を到達目標とする。

1. 心理言語学の基本的な考え方を理解し、代表的な実験・調査手法の仕組みや意図を説明できる。
2. 母語話者や外国語学習者の言語現象について、どのような実験デザインによって謎が解き明かされているのか、そのプロセスを事例を通して理解できる。
3. 既存の研究事例をヒントに、身近な疑問を解決するための「検証のアイデア」を自分なりに考え、その手順を具体化することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：英語学習と心理言語学	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第２回	技能としての英語学習 1	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第３回	技能としての英語学習 2	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第４回	英語学習の各側面：音声・音韻 1	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第５回	英語学習の各側面：音声・音韻 2	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第６回	英語学習の各側面：語彙１	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第７回	英語学習の各側面：語彙２	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第８回	英語学習の各側面：文法１	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第９回	英語学習の各側面：文法２	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１０回	英語学習の各側面：語用１	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１１回	英語学習の各側面：語用２	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１２回	「検証のアイデア」を練るワークショップ	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１３回	発表会 I	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60
第１４回	発表会 II ＆ 総括	指示に従って予習・復習・課題に取り組むこと	60

〔授業の方法〕

本授業は、教員による講義と受講生同士のグループディスカッションを交えて進めます。毎回の授業の終わりには、その日の内容の理解度を確認し、自身の考察を深めるためのリアクション・ペーパー（または小テスト）を実施します。第 12 回は、講義で紹介した研究事例をヒントに、自らの疑問をどう確かめるかという「検証のアイデア」を練るワークショップ形式を取り入れます。第 13、14 回では、グループで考えた検証の手順や予測される結果についてポスター形式で発表し、ピアレビューを通じて互いの知見を共有することで、学びの統合を図ります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業の冒頭に、前回の授業で出した課題についてフィードバックを行う。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）：授業への参加状況および課題（小テスト・リアクションペーパー等）への取り組みを総合的に評価する。
ポスター発表（40%）
ピアレビュー・貢献度（10%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
1. 心理言語学の基本的な考え方を理解し、代表的な実験・調査手法の仕組みや意図を説明できるか。
2. 母語話者や外国語学習者の言語現象について、どのような実験デザインによって謎が解き明かされているのか、そのプロセスを事例を通して理解できるか。
3. 既存の研究事例をヒントに、身近な疑問を解決するための「検証のアイデア」を自分なりに考え、その手順を具体化することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
適宜、資料の配布を行う。

〔参考書〕
授業内で必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング,(6)ＩＣＴ活用

26/2/9 15 時 45 分

講義名	英語圏文化研究基礎 A						
教員名	小野　俊太郎						
講義コード	125132100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
Horror や Gothic は単なる幽霊譚や怪奇譚を超えて広範囲な文化領域に影響を与えてきた。前半では、Nick Groom や Noel Carroll などを参照して、Horror や Gothic の歴史や扱われた主題に関する理解を深める。後半ではポーの「アッシャー家の崩壊」、エミリー・ブロンテの『嵐が丘』、ヘンリー・ジェイムズの「ねじの回転」の３作品がどのような問題提起をしているのかを考える。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1-（専門分野知識と理解）、DP3-（課題の発見と解決）、DP4-（表現力・発信力）を実現するために次の３点を目標とする。
①歴史的文化的な背景を踏まえてホラーやゴシックの影響を把握できるようになる。
②ホラーやゴシックと関連する作品への応用や課題を発見できるようになる。
③文学や文化へのホラーやゴシックの影響を理解した上で的確な分析レポートが書けるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに：ゴシック的想像力	内容の復習と資料のチェック	60 分
第２回	建築と空間	内容の復習と資料のチェック	60 分
第３回	クロゼットの中の骸骨	内容の復習と資料のチェック	60 分
第４回	帰ってくる者たち	内容の復習と資料のチェック	６０分
第５回	Terror と Horror	内容の復習と資料のチェック	60 分
第６回	「人間以外」との関係	内容の復習と資料のチェック	60 分
第７回	五感と恐怖の関係	レポートのための復習とチェック	120 分
第８回	ポー「アッシャー家の崩壊」	内容の復習と資料のチェック	60 分
第９回	館の崩壊と廃墟	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１０回	ブロンテ『嵐が丘』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１１回	『嵐が丘』における反復	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１２回	ジェイムズ「ねじの回転」	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１３回	心理的な恐怖	試験のための復習	120 分
第１４回	全体のまとめと振り返り	内容の復習と資料のチェック	60 分

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義を中心とする。この授業は完全ペーパーレスで、配布資料および、そのリンク先の英文などを見るために、授業中にもパソコンやスマホが必要となる。講義などで示された内容を復習し、どのように分析をするかという技法を習得すること。内容を咀嚼した上で的確に分析ができているのかを試験や提出課題で評価する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業内での説明以外に、CoursePower の質問機能を通じて行う。

〔成績評価の方法〕
レポート＋試験（70%）、毎回の課題提出（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。ホラーやゴシックの歴史的文化的な背景を理解して、各作品を的確に分析できているかどうかが評価の対象となる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。連絡方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	英語圏文化研究基礎 B						
教員名	小野　俊太郎						
講義コード	125132110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
「児童文学」とは、大人が一方的に児童に与える作品群である。近代において、人間をどのように再生産するのかに関して、教育と娯楽の観点からテクストが生み出されてきた。前半は、Kimberly Reynolds や Peter Hunt などを参照して、児童文学が提起してきた問題設定を検討する。後半は、古典となったスティーヴンスンの『宝島』、バーネットの『秘密の花園』、トールキンの『ホビットの冒険』の 3 作品を取り上げて、児童文学の読みの可能性を探る。(※児童文学を分析する授業であって、楽しむ授業ではないので注意すること)

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1-（専門分野知識と理解)、DP3-（課題の発見と解決)、DP4-（表現力・発信力）を実現するために次の３点を目標とする。
①歴史的文化的な背景を踏まえて児童文学を把握できるようになる。
②児童文学及び関連する作品の主題や課題を発見できるようになる。
③文学や文化への児童文学の影響を理解した上で的確な分析レポートが書けるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに：児童文学と近代	内容の復習と資料のチェック	60 分
第２回	家庭は楽園か	内容の復習と資料のチェック	60 分
第３回	学校と教育	内容の復習と資料のチェック	60 分
第４回	都会と田舎	内容の復習と資料のチェック	６０分
第５回	別世界への扉	内容の復習と資料のチェック	60 分
第６回	動物物語と擬人化	内容の復習と資料のチェック	60 分
第７回	環境を踏まえて	レポートのための復習とチェック	120 分
第８回	スティーヴンスン『宝島』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第９回	『宝島』と植民地主義	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１０回	バーネット『秘密の花園』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１１回	『秘密の花園』と神秘主義	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１２回	トールキン『ホビットの冒険』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１３回	『ホビットの冒険』とファンタジー	試験のための復習	120 分
第１４回	全体のまとめと振り返り	内容の復習と資料のチェック	60 分

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義を中心とする。この授業は完全ペーパーレスで、配布資料および、そのリンク先の英文などを見るために、授業中にもパソコンやスマホが必要となる。講義などで示された内容を復習し、どのように分析をするかという技法を習得すること。レポートや試験は内容を咀嚼した上で的確に分析ができているのかを評価する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業内での説明と CoursePower の質問機能を使って個別におこなう。

〔成績評価の方法〕
レポート＋試験（70%)、毎回の課題提出（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。児童文学の歴史的文化的な背景を理解して、各作品を的確に分析できているかどうかが評価の対象となる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。連絡方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	英語圏文化研究基礎 C						
教員名	小野　尚美						
講義コード	125132120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

このクラスの名称は、「英語圏文化研究発展」となっており、英語圏文化について研究し、その知識を発展させる科目である。実際の授業では、英語圏文化を理解すると同時に、日本の文化と社会、日本人的発想についてどれほどの知識があるのか振り返る必要があるという視点を基に、日本は英語圏文化とどうかかわっていくべきか、英語圏の人々とのコミュニケーションはどうあるべきか考えていく。特に、日本人、日本社会は外の世界からどのように見られているかについて、本や資料を読みながら学び、自分の社会や文化の様子について批判的及び客観的に見ながら再考してみることで、異文化間コミュニケーションがどうあるべきか考察していく。グローバル化が進む今、日本人的発想、日本社会、日本の人々の言語観と宗教観と言ってしまうと、「日本人」とは誰かという大きな疑問にぶつかるが、この授業では、プロトタイプとしての「日本人」という概念を基準にしていく。英語圏のそれらと比較し、どこで交差する部分があるのか、理解し合う方法について各自がその答えを探し、平和な社会を築いていく方法を模索することを目的としている。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

(1) 日本の歴史を振り返り、いかにして日本の人々の発想、言語観、宗教観が育まれてきたのか理解する。
(2) 英語圏文化、この場合はアメリカやイギリスなどのアングロサクソン文化を対象とし、彼らの発想、言語観、宗教観（キリスト教）がいかにして育まれてきたのかを理解する。
(3)「日本人」「日本の文化」の定義としては、プロトタイプとしての「日本人」「日本文化」を基準として考察していく。
(4) 異文化間コミュニケーションの基礎的な概念について学ぶ。
(5) Critical thinking & reading の能力を養成する。
(6) DP2（教養の修得）を実現するため、歴史的思考力を養うことを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	クラスの運営についての説明をする。 日本文化の深層「恥の構造」について考える。 Discussion	「恥の構造」について復習し、自分の意見を持つ。	60 分
第２回	西洋人から見た「日本人」はユニークか？ Discussion	日本人はどのようにみられているかについて考えてくる。	60 分
第３回	日本人の論理構造について考える。 Discussion	日本人の論理構造について考えてくる。	60 分
第４回	日本人の言語表現に見る「日本的発想」について考える。 Discussion	日本的発想について考えてくる。	60 分
第５回	日本人の宗教観について考える。日本人は無宗教か？多神教か？ Discussion	日本人の宗教観について考えてくる。	60 分
第６回	Opinion papers (1) を書く。 Anglo-Saxon 人について考える。 Discussion	Opinion Paper (1) の内容について考えてくる。 英語の歴史について調べてくる。	90 分
第７回	キリスト教的発想とは何か？日本人はどう向き合うべきか？について考える。 Discussion Book report（口頭）	キリスト教的発想について考えてくる。	90 分
第８回	英語的論理構造、談話構造について考える。 Discussion Book Report（口頭）	英語的談話構造について考えてくる。	90 分
第９回	言語と非言語コミュニケーションについて学び、記号論的視点からコミュニケーション過程を考える。 Discussion Book Report（口頭）	記号論について概要を理解してくる。	90 分
第１０回	Identity とコミュニケーションについて考える。 Discussion Opinion papers (2) を書く。 Book Report（口頭）	Opinion paper (2) の内容について考えてくる。 Identity とコミュニケーションについて考えてくる。	60 分
第１１回	学期末 presentation　その１ 「日本人は、英語圏の人々とのコミュニケーションを通して理解しあうために、どうあるべきか。平和を実現するためには、ことばと文化の知識をどう活用すべきか。」という話題について、授業内容と資料内容を基に、presentation する。	Presentation 準備を行う。	90 分
第１２回	学期末 presentation　その２ 「日本人は、英語圏の人々とのコミュニケーションを通して理解しあうために、どうあるべきか。平和を実現するためには、ことばと文化の知識をどう活用すべきか。」という話題について、授業内容と資料内容を基に、presentation する。	Presentation 準備を行う。	90 分
第１３回	期末振り返りテスト	期末振り返りテストの準備をする。	120 分
第１４回	期末振り返りテストの返却と総括	振り返りの復習をする。	60 分

〔授業の方法〕

・講義形式であるが、教員が扱う話題について、毎回よく考え、自分の意見を持つことが期待される。
・Opinion paper は、授業を聞いた後の自分の意見を書いて、提出する。A41 枚以内程度の分量を書く。字数制限は特にありません。
・Book Report は、日本の文化、日本人の発想、日本の宗教など、日本の論理構造や考え方に関する本であればなんでもいいので、その本の 1 章か 2 章を読む程度でも、とにかく本を読んで本の内容をレポートする。Book Report は口頭で 2 回行う。
・期末 Presentation は Power Point を使って一人 6 分程度の発表を行う。レジメを用意して、自分の考えを明確に表現することが期待されている。
・期末振り返りテストの範囲は事前に学生に知らせる。
対面形式の授業となる。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕

(1) Opinion papers については、次のクラスで講評付きのものを返却する。
(2) Book Report は口頭で行う。
(3) Presentation については、クラス全体で意見交換する。
(4) 期末振り返りテストは、最終週（第 14 週目）に採点済の物を返却し、総括をする。

〔成績評価の方法〕

参加度（Opinion papers、Discussion への参加度、book report など）50%
学期末 Presentation ＆ 期末振り返りテスト 50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

テクストは購入の必要はない。
興味のある本を図書館で借りて読んでいただくことがある。

〔参考書〕

授業で逐次紹介する予定である。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング

講義名	英語教育						
教員名	王　ウェイトン						
講義コード	125132140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

テーマ：第二言語習得論、学習ストラテジー、CEFR

概要：第二言語習得論に基づいた英語の学習法及び指導法に関する知識を学びます。学習ストラテジーについて基本的な考え方を理解します。外国語運用能力の指標として参照される CEFR の理念と内容を理解し、日本の英語教育での運用の在り方について考えます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

第一・第二外国語習得論や語用論等、英語教育に必要な実践的知識や技能を修得している。(DP1-5)(DP2-1)

英語教育に関わる課題の本質を発見するために、社会調査等のデータを収集・分析することで、論理的な思考を行い適切な結論を導き出す能力を身に付けている。(DP3-4)

自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ明瞭に発信できる豊かな表現力を身に付けている。(DP4-1)

授業で他の受講生たちと協働して課題解決に取り組むことで協調性を身につけるとともに、他者との関わりのなかで自らの役割が認識できるようになる。(DP5-2)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエテーション（講義の内容、課題、評価方法、参考図書の紹介）	テキストを入手する。	90
第２回	第二言語習得理論の概要	第１回の Review sheet 第２回の予習課題	90
第３回	外国語教授法の変遷	第２回の Review sheet 第３回の予習課題	90
第４回	リスニングのプロセス、学習法、指導法	第３回の Review sheet 第４回の予習課題	90
第５回	スピーキングのプロセス、学習法、指導法	第４回の Review sheet 第５回の予習課題	90
第６回	リーディングのプロセス、学習法、指導法	第５回の Review sheet 第６回の予習課題	90
第７回	ライティングのプロセス、学習法、指導法	第６回の Review sheet 第７回の予習課題	90
第８回	文法・語彙知識習得のプロセス、学習法、指導法	第７回の Review sheet 第８回の予習課題	90
第９回	英語力の評価	第８回の Review sheet 第９回の予習課題	90
第１０回	学習ストラテジー(1)：自律した学習者とは	第９回の Review sheet 第１０回の予習課題	90
第１１回	学習ストラテジー(2)：ストラテジー指導と教材	第 10 回の Review sheet 第１１回の予習課題	90
第１２回	CEFR の理念と運用	第１１回の Review sheet 第１２回の予習課題	90
第１３回	学期末総合振り返りテスト	学期末総合振り返りテストの準備をする。	90
第１４回	学期末総合振り返りテストの返却と解説。	学期末総合振り返りテストの答えを確認する。	90

〔授業の方法〕

授業内容は、講義及び演習形式を組み合わせる。

毎回の事前課題に取組み、授業中ではグループ発表を行い、全体でディスカッションを行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

総合評価（Review sheet 提出状況：40%、授業における取組状況：30%、学期末総合振り返りテスト：30%）

〔成績評価の基準〕
Review sheet・学期末総合振り返りテストでは、授業内容の理解度に基づいて評価する。
授業における取組状況では、授業での貢献度を評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
Marianne Celce-Murcia, Donna M. Brinton, and Marguerite Ann Snow. (2014). "Teaching English As a Second or Foreign Language (4th Ed.)" Oxford University Press.

〔参考書〕
Brown, H.D. (2014). ″Principles of Language Learning and Teaching.″ Pearson Education.
Lightbown, Patsy and Nina Spade. (2022). ″How Languages are Learned.″ Oxford University Press.
英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック（大学英語教育学会学習ストラテジー研究会）
中学校学習指導要領解説　外国語編（平成 29 年 7 月　文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　外国語編（平成 30 年 3 月　文部科学省）
小学校学習指導要領解説　外国語編・外国語活動編（平成 29 年 7 月　文部科学省）
必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	英語圏文化 321（精神分析）						
教員名	遠藤　不比人						
講義コード	125132150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

人間の発言はもちろん、様々な文化テクスト（小説や映画など）には「無意識」の領域があります。これは、発言をした本人、小説や映画を作った人でも自分では知ることができない心の領域です。しかしこの「無意識」が知らぬまに人の発言や作品を支配しています。これらを真に理解するためには、無意識へのアプローチが必要になります。そのための理論が精神分析です。この講義では、精神分析の「夢」をめぐる理論を通じて、夢が無意識によって紡がれている構造を学び、それを具体的な映画の分析に応用することを目指します。講義によって基礎知識を得た後で具体的な映像分析をする予定です。対象テクストは、ハリウッド映画、ディズニー映画、ジブリ映画などを考えています。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

精神分析という英語圏の文化研究における基礎的かつ領域横断的な教養を習得し（DP2-3）、国内外の映像テクスト（映画やアニメーションなど）に潜在する不可視の欲望や葛藤を理解することにより英語圏の文化研究の理論を実践的に作品の解釈に応用し（DP1-4）、卒業論文における文化研究のための基礎的な理論の習得とその実践的な応用をすることが目標です。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	フロイトの精神分析とは何か？	シラバスを読みこの授業の意図を理解する。できれば精神分析についてネットなどで情報を得る。	６０分
第２回	フロイトの夢理論について１	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第３回	フロイトの夢理論について２	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第４回	空飛ぶ夢	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第５回	消去できない音	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第６回	重層的な時間構造	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第７回	夢における知	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第８回	エディプス的欲望と葛藤	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第９回	反復する欲望	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１０回	夢と転生	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１１回	具体的な映像分析１	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１２回	具体的な映像分析２	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１３回	具体的な映像分析３	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１４回	期末試験	これまでの講義内容を理解し期末テストの準備をする。	９０分

〔授業の方法〕

指定したテクストの内容を理解するために、毎回 Powerpoint を使用し、その要点について 40 分程度の講義をする。それと同時に、双方向の授業を実現するために、残りの時間では受講生が講義を受けた内容についての質問、コメント（意見は反論）をする。講義担当者はそのそれぞれに丁寧に応答し、interactive な教育効果を目指す。また、このタームの講義の締めくくりとして、受講者は習得した精神分析の夢に関する基礎理論を応用し、具体的な映像分析を自ら試みることを要求される。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業内での質問やコメントを重視する。

〔成績評価の方法〕

平常点（４０％）、学期末の term paper（６０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
担当者が毎回 Powerpoint にして資料を提供する。

〔参考書〕
新宮一成『夢分析』（岩波新書）ISBN: 4-00-430653-1 を参考にする場合が多々あるので、各自で購入すると学習効果が増大することが期待できる（絶版なのでアマゾンなどで古本を購入することもできる）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	英語圏文化 322（コミュニケーション）						
教員名	小野　尚美						
講義コード	125132160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
基本的には講義形式で行う。授業では、テクストを輪読しながら、授業の内容を理解していきます。講義の中で学生各自がコミュニケーション論の分野で興味を持った話題について調べ、学期末 presentation の機会を使って、理解を深めていきます。他の学生の発表も注意深く聞きながら、あらゆる側面から異文化間コミュニケーションについて考察していきます。教員の講義、他の学生の発表などを踏まえて、授業の振り返り試験で知識のまとめを行います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1（専門分野の知識・技能）及び DP４（表現力・発信力）を実現するために、以下を目指す。
1）世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。
2）多様な文化背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解することができる。
3）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の方法と成績評価の方法について説明する。 授業：　「偏見・差別」について考える。	Chapter 6（偏見・差別）を読んでくる。	60 分
第２回	「偏見・差別」について考える。Discussion	Chapter 6（偏見・差別）を読んでくる。	60 分
第３回	言語と文化について考える。Discussion	Chapter 1（言語と異文化間コミュニケーションを学ぶ理由）を読んでくる。	60 分
第４回	言語と文化について考える。Discussion	Chapter 2（言語と社会化の過程）を読んでくる。	60 分
第５回	言語と社会化の過程について考える。Discussion	Chapter 2（言語と社会化の過程）を読んでくる。	60 分
第６回	文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力について考える。　Discussion	Chapter 3（文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力）を読んでくる。	60 分
第７回	状況における言語、コミュニケーション、文化、力について考える。Discussion	Chapter 3（文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力）を読んでくる。	60 分
第８回	非言語コミュニケーションについて考える。Discussion	Chapter 4 を読んでくる。	60 分
第９回	非言語コミュニケーションについて考える。Discussion	Chapter 4 を読んでくる。	60 分
第１０回	異文化における言語とアイデンティティについて考える。Discussion	Chapter 6 を読んでくる。	60 分
第１１回	学期末 Presentation (1)	学期末 Presentation の準備をする。	60 分
第１２回	学期末 Presentation (2)	学期末 Presentation の準備をする。	90 分
第１３回	授業の振り返りテスト	振り返りテストの準備をする。	120 分
第１４回	授業の総括：授業全般を振り返り、学んだことについてまとめる。	授業のノートをよく読んでくる。	60 分

〔授業の方法〕
基本的には講義形式で行う。授業では、テクストを輪読しながら、授業の内容を理解していく。講義の中で学生各自が興味を持った話題について調べ、学期末 Presentation の機会を使って、理解を深めていく。他の学生の発表も注意深く聞きながら、あらゆる側面から異文化間コミュニケーションについて考察していく。教員の講義、他の学生の発表などを踏まえて、授業の振り返りテストで知識のまとめを行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
学期末 Presentation についてはその都度講評をする。Presentation を聞いていた学生からも意見をいってもらい（Peer Feedback）、発表内容についての理解を深める。学期末に行う振り返りテストは、最後の授業でテストを返却し、テストの内容を解説して、コミュニケーション論についてまとめる。

〔成績評価の方法〕
授業参加（学期末 Presentation、ディスカッションへの積極的な参加、宿題など）50%、学期末振り返りテスト 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。①授業の内容（教員及び他の学生の発言も含む）を注意深く聞いて理解することができる。②説得力のある Presentation を Power Point を使って行うことができる。③異文化間コミュニケーションについての様々な問題について理解し、それらについて自分の意見を持つことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
Jackson, Jane. (2020). Introducing Language and Intercultural Communication (2nd eds.). London: Routledge.
ISBN 978-1-138-48161-9

〔参考書〕
Masahiko, Minami. (2011). Telling Stories in Two Languages. Charlotte: Information Age Publishing, Inc.
直塚玲子. (1994). 『欧米人が沈黙するとき』 東京：大修館書店.
南雅彦. (2013). 『言語と文化』 東京：くろしお出版.
ヴァ―カス・マジョリード. (1987). 『非言語コミュニケーション』 東京：新潮選書.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	英語圏文化 324（人種）						
教員名	権田　建二						
講義コード	125132180	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

奴隷制とそのインパクトーアフリカ系アメリカ人の歴史

19 世紀半ばまでアメリカ合衆国南部に存在していた奴隷制の歴史をアメリカ建国から廃止までたどると同時に、その影響として現代におけるレイシズムについて考えます。奴隷が書いた手記（slave narratives）や１９世紀半ばの文人たちの奴隷制に対する反応等の文学テクストを読むだけではなく，奴隷制を支持する南部知識人の擁護論や裁判の判決や新聞記事等の社会的・文化的言説を通して、また現代における人種問題について語ったテクストを通して、多角的に奴隷制とその影響を見ることになります。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする

1）アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史について理解を深める。
2）歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。
3）様々な種類の英文を読解する力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクションー黒人の歴史・アメリカの歴史	【復習】 今回分資料を再読。	60
第２回	黒人の歴史・アメリカの歴史	【復習】 今回分資料を再読。	60
第３回	黒人に対する補償ー奴隷制という過去 新世界における奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第４回	黒人に対する補償ー現代の貧困 合衆国における奴隷制の発展	【復習】 今回分資料を再読。	60
第５回	黒人と経済的格差ーGated Community	【復習】 今回分資料を再読。	60
第６回	新世界における奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第７回	合衆国における奴隷制の発展	【復習】 今回分資料を再読。	60
第８回	合衆国憲法と奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第９回	独立革命と奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１０回	トマス・ジェファソンと奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１１回	奴隷制廃止運動	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１２回	奴隷州と自由州の対立	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１３回	南北戦争とリンカーン	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１４回	まとめとセルフ・レヴュー	【予習】 セルフレヴューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60

〔授業の方法〕

講義形式による授業です。
毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。
プリントは CoursePower を使って配布する予定です。
また、毎回授業中もしくは授業後にリアクション・ペーパーを書くことが課されます。
これも CoursePower を使って配布・回収します。
授業計画は〔授業の計画と準備学修〕に記載した通りですが、進捗状況により変更があります。
授業後にリアクション・ペーパーを書いて提出することが課せられた場合は、提出の期限は当該授業日の 23:59 までになります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

毎回のリアクション・ペーパーに関しては、次回授業の冒頭に講評・解説を行い、前回授業の復習とします。

〔成績評価の方法〕
毎回のリアクション・ペーパー（80%）と学期末のセルフ・レビュー（20%）によって判断する。
リアクション・ペーパーは単に授業の感想を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものです。
毎回特定の課題を出しますので、それについて授業で学んだことに基づいて説明をし、さらに自分の考えを述べることになります。
毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度を確認します。
授業に出席しないことには、リアクション・ペーパーは評価の対象になりません。
また、リアクション・ペーパーを提出しないことには出席が認められません。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使いません。必要な文献等は毎回プリントにして配布します。

〔参考書〕
以下は参考書ですので、購入する必要はありません。必要に応じて図書館で閲覧するなどして参照してください。
本田創造『アメリカ黒人の歴史』新版（岩波書店，新版 1994 年）
荒このみ『アメリカの黒人演説集』（岩波文庫，2008 年）
ベンジャミン・クォールズ『アメリカ黒人の歴史』（明石書店，1994 年）
アイラ・バーリン『アメリカの奴隷制と黒人：五世代にわたる捕囚の歴史』（明石書店，2007 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	英語圏文化 421（戦争）						
教員名	遠藤　不比人						
講義コード	125132210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

テーマとしての「戦争」を狭い意味で定義をするのではなく、人間が潜在的に持つ暴力性一般をも考察の対象にしながら、たとえばいま社会で問題となっている「いじめ」「差別」などについても扱いたい。人文系の学問において重要なことは、人間の負の側面から目をそらすことなく、それを批判的に分析し、その克服を最終的な目的とすることである。そのためにこの講義では、人種表象をめぐる理論、精神分析理論などの基礎を学び、それを具体的な映画などの映像テクストの分析に応用したい。そうすることによって、卒業論文における文化研究の基礎的知識も身につけることにする。この学期の締めくくりとして、具体的な映画の分析を実践する。いわゆる戦争映画だけでなく、上記の目的にかなった作品、たとえば、北米における人種問題を扱った映画なども扱う予定である。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

英語圏の文化研究の根幹をなす精神分析や人種表象あるいは他者表象をめぐる文化理論を習得することにより、この分野における領域横断的な知識を獲得し（DP2-3）、現在世界中で問題となっている戦争、人種差別、いじめなどという現象を理論的に解明するのと同時に、これらの理論的知識を援用して個別的に様々な文化テクスト（映像テクスト）を分析をする実践力を身につける（DP1-4）。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	講義の目標についての具体的な説明	シラバスを読み講義の目的について最低限度の理解をし、できればネットなどで問題の所在を確認する。	６０分
第２回	精神分析：死の欲動理論１（マゾヒズム、サディズム）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第３回	精神分析：死の欲動理論２（反復強迫）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第４回	精神分析：死の欲動理論３（暴力と享楽）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第５回	戦争と他者表象１（人種）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第６回	戦争と他者表象２（国民国家）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第７回	戦争と他者表象３（日本の場合）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第８回	戦争と国際政治（地政学）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第９回	映像分析１	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１０回	映像分析２	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１１回	映像分析３	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１２回	映像分析４	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１３回	映像分析５	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１４回	期末試験	これまでの講義内容を理解し期末テストの準備をする。	１２０分

〔授業の方法〕

講義した諸理論の内容を理解するために、毎回 Powerpoint を使用し、その要点について 40 分程度の講義をする。それと同時に、双方向の授業を実現するために、残りの時間では受講生が講義を受けた内容についての質問、コメント（意見は反論）をする。講義担当者はそのそれぞれに丁寧に応答し、interactive な教育効果を目指す。また、このタームの後半では、受講者は習得した基礎理論を応用し、具体的な映像分析を自ら試みることを要求される。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

新たな概念を解説した後で受講生からリアクション・ペーパーを提出してもらい、それについてコメントをすることで、学習の相互効果（interactivity）を確保し、知識の定着を目指す。

〔成績評価の方法〕

平常点（４０％）、学期末の term paper（６０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
授業担当者が用意する。

〔参考書〕
適宜複数を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	英語圏文化 422（複言語・複文化主義）						
教員名	小野　尚美						
講義コード	125132220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
言語と社会の関係についての基礎知識を身に付け、その知識を基に、日本の英語学習者が英語以外の複数の言語を学ぶ意義について考えていくことを目指します。Presentation を通して、学生の身の回りで起きている異文化のぶつかり合いが大きな問題に発展するのを避けるためにすべきこと、また社会全体で起きている異文化間の問題を解決する方法を模索していきます。そしてこの授業では、複数の言語を学ぶことの意義の理解に基づき、言葉と文化の多様性について考え、他者への寛容を養う異文化間教育について考えをまとめていきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1（専門分野の知識・技能）及び DP2（教養の修得）を実現するために、以下を目指す。
1）多言語主義と複言語主義の違いについて理解する。
2）世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。
3）多様な文化背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解する。
4）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。
5）複言語・複文化主義的発想に基づくとどのように言語習得についての考え方が変わるか考える。さらに
6）複言語・複文化主義的発想になると、世界の言葉と文化の多様性に対してどのような思想を持つようになるか考察する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の方法と成績評価について説明する。 無文字社会について考える	多言語主義について事前に読んで基礎知識を付けてくる。	60 分
第２回	多言語主義とは何か（1） 台湾における日本語の役割と北京語の役割	台湾と日本の歴史について基礎的な内容を調べて来る。	90 分
第３回	多言語主義とは何か（2） アメリカの English Only Movement とは何か。	アメリカにおける英語使用についての歴史に関する資料を読んでくる。	90 分
第４回	多言語主義とは何か（3） アメリカの English Plus Movement とは何か。	アメリカにおける英語使用についての歴史に関する資料を読んでくる。	90 分
第５回	多言語主義とは何か（3） アメリカの言語事情について。	アメリカの言語事情について資料を読んでくる。	90 分
第６回	中間振り返り小テスト	中間振り返り小テストの準備をする。	90 分
第７回	第１回振り返り小テストの解説 ヨーロッパにおける言語政策（１） EU の試みについて	EU について資料を読んでくる。	90 分
第８回	欧州協議会とはどんな組織か。	欧州協議会について資料を読んでくる。	90 分
第９回	複言語主義・複文化主義とは何か Language learning and teaching Presentation（1）	配付テキスト Chapter 1 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１０回	複言語主義・複文化主義とは何か CEFR と CEFR-J Presentation（2）	配付テキスト Chapter 2 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１１回	複言語主義・複文化主義とは何か ヨーロッパの多言語主義から複言語主義への移行について考える。 Presentation （3）	配付テキスト Chapter 2 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１２回	複言語主義・複文化主義とは何か 複言語主義についての原書講読	配付テキスト Chapter 3 を読む。	90 分
第１３回	学期末振り返りテスト	学期末振り返りテストの準備をする。	90 分
第１４回	学期末振り返りテスト返却と解説 授業の総括	学期末振り返りテストの復習	60 分

〔授業の方法〕
講義と演習の形式をとる。教員は授業で扱う複言語主義・複文化主義の概念について講義を行う。学生は、授業で配付されるテクストの資料や他の参考文献を輪読し、自分の興味のある話題を選び、Presentation を行う。学生の Presentation に対し、意見交換を行いながら、授業の話題となっている複言語・複文化主義的発想に基づくと日本における言語教育はどのようになっていくか、日本の英語学習者は何を目指すことになるかについて 1 学期を通して各自考えをまとめることが期待される。授業では、中間小テストとして振り返り小テストと、学期末には 1 学期の間に考えたことについて学期末振り返りテストで確認する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

中間振り返り小テストと学期末に実施する振り返りテストは次の時間に講評と解説を行い、授業内容の理解を深めることができるよう指導する。Presentationについては、聴衆との意見交換をしながら、講評をする。

〔成績評価の方法〕
授業参加（Presentation、中間振り返り小テスト、ディスカッションへの積極的参加、宿題など）：50%、学期末振り返りテスト：50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
1）複言語主義・複文化主義と多言語主義の概念の違いを理解しているか。
2）多様な文化が存在する中で異文化間コミュニケーションにどのような課題があるかについて考えているかどうか。
3）日本社会で、英語以外の複数の言語を学ぶ意義について自分で考えているかどうか。
4）いずれの振り返りテストにおいても、自分の考えを理路整然と説明できるかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語圏文化 322（コミュニケーション）を履修しておくことが望ましい。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
Council of Europe. (2001). Common European Framework of Reference fo Languages: Learning, Teaching, Assessment. Strasbourg::Cambridge University Press.
欧州評議会 言語政策局（山本冴里訳）. (2016)『言語の多様性から複言語教育へ ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド』東京：」くろしお出版.
西山教行・細川英雄・大木充（編）. (2016). 『異文化間教育とは何か グローバル人材育成のために』東京：くろしお出版.
細川英雄・西山教行. (2010). 『複言語・複文化主義とは何か ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』東京：くろしお出版.
三浦信孝（編）. (2006). 『多言語主義とは何か』東京：藤原書店.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	英語圏文化 423（ポストコロニアリズム）						
教員名	小林　英里						
講義コード	125132230	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
本授業では、イギリス文学の正典作品と、それを（旧）植民地の立場から書き直した作品を併置して読んでいく。ポストコロニアル時代の作家たちが用いるヘゲモニー転覆のための文学的戦略とはいったいどのようなものなのか、このことを考察することで、「宗主国」対「植民地」、「男」対「女」、「中央」対「周縁」、そして「主体」対「他者」といった二項対立を崩そうとする言説の試みのなかに、平等な社会実現の志向とその可能性を探る。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
【DP1-1】（専門分野の知識・技能）、【DP1-4】（専門分野の専門分野の知識・技能）、【DP1-5】（専門分野の知識・技能）、【DP2-3】（教養の習得）、【DP3】（課題の発見と解決）、【DP-4】（表現力、発信力）に基づいて、以下の事柄の修得を目標とする。
①イギリス文学の正典作品とポストコロニアル文学作品に精通する。
②批評理論（ポストコロニアル理論）の基本概念を理解する。
③学術論文に必要な議論の仕方を学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	あらかじめシラバスに目を通しておく。	60 分
第２回	Shakespeare, Romeo and Juliet (1597) ①	授業内容を確認する。	60 分
第３回	Shakespeare, Romeo and Juliet (1597) ②	授業内容を確認する。	60 分
第４回	Blackman, Noughts and Crosses (2001) ①	授業内容を確認する。	60 分
第５回	Blackman, Noughts and Crosses (2001) ②	授業内容を確認する。	60 分
第６回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719) ①	授業内容を確認する。	60 分
第７回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719) ②	授業内容を確認する。	60 分
第８回	J. M. Coetzee, Foe (1986) ①	授業内容を確認する。	60 分
第９回	J. M. Coetzee, Foe (1986) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１０回	Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) ①	授業内容を確認する。	60 分
第１１回	Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１２回	Caryl Phillips, The Lost Child (2015) ①	授業内容を確認する。	60 分
第１３回	Caryl Phillips, The Lost Child (2015) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１４回	総括	授業内容を確認する。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式。毎回、コースパワーを通じてレスポンス・シートを提出する。学期末はコースパワーを通じてレポートを提出する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
できるだけ授業中に前回のレスポンス・シートの講評をおこなう。

〔成績評価の方法〕

コースパワーを通じた課題の提出（80%）、平常点（20%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
近代以降のイギリスの歴史についての基本的知識があることが望ましい。

〔テキスト〕
特になし。(資料はコースパワーを通じて提示する。)

〔参考書〕
以下は、購入の必要はないが、参考にしてほしい。
ダニエル・デフォー、『ロビンソン・クルーソー』（岩波文庫、上下巻）
J. M. クッツェー、『敵あるいはフォー』（白水社）
シャーロット・ブロンテ、『ジェイン・エア』（岩波文庫、上下巻）
ジーン・リース、『サルガッソーの広い海』（河出書房新社）
エミリー・ブロンテ、『嵐が丘』（岩波文庫、上下巻）
小林英里、「「中央」と「周縁」のあいだで」、『二十世紀英文学再評価』（金星堂、2003年）
小林英里、「帝国の失われた子どもたち」、『二十一世紀の英語文学』（金星堂、2017年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	英語圏文化 424（レイシズム）						
教員名	権田　建二						
講義コード	125132240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

奴隷制とそのインパクトーアフリカ系アメリカ人の歴史

1865 年の奴隷制の廃止から 1960 年代までの、アフリカ系アメリカ人が、アメリカ市民としての権利の獲得を目指した歴史をたどる。1857 年合衆国最高裁は、「ドレッド・スコット判決」で、黒人は合衆国市民ではないと判断した。その後、奴隷制の存続を巡った南北戦争が終わり、議会による憲法の修正を経て、アフリカ系アメリカ人は、晴れて法的に合衆国市民となる。しかし、それは名ばかりで、19 世紀末から 20 世紀にかけて、黒人は法のもとで、白人社会から隔離され、白人と平等に扱われることはなかった。このような状況が大きく変わるのは、1954 年に合衆国最高裁が公立学校における人種の分離を違憲と定めた「ブラウン判決」によってだった。これ以降、アフリカ系アメリカ人たちは、自分たちの社会的権利の拡大を目指して積極的に運動していくことになった。

この授業では、20 世紀半ばのアフリカ系アメリカ人による、公民権運動と呼ばれるこのような権利拡大のための運動を見ていき、アフリカ系アメリカ人の社会的地位がどのように変化したのかを確認したい。

1865 年の奴隷制の廃止から 1960 年代までの、アフリカ系アメリカ人が、合衆国市民としての権利の獲得を目指した歴史を学ぶことで、以下を達成することを目的とする。

1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。
2) 文化の多様性及び異文化交流の意義について理解する。
3) 合衆国の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする

1) アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史について理解を深める。
2) 歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。
3) 様々な種類の英文を読解する力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	【復習】 今回分資料を再読。	60
第２回	イントロダクション一人権・公民権・レイシズム	【復習】 今回分資料を再読。	60
第３回	合衆国における黒人の存在	【復習】 今回分資料を再読。	60
第４回	奴隷制における黒人の地位(1787-1865)	【復習】 今回分資料を再読。	60
第５回	奴隷制の廃止とレコンストラクション まで （1865-1877）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第６回	レコンストラクションに対する反動（1873-1896）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第７回	「プレシー判決」と分離すれど平等の原則（1896）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第８回	ジム・クロウの時代（1880s-1940s）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第９回	19 世紀末から 20 世紀初頭の人種関係（1895-1922）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１０回	ブラウン判決への道（1899-1950）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１１回	「ブラウン判決」と人種の統合 （1954）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１２回	人種統合に対する反発（1950s-1960s）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１３回	公民権運動-エメット・ティルから 1964 年の公民権法まで	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１４回	まとめ：セルフレヴュー	【予習】 セルフレヴューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60

〔授業の方法〕

講義形式による授業です。
毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。
プリントは CoursePower を使って配布する予定です。
また、毎回のリアクション・ペーパーも CoursePower を使って配布・回収する予定です。
授業計画は〔授業の計画と準備学修〕に記載した通りですが、進捗状況により変更があります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回のリアクション・ペーパーに関しては、次回授業の冒頭に講評・解説を行い、前回授業の復習とします。

〔成績評価の方法〕
毎回のリアクション・ペーパー（80%）と学期末のセルフ・レビュー（20%）によって判断する。
リアクション・ペーパーは単に授業の感想を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものです。
毎回特定の課題を出しますので、それについて授業で学んだことに基づいて説明をし、さらに自分の考えを述べることになります。
毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度を確認します。
授業に出席しないことには、リアクション・ペーパーは評価の対象になりません。
また、リアクション・ペーパーを提出しないことには出席が認められません。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使いません。必要な文献等は毎回プリントにして配布します。

〔参考書〕
以下は参考書ですので、購入する必要はありません。必要に応じて図書館で閲覧するなどして参照してください。
Williams, Juan. Eyes on the Prize: America’s Civil Rights Years, 1954-1965. Penguin, 2013.
Hampton, Henry, and Fayer, Steve, eds. Voices of Freedom: An Oral History of the Civil Rights Movement from the 1950s to through the 1980s. Bantam, 1991.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	英語圏芸術・思想研究基礎 B						
教員名	大友　彩子						
講義コード	125133110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

This course examines different forms of the arts in the context of Early Modern England, focusing particularly on the seventeenth and eighteenth centuries, and including visual art, architecture, music, performing arts, literature, and others. It emphasizes the interrelation between these different genres in relation to a religious background which has been the foundation for the construction of a social context throughout English history.

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

Students who undertake this course will learn about the history of the arts and Western culture in Britain from the time of James I to the end of the eighteenth century, as well as how they can be connected with each other. They will learn basic critical approaches for analyzing arts within religious, political and social contexts.
The aims of this course are in accordance with DP2, DP3 and DP4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Introduction	Listening/analysis work	60 min
第２回	17th century end of Elizabethan period	Listening/analysis work	60 min
第３回	17th century early Stuart period	Listening/analysis work	60 min
第４回	17th century civil war	Listening/analysis work	60 min
第５回	17th century Republicanism and Puritanism	Listening/analysis work	60 min
第６回	17th century Restoration	Listening/analysis work	60 min
第７回	17th century Glorious Revolution	Listening/analysis work	60 min
第８回	18th century beginning of long 18th century	Listening/analysis work	60 min
第９回	18th century public philosophy	Listening/analysis work Start planning essay	60 min
第１０回	18th century rise of consumerism	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１１回	18th century industrial revolution	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１２回	18th century emergence of romanticism	Listening/analysis work Finish final essay	60 min
第１３回	18th century end of the long eighteenth century	Review for exam	60+ min
第１４回	Final Exam (listening test, essay writing)	Self-review of materials and course	Own choice

〔授業の方法〕

The class will involve listening activities, group discussion and mini lectures.

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

Mini-tests and in class work 30 %
Essay 40%
Final exam 30%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
There are no prerequisites for this course.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the lecturer.

〔参考書〕
A list will be provided to students in class and via Course Power.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
Questions are accepted immediately before and after class.
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	英語圏芸術・思想研究基礎 C						
教員名	生井　英考						
講義コード	125133120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

「映画のリテラシー」

映画、とりわけ現代の劇映画は娯楽産業の消費財であり、それを愉しむのに特別な素養は必要とされません。せいぜい「社会的背景」と称する雑学知識があれば蘊蓄めいたものを語ることができる、という程度です。たとえば近年のディズニーアニメが昔ながらの「王子様を待つプリンセス」ではなく「自立するヒロイン」になったのはなぜか、などというのは最も初歩的な例でしょう。

このクラスではその手の半可通な話はあつかいません。「特別な素養がなくても理解できる」のはなぜか、その根本をみなさんには実践的に考えてもらいます。映像を見る人は「感じる」と「理解する」を同時におこないます。その視覚的なコミュニケーションの成り立ちを観察・考察・分析することがこのクラスの内容です。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

このクラスでおこなうのはソーシャル・テクスト分析といいます。これは社会的コミュニケーションについての理解を促すものです。

視覚芸術としての映画についての「観る目」、基本的な素養と態度と想像力を身につけることが目標です。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに――クラスの紹介と授業運営について	初回ですので予習は必要ありません。このクラスは復習に相当するものが必須です。ひとつは自分で授業内容をふりかえってノートにまとめておく。もうひとつは授業で出された問いを考察し、リアペとしてコースパワーに登録する。〆切は３日後の正午です。必須。なお「リアペ」と呼んでいますが小型のレポートと心得てください。誤字脱字、文法の誤りなどすべて評価の対象となります。	左記に記したとおり、「まとめ」と「リアペ」を仕上げるのにおよそ100分は必要でしょう。
第２回	アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析　その１	この回から本番です。授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。 前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第３回	アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析　その２	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第４回	アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析　その３	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第５回	アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析　その４	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第６回	アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析　その５	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第７回	ソーシャル・テクスト分析発展編　その１	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第８回	ソーシャル・テクスト分析発展編　その２	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第９回	ソーシャル・テクスト分析発展編　その３	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第１０回	ソーシャル・テクスト分析発展編　その４	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第１１回	ソーシャル・テクスト分析発展編　その５	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第１２回	まとめ分析　その１	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。
第１３回	まとめ分析　その２	授業中は「観る」ことを徹底しますが、授業のあとではそこで感じたこと・考えたことを明確に言葉にして残しておくことが肝心。前回と同様、リアペは必須です。〆切は３日後の正午。	「まとめ」と「リアペ」でおよそ 100 分。

第１４回	最後の課題作品鑑賞	最後の課題作品を鑑賞後に最終レポートを仕上げます。〆切は別途告知します。	最終的なレポートのためにおよそ 150 分程度。

〔授業の方法〕
「映画のクラス？　楽しそうでいいじゃん。楽勝」と思う人はやめておいたほうがよいです。なぜなら大量の映像を前に「いまのは何ですか」「なぜそうわかりますか」とその場で名指しして問われるうえに、毎回のリアペ（単なる感想を越えた小型レポートに相当するもの）を必須で求められるからです。また授業期間内に劇場で映画を観る課題を課することもあります。
　授業の設定は講義クラスですが、実質は演習に近いものと思ってください。できるだけひっそりと当たり障りなく単位だけ取得した人にはお勧めしません。教室ではみなさんたちの表情の変化も大事な要素ですので、顔を隠すような帽子やマスクの着用はできません。しかるべき理由のある場合は直接申し出てください。毎回が積み重ねなので、理由ある欠席にも配慮の余地は大きくないことをお断りしておきます。
授業期間中に何度か、映画作品を鑑賞する時間を設けます。その際は授業時間をはみ出してお昼休みに入ることがありますが、ひとつながりで観るのは大事なことですので退室はできません。この点で差しさわりのある人には履修をお勧めしません（上映がいつになるかはクラスの進行状況によりますので、進行計画の一覧には反映されていません。鑑賞の際は事前に告知しますのでご心配なく）。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業は一方的な説教形式ではなく、履修生との問答や対話をできるだけ織り込みます。発言はクラスへの貢献として平常点に繰り込まれます。またコースパワーを使ったリアクションペーパーも評価の対象です。リアペは単なる感想ではなく、小型のレポートに相当する水準の考察が求められます。
課題へのフィードバックは対面のクラスを中心に、必要な場合はコースパワー等を介しておこないます。

〔成績評価の方法〕
授業への貢献（参加・発言・リアペ）――60%
課題レポート――40%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
毎回の授業への参加（出席）、コースパワー上でのリアペ、授業中の発言、レポート課題などの成果を総合して評価します。リアペおよび授業中の発言や問題提起（質問）は特に評価の対象として重視されます。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史――映画がつくったアメリカ』上下（講談社学術文庫）
上下ともあいにく版元品切れですが、初版（『映画がつくったアメリカ』として草思社から出ました）をふくめ、大学図書館や地域の図書館には多く所蔵されています。古書でも購入する価値おおいにあり。
ダニエル・ハーバート『ビデオランド――レンタルビデオともうひとつのアメリカ映画史』（作品社）
現在の映画の配信形式に先立つ「レンタルビデオ店」についての文化史。著者はミシガン大学映画学科教授で映画産業史の専門家。大学院生時代にセミプロのレンタルビデオ店員として働いた経験をふまえ、映画館興行とは違う「もうひとつの」映画経験の歴史的系譜をたどった実におもしろい研究書。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業の前後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	英語圏芸術・思想研究基礎 E						
教員名	日比野　啓						
講義コード	125133140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
《アメリカン・ミュージカル研究》以下の二つの作品の映画版・記録音源と、その舞台版脚本を検討することで、ミュージカルについての基本概念をどのように作品分析で用いるか、学んでいきます。
Rent（1996 年初演）
Gypsy: A Musical Fable（1959 年初演）

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
#1　代表的なアメリカン・ミュージカル作品二つについて、その成立の歴史、上演史、作品構造などを知る
#2　アメリカン・ミュージカルの特徴を知り、授業で扱った以外の作品を分析できるようになる
これらの目標を達成することによって、DP1/2/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション:『レント ライヴ・オン・ブロードウェイ』Rent: Filmed Live on Broadway（2008 年・152 分）鑑賞	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（１）を作成する	50
第２回	『レント ライヴ・オン・ブロードウェイ』(続き)	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（２）提出を作成する 講義で学んだことをもとに、復習ノート（１）を作成する	100
第３回	［テキスト精読］Rent, Act One, Scenes 1-11（pp. 1-32）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（３）提出を作成する	100
第４回	［テキスト精読］Rent, Act One, Scenes 12-21（pp. 32-67）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（４）提出を作成する	100
第５回	［テキスト精読］Rent, Act One, Scenes 22-25（pp. 67-85）, Act Two, Scenes 26-30（pp. 87-106）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（５）提出を作成する	100
第６回	［テキスト精読］Rent, Act One, Scenes 22-25（pp. 67-85）, Act Two, Scenes 26-30（pp. 87-106）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（６）提出を作成する	100
第７回	［テキスト精読］Rent, Act Two, Scene 31-42（pp. 106-141）	講義で学んだことをもとに、復習ノート（２）を作成する	100
第８回	［映画鑑賞］『ジプシー』Gypsy 鑑賞（1962 年・153 分）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート (7) を作成する	100
第９回	［映画鑑賞］『ジプシー』鑑賞（続き）:［テキスト精読］Gypsy, Act One, Scene 1-3（pp. 259-267）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（８）提出を作成する 講義で学んだことをもとに、復習ノート（３）を作成する	100
第１０回	［テキスト精読］My Fair Lady, Act One, Scenes 3-4（pp. 178-191）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（９）を作成する	100
第１１回	［テキスト精読］Gypsy, Act One, Scene 4-7（pp. 267-286）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（１０）を作成する	100
第１２回	［テキスト精読］Gypsy, Act One, Scene 8-11（pp. 286-303）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（１１）を作成する	100
第１３回	［テキスト精読］Gypsy, Act Two, Scene 1-2（pp. 304-321）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、予習ノート（１２）を作成する	100
第１４回	［テキスト精読］Gypsy, Act Two, Scenes 3-6（pp. 321-338）	講義で学んだことをもとに、復習ノート（４）を作成する	100

〔授業の方法〕
講義形式が基本ですが、ディスカッションでは履修者の積極的な発言を求めます。
受講者が十分少なければ報告をしてもらうこともあるかもしれません。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
Microsoft Teams で予習ノートと復習ノートを提出してもらいます。クラウドでも利用可能ですが、なるべく自分のパソコンにインストールしておいてください。

〔課題等へのフィードバック方法〕
予習ノート、復習ノートとも提出後すみやかに採点と講評を行い、内容の理解が深まるようにします。

〔成績評価の方法〕

予習ノート　60%
復習ノート　40%
試験は実施しません。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
Larson, Jonathan. Rent: The Complete Book and Lyrics of the Broadway Musical.　Applause Theatre & Cinema Books, 2008. ISBN-13: 978-1557837370
Laurence Maslon, editor. American Musicals: The Complete Books and Lyrics of Eight Broadway Classics 1950 -1969. Library of America, 2014.　（絶版なのでコピーを配布します）

〔参考書〕
日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）ISBN-13 ： 978-4791772612
その他、講義で随時指示。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング,(6)ＩＣＴ活用

講義名	アメリカ文学史 331						
教員名	庄司　宏子						
講義コード	125133150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

アメリカ合衆国はどのような文学を生み出してきたのか。15 世紀の大航海時代ヨーロッパで想像された新世界〈アメリカ〉のイメージ、17 世紀初頭から 1776 年までのイギリス植民地時代、18 世紀末の独立戦争とアメリカ合衆国の建国期、19 世紀初頭から半ばの領土拡張時代（アンテベラム期）、1860 年代の南北戦争期まで、再建期から 20 世紀半ば、20 世紀後半から現代に至るまでのアメリカ文学史の流れを歴史と文化と関連させながら辿ります。ある国がどのような文学を生み出すかは、風土・地形・気候という自然環境的な要素、歴史・政治・経済などの社会的な要素が関わっています。授業では文学の中に刻印されたアメリカ的な理念や概念、アメリカ文学史に通底するテーマ、文学と国民国家の関わり等について講義します。また、移動、ダイアスポラ、記憶、歴史の語り直しというテーマやグローバリズムという国境を越えた人間や情報の繋がりを視野に、世界文学という視点からアメリカ文学を捉えてみたいと思います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 6 点を到達目標とする。
・文学史とは、国民国家の歴史や文化と深く結びつきながら形成されることを理解する。
・文学に現れた時代の出来事を反映する要素、そこから生み出されるアメリカ的なテーマについて理解し知識を修得する。
・文学は、国民国家が提示する歴史や文化とは別の視点を提示しうる優れて批評的なメディアであることを理解する。
・アメリカ文学に触れながら、文学を歴史・社会・政治・文化と関連させながら読み解き、時代や社会をみる批評意識を養う。
・文学を通じて、異なる文化や他者の存在とその世界観への想像力を豊かにするとともに、自分で思考し批評する力を身につける。
・言語による世界の表象という観点から、歴史と文学、ファクトとフィクションについて考える力を育む。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：大航海時代、新大陸はどのようにイメージされたか――Jan van der Straet の絵にみる「ヨーロッパ」と「アメリカ」の出会いについて	シラバスを読み、アメリカ文学史Ｉの授業で何を学ぶのか、自分は何に関心があり何を学びたいのか、考えてください。グローバリズムは 15 世紀に始まる大航海時代の到来から始まったといってよい。人、物、情報が国境を越えて移動するとはどういうことか、そこから何が生まれるか考えてみましょう。	30 分
第２回	植民地時代のアメリカ(1)：William Bradford, Of Plymouth Plantation を中心に	大西洋の荒波を超えて新大陸アメリカにやって来たピューリタンたちの目の前に現れた風景はどのようなものだったのか、彼らはそれをどのように表現したのか想像してみましょう。その風景が現代のアメリカ人の原風景を形作っています。	60 分
第３回	植民地時代のアメリカ(2)：Captivity Narrative と Native Americans の表象，Mary Rowlandson, A Narrative of the Captivity and Restoration of Mrs. Mary Rowlandson を中心に	植民地時代のアメリカにおいて入植者と先住民インディアン部族との間でしばしば抗争が起こります。その一つが 1675 年に起こる King Philip's War です。戦いのなかで捕虜となった女性が記した体験記からインディアンはどのように描かれているか当時のピューリタン社会はどのようなものだったか、考えてみましょう。	60 分
第４回	植民地時代のアメリカ(3)：ピューリタニズムとセイレム魔女事件	1692 年にマサチューセッツのセイレムで起こった魔女事件はアメリカ史上最も悲惨な事件であり、さまざまな文学のインスピレーションを与えています。こうした事件が起こる背景について考えてみましょう。この事件の終息のあと、時代は近代の幕開けを迎えます。	60 分
第５回	建国期のアメリカ（1）アメリカとは何か―Crevecoeur, Letters from an American Farmer と Thomas Jefferson の"The Declaration of Independence"と Notes on the State of Virginia を中心に	17 世紀初頭に始まって約 200 年の植民地時代を経てアメリカはイギリスとの独立戦争の後、1783 年に独立を遂げます。Thomas Jefferson が中心になって起草された独立宣言文書や Notes on the State of Virginia からアメリカの精神・理念を辿ってみましょう。また建国初期に書かれたアメリカ人論も読みます。	60 分
第６回	建国期のアメリカ（2） Charles Brockden Brown と Washington Irving の文学	Charles Brockden Brown や Washington Irving がどのような小説を書いたのか、調べてみましょう。	60 分
第７回	西漸運動と Manifest Destiny：James Fenimore Cooper, The Last of the Mohicans と Alexis de Tocqueville, Democracy in America	アメリカの荒野を描くロマティシズムの文学 James Fenimore Cooper の The Last of the Mohicans について調べてみましょう。また 18 世紀末に独立し、19 世紀半ばにかけて大西洋と太平洋にまたがる大陸国家となっていくアメリカの領土拡大について調べてみましょう。	60 分
第８回	アメリカ・ルネサンスの文学(1)：トランセンデンタリズム―Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau, Margaret Fuller	独立してから約半世紀を経てアメリカは初めて国民文学といえる作品を生み出すようになります。その中核となるのが Transcendentalism（超越主義）です。どのような思潮の運動か考えてみましょう。	60 分
第９回	アメリカ・ルネサンスの文学(2)：Edgar Allan Poe	Edgar Allan Poe の作品は恐怖に満ちたグロテスクなもの、軽妙なもの、理性的なもの、海洋冒険譚とさまざまあります。翻訳でよいので、何かひとつ Poe の短篇を読んでみましょう。	60 分
第１０回	アメリカ・ルネサンスの文学(3)：Nathaniel Hawthorne と Herman Melville	アメリカ文学史上最高傑作といってよい Nathaniel Hawthorne の The Scarlet Letter（『緋文字』）と Herman Melville の Moby-Dick（『白鯨』）を抜粋で読みます。どのような内容の作品か、調べてください。考えます。この作品の内容について調べてください。	60 分
第１１回	奴隷解放運動と奴隷体験記：Harriet Beecher Stowe, Uncle Tom's Cabin と Frederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass	19 世紀半ばのアメリカは、後にアメリカ・ルネサンスと呼ばれる独自の文学潮流を生み出す一方で、奴隷制度をめぐり北部の自由州と南部の奴隷州の対立が激化する時代でした。そのなかで奴隷制廃止を訴える文学が生まれます。Stowe, Uncle Tom's Cabin（『アンクル・トムの小屋』）と Douglass の Narrative of the Life of Frederick Douglass（『数奇なる奴隷の半生』）から当時	60 分

		の社会を考えます。この作品の内容について調べてください。	
第１２回	再建時代から 20 世紀半ばのアメリカ文学：Nella Larsen, Langston Hughes, Richard Wright, F. Scott Fitzgerald, William Faulkner などの文学	Nella Larsen の Passing は 1920 年代に数多く描かれる「人種の境界を越える（passing）」というテーマを描いた文学の代表作です。passing というテーマと時代との関わり、21 世紀における passing の概念について考えます。併せて Hughes, Wright, Faulkner の文学も概説します。	60 分
第１３回	20 世紀後半から現代のアメリカ文学：Toni Morrison, Colson Whitehead など	現代アメリカ文学を代表する Morrison および Morrison の次の世代のアフリカ系アメリカ人文学の代表者 Whitehead の文学について概説します。	60 分
第１４回	授業内テスト	この授業で配布した handout から、作家や作品、作品に現れる重要なテーマと時代との関係などを振り返り、授業内テストに備えてください。	100 分

〔授業の方法〕
講義形式。授業内容の理解の確認や思考を促すため時折クイズを実施します。クイズは随時実施予定で CoursePower から Forms で行います。受講者は毎回の授業に必ず PC を持参してください。授業で取り上げる作品は受講者の理解度や関心に応じて、変わる可能性があります。期末レポートは授業内容に添いながら受講生の個々の関心に対応し、思考する力を育むことができるようなテーマにします。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業のなかで適宜行います。

〔成績評価の方法〕
平常点で成績評価を行います。平常点とは、クイズ（授業内に随時実施します）、14 回目に実施する授業内テスト、学期末に CoursePower から提出してもらう課題レポート（2,000 字程度）です。レポートの課題は授業で提示します。
（1）クイズ･･･10%
（2）授業内テスト･･･40%
（3）学期末課題レポート･･･50%
上記の割合は授業の進み具合に応じて多少変わる可能性があります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
教科書は使用しません。授業の教材や handout は CoursePower から配布します。

〔参考書〕
Peter B. High, An Outline of American Literature (Pearson Japan, 1986): ISBN: 978-0582745025
Emory Elliott, ed., The Columbia Literary History of the United States (Columbia UP): ISBN: 0231058128
Emory Elliott, ed., The Columbia History of the American Novel (Columbia UP): ISBN: 0231073607
Walter Benn Michaels and Donald E. Pease, eds., The American Renaissance Reconsidered (Johns Hopkins UP): ISBN: 0801839378
Paul Giles, American World Literature: An Introduction (Wiley-Blackwell, 2019): ISBN: 978-1119431787
Winston Napier, African American Literary Theory (NYU Press, 2000): ISBN: 978-0814758106
F. O・マシーセン『アメリカン・ルネサンス――エマソンとホイットマンの時代の芸術と表現』 上巻・下巻（ぎょうせい）
トニ・モリスン『白さと想像力――アメリカ文学の黒人像』（朝日選書）
渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』［入門編］（研究社）
大橋吉之輔『アメリカ文学史入門』（英語・英米文学入門シリーズ）（研究社）
巽孝之『アメリカ文学史――駆動する物語の時空間』（慶應義塾大学出版会）
諏訪部浩一他『アメリカ文学入門』（三修社）
亀井俊介『アメリカ文化史入門――植民地時代から現代まで』（昭和堂）
高野一良『アメリカン・フロンティアの原風景――西部劇・先住民・奴隷制・科学』（風濤社）
風呂本惇子他『新たなるトニ・モリスン その小説世界を拓く』（金星堂）
ヴァレリー・スミス『トニ・モリスン: 寓意と想像の文学』（彩流社）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
教員メールアドレスは CoursePower から周知します。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	イギリス文学史 332						
教員名	鈴木　孫和						
講義コード	125133160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本科目では、古英語の時代から 20 世紀にいたるまでのイギリス文学の展開を体系的に整理するとともに、各時代の代表的な作家・作品を紹介します。作家や作品は、その置かれた文脈から独立して存在するものではありません。作家／作品は時代によって形作られ、そしてまた人々の価値観を形作りもしたのです。このような双方向的な関係性があったことを意識しつつ、本科目では、文学史上の作家／作品を取りまく「文化」の諸相にも光を当て、イギリス文学の歴史を考えます。授業を通して、文学テクストを文化的観点から読み解く方法と、その楽しみを学んでもらえることを期待します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）を実現するため、次の 3 点を到達目標とします。
・イギリス文学史および各時代において鍵となる作家・作品について基礎的な知識を身につけること。
・各時代において文学テクストが社会・政治・ジェンダー観をはじめとした人々の認識といかに関わり合っていたかを自身の力で考えられるようになること。
・イギリス文学史の知識を土台として、文学テクストを自身の力で分析して論じられるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・イギリスという国について、イギリス文学史を学ぶ意義など	〈予習〉シラバスを通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第２回	古英語の時代の文化と文学	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第３回	中英語の時代の文化と文学	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第４回	16 世紀イギリスの文化	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第５回	シェイクスピア①	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第６回	シェイクスピア②	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第７回	17 世紀イギリスの文化と文学	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第８回	18 世紀イギリスの文化と文学	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第９回	ロマン派の時代の文化と文学	〈予習〉教科書授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１０回	ヴィクトリア時代の文化と文学	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１１回	世紀転換期の文化と文学	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１２回	第一次世界大戦とイギリス文学・文化	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１３回	モダニズムの時代の文化と文学	〈予習〉授業資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１４回	到達度確認テスト	〈予習〉授業内容の総復習、テスト準備	90

〔授業の方法〕

・本科目は講義科目です。
・授業中は、事前に配布したハンドアウトを読んでいることを前提として、テクスト・画像・映像等の資料を用いてイギリス文学・文化を解説します。理解に支障をきたす恐れがあるので、予習は必須と考えてください。
・また、本科目では周りの受講者との意見交換・ディスッカッションの時間をもうけます。授業内容を踏まえた作品読解ができるように、しっかりとノートを取るようにしてください。
・毎回レスポンスペーパーを提出してもらいます。授業中に提示された課題について自分の考えを書いてください。このペーパーで出席を管理するとともに、授業への取り組みを評価します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業の冒頭にレスポンスペーパーへのコメントをする時間を設けます。

〔成績評価の方法〕
レスポンスペーパー（60%）、到達度確認テスト（40%）
＊毎週の課題など、成績に関わる提出物における生成 AI の使用については、原則的に成蹊大学の基準に従う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	音楽芸術研究基礎 333						
教員名	大友　彩子						
講義コード	125133170	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

This is an introduction to musicology, particularly focussing on Western music. It looks at instrumentation, genres, history, analytical tools and the complicated relationship between music, culture and society. Students taking this course do not need to have formal training in music, but simply an interest in the area and a willingness to learn.

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

Students who undertake this course will learn about the history of Western music, as well as how music connects with culture in social contexts. They will learn basic music theory and how to understand and write about harmony, melody and rhythm. They will also learn to recognize works by famous composers from different periods and understand what makes them so special.
The aims of this course are in accordance with DP2, DP3 and DP4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	What is musicology? An introduction to ways to study and consider music and culture.	Listening/analysis work	60 min
第２回	Medieval music and the church	Listening/analysis work	60 min
第３回	The Renaissance music and arts	Listening/analysis work	60 min
第４回	17th century music 1 music in protestant regions	Listening/analysis work	60 min
第５回	17th century music 2 music in catholic regions	Listening/analysis work	60 min
第６回	18th century music 1 music and politics	Listening/analysis work	60 min
第７回	18th century music 2 music and commerce	Listening/analysis work	60 min
第８回	19th century music instrumental music	Listening/analysis work	60 min
第９回	19th century music vocal music and theatre	Listening/analysis work Start planning essay	60 min
第１０回	20th century music music and modernism	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１１回	20th century music Jazz	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１２回	20th century opera and musical	Listening/analysis work Finish final essay	60 min
第１３回	20th and 21st century rock and pop music	Review for exam	60+ min
第１４回	Final Exam (listening test, essay writing)	Self-review of materials and course	Own choice

〔授業の方法〕

The class will involve listening activities, group discussion and mini lectures.

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

Mini-tests and in class work 30 %
Essay 40%
Final exam 30%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
There are no prerequisites for this course.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the lecturer.

〔参考書〕
A list will be provided to students in class and via Course Power.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
Questions are accepted immediately before and after class.
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	舞台芸術研究基礎 336						
教員名	日比野　啓						
講義コード	125133180	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
アメリカン・ミュージカル研究入門：統合ミュージカル（integrated musicals）の最高傑作といわれる『ウエスト・サイド物語』West Side Story（1957 年舞台版初演）を題材として取り上げ、必要に応じてその映画版（1961、2021）や他のフィルム・ミュージカルを見ながら、アメリカン・ミュージカルとはどんなもので、研究対象としてどんな分析ができるのか、について講義します。1990 年代以降、音楽学、演劇学、映画学、ゲイ・スタディーズなどが相互乗り入れすることでミュージカル研究は合衆国で本格化しますが、本講義ではその最新の知見をふまえ、アメリカン・ミュージカル研究の多様な切り口を提示します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
統合ミュージカル・アリモノ・トライアウト・白人化といったアメリカン・ミュージカルを演劇学の対象として研究するのに必要な基本概念を「身につける」＝ただ理解するのではなく、自分で使いこなせるようになる。これらの目標を達成することによって、DP2/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション（1）この講義で何を学ぶのか・『ウエスト・サイド物語』を参照項にする理由・「芝居見たまま」の意義	映画『ウエスト・サイド物語』(152 分）を見ておく。シラバスの内容に目を通す	180
第２回	レヴューと統合ミュージカル／授業内課題（１）提出	授業内課題（１）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第３回	真正性と贋物性（1）物語／授業内課題（２）提出	授業内課題（２）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第４回	意味と非意味（1）ナンバー／授業内課題（３）提出	授業内課題（３）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第５回	意味と非意味(2)ダンスミュージカル／授業内課題(４)提出	授業内課題（４）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第６回	アメリカン・ミュージカル以外の世界各地の音楽劇／授業内課題（５）提出	授業内課題（５）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	180
第７回	到達度確認テスト 1：『ウェスト・サイド物語』見たまま」	これまで学んできたことをもとに、映画『ウエスト・サイド物語』を再度通覧し、ミュージカルでは何を「見る」か、何を「聞く」かを考える。	60
第８回	作品外のインフラストラクチャー	講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第９回	アメリカン・ミュージカル以外のアメリカ演劇／授業内課題（６）提出	授業内課題（６）提出準備。講義内容をよく復習する。	180
第１０回	セクシュアリティ：作品内、作り手、観客／授業内課題（７）提出	授業内課題（７）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第１１回	エスニシティ：作品内、作り手、観客	講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第１２回	階級：作品内、作り手、観客／授業内課題（８）提出	授業内課題（８）講義準備。授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	180
第１３回	真正性と贋物性（2）音楽	講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第１４回	授業外課題（２）提出	これまで学んできたことを復習し、映画『ウエスト・サイド物語』を再度通覧する。	60

〔授業の方法〕
講義形式。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
全ての授業内課題について返却時に講評を行います。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的な参加（36%）：9 回実施する授業内課題の評価にもとづきます。
授業外課題（１）提出（24%）：映画『ウエスト・サイド物語』の任意の 15 分程度のシークエンスを上映し、そのシークエンスであなたが何を見たか、何を聞いたかを書いてもらいます（「見たまま」を書く要領です。「見たまま」については講義で説明します）。
授業外課題（２）提出（40%）：用語説明と記述問題です。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
受講希望者は受講前にロバート・ワイズ監督の映画『ウエスト・サイド物語』（1961 年、152 分）を事前に（少なくとも）一度見ておいてください。

〔テキスト〕
テキストは使用しません。

〔参考書〕
日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）
その他、講義で随時指示。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	英語圏芸術・文学A431（インターテクスチュアリティ）						
教員名	庄司　宏子						
講義コード	125133190	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

現代アメリカ文学：トランプ時代のアメリカ文学

現代アメリカでは、ポスト・トゥルース、オルタナティブ（＝フェイク）リアリティなど現実を取り巻く言説環境は急速に変化している。権威主義と白人中心的な排外主義、また帝国主義的拡張主義が台頭するなか、文学は「いま」をどのように捉えているか。トランピズムを意識した現在アメリカ小説を読みながら考えてみたい。小説のほか、エッセイ、記事、アート、映画、ドキュメンタリーなども取り上げる予定である。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。

・英語文献を読み解く力を身につける。

・社会や文化、歴史を批評的にみる力を養い、多様な価値観や世界観の存在を認識する。

・自らの視点で社会や文化的現象をさまざまな関係性において考察する力を獲得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の内容と方法について説明します。	シラバスを読み、授業の内容を把握すること。現代アメリカに関するニュースや情報を集め、自身の関心を育んでください。	30 分
第２回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第３回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第４回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第５回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第６回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第７回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第８回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第９回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１０回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。	60 分
第１１回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１２回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１３回	現代アメリカ文学を読む	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１４回	まとめ	授業内で提示した課題について考えてください。後期の授業で学んだことを振り返り、何を学んだか考えてください。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式。授業では、授業内容に関するクイズを随時行います。クイズには成績評価に関わるものがあります。受講者は毎回の授業で CoursePower や Forms にアクセスできる PC を持って来てください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

適宜授業で講評、解説を行います。

〔成績評価の方法〕

平常点で成績評価を行います。平常点として、授業内で随時行うクイズ（15%から 20%）、学期末の課題レポート（2,000 字程度で CoursePower から提出。80%から 85%）から総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
アメリカ文学史

〔テキスト〕
授業で用いるテクストは印刷または PDF ファイルを CoursePower から配布します。

〔参考書〕
参考書は適宜授業で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
教員メールアドレスは CoursePower で連絡します。

〔特記事項〕

講義名	英語圏芸術・文学Ｂ432（ボディ・アンド・マインド）						
教員名	鈴木　孫和						
講義コード	125133200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

〈心の科学の登場とイギリス文学・文化〉

英語圏の文化における身体と精神の表象について語る際、無視できない要素として同時代の信仰や科学の言説があります。特に 19 世紀以降のイギリスでは、心理学という「新しい」科学の台頭と、それに伴う信仰の不安が社会に大きな影響を与え、文学の領域におけるさまざまな反応を生み出しました。本講義では、この変化を俯瞰的に捉える視座を提供するとともに、個別具体的な事例の検討も行うことで、科学史と文学研究を架橋することを試みます。

本講義で扱う言説の多くは、今振り返ってみると信じるに値しないと思われることでしょう。するとそれらを学ぶ意味がどこにあるのか疑問が湧いてくるかもしれません。しかしそうした「疑似科学」が現在の心理学や、現在のセクシュアリティに関する理解などを形作ってきたことも事実です。本科目は歴史的な視点を中心としますが、受講者の皆さんはぜひ授業を通して「今」のことも考えてみてください。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）を実現するため、次の 3 点を到達目標とします。

・イギリス文学・文化史の一側面に関する専門的知識を運用できるようになる。
・文学研究と科学史を接続し、学際的な批評を実践するための知識を身につける。
・現代の諸問題にもつながる歴史的知識を用いて主体的に思考・議論できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 「心」という「もの」の学問としての心理学	〈予習〉シラバスを通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第２回	19 世紀前半：人相学	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第３回	シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』と人相学の力	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第４回	19 世紀後半:キリスト教的公式心理学とダーウィン革命	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第５回	エドマンド・ゴス『父と子』と進化論	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第６回	ロバート・ルイス・スティーヴンソン『ジーキル博士とハイド氏』と科学への不安	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第７回	19 世紀後半～20 世紀：優生学	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第８回	H・G・ウェルズ『タイム・マシン』と「進歩」の論理的帰結	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第９回	レベッカ・ウェスト「終わらない結婚生活」におけるジェンダー・人種的序列の転覆	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１０回	19 世紀後半～20 世紀：性科学	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１１回	ラドクリフ・ホール『さびしさの泉』	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１２回	ヴァージニア・ウルフ『オーランドー』	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１３回	講義全体のふりかえり	〈予習〉配布資料を通読 〈復習〉授業内容を振り返り整理する	60
第１４回	到達度確認テスト	〈予習〉授業内容の総復習、テスト準備	120

〔授業の方法〕

・本科目は講義科目です。
・授業中は、事前に配布したハンドアウトを読んでいることを前提として、テクスト・画像・映像等の資料を用いて科学とイギリス文学・文化の関係性を解説します。理解に支障をきたす恐れがあるので、予習は必須と考えてください。
・また、本科目では周りの受講者との意見交換・ディスッカッションの時間をもうけます。授業内容を踏まえた作品読解ができるように、しっかりとノートを取るようにしてください。
・毎回レスポンスペーパーを提出してもらいます。授業中に提示された課題について自分の考えを書いてください。このペーパーで出席を管理するとともに、授業への取り組みを評価します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業の冒頭にレスポンスペーパーへのコメントをする時間を設けます。

〔成績評価の方法〕
レスポンスペーパー（60%）、到達度確認テスト（40%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	批評理論 436						
教員名	日比野　啓						
講義コード	125133220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

批評理論上重要な 4 つの主題について、それぞれ 3 週間にわたり概観します。
第一部：小説の快楽
第二部：何が「リアル」か
第三部：「内容」と「形式」は一致する？
第四部：小説とその外部

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

批評理論とは、小説や詩・戯曲、そして広く芸術作品を鑑賞・創作する際に知っていると役に立つ、ものの考えかた・作品のとらえかたを抽象的な言葉でまとめたものですが、その内容はきわめて具体的かつ実践的なものです。講義ではアリストレス『詩学』から 20 世紀後半の構造主義（ロラン・バルト）やポスト構造主義（ジャック・デリダ）まで広範にわたる「理論」を概観しますが、それらについての単なる知識を得ることが目的ではありません。卒業論文などで文学作品を論じる際、どのようなことを書けばよいのかということを実践的に学ぶ機会だととらえてください。これまで無意識に培われてきた自分のものの見方を再検討し、あるいはそれを意識化・言語化できるようになることが最終的な目標です。
これらの目標を達成することによって、DP1/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：「詩」とはなにか	予習：スティーヴン・ミルハウザー「アウグスト・エッシェンブルク」を読み始めてください。 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第２回	小説とは何か：「語り」（narration）と「描写」（description）	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。2 作者の介入／3 サスペンス／5 書簡体小説／26 描写と語り 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第３回	「語り手」「視点」の諸問題	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。6 視点／7 ミステリー／34 信用できない語り手／46 メタフィクション 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第４回	「内面」の成立	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。9 意識の流れ／10 内的独白／14　人物紹介／25 表層にとどまる 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第５回	事実（facts）と虚構（fiction）、真理（truth）、本当らしさ（reality） 第 1 回小テスト	予習：ハーマン・メルヴィル『ビリー・バッド』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。1 書き出し／8 名前／15 驚き／40 動機づけ 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第６回	理想主義（idealism）およびさまざまな反リアリズム	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。24 マジック・リアリズム／31 寓話／33 偶然／38 シュルレアリスム 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第７回	ミメーシス（mimesis）／表象（representation）とその批判	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。18 天気／22 実験小説／30 象徴性／42 言外の意味 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。 ミッドターム・ペーパーの提出準備を始めてください。	100
第８回	文体と声 第 2 回小テスト	予習：J・D・サリンジャー『キャッチャー・イン・ザ・ライ』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。4 ティーンエイジ・スカース／20 凝った文章／27 複数の声で語る／47 怪奇 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第９回	レトリックとアイロニー	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。11 異化／19 反復／23 コミック・ノベル／39 アイロニー 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１０回	時間と構造	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。36 章分け、その他／43 題名／48 物語構造／50 結末 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１１回	社会・経済 第 3 回小テスト	予習：ヘンリー・ジェイムズ、『ねじの回転』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。12 場の感覚／13 リスト／35 異国性／44 思想 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100

第１２回	テクノロジーとメディア	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。16 時間の移動／29 未来を想像する／37 電話／41 持続感 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１３回	伝統 第 4 回小テスト	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。17 テクストの中の読者／21 間テクスト性／28 過去の感覚／45 ノンフィクション小説 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１４回	到達度確認テスト	予習：講義内容をよく復習してテストに備えてください。	100

〔授業の方法〕
講義形式。レジュメを毎回配布。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
すべての小テストについて実施後解説を行います。

〔成績評価の方法〕
小テスト（8 点×4 回）：一つのテーマが終了した翌週に小テスト（12 分）を行います。
小テストは二つのセクションに分かれます。キーワードについて簡単な説明を求めるものと、講義のなかでもっとも印象に残った内容について記すものです。
ミッドタームペーパー：24 点
「語り」と「描写」の違い、多様な「語り手」「視点」や、様々な「内面」の描写など、それまで学んだことをもとに、「自分が今日大学に来るまでのこと」を小説にして書いてもらいます。「朝起きて家を出るまで」「家を出てから大学の門をくぐるまで」「大学の門をくぐってからこの教室に入るまで」の三つの情景を、指示に従って異なる技法を用いて書き分けて下さい。
到達度確認テスト：44 点
三問構成の記述式。一部「前ばらし」をします。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。批評理論の基本概念を理解し、作品を読むにあたって適用できるかに着目して、その達成度を評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
ロッジ、デイヴィッド。『小説の技巧』。柴田元幸・斎藤兆史訳、白水社、1997 年。ISBN-13: 978-4560046340
サリンジャー、J・D。『キャッチャー・イン・ザ・ライ』。村上春樹訳、白水社、2006 年。ISBN-13: 978-4560090008
メルヴィル、ハーマン。『ビリー・バッド』。 飯野友幸訳、光文社古典新訳文庫、2012 年。ISBN-13: 978-4334752637
ジェイムズ、ヘンリー。『ねじの回転』。小川高義訳、新潮文庫、2017 年。ISBN-13: 978-4102041031
ミルハウザー、スティーヴン。『イン・ザ・ペニー・アーケード』。柴田元幸訳、1998 年。ISBN-13: 978-4560071236

〔参考書〕
多数。初回授業時に詳細なリストを配布。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	日本文学研究の基礎						
教員名	牧　藍子						
講義コード	125211700	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
本授業では、大学において日本文学を研究する方法の基礎を学ぶことを目的とする。作品の読解に必要となる基本的知識や、研究を進めるうえで重要となる視点・方法について、具体的な作品を題材にしながら理解を深める。また、日本文学研究がどのような営みであり、自らがその研究に取り組む意義を考える機会とする。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
・日本文学の読解に必要となる基本的な知識を身につける。
・日本文学研究に用いられる主要な視点や方法を理解し、作品分析に適用できるようになる。
・自分が日本文学を研究することの意義を主体的に考える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを読んでおく。	60
第２回	本文	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第３回	作者	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第４回	読者	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第５回	装訂	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第６回	注釈	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第７回	表現	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第８回	主題	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第９回	虚構	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第１０回	先行作	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第１１回	外国文学	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第１２回	論文の書き方	配布資料や参考文献・関連作品等を読み、授業内容の理解を深める。	60
第１３回	到達度確認テスト	これまでの学修内容を確認しておく。	60
第１４回	到達度確認テスト解説	これまでの学修内容を確認しておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行い、リアクションペーパーをオンライン提出してもらう。
授業内で到達度を確認するテストを行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業のはじめに、前回のリアクションペーパーの講評を行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況・リアクションコメント等）30%、到達度確認テスト 70%による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・日本文学の読解に必要となる基本的な知識を身につけられたか。
・日本文学研究に用いられる主要な視点や方法を理解し、作品分析に適用できるようになったか。
・自分が日本文学を研究することの意義を主体的に考えられたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(3)初年次教育

講義名	日本語研究の基礎						
教員名	岡部　嘉幸						
講義コード	125211800	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

言語の研究には、言語に様々な側面があるのに対応して様々な研究分野が存在します。この授業では、音の側面から言語を扱う「音声学」「音韻論」、文字の側面から言語を扱う「文字論」、意味とそれを表す単位の側面から言語を扱う「意味論・語彙論」という側面から現代日本語の構造を理解し、日本語研究のための基礎知識を身に着けます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）実現のために、以下の 3 点を到達目標とします。
①日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関する基礎知識を習得できるようになる
②日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関して習得した基礎知識を用いて現代日本語の構造を理解できるようになる
③日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関して習得した基礎知識を他者にわかりやすく、論理的に文章で説明できるようになる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	ガイダンス 音声・音韻①：音声・単音	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 2 回	音声・音韻①：音声・単音（つづき） 音声・音韻②：音韻・音素	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 3 回	音声・音韻③：音節・モーラ	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 4 回	音声・音韻④：アクセント	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 5 回	小テスト① 小テスト①解説	第 1 回～第 4 回の授業内容を復習し、理解した上で、小テストに臨む。	90
第 6 回	文字①：文字の性格・漢字	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 7 回	文字②：仮名・ローマ字・補助符号	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 8 回	意味・語彙①：意味・意味の体系	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第 9 回	意味・語彙②：意味の諸相・意味の拡張	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１０回	小テスト② 小テスト②解説	第 6 回～第 9 回の授業内容を復習し、理解した上で、小テストに臨む。	90
第１１回	意味・語彙③：語構成	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１２回	意味・語彙④：ことばの位相	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１３回	授業の振り返りと補足	これまでの授業全体の内容について振り返り、理解が不足している点を明らかにしておく。	90
第１４回	授業のまとめ 授業内容の理解度の確認	第 1 回～第 12 回までの授業内容を復習し、その内容を理解しておく。	120

〔授業の方法〕

講義形式で行います。各回の授業後（ただし第 5 回、第 10 回、第 14 回は除く）に Course Power で小課題を出すので、指定された期限までに必ず小課題に解答してください。
また、第 5 回と第 10 回に授業内容の理解度を確認する小テストを行います。テスト範囲は、
・第 5 回小テスト：第 1 回～第 4 回の授業内容
・第 10 回小テスト：第 6 回～第 9 回の授業内容
となります。小テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。
さらに、第 14 回に授業内容全体の理解度の確認のための授業内テストを行います。テストの範囲は、
・第 1 回～第 12 回の授業内容すべて（小テストの範囲も含む）です。
テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか

の 2 点です。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕

・第 5 回と第 10 回の小テストのフィードバックは、授業時間内に問題解説の形で対応します。また、状況に応じて、course power 等でも対応します。
・第 14 回の授業内テストのフィードバックは、状況に応じて、course power 等で対応します。

〔成績評価の方法〕

・小テスト（第 5 回、第 10 回）の成績 30%
・第 14 回の授業内容の確認のための授業内テストの成績 50%
・平常点（授業への参加状況や小課題の達成状況） 20%
により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
評価にあたっては、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点を重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし。毎回授業プリントを配布します。

〔参考書〕

必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室でも受け付けます。

〔特記事項〕

(3)初年次教育,(6)ＩＣＴ活用

講義名	日本語の構造						
教員名	岡部　嘉幸						
講義コード	125211850	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

「文法」とは「文」を「文」として成り立たせる規則のことです。この授業では、現代日本語の文法構造を、主に、日本語の文を構成する要素（素材）にはどのような性質のものがあるかという観点から概観し、普段私たちが使用している日本語という言語構造の特性をより深く理解することを目指します。日本語の文を構成する要素には単語と文節とがありますが、第 2 回から 12 回までは単語の種類分けである「品詞」について、第 13 回は文節の種類分けである「文の成分」のうち、特に重要な「主語」についてその基礎的事項を学習します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）実現のために、以下の 3 点を到達目標とします。
①現代日本語の文法構造に関する基礎知識を習得できるようになる
②現代日本語の文法構造に関して習得した基礎知識を用いて日本語を分析できるようになる
③日本語の文法構造に関して習得した基礎知識を他者にわかりやすく、論理的に説明できるようになる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 導入：文法とは・文法上の単位	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第２回	日本語の品詞分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第３回	動詞・動詞の分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第４回	形容詞・形容詞の分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第５回	形容動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第６回	小テスト① 小テスト①解説	第 2 回～第 5 回の授業内容を復習し、ノートにまとめておく。	90
第７回	名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第８回	助動詞①：助動詞とは・時間的意味に関わる助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第９回	助動詞②：非現実的な意味に関わる助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１０回	助動詞③：主語の特別な立場を表わす助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	90
第１１回	助詞①：格助詞・副助詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１２回	助詞②：接続助詞・終助詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１３回	主語	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１４回	授業のまとめ 授業内容の理解度の確認	第 2 回～第 13 回までの授業内容について復習して、ノートにまとめておく。	90

〔授業の方法〕

講義形式で行います。各回の授業後（ただし第 6 回は除く）に course power で小課題を出すので、指定された期限までに必ず小課題に解答してください。
第 6 回に授業内容の理解度を確認する小テストを行います。テスト範囲は第 2 回～第 5 回の授業内容です。小テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。
また、第 14 回に授業内容の理解度を確認する授業内テストを行います。試験範囲は、第 2 回～第 13 回の授業内容すべて（小テストでの範囲も含みます）です。
テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕
・第 6 回の小テストのフィードバックは、事業時間内に問題解説の形で対応します。また、状況に応じて、course power 等でも対応します。
・第 14 回の授業内テストのフィードバックは、状況に応じて、course power 等で対応します。

〔成績評価の方法〕
・小テスト（第 6 回）の成績 20%
・授業内容の理解度確認のための授業内テスト（第 14 回）の成績 60%
・平常点（授業への参加状況や小課題の達成状況） 20%
により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
評価にあたっては、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点を重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし。毎回授業プリントを配布します。

〔参考書〕
必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(3)初年次教育,(6)ＩＣＴ活用

講義名	古典日本文学史Ａ						
教員名	吉田　幹生						
講義コード	125231100	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
古典日本文学の展開を、具体的な作品に即しながら講義する。今年度は、韻文作品を対象とする。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP１（専門分野の知識・技能）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①古典日本文学（韻文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できる。
②個別の作品についても、自分の力でそれを鑑賞し、史的に位置づけることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	古代歌謡	大学図書館にある概説書などを利用して、古代歌謡の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第２回	『万葉集』の世界	大学図書館にある概説書などを利用して、『万葉集』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第３回	柿本人麻呂	大学図書館にある概説書などを利用して、柿本人麻呂の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第４回	『古今和歌集』の世界	大学図書館にある概説書などを利用して、古今和歌集の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第５回	紀貫之	大学図書館にある概説書などを利用して、紀貫之の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第６回	平安和歌の展開	大学図書館にある概説書などを利用して、平安和歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第７回	『新古今和歌集』の世界	大学図書館にある概説書などを利用して、『新古今和歌集』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第８回	藤原定家	大学図書館にある概説書などを利用して、藤原定家の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第９回	中世和歌の展開	大学図書館にある概説書などを利用して、中世和歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１０回	近世和歌の展開	大学図書館にある概説書などを利用して、近世和歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１１回	連歌の成立と展開	大学図書館にある概説書などを利用して、連歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１２回	近世俳諧	大学図書館にある概説書などを利用して、近世俳諧の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１３回	松尾芭蕉	大学図書館にある概説書などを利用して、松尾芭蕉の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１４回	日本漢詩の世界	大学図書館にある概説書などを利用して、日本漢詩の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60

〔授業の方法〕
講義形式による。
授業中に課す課題や、レポート課題あるいは学期末試験については、授業内容についてだけではなく、一般的な入門書や概説書に載っている内容についても理解していることが求められる。そのため、基本事項を中心に、自分自身で知識を身に着けるという習慣を身につけてほしい。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
授業中に課す課題（４０％）及びレポート課題あるいは学期末試験（６０％）を中心とした総合評価。
ただし、私語は授業妨害と見なして「不合格」とする。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
評価にあたっては、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典日本文学（韻文作品）について、基本的な知識が身についているか。
②古典日本文学（韻文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できるか。
③古典日本文学の具体的な作品について、自分の力でそれを解釈することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。
初心者を念頭に置いて講義をするので特別な知識は必要ないが、中学校レベルの日本史の知識や文学作品の名前は既に知っているものとして話をする。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
初めて日本の古典文学を学ぶ人向けの入門書などはその都度紹介する。
なお、研究書などより高度な「参考書」を知りたい人は、直接質問してほしい。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	近現代日本文学史Ａ						
教員名	小橋　孝子						
講義コード	125231120	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
明治から昭和初期までを対象として、時代の変化とともにあった文学史の流れを講義する。
予習としてテキスト等の学修を必須とし、授業の資料としてはプリントおよび電子ファイルを配布する。
小説、評論などの作品に触れ、その特質や意義を解説するとともに、その魅力が理解してもらえるように努める。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
1）近現代文学の歴史を時代の変化との関連とともに理解する。
2）近現代文学を代表する作家・作品に関する基礎的知識を養う。
3）リアリズム、ロマン主義、自然主義、耽美派、象徴主義など基礎的な文学概念を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 明治開化期の文学	【予習】シラバスを読み、授業の概要を理解する。 【復習】資料を読み返し、理解を深める。	60 分
第２回	小説の改良　逍遙・二葉亭	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第３回	明治 20 年代の文学	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第４回	明治 30 年代の文学	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第５回	自然主義文学の登場	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第６回	日露戦争後の文学 夏目漱石・森鴎外	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第７回	耽美派の文学	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第８回	白樺派の文学	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第９回	新思潮派の文学 芥川龍之介	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第１０回	プロレタリア文学	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第１１回	新感覚派の文学	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第１２回	新興芸術派の文学	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第１３回	大衆文学	【予習】テキスト等により、基礎的な知識を確認する。 【復習】資料を読み、理解を深める。	120 分
第１４回	期末試験	半期の学修を振り返る。	120 分

〔授業の方法〕
講義形式を中心として、随時、グループワークと作品に関する小レポートの作成を求める。
予習として、テキスト等による基礎的な知識の学修を必須とする。
講義後、毎回リアクションペーパーを提出する。
リアクションペーパーに代わる小課題を出す場合もある。
期末に授業内試験を行う。(電子機器以外持ち込み可)

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回のリアクションペーパー及び小課題等の提出物については次の回にコメントする。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパー・発言等を含む授業参加度(30%)
小課題(30%)
期末試験(40%)

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
安藤宏『日本近代小説史　新装版』中央公論新社 （中公選書 110） ２０２０年８月　1980 円

〔参考書〕
授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	日本語の歴史Ａ						
教員名	山本　真吾						
講義コード	125231140	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

日本語が大きな変化を遂げてきたことは古典文学作品などを読むと分かりますが、時代・時期により少しずつ異なる様相を呈することも長年の研究の結果、明らかになっています。現代日本語について考える場合でも、過去の時代の日本語に関する知識が必要になることが多いので、日本語の歴史についてなるべく詳しく学んでもらいたいと思います。

授業では、日本語の歴史を古代語と近代語とに大きく二分した場合の、古代語について、古代社会の文化、生活、宗教的な背景にも目配りしつつ、文字表記、音韻、語彙、文法、文体などの多角的な視点から考えてゆきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、３（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とします。

①日本語の歴史に関する基礎的な事項を理解し、説明できる。

②古代日本語に関する詳細な知識を身につける。

③日本語史資料から、重要な古代語事象に関する用例を収集し、的確に解釈・分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 日本語史の研究水準と問題点 ・授業の進め方 ・日本語学のなかの日本語史 ・日本語史の時代区分 ・古代日本語の諸問題	日本語史に関する知識を確認しておく。 課題を復習する。	60
第２回	奈良時代の文字生活 ・日本語の記録の始発 ・文字の獲得 ・漢字の伝来	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第３回	古事記の文体 ・和化漢文と万葉仮名 ・古事記成立の背景 ・太安万侶の工夫	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第４回	万葉仮名の表音性 ・上代特殊仮名遣いについて ・古代語の母音 ・上代特殊仮名遣いの研究史	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第５回	仮名の成立 ・「成立」ということ ・平仮名の成立 ・片仮名の成立	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第６回	古今集歌を語学的に解釈する ・助詞、助動詞の役割 ・有標・無標ということ ・言語文化史的意味	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第７回	歌物語の文体 ・伊勢物語の読み方 ・文体と文連接法 ・日本語史とデータサイエンス	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第８回	かげろふ日記の表現特性 ・代名詞の解体 ・人物呼称 ・かげろふ日記の文体	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第９回	五十音図の成立 ・悉曇文字について ・平安時代の音韻 ・オノマトペ（鳥の鳴き声）	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１０回	平安時代における助動詞の相互承接 ・助動詞の接続 ・助動詞の活用 ・助動詞の意味 上記の相互の関係を考察する。	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	90
第１１回	音便について ・定義 ・機能 ・高校「古典」学習の意義 ・日本語史上の意義	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１２回	説話の言葉 ・「かいもちい」の正体 ・宇治拾遺物語 ・方言周圏論	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１３回	平家物語の中世語 ・古典作品の原本 ・平家物語の諸本 ・中世語の認定	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	120
第１４回	授業の総括を行い、到達度確認のための授業内試験を行います。	後期の学修内容を確認しておく。	120

〔授業の方法〕
授業は講義を中心に進めます。毎回プリントを配布し、このプリントに沿って解説し、出席確認の際に、質問やコメントを記入してもらい、双方向的授業要素を組み込みます。
授業内試験は、第 1 回から第 14 回までの内容理解の達成度を確認します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
質問やコメントについては、次回の授業の最初に解説を行います。

〔成績評価の方法〕
授業内試験（60%）、課題への取り組みなど授業参加状況（40%）による総合評価

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を説明できる。
②奈良・平安時代の日本語に関する詳細な知識を習得している。
③日本語史資料から的確な用例を採集できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
日本語学会編『日本語学大辞典』（東京堂出版、2018 年）
沖森卓也編『奈良時代の日本語』（朝倉書店、2024 年）
山本真吾編『平安時代の日本語』（朝倉書店、2025 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	日本語学講義Ａ						
教員名	屋名池　誠						
講義コード	125232100	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

【日本語の文字・表記】

日本語の文字・表記は、世界的に見て、もっとも複雑な部類に属すといえる。多様性に富んだ日本語の実態を検討してゆくことを通して、人類の言語における文字の位置・役割という本質的な問題を考える手がかりを得ることをめざす。

引き続いて後期の日本語学講義Ｂを履修することが望ましい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

１．日本語の実例を通して、文字・表記の一般的な性質を理論的・体系的に理解する。

２．日常の生活で遭遇する、文字・表記をめぐる種々の問題を的確に捉え、分析し、対処するために応用できる力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	日本語の文字・表記は英語のそれに比べ、どういう点が複雑なのか、考えておく。	60 分
第２回	文字とは何か・文字とその周辺の記号	文字と絵、絵記号などのちがいについて考えておく。	60 分
第３回	文字の存在意義	文字がなければ我々の社会はどうなってしまうのか、考えておく。	60 分
第４回	文字の機能	日常生活のどういう場面で、どのように文字は使われているのか、観察しておく。	60 分
第５回	文字と文字言語	文字であらわされる言語と、音声で伝えられる言語はどこが違うのか、考えておく。	60 分
第６回	文字のかたち（１）	文字のかたち（１）　　日本語の文字のかたちを日本語を知らない外国人に教えるにはどうしたらよいか、考えておく。	60 分
第７回	文字のかたち（２）	授業で学んだことを、即日、日常生活で検証する。	60 分
第８回	文字と言語との対応（１）	英語を漢字で書くことはなぜできないのか、考えておく。	60 分
第９回	文字と言語との対応（２）	授業で学んだことを、即日、日常生活で検証する。	60 分
第１０回	文字と言語との対応（３）	授業で学んだことを、他の言語の表記などについて検証してみる。	60 分
第１１回	表記規則（１）	内閣告示「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）や参考書類に眼を通しておく。	60 分
第１２回	表記規則（２）	内閣告示「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）や参考書類に目を通しておく。	60 分
第１３回	表記規則（３）	授業で学んだことを、即日、日常生活で検証する。	60 分
第１４回	平面図形としての文字	文字がでたらめに並んでいたり、一列に並ぶのではなく平面上に散在していたらどういうことがおきるのか、考えておく。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

定期試験ないしレポート（９０％）、平常点（１０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特別な知識は必要としない。
引き続いて日本語学講義 B を履修することが望ましい。

〔テキスト〕
使用しない。

〔参考書〕
樺島忠夫『日本の文字』（岩波新書）
樺島忠夫編『事典日本の文字』（大修館書店）
屋名池誠『横書き登場』（岩波新書）
以上、購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	日本語学講義Ｂ						
教員名	屋名池　誠						
講義コード	125232110	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

【日本語の文字・表記】

日本語の文字・表記は、世界的に見て、もっとも複雑な部類に属すといえる。多様性に富んだ日本語の実態を検討してゆくことを通して、人類の言語における文字の位置・役割という本質的な問題を考える手がかりを得ることをめざす。

前期の日本語学講義Ａを踏まえた内容なので日本語学講義Ａから引き続いて履修することが望ましい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

１．日本語の実例を通して、文字・表記の一般的な性質を理論的・体系的に理解する。

２．日常の生活で遭遇する、文字・表記をめぐる種々の問題を的確に捉え、分析し、対処するために応用できる力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	漢字の書体	「甲骨文字」「篆書」などについて、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第２回	漢字の字体（１）	「漢字の字体」について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第３回	漢字の字体（２）	「部首」について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第４回	漢字の読み―音	「音読み」について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第５回	漢字の読み―訓	「訓読み」について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第６回	音の読み分け、音訓の読み分け	われわれはなぜ漢字を一瞬で音と訓に読み分けられるのか、考えておく。	60 分
第７回	ひらがな・カタカナの成立	「ひらがな」「カタカナ」の歴史について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第８回	ひらがな・カタカナの字体	同上。	60 分
第９回	前近代通行の仮名表記	新事実を扱うので、予習よりも復習をしっかりすること。	60 分
第１０回	かなづかい	現在の仮名の書き方と、古文などで用いる旧仮名遣い（歴史的仮名遣い）はどう違うのか、観察しておく。内閣告示「現代仮名遣い」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）に目を通しておく。	60 分
第１１回	漢字・ひらがな・カタカナ混用システム（１）	内閣告示「送り仮名の付け方」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）に目を通しておく。	60 分
第１２回	漢字・ひらがな・カタカナ混用システム（２）	漢字やカタカナを使わず、ひらがなばかりで表記することになったらどういうことが起きるか、考えておく。	60 分
第１３回	ローマ字専用システム	内閣告示「ローマ字のつづり方」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）に目を通しておく。	60 分
第１４回	日本語の文字の二次元的展開	「縦書き」「横書き」について、参考書などで知識を整理しておく。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式でおこなう。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

定期試験ないしレポート（９０％）、平常点（１０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特別な知識は必要としない。
日本語学講義 A と一連の内容なので、日本語学講義 A から引き続いて履修することが望ましい

〔テキスト〕
使用しない。

〔参考書〕
林史典編『朝倉日本語講座 2 文字・書記』（朝倉書店）
沖森卓也『日本漢字全史』（ちくま新書）
笹原宏之『日本の漢字』（岩波新書）
笹原宏之『訓読みのはなし』（角川ソフィア文庫）
築島裕『歴史的仮名遣い』（中公新書）
今野真二『振仮名の歴史』（集英社新書）
屋名池誠『横書き登場』（岩波新書）
以上、購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	日本語学講義C						
教員名	常盤　智子						
講義コード	125232120	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
本科目では、日本語史という立場から、非母語話者（シラバス中では便宜上「外国人」と示す）が日本語をどのように研究・学習してきたのか、また、日本語教育がどのようにおこなわれてきたのか、ということに関する諸問題を各種資料を読みながら考える。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP6【文化現象の総合的理解】を実現するために以下の２点を到達目標とする。
①外国人の日本語研究や日本語学習に関する資料についての基礎的な知識を修得する。
②上記の資料を日本語史の中に正しく位置づけ、その特質や意義を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業概説	【予習・復習】シラバスをよく読んで、講義全体と各回の位置づけについて確認しておく	60
第２回	外国人から見た日本語の特質	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第３回	外国人による日本語研究概観	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第４回	中国資料からみた日本語	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第５回	朝鮮資料からみた日本語	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第６回	キリシタン資料からみた日本語	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第７回	鎖国期の外国人による日本語研究	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第８回	鎖国期の日本人による外国語研究	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第９回	幕末・明治前期の外国人による日本語研究	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第１０回	幕末・明治前期の日本人による外国語研究	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第１１回	明治後期から第二次世界大戦後までの日本語教育	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第１２回	第二次世界大戦後から現代までの日本語教育	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60
第１３回	現在とこれからの日本語教育 まとめ	【予習・復習】2 回～12 回のキーワードについて確認し、説明できるようにする 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	90
第１４回	到達度確認テスト	【予習】テストに備え、各回の学修内容について確認しておく	120

〔授業の方法〕
授業は講義を中心に進めるが、授業ごとに課題を提示し、リアクションペーパーの提出を課す。また、知識の定着や疑問点の共有のために、内容に応じたフィードバックを行う。
学期末には授業全体を通した理解度を測るために、到達度確認テストを行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業のはじめに時間を設けて、リアクションペーパーの内容に関するフォードバックを行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）60%、到達度確認テスト　40%　による総合評価

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①外国人の日本語研究や日本語学習に関する資料についての基礎的な知識を修得している。
②上記の資料を日本語史の中に正しく位置づけ、その特質や意義を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本語史についての理解があることが望ましいが、必須ではない。

〔テキスト〕
プリントで配布

〔参考書〕
参考書は必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	古典文学入門 A						
教員名	鈴木　崇大						
講義コード	125233100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
『古事記』について講義します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP 1 （専門分野の知識・技能）を実現するために、次の 2 点を到達目標とします。
①『古事記』の特質について具体的に説明できる
②『古事記』を当時の歴史的背景ないしは世界観等と関わらせて具体的に説明できる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	概説と序文 成立の背景と表記の工夫――	資料の確認	60 分
第２回	天地初発、イザナキとイザナミ 国生み――	資料の確認	60 分
第３回	アマテラスとスサノヲⅠ 天石屋戸――	資料の確認	60 分
第４回	アマテラスとスサノヲⅡ ヤマタノヲロチ退治―― ◆小テスト	資料の確認	60 分
第５回	オホクニヌシⅠ 稲羽の素兎、根の堅州国訪問（前編）――	資料の確認	60 分
第６回	オホクニヌシⅡ 根の堅州国訪問（後編）、国譲り――	資料の確認	60 分
第７回	ニニギとホヲリ 天孫降臨と海幸山幸――	資料の確認	60 分
第８回	神武天皇 東征、久米歌、反乱伝承――	資料の確認	60 分
第９回	崇神天皇 三輪山説話、諸国平定―― ◆小テスト	資料の確認	60 分
第１０回	垂仁天皇 サホビメ・サホビコの悲劇――	資料の確認	60 分
第１１回	景行天皇Ⅰ ヤマトタケル物語・前編――	資料の確認	60 分
第１２回	景行天皇Ⅱ ヤマトタケル物語・中編――	資料の確認	60 分
第１３回	景行天皇Ⅲ ヤマトタケル物語・後編――	資料の確認	60 分
第１４回	雄略天皇 赤猪子、葛城一言主―― ◆小テスト	資料の確認	60 分

〔授業の方法〕
・講義形式で行います。
・第 4 回、第 9 回、第 14 回に、それまで扱った範囲から小テストを行います。
・授業終了後、リアクションペーパーの提出を課します。
・授業開始後、30 分以上遅刻した者は出席と認めません。
・授業中に私語を交わす者は不可にします。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
・授業の最初に、前回提出してもらったリアクションペーパーの一部を紹介・解説します。

〔成績評価の方法〕

平常点（リアクションペーパーの提出状況）28%、小テスト 30%、期末レポート 42%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①『古事記』の特質について具体的に説明できたか
②『古事記』を当時の歴史的背景ないしは世界観等と関わらせて具体的に説明できたか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし（毎回の授業で資料を配布します)。

〔参考書〕
特になし（必要に応じて紹介します）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
リアクションペーパーおよび授業終了後の教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	古典文学入門 B						
教員名	山名　順子						
講義コード	125233110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
配布したテキストを実際に読み、江戸中後期から明治初期の文学作品における恋愛の表象について理解することをめざします
授業中に示したテキストは、事前学修・事後学修で読み進め、文章に慣れるとともに、物語全体の内容を把握することを強く推奨します。授業中に、必要に応じてグループワークを課することがあります

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
1、江戸中後期から明治初期の文学作品を読み、当時の文化を幅広く知るとともに、特に恋や結婚について注視し、そのあり方や変化を理解して説明できる。
2、江戸期の版本に使用されている簡単なくずし字に慣れ、読むことができる。
3、近世文学に関するデータベースに親しみ、活用することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス（授業の進め方や意義、評価方法等の説明） 近世・近代文学史を概観する	近世・近代文学年表等で文学史を確認する	90 分
第２回	恋川春町『金々先生栄華夢』を読む（１） 黄表紙の嚆矢である『金々先生栄華夢』を概観し、黄表紙に描かれた〈恋〉を説明する。	作品を辞書等で調べ、内容を概観する	90 分
第３回	恋川春町『金々先生栄華夢』を読む（２） 作品に描かれた〈恋〉を説明する	配布資料を通読し、内容を把握する	90 分
第４回	山東京伝『江戸生艶気樺焼』を読む（１） 山東京伝の黄表紙『江戸生艶気樺焼』を示し、描かれた〈恋〉と〈笑い〉を解説する。	作品を辞書等で調べ、内容を概観する	90 分
第５回	山東京伝『江戸生艶気樺焼』を読む（２） 作品に描かれた〈恋〉の特徴を理解する。	配布資料を通読し、内容を把握する	90 分
第６回	山東京伝『江戸生艶気樺焼』を読む（3） 周辺作品に描かれた〈恋〉の特徴を理解する。	配布資料を通読し、内容を把握する	90 分
第７回	山東京伝『江戸生艶気樺焼』を読む（４） 周辺作品に描かれた〈恋〉の特徴を理解する。	配布資料を通読し、内容を把握する	90 分
第８回	山東京伝『傾城買四十八手』を読む（１） 京伝の洒落本『傾城買四十八手』を示し、吉原における〈恋〉を紹介する	作品を辞書等で調べ、内容を概観する	90 分
第９回	山東京伝『傾城買四十八手』を読む（２） 洒落本の会話や、吉原における約束事などを紹介しながら、吉原における〈恋〉を解説する	配布資料を通読し、内容を把握する	90 分
第１０回	為永春水『春色梅児誉美』を読む（１） 為永春水の人情本である『春色梅児誉美』を紹介し、作品中の〈恋〉の描かれ方の特徴を見る。	作品を辞書等で調べ、内容を概観する	90 分
第１１回	為永春水『春色梅児誉美』を読む（２）作品における〈恋〉の特徴を見る。	配布資料を通読し、内容を把握する	90 分
第１２回	二葉亭四迷『浮雲』を読む（１） 近代小説の嚆矢である『浮雲』に描かれた〈恋愛〉に注目し、江戸期の〈恋〉との差異を理解する	作品を辞書等で調べ、内容を概観する	90 分
第１３回	二葉亭四迷『浮雲』を読む（２） 作品に描かれた〈恋愛〉の特徴を通じて、明治初期の文学における〈恋愛〉の変容とあり方を理解する。	配布資料を通読し、内容を把握する	90 分
第１４回	総括 江戸中高期から明治初期の作品における〈恋〉について確認する。	配布資料を確認し、作品の内容を理解する	90 分

〔授業の方法〕
全般的に座学(講義)を中心として進めます。
本講義では、高等学校までの「文学史」で目にしたことのある作家やその作品を扱います。
継続的な読書や調査といった受講生の皆さんの積極的な学修を歓迎します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕
採点後、実際に提出された課題に即して具体的な評価のポイントを公開します。
レポートは、コメントをつけて返却します。

〔成績評価の方法〕

授業中の発言や質問、リアクションペーパー等の内容（30%）
期末課題（70%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
授業参加、平常点、試験点を総合的に評価する。
評価の観点（概要）:
授業の内容に興味を持ち、主体的に学習している。
近世文学および近代文学作品に積極的に接し、内容の理解・分析に努めている。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし
適宜配布・指示します。

〔参考書〕
特になし
適宜配布・指示します

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(6)ＩＣＴ活用

講義名	近現代文学入門						
教員名	山路　敦史						
講義コード	125233120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
「近現代文学入門」として、日本の近現代文学の複数の作家・作品を取り上げて、「物語」の機能や意義について学修するとともに、読者（受講者）それぞれが主体的な読みを組み立てるための読解力、その成果を形にするための論述力をつけることを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
①文学作品を作者の意図やメッセージを探る（受け取る）のではなく、読者が主体的に意味を与える対象として把握できるようになること
②読者が自分の力で、作品の解釈を楽しくつくることができるようになること
③「物語」の意義や機能に着目して、授業で取り上げた以外の（文学）作品を考えることができるようになること
④文学を自分の力で解釈し、その読解の成果を論述し、他者へ伝えることができるようになること
⑤「物語」を通して学んだ力を狭義の「文学」に収まらない対象に活かせることを実感し、「文学」を学ぶことの意義を受講者それぞれが実感できるようになること

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	作品とテクスト	予習：シラバスを読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第２回	〈作者〉と〈読者〉	予習：前回の資料を読み直しておく 復習：配布資料を読み直しておく	90 分
第３回	複数の物語（太宰治「走れメロス」など）	予習：「走れメロス」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第４回	物語の力（柳田国男『遠野物語』第九〇段など）	予習：『遠野物語』第九〇段を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第５回	桜と物語（梶井基次郎「桜の樹の下には」、坂口安吾「桜の森の満開の下」など）	予習：「桜の樹の下には」、「桜の森の満開の下」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第６回	虫と物語（横光利一「蠅」、「蛾はどこにでもゐる」、梶井基次郎「冬の蠅」など）	予習：「蠅」、「蛾はどこにでもゐる」、「冬の蠅」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第７回	ふるさとと物語（室生犀星「小景異情（その二）、坂口安吾「ふるさとに寄する讃歌」など）	予習：「小景異情（その二）」、「ふるさとに寄する讃歌」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第８回	退屈と物語（梶井基次郎「筧の話」、坂口安吾「帆影」など）	予習：「筧の話」、「帆影」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第９回	焦燥と物語（坂口安吾「風博士」など）	予習：「風博士」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	90 分
第１０回	ゆらぎと物語（太宰治「葉桜と魔笛」など）	予習：「葉桜と魔笛」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	90 分
第１１回	とまどいと物語（村上春樹「象の消滅」など）	予習：「象の消滅」について読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	90 分
第１２回	メディアと物語（村上春樹「TV ピープル」など）	予習：「TV ピープル」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	90 分
第１３回	団地と物語（秋山駿「団地居住者の意見」、宮内悠介「北東京の子供たち」など）	予習：「団地居住者の意見」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	90 分
第１４回	まとめ	予習：これまでの配布資料や作品を読み直し、授業内容をふりかえっておく 復習：配布資料を読み直し、各自で「まとめ」を行う	120 分

〔授業の方法〕
①毎回配布する授業資料に基づき、講義形式で進める
②毎回、授業内で指示する課題に対応した小レポートを執筆し、提出する（出席の条件）
③課題に基づいて作成した期末レポートを学期末に提出する

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回の課題については、次回の授業の冒頭でリアクションする

〔成績評価の方法〕

毎回の小レポートの提出状況と内容（50%）＋期末レポートの内容（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
※課題などに生成系 AI を用いることは、丸写しはもちろんのこと、表現などを改変したものを含めて一切認めない。発覚した場合の提出物は、成績評価の対象としない。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし（授業で取り上げる作品については、初回授業時に指示する）

〔参考書〕
授業内や配布資料で適宜指示する

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	文芸の創作と技法						
教員名	山路　敦史						
講義コード	125233130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

日本の近現代文学作品を具体的に読み解くことを通じて、文字の連なりとしての「文章」が、物語として形式化された「文芸」として創作されるのに貢献した「技法」について学修する。

以下の三点に基づいて、講義形式で進める。

①作者によるメッセージの伝達手段として「文芸」を捉えるのではなく、読者が解釈し、物語に意味を与えるものとして「文芸」を捉える。

②個々の文学作品を分析的に読み解くことを通じて、文学作品を自分の力で読解する力を養う。

③作者が自身の創作について語っているエッセイ・評論を対象として、作者の側からみた「文芸」について考える。

④「書けないこと」、「病気」、「散歩」、「探偵」といった文学作品に流通するテーマに着目して文学作品を読み解き、作家個人に還元できない創作の「技法」について考える。

※小説その他の創作について指導する、実習的な授業ではない。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

①作品とテクストの違いを踏まえて、〈作者〉と〈読者〉の概念について自分なりに実感して説明できるようになること。

②文学作品について、作者の意図やメッセージを探ったり受け取ったりしようとするのではなく、受講者（読者）それぞれの主体的な読解ができるようになること。

③個々の作家の個性（オリジナリティ）のみに文学作品を還元せず、共通するテーマや構造などを基点として、横断的に文学を捉え、その広さを実感できるようになること。

④文学を通して物語の意味・意義について学び、文学を通して文学以外のことを考えられるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	作品とテクスト	予習：シラバスを読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第２回	〈作者〉と〈読者〉	予習：前回の資料を読み直しておく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第３回	書けない作家たち①（太宰治「道化の華」など）	予習：太宰治「道化の華」を読んでおく 復習：授業内容を踏まえて、「道化の華」を読み直しておく	90 分
第４回	書けない作家たち②（志賀直哉「小僧の神様」、「和解」など）	予習：志賀直哉「小僧の神様」、「和解」について、調べたり読んだりしておくことが望ましい 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第５回	書けない作家たち③（牧野信一「若い作家と蠅」、村上春樹『風の歌を聴け』など）	予習：牧野信一「若い作家と蠅」、村上春樹『風の歌を聴け』について、調べたり読んだりしておくことが望ましい 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第６回	作者にとっての〈作者〉（村上春樹『職業としての小説家』、桜庭一樹『読まれる覚悟』など）	予習：前回までの配布資料を読み直しておく 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第７回	〈病める〉文学①（梶井基次郎「路上」、萩原朔太郎「地面の底の病気の顔」など）	予習：〈病気〉と文学について考えておく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第８回	〈病める〉文学②（佐藤春夫『田園の憂鬱』など）	予習：佐藤春夫『田園の憂鬱』を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第９回	散歩と文学①（大佛次郎「散歩について」、武田泰淳「いりみだれた散歩」、谷川俊太郎「散歩」、小川洋子「散歩ばかりしている」など）	予習：散歩について考えておく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１０回	散歩と文学②（萩原朔太郎「危険な散歩」、「秋と漫歩」、「猫町」など）	予習：萩原朔太郎「危険な散歩」、「秋と漫歩」、「猫町」について読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第１１回	名探偵と文学①（江戸川乱歩「D 坂の殺人事件」、「屋根裏の散歩者」、坂口安吾『不連続殺人事件』など）	予習：名探偵について考えておく 復習：配布資料を読み直しておく	90 分
第１２回	名探偵と文学②（村上春樹『１Ｑ８４』、『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』など）	予習：前回の資料を踏まえて、名探偵の機能について考えておく 復習：配布資料を読み直しておく	90 分
第１３回	危機と文学（坂口安吾「夜長姫と耳男」など）	予習：坂口安吾「夜長姫と耳男」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	120 分
第１４回	まとめ	予習：これまでの配布資料や対象作品を中心として、授業内容を振り返っておく 復習：配布資料を読み直して、各自で「まとめ」をしておく	120 分

〔授業の方法〕

①各授業回ごとに資料を配布し、それに基づいて授業を行う講義形式

②毎回、授業内で指示する課題に対応した小レポートを執筆し、授業終了後に提出（出席の条件）

③授業内容を踏まえた最終レポートを学期末に提出する

※授業の進め方や成績評価などについては初回授業時に説明するので、履修（予定）者は出席すること。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業ごとに回収した課題については、次回の授業の冒頭でコメントする

〔成績評価の方法〕
各回の小レポート提出状況と内容（50%）＋期末レポート（3,000 字以上）の内容（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
※課題などに生成系 AI を用いることは、丸写しはもちろんのこと、表現などを改変したものを含めて一切認めない。発覚した場合の提出物は、成績評価の対象としない。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし（授業取り扱う文学作品については、初回授業時に指示する）

〔参考書〕
授業および配布資料で適宜紹介する

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
初回授業時およびポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	古代日本文学講義Ｂ						
教員名	桜井　宏徳						
講義コード	125234100	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

◆『大鏡』を読む

平安時代後期の 11 世紀後半に成立した歴史物語『大鏡』は、藤原道長の栄華へと至る摂関政治史の動向を鋭く見据えながら、従来の物語文学とは一線を画して、政治の世界を力強く生き抜く人びとの姿を生き生きと描いた「意欲と行動の文学」です。この授業では、『大鏡』を読み解くことを通じて、日本の古典文学に親しむとともに、平安時代の物語文学や貴族社会、摂関政治のあり方についても理解を深めることをめざします。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1【専門分野の知識・技能】および DP3【課題の発見と解決】 を実現するために、下記の 2 点を到達目標とします。

①『大鏡』の読解を通じて、平安時代の物語文学・歴史物語・摂関政治などに関する基礎知識を身につける。

②『大鏡』の歴史観や人物造型、文章表現のあり方などについて、自分なりの関心に基づいてその特色を見出せるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	『大鏡』概説	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第２回	『大鏡』を読む（一）：序	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第３回	『大鏡』を読む（二）：「六十五代　花山院」	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第４回	『大鏡』を読む（三）：「六十八代　後一条院」	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第５回	『大鏡』を読む（四）：「左大臣時平」	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第６回	『大鏡』を読む（五）：「右大臣師輔」	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第７回	『大鏡』を読む（六）：「太政大臣公季」	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第８回	『大鏡』を読む（七）：「太政大臣兼家」	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第９回	『大鏡』を読む（八）：「内大臣道隆」	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第１０回	『大鏡』を読む（九）：「太政大臣道長」①	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第１１回	『大鏡』を読む（一〇）：「太政大臣道長」②	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第１２回	『大鏡』を読む（一一）：藤氏物語①	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第１３回	『大鏡』を読む（一二）：雑々物語①	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分
第１４回	『大鏡』を読む（一三）：雑々物語②／レポート課題提示	［復習］配布されたプリントを精読し、授業内容を確実に把握しておく。	75 分

〔授業の方法〕

講義形式で行います。毎回プリントを配布し、それに沿って講義を進めます。

レポートはすべての授業回を対象とし、受講者各自が『大鏡』をどのような作品として理解しているのかを問うものとします。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

毎回の授業の冒頭で、前回のリアクションペーパーに対するレスポンスの時間を設けます。

〔成績評価の方法〕

レポート（80%）と平常点（20%：リアクションペーパー等）によって評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に予備知識は不要ですが、他の平安時代の文学や歴史に関する科目とあわせて受講すると、より理解が深まります。

〔テキスト〕
特定の教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

〔参考書〕
橘健二・加藤静子 校注・訳『大鏡』〈新編日本古典文学全集〉（小学館、1996 年）
※購入の必要はありません。その他の参考文献は授業時に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	古代日本文学講義C						
教員名	吉野　瑞恵						
講義コード	125234110	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
『源氏物語』のことば
　この講義では『源氏物語』を読解する際に、キーワードになる語を毎回一つずつ取り上げて、具体的な場面に即しつつその意味について考察する。
　「宿世」のように『源氏物語』が生まれた時代に共有されていたものの、現代人には理解しにくい概念を表す語や、「なつかし」のように現代語のもとになっていながら、現代語にはない意味が含まれている語などを分析することを通して、この時代特有の思考のありようを考えていきたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
以下の２点を到達目標とする。
①平安時代の文化や社会に関する深い知識を身に付ける。
②『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語を原文で読解し、深く理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。	60
第２回	『源氏物語』概説 ・『源氏物語』の概略について説明する。	『源氏物語』についての文学史的な知識をあらかじめ確認し、配布資料を熟読する。	60
第３回	宿世	授業前には「宿世」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第４回	憂し・つらし	授業前には「憂し・つらし」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第５回	ゆゆし	授業前には「ゆゆし」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第６回	なつかし	授業前には「なつかし」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第７回	雄々し	授業前には「雄々し」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第８回	おほけなし	授業前には「おほけなし」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第９回	人笑へ	授業前には「人笑へ」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第１０回	かいま見	授業前には「かいま見」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第１１回	盗む	授業前には「盗む」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第１２回	あくがる	授業前には「あくがる」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第１３回	色好み	授業前には「色好み」の辞書的な意味を確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの授業の資料を整理し、半年の授業内容を総合的に理解する。	120

〔授業の方法〕
・ 授業は講義を中心に進める。授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。
・　授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。
＊授業で扱うことばは、シラバスと異なる可能性があります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
リアクションペーパで出された質問については、次回の授業で補足説明を行う。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパーの提出状況（４０％）、到達度確認テスト（６０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業中に扱った語の意味について説明できる。
・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
『源氏物語』に関する基礎的な知識。

〔テキスト〕
以下のテキストの一部をコピーして配布します。購入の必要はありません。
阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男『源氏物語①～⑥』小学館新編日本古典文学全集。

〔参考書〕
授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	古代日本文学講義D						
教員名	吉野　瑞恵						
講義コード	125234120	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

『源氏物語』の和歌について考える―紫の上の和歌を中心に―

『源氏物語』の中には、登場人物が詠む八百首近くの和歌が含まれている。その中には二人の人物の間でやり取りされる贈答歌もあれば、三人以上の人物が詠み合う唱和歌もあり、また誰にも伝えられない思いを一人で詠む独詠歌もある。和歌は他者に思いを伝えるコミュニケーションの手段であると同時に、誰にも伝えられない思いを密かに吐露する手段ともなっている。また、引歌のように、古歌を地の文で引用したり、会話の中で引用する場合もある。

この講義では、そのような『源氏物語』の和歌の諸相を、紫の上にかかわる和歌を取り上げながら考えていきたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

以下の２点を到達目標とする。

①平安時代の文化や社会に関する深い知識を身に付ける。

②『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語を原文で読解し、深く理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。	60
第２回	『源氏物語』概説 ・紫の上に焦点を当てながら『源氏物語』の概略について説明する。	『源氏物語』についての文学史的な知識をあらかじめ確認し、配布資料を熟読する。	60
第３回	贈答歌・独詠歌・唱和歌・引歌	授業前に和歌の基礎的な事項について確認しておく。	60
第４回	「紫の上」の由来の歌、光源氏紫の上に手習を教える（若紫巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、若紫巻の該当箇所を熟読する。	60
第５回	後朝の歌（葵巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、葵巻の該当箇所を熟読する。	60
第６回	雲林院に籠る光源氏と紫の上の贈答歌（賢木巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、賢木巻の該当箇所を熟読する。	60
第７回	須磨の別れの歌（須磨巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、須磨巻の該当箇所を熟読する。	60
第８回	須磨と都を行き来する歌（須磨巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、須磨巻の該当箇所を熟読する。	60
第９回	明石の君との関係を告げる歌、大堰に行く光源氏と紫の上の歌（明石巻・薄雲巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、明石・薄雲巻の該当箇所を熟読する。	60
第１０回	女三の宮の降嫁の際の紫の上の歌（若菜上巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、若菜上巻の該当箇所を熟読する。	60
第１１回	紫の上の手習の歌（若菜上巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、若菜上巻の該当箇所を熟読する。	60
第１２回	紫の上の死の直前の歌（御法巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、御法巻の該当箇所を熟読する。	60
第１３回	光源氏、紫の上の手紙を焼く（幻巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、幻巻の該当箇所を熟読する。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの授業の資料を整理し、半年の授業内容を総合的に理解する。	120

〔授業の方法〕

・ 授業は講義を中心に進める。授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。

・　授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。

＊授業で扱う場面は、シラバスと異なる可能性があります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

リアクションペーパで出された質問については、次回の授業で補足説明を行う。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー（４０％）、到達度確認テスト（６０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業中に扱った和歌の特徴について説明できる。
・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
『源氏物語』に関する基礎的な知識。

〔テキスト〕
以下のテキストの一部をコピーして配布します。購入の必要はありません。
阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男『源氏物語①～④』小学館新編日本古典文学全集。

〔参考書〕
授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	中世日本文学講義Ａ						
教員名	清水　由美子						
講義コード	125234130	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本講義のテーマは、〈中世文学における女性ー女が語る中世の女〉である。

本講義では、一つの作品や一人の作家に注目して読み込むという方法ではなく、標題のようなテーマのもと、幅広い作品を読むことで、中世の女性に関するのみならず中世文学に関する知識を得ることを目標とする。

具体的には、院政期から鎌倉時代にかけて文学作品を残した数人の女性文学者に注目し、彼女たちの生き方やその背景にある歴史的状況を知り、その上でそれら文学作品を鑑賞する。平安時代の女流文学者に比べて注目されることは少ないが、文学作品を通して、動乱の続いた時代、武家社会へ移り変わる時代を生きた女性たちの実像に迫る。現代とは大きく異なる時代環境の中で生きた女性たちについて考察することで逆に浮かび上がってくる、現代においても変わらない、文学の意義や表現するということの意味を探っていくことを目的とする。

前半の数回は、中世女性史研究に関わって概説を行う。以後は概ね毎回一人の女性を取り上げ（一人に二時間配する場合もある）、代表作を中心に読み解いていく。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の習得)、DP３（課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)、DP6（自発性、積極性）を達成するため、以下の５点を到達目標とする。

1、中世文学史の中でも、女性の手による作品を読むことで、中世文学及び女流文学についての知識を広める。
2、中世女性史についての知識を深め、文学研究とジェンダー論の双方に目を配りつつ、正しく中世文学の一端を理解できるようにする。
3、多様な作品の読解を通じて、古文読解力を高める。
4、様々な先行研究に触れることで、古典文学研究や歴史研究の方法を学ぶ。
5、他の学生の感想や意見を聞くことで視野を広げ、かつ、各自の意見を発表する発信力　を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業ガイダンス　中世という時代　中世文化の時代背景	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第２回	中世女性史研究の現在　　様々な階層の女性の生き方	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第３回	女人往生をめぐる思索と母性尊重思想	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第４回	文学や芸能の担い手としての遊女、白拍子と『梁塵秘抄』の世界	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第５回	斎王と文学―式子内親王の生涯と和歌①	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第６回	斎王と文学―式子内親王の生涯と和歌②	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第７回	建礼門院右京大夫が書き残した歴史の一断面 ①	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第８回	建礼門院右京大夫が書き残した歴史の一断面②	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第９回	中世女流日記文学の世界と『平家公達草紙』の世界	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１０回	『無名草子』の語る女性批評と物語論	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１１回	母としてのたたかい―阿仏尼の『十六夜日記』と『夜の鶴』	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１２回	『とはずがたり』の世界	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１３回	女が一人称で我を語る時代 ・女が歴史を語る時代	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60

第１４回	総括・補足・習熟度確認	これまでのレジュメを整理し、毎回のレポートおよびそれに対する教員のコメントなどを確認しておく。	90

〔授業の方法〕
基本的に講義形式だが、本文の音読、現代語訳などを通して古文読解力を高めることも目指す。内容が多岐にわたり、分量も多いので、予め配布された古文を現代語訳する、あるいは研究論文に目を通すなどの予習を指示に従って行ったうえで授業に臨むこと。毎回コメントを記入してもらい、その中から発展させた問題点を取り上げることもある。また、講義の中でのキーワードについて調べたり、取り上げた作品についての鑑賞文を書く、などのショートレポートを課す予定。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回の小レポートには、コメントを書いて、さらに考察を深めるようにうながす。

〔成績評価の方法〕
予習復習の内容や各回のレポートの内容などの平常点（50%)、習熟度確認の内容（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	中世日本文学講義Ｂ						
教員名	清水　由美子						
講義コード	125234140	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義のテーマは、〈中世文学における女性ー男が語る中世の女〉である。

本講義では、平安時代中期から鎌倉時代にかけて成立した軍記文学作品を題材にして、主に男性が描いた女性像という観点から読み解いていく。軍記文学作品では多くの女性が描かれるが、彼女たちの造型の背後にはいずれも男性側の視点や論理が見え隠れし、そこからは政治的思惑、性の対象として見る視点、差別、宗教、家族制度など、様々な問題が浮かび上がってくる。そうした考察を通して、軍記文学作品から現代に生きる我々が何を学ぶべきか追究することを目的とする。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の習得)、DP３（課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)、DP6（自発性、積極性）を達成するため、以下の５点を到達目標とする。

1、軍記文学についての知識を深める。

2、中世文学講義Ａでも取り上げた女流文学の諸作品から読み取れる、中世の女性像との比較という視点を持ちつつ、男性の視点による女性の描かれ方を見ていくことで、古典文学における〈性差〉の実態や意味を考察する。

3、多様な作品の読解を通じて、古文読解力を高める。

4、様々な先行研究に触れることで、古典文学研究や歴史研究の方法を学ぶ。

5、他の学生の感想や意見を聞くことで視野を広げ、かつ、各自の意見を発表する発信力　を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	日本の軍記文学の全体像と特徴、成立圏	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第２回	軍記文学で語られる結婚・イエ・家族①『将門記』の語る乱の原因	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第３回	軍記文学で語られる結婚・イエ・家族②女性の再婚をめぐって	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第４回	性の対象としての女性①初期軍記が描く戦場での悲劇	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第５回	性の対象としての女性②『平家物語』の祇王説話をどう読むか。	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第６回	性の対象としての女性②建礼門院につきまとう視線	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第７回	性の対象としての女性③女武者の造型	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第８回	貞女と呼ばれた女たち①『保元物語』での為義北の方	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第９回	貞女と呼ばれた女たち①『平家物語』での小宰相	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１０回	貞女と呼ばれた女たち③『義経記』と『吾妻鏡』での静御前	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１１回	貞女と呼ばれた女たち④袈裟御前　芥川龍之介と新渡戸稲造	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１２回	男の後世を祈るという役割　悪人重衡と三人の女性	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１３回	母としての造型　北条政子・平時子・常盤御前	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１４回	総括・補足・習熟度確認	これまでのレジュメを整理し、毎回のレポートおよびそれに対する教員のコメントなどを確認しておく。	90

〔授業の方法〕
基本的に講義形式だが、本文の音読、現代語訳などを通して古文読解力を高めることも目指す。内容が多岐にわたり、分量も多いので、予め配布された古文を現代語訳する、あるいは研究論文に目を通すなどの予習を指示に従って行ったうえで授業に臨むこと。毎回コメントを記入してもらい、その中から発展させた問題点を取り上げることもある。また、講義の中でのキーワードについて調べたり、取り上げた作品についての鑑賞文を書く、などのショートレポートを課す予定。
できるだけ、前期の中世日本文学講義Aを履修したうえで受講してほしい。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回の小レポートには、コメントを書いて、さらに考察を深めるようにうながす。

〔成績評価の方法〕
予習復習の内容や各回のレポートの内容などの平常点（50%)、習熟度確認の内容（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	中世日本文学講義C						
教員名	中野　貴文						
講義コード	125234150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
徒然草を読む。毎回各段を丁寧に読み、徒然草の文学的な特性について理解する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP１、および DP３獲得のため、特に以下の２点を探求する。
①徒然草の各段の文体、内容の多様性とその背景を理解する。
②徒然草が記された鎌倉時代末期の文学史的な特性を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	参考書に目を通す。	６０分
第２回	序段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第３回	第１段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第４回	第１１段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第５回	第２５段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第６回	第３３段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第７回	第４１段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第８回	第５４段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第９回	第６０段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第１０回	第８９段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第１１回	第１０４段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第１２回	第１１９段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第１３回	第１３６段	配付されたプリントに目を通す。	６０分
第１４回	まとめ	配付されたプリントに目を通す。	６０分

〔授業の方法〕
講義形式で行う。毎回、アプリ等を用いて、参加者に意見を乞う。それらに基づいて、授業を展開する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
学修支援アプリ等を用いて、毎回授業への質問・感想を求める。次回の授業で、それらに対し丁寧な回答を施す。

〔成績評価の方法〕
平常点 40%、レポート 60%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
小川剛生『新版 徒然草 現代語訳付き』(角川ソフィア文庫）:978-4044001186

〔参考書〕
小川剛生『徒然草をよみなおす』（ちくまプリマー新書）:978-4480683854

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトの「オフィスアワー」で周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(6)ＩＣＴ活用

26/2/9 15 時 45 分

講義名	近世日本文学講義Ｂ						
教員名	後藤　隆基						
講義コード	125234170	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
「歌舞伎」の歴史や表現等について学び、歌舞伎が日本の「伝統古典演劇」といわれるようになった過程についても考えます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
日本の「伝統古典演劇」といわれる歌舞伎について学び、近世における生成状況から、近代～現代への展開や変容、その連続性等について理解を深めます。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを確認する	60 分
第２回	歌舞伎の歴史（1）	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第３回	歌舞伎の歴史（2）	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第４回	義太夫狂言：人形浄瑠璃との関係	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第５回	「忠臣蔵」とは何か（1）史実と虚構	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第６回	「忠臣蔵」とは何か（2）『仮名手本忠臣蔵』と『東海道四谷怪談』	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第７回	「忠臣蔵」とは何か（3）明治大正期の展開	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第８回	「忠臣蔵」とは何か（4）昭和以降の受容と翻案	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第９回	幕末～明治の歌舞伎	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第１０回	歌舞伎の近代（1）	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第１１回	歌舞伎の近代（2）	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第１２回	歌舞伎の現代（1）	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第１３回	歌舞伎の現代（2）	前回授業の資料を確認し、次回に備える	60 分
第１４回	まとめ	授業全体をふり返って、期末レポートに備える	60 分

〔授業の方法〕
PPT 等を用いた講義形式で実施。適宜音声・画像・映像資料を視聴するため、授業の進行状況に応じて計画を調整する場合がある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業時に質問等に対するフィードバックを行なう。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーの提出状況および内容）40%
期末レポート　60%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	近世日本文学講義C						
教員名	丸井　貴史						
講義コード	125234180	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
近世を代表する小説である上田秋成『雨月物語』から、3 篇を取り上げて講義する。
『雨月物語』は和漢の古典を多く取り入れて成立した作品であり、その創作手法を理解することは、近世小説のあり方を理解するための端緒となる。また、多くの修辞が用いられていることも本作の特徴であり、一言一句をもおろそかにせず読む姿勢がなければ、作品の総体を把握することは不可能である。作品本文の精読を通して、近世小説の読み解き方の基礎を身につけることを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
（1）作品と作家に関する基礎的な知識を身につけることができる。(DP1)
（2）作品の本文を丁寧に読解する態度と方法を身につけることができる。(DP1)
（3）作品について自ら問いを立て、分析することができる。(DP3)
（4）自らの意見や解釈を論理的に説明することができる。(DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	近世小説史概観	国語便覧などを使用し、近世文学史の基礎を確認しておく。	60 分
第2回	上田秋成と『雨月物語』	授業内容を復習し、テキストの解説を読んでおく。	60 分
第3回	吉備津の釜（1）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第4回	吉備津の釜（2）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第5回	吉備津の釜（3）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第6回	吉備津の釜（4）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第7回	青頭巾（1）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第8回	青頭巾（2）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第9回	青頭巾（3）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第10回	青頭巾（4）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第11回	白峯（1）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第12回	白峯（2）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第13回	白峯（3）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分
第14回	白峯（4）	作品を精読し、自分の考えを整理する。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行う。なお、毎回の講義後に意見・感想・質問等を提出してもらう。
学期末には期末レポートを課す。レポートは、到達目標（1）（2）をクリアしていることを前提として、（3）（4）の到達度を重点的に評価する。その他、作品に対する初読時の感想を小課題として課すことがある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
期末レポート：70%
小課題・コメント：30%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
鵜月洋訳注『改訂版 雨月物語』、KADOKAWA、ISBN：978-4044011024

〔参考書〕
秋成研究会編『上田秋成研究事典』、笠間書院、ISBN：978-4305707901 （購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	近世日本文学講義D						
教員名	丸井　貴史						
講義コード	125234190	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
中国小説を翻案することによって成立した近世小説について講義する。
日本文化は古くから中国文化に多大な影響を受けており、それは文学においても例外ではない。近世小説においては、文言・白話の別を問わず、少なからぬ中国小説が翻案された。本講義では、文言小説を代表するものとして『剪燈新話』を、白話小説を代表するものとして「三言二拍」およびその選集『今古奇観』をそれぞれ取り上げ、近世の作家たちがそれらをいかに受容し、独自の文学を生み出そうとしたかについて検討する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
（1）作品と作家に関する基礎的な知識を身につけることができる。(DP1)
（2）作品の本文を丁寧に読解する態度と方法を身につけることができる。(DP1)
（3）作品について自ら問いを立て、分析することができる。(DP3)
（4）自らの意見や解釈を論理的に説明することができる。(DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文言小説と白話小説	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第２回	『剪燈新話』「牡丹燈記」の受容	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第３回	「牡丹燈記」と『伽婢子』「牡丹燈籠」	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第４回	『剪燈新話』「愛卿伝」と『伽婢子』「遊女宮木野」	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第５回	「愛卿伝」と『雨月物語』「浅茅が宿」(1)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第６回	「愛卿伝」と『雨月物語』「浅茅が宿」(2)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第７回	『剪燈新話』「緑衣人伝」と『玉櫛笥』「畜生塚」(1)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第８回	『剪燈新話』「緑衣人伝」と『玉櫛笥』「畜生塚」(2)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第９回	都賀庭鐘『英草紙』と白話小説 (1)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第１０回	都賀庭鐘『英草紙』と白話小説 (2)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第１１回	都賀庭鐘『英草紙』と白話小説 (3)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第１２回	『警世通言』「白娘子永鎮雷峰塔」と『雨月物語』「蛇性の婬」(1)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第１３回	『警世通言』「白娘子永鎮雷峰塔」と『雨月物語』「蛇性の婬」(2)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分
第１４回	『警世通言』「白娘子永鎮雷峰塔」と『雨月物語』「蛇性の婬」(3)	講義内容を復習するとともに、授業において取り上げる作品を事前に読み、自らの意見を整理しておく。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行う。なお、毎回の講義後に意見・感想・質問等を提出してもらう。
学期末には期末レポートを課す。レポートは、到達目標（1）（2）をクリアしていることを前提として、（3）（4）の到達度を重点的に評価する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
期末レポート：80%
コメント：20%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	近現代日本文学講義Ａ						
教員名	齋藤　樹里						
講義コード	125234200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】

近現代の文学と＜芝居＞

【授業の概要】

この授業では、小説・上演脚本とそれらを分析した同時代評/先行論文の学術的な精読を通して、近現代文学研究の基礎的な手法や技術を学ぶことを狙いとしています。そのため、資料の内容のみならず、形式を含むその書き方にも着目していきます。近現代文学研究のルールに則した学術的なの読みのスキルを獲得していきましょう。

また、この授業では歌舞伎や新劇、文楽といった〈芝居〉との関わりからそれぞれの物語を検討します。同時代の文学者が〈芝居〉をどのように受容し、受容した〈芝居〉を自らの物語にどのように引用・変形しているかという点に着目することで、同時代の文化現象と文学との関わりを考えていきましょう。

なお、この授業では読解の具体例として〈芝居〉という観点からの解説を行いますが、この観点は方法論を学ぶための任意の一例に過ぎません。多角的なアプローチが可能であることを付け加えておきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

1.同時代評／先行論文の精読を通して、学術的文章の執筆に関するルールや手続きに習熟する：DP1【専門分野の知識・技能】→レポートで評価
2.同時代評／先行論文の論旨を正確に理解し、それに対して知的手続きを踏みながら自らの見解を論述できる：DP1【専門分野の知識・技能】→レポートで評価
3.テクスト中の文学表現・言語表現・文化表象に興味関心を持ち、自らの問いを立てることができる【関心・意欲・態度】：DP3【課題の発見と解決】 →リアクションペーパー／小レポートで評価

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 文学史の確認	【予習】①シラバスの熟読　②文学史の復習	60
第２回	森鷗外「舞姫」①同時代評	【予習】①本文の精読　②同時代評の精読	120
第３回	森鷗外「舞姫」②先行論文	【予習】先行論文の精読	120
第４回	森鷗外「舞姫」③解説	【復習】レポート作成に向けた論点の整理 ★小レポート回収	60
第５回	泉鏡花「義血侠血」①同時代評	【予習】①本文の精読　②同時代評の精読	120
第６回	泉鏡花「義血侠血」②先行論文	【予習】先行論文の精読	120
第７回	泉鏡花「義血侠血」③解説	【復習】レポート作成に向けた論点の整理 ★小レポート回収	60
第８回	太宰治「おさん」①同時代評	【予習】①本文の精読　②同時代評の精読	120
第９回	太宰治「おさん」②先行論文	【予習】先行論文の精読	120
第１０回	太宰治「おさん」③解説	【復習】レポート作成に向けた論点の整理 ★小レポート回収	60
第１１回	三島由紀夫「鰯売恋曳網」①同時代評	【予習】①本文の精読　②同時代評の精読	120
第１２回	三島由紀夫「鰯売恋曳網」②先行論文	【予習】先行論文の精読	120
第１３回	三島由紀夫「鰯売恋曳網」③解説	【復習】レポート作成に向けた論点の整理 ★小レポート回収	60
第１４回	授業のまとめ／課題レポート	【予習】授業内容の整理	120

〔授業の方法〕

【授業の形式】

講義形式。

【授業の進め方】

各作品ごとに１週目同時代評、２週目先行論文、３週目解説の順で進めていきます。

本文／同時代評／先行論文［事前配布］を読んでいることを前提に進行するので、授業前にこれらを必ず精読するようにしてください。

【注意点】

性的・暴力的な表現や内容を含むテクストを取り扱う可能性があるので、履修の際にはその点を充分に留意してください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
リアクションペーパーを授業冒頭で紹介し、フィードバックを行います。
小レポート・レポートについても全体解説の時間を設けます。

〔成績評価の方法〕
【レポート】40%
授業中に取り扱った文学テクストの中から一つを任意で選択し、同時代評／先行論文を踏まえて自説を論述する。
【平常点】60%
・リアクションペーパーの提出［14 回＋1 回］45%
・小レポートの提出［任意の作品で 1 回］15%

〔成績評価の基準〕
【レポート】到達目標１、２を基準に評価する
【平常点】到達目標３を基準に評価する
※具体的な配点は授業時に説明する
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
ポータルサイトにて配信します（購入の必要なし）。

〔参考書〕
授業時に適宜紹介します（購入の必要なし）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	近現代日本文学講義C						
教員名	小橋　孝子						
講義コード	125234210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
親友であった正岡子規と夏目漱石の文学を読む。
取り上げる作品は以下のシラバスの作品を考えているが、相談の上決定する。
作品を事前に読んでおくことを必須とし、多くの場面で、受講生からの発言を求める。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
文学の改革期にあった正岡子規の「写生」を中心とした活動を作品読解と共に理解する。
子規と漱石の文学的交流を捉える。
夏目漱石文学を考えるための多様な視点を得る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	子規・漱石の文学について基礎的な事柄を確認し、自身の関心のありかを考える。	60 分
第２回	子規の文学１ 俳句・短歌の革新	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第３回	子規の文学２ 文章の革新運動	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第４回	子規の文学３ 写生文を読む	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第５回	子規漱石の往復書簡	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第６回	漱石の文学１ 「吾輩は猫である」第一回	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第７回	漱石の文学２ 小品	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第８回	漱石の文学３ 小品	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第９回	漱石の文学４ 『草枕』	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第１０回	漱石の文学５ 『草枕』	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第１１回	漱石の文学６ 『草枕』	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第１２回	漱石の文学７ 『彼岸過迄』	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第１３回	漱石の文学８ 『彼岸過迄』	【予習】資料ファイル・作品を読む。 【復習】自身の考えを短い文章にまとめる。	60 分
第１４回	まとめ	半期の学修を振り返る。 期末レポートを作成する。	120 分

〔授業の方法〕
講義形式をとるが、多くの場面で発言を求め、ディスカッションを通して読解を深めて行くことを重視する。
取り上げる作品は事前に必ず読み、ディスカッションのための準備を行っておく。
授業後にリアクションペーパーとして自身の考えを短い文章にまとめる。
取り上げる作品や授業形式は、相談の上決定する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業内でディスカッションを行い、提出されたリアクションペーパーについては次の回でコメントする。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパーを含む授業参加度(50%)
期末レポート(50%)

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし
(相談のうえ作品決定後、文庫本購入を求める場合がある。)

〔参考書〕
授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	日本美術史 A						
教員名	齊藤　全人						
講義コード	125236100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

日本美術史 A は、日本美術史概説の授業です（これに対して日本美術史 B はテーマを絞って講義をする各論的な授業です）。
日本美術の歴史を学ぶことは、日本人の芸術観のルーツを知ることにつながります。古代、中世、近世、近代、それぞれの時代に生まれた名画・名宝・名品を個別に「点」としてみるのではなく、その作品が生まれた過程、そして後の時代に与えた影響など、大きな視点で作品と作品のつながりをたどることで、点と点がつながって「線」となり日本美術をひとつの流れで理解することができるようになります。授業では古代から近代まで日本美術を通史で学んでいきます。作品の図版を豊富に紹介しながら、作品を見る喜びを学習してもらいます。
授業では日本美術を時代順に解説します（受講生の理解度に応じて多少シラバスの内容を変更する場合があります）。作品の図版を豊富に紹介しながら、日本美術の歴史とともに作品を見る喜びを学習してもらいます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）、2-1（教養の修得）を実現するため、日本美術史の流れを理解し、授業で取り上げた作品について説明できるようになることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方を説明する。	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	30
第２回	原始・古代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第３回	飛鳥・白鳳時代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第４回	天平時代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第５回	平安時代の美術 1	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第６回	平安時代の美術 2	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第７回	鎌倉時代の美術 1	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第８回	鎌倉時代の美術 2	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第９回	室町時代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１０回	安土桃山時代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１１回	江戸時代の美術 1	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１２回	江戸時代の美術 2	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１３回	幕末明治の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１４回	到達度確認ワーク ・ここまでの講義内容についての理解を確認するためのワークを行う。	【予習】到達度確認ワークへ向けて、これまでの講義内容を確認する。	60

〔授業の方法〕

パワーポイントで作品の画像を見ながらの講義形式。適宜、資料を配布します。最終授業でレポート形式の到達度確認ワークを行います。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
課題などに対するフィードバックは必要に応じて適宜 CoursePower で行います。

〔成績評価の方法〕
到達度確認ワーク（80%)、平常点（授業への参加状況や小テスト・アンケートの提出状況）(20%)

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・日本美術史の基礎知識を習得したか。
・作品について自分の言葉で説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
中学卒業程度の日本史の基礎知識が必要となります。
その他に、なるべく美術館・博物館で実際に美術作品を見てください。

〔テキスト〕
・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1900 円＋税、ISBN978-4568400656
・『教養の日本美術史』古田亮監修、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN978-4623085156
予習、復習用として挙げるが、図書館等で閲覧できれば購入の必要なし。

〔参考書〕
図書館に所蔵されている各出版社の日本美術全集
その他、授業時に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	日本美術史 B						
教員名	齊藤　全人						
講義コード	125236110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

日本美術史 B は、日本美術史各論の授業です（これに対して日本美術史 A は通史を扱う概論的な授業です）。
日本美術の歴史を学ぶことは、日本人の芸術観のルーツを知ることにつながります。古代、中世、近世、近代、それぞれの時代に生まれた名画・名宝・名品を個別に「点」としてみるのではなく、その作品が生まれた過程、そして後の時代に与えた影響など、大きな視点で作品と作品のつながりをたどることで、点と点がつながって「線」となり日本美術をひとつの流れで理解することができるようになります。
授業では各回テーマを設けて、そのテーマに絞った日本美術の流れを講義します（扱うテーマは受講生の興味関心に応じてシラバスから変更する場合があります）。作品の図版を豊富に紹介しながら、日本美術の歴史とともに作品を見る喜びを学習してもらいます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）、2-1（教養の修得）を実現するため、日本美術史の流れを理解し、授業で取り上げた作品について説明できるようになることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス、画面形式でたどる日本美術 ・授業の内容、進め方を説明する。 ・絵巻、掛幅、屏風、障壁画という画面形式が絵画表現や技法と密接に結びついていることを学ぶ。	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	30
第２回	「絵巻」でたどる日本美術 ・平安時代から始まる、物語と絵画が組み合わさった絵巻の歴史について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第３回	「水墨画」でたどる日本美術 ・中国絵画から強い影響を受けた水墨画の発展の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第４回	「流派」でたどる日本美術 ・狩野派、土佐派、円山派、琳派といった各流派の特徴と代表的絵師について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第５回	「仏像」でたどる日本美術 ・仏教伝来とともに始まった日本の仏像彫刻が、飛鳥、奈良、平安、鎌倉時代とどのように変化したのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第６回	「やきもの」でたどる日本美術 ・大陸から伝わった作陶技術をもとに日本独自の形に発展した陶磁器の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第７回	「浮世絵」でたどる日本美術 ・江戸時代に爆発的に流行した浮世絵の特徴と代表的絵師、近代以降の流れについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第８回	「奇想」でたどる日本美術 ・江戸時代に数多く登場した個性派絵師。また絵画に限らず工芸や建築にも見られる前衛的でエネルギッシュな表現。奇想というキーワードで日本美術を通覧する。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第９回	「肖像画」でたどる日本美術 ・天皇や公家を描く似絵、高僧を絵画化し、または彫像とした頂像など実在の人物を絵画や彫刻で表してきた歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１０回	「黄金」でたどる日本美術 ・金色を効果的に表現の中に取り入れた絵画、黄金で荘厳した寺院、金の障壁画で威光を演出した城、金蒔絵の工芸、「黄金」「かざり」というキーワードで日本美術の特徴を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１１回	「女性」でたどる日本美術 ・日本の文学や絵巻の文化が宮廷の女性たちの中で形成されたことなどを踏まえ、女性というキーワードで日本美術を読み解く。絵師として活躍した女性についても学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１２回	「異文化」でたどる日本美術 ・日本は国外の異文化を取り入れることで大きな変化を遂げてきた。異文化が流入した変革のタイミングに着目して、それが日本美術史の中でどのような意味があったのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１３回	「近代」でたどる日本美術 ・明治維新後、西洋の文化が流れ込む中で日本美術がどのように変化したのかについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１４回	到達度確認ワーク ・ここまでの講義内容についての理解を確認するためのワーク	【予習】到達度確認ワークへ向けて、これまでの講義内容を確認する。	60

〔授業の方法〕
パワーポイントで作品の画像を見ながらの講義形式。適宜、資料を配布します。最終授業でレポート形式の到達度確認ワークを行います。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
課題などに対するフィードバックは必要に応じて適宜 CoursePower で行います。

〔成績評価の方法〕
到達度確認ワーク（80%）、平常点（授業への参加状況や小テスト・アンケートの提出状況）（20%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・日本美術史の基礎知識を習得したか。
・作品について自分の言葉で説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
中学卒業程度の日本史の基礎知識が必要となります。
その他に、なるべく美術館・博物館で実際に美術作品を見てください。

〔テキスト〕
・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1900 円＋税、ISBN978-4568400656
・『教養の日本美術史』古田亮監修、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN978-4623085156
予習、復習用として挙げるが、図書館等で閲覧できれば購入の必要なし。

〔参考書〕
図書館に所蔵されている各出版社の日本美術全集
その他、授業時に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	日本民俗学 A						
教員名	山崎　祐子						
講義コード	125236120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本授業では、民俗学の分野のうち、衣食住、通過儀礼、民間信仰、口承文芸など、幅広いテーマを取り上げる。それらを「異界」「境界」という概念から読み解き、私たちの祖先が生命をどのように捉えてきたのかを探る。対象とするのは、すでに行われなくなった民俗だけではなく、現代の身近な事象も含まれる。
授業で使用する資料は、民俗調査報告書、日本の昔話や伝説など多岐にわたる。また、文献資料に限らず、写真や実物（民具など）も用い、民俗をできるだけ実感を伴うものとして学んでほしいと考えている。
日常生活に溶け込んでいる「当たり前」の事柄や、少し不思議に感じられる事象を、民俗学の視点から読み解くことを目指す。そのために、多くの民俗事例をシャワーのように浴びてもらうことも、本授業の目的の一つである。
民俗は、道具や家屋などの有形民俗と、芸能や技術などの無形民俗に分けられる。本授業では、民俗信仰という「心」の問題を有形・無形の両面から考察し、祖先たちが私たちに伝えようとしたメッセージを読み解いていく。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

基本的な民俗学の考え方を学び、学術語彙を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や『日本民俗大辞典』の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。民俗学の概説、口承文芸の概説を行う。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第２回	衣食住１（民家） 民家における晴と褻の空間認識を考察する。民家を例に共同体のあり方を学び、身体尺の考え方、間取り図の読み方の基礎を学ぶ。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第３回	衣食住２（雑穀の文化） 映像を視聴し、水田のなかった山村の暮らし方を学ぶ。雑穀の栽培技術、雑穀の食文化を知る。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第４回	衣食住３食生活） 各地の事例を学び「「日本の主食は米」という常識について考察しする。スシを例に発酵食品と主食の関係を学ぶ。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第５回	通過儀礼１（出産と産育） 大正末年から昭和初年にかけての出産の記録を読み、通過儀礼の意味を考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第６回	通過儀礼２（葬送と供養） 各地の死後供養の事例を視聴する。海と山の信仰（他界）を学び、「祖霊」について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第７回	口承文芸１（口承文芸と異界） 口承文芸概説及び昔話を、語りの場という視点で、と異との関わりを考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第８回	異界をのぞく１（幽霊と妖怪） 柳田國男の『妖怪談』を読み、柳田の民間信仰や妖怪についての考え方を学ぶ。また、「夜」について日本の昔話ではどのように表現しているかを考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第９回	口承文芸２（伝説と怪談） 「番町皿屋敷」「累ヶ淵」を江戸という都市開発の視点で読む。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１０回	口承文芸３（都市伝説） 学校の怪談や都市伝説を民俗学の立場で読む。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１１回	異界をのぞく２（狐の伝承） 「狐の窓」の伝承や多摩ニュータウンの狐話を例に、狐に関わる伝承を考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１２回	民間信仰（祈願と呪い） 呪い、占い、祈願の各地の事例を学び、俗信について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１３回	『遠野物語』をめぐって 柳田国男の『遠野物語』を山という異界、当時の女性の立場という視点で読む。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１４回	まとめ 到達度確認テスト及び解説。前期のまとめを行う。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で行う。民俗を実感として理解できるよう、民具や雑穀、信仰用具などの実物にも教室で触れてもらう。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
到達度確認テストについては、解答用紙を回収後、解説を行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（配布プリントと自筆ノートの持ち込み可 70 パーセント、平常点 30 パーセントとし、総合的に評価をする。リアクションペーパーは学期中に３，４回の予定。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に専門知識を必要とはしていない。

〔テキスト〕
使用しない。毎回、資料のプリントを配布する。プリントは、授業で配布するものと同じものをポータルサイトに掲載する。

〔参考書〕
配布資料に記載するほか、適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業の前後で対応する。

〔特記事項〕

講義名	日本民俗学 B						
教員名	山崎　祐子						
講義コード	125236130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

民俗学の分野のうち、年中行事、祭礼、民俗芸能を取り上げる。太陰太陽 tr 期（旧暦）を用いていた時代には初秋の行事であった七夕が、太陽暦（新暦）では、まだ梅雨も明けきらない夏の行事として行われているように、暦の違いは年中行事のあり方に大きな影響を与えてきた。本授業では、太陰太陽暦から太陽暦への移行を踏まえ、年中行事の本来の意味や、現代社会における民俗の意義について考察する。

また、祭礼や民俗芸能が地域社会の中でどのように伝承され、担われてきたのかについても学ぶ。授業は講義形式で行うため、実際に民俗芸能を現地で体験することはできないが、多くの映像資料を用いることで、できるだけ実感に近いかたちで民俗を理解できるようにする。

授業で用いる資料は、民俗調査報告書、日本の昔話や伝説、近世の文献など多岐にわたる。一つの年中行事や祭礼について複数の資料を読み解くことを通して、民俗を多角的に捉える力を養うことを目的とする。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

太陰太陽暦の仕組みを理解し、年中行事や祭礼に関する民俗学の理論を理解する。民俗芸能の基本的な学術語彙を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や『日本民俗大辞典』の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。太陰太陽暦と季節感の考え方の基礎を解説する。	重要語句の復習をする。	60 分
第２回	年太陰太陽暦の構造 自然暦の考え方、太陰太陽暦の仕組み、近世の大小暦の基礎知識を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第３回	年中行事１（正月はいつなのか） 年の区切りの考え方を学ぶ。来訪神が登場する各地の伝説や昔話を資料とし、正月について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第４回	年中行事２（七夕・盆） 織姫・彦星ではない日本各地の七夕の民俗の事例を学び、七夕と盆行事について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第５回	年中行事３（年中行事の構造、節供） 年中行事の構造を学ぶ。端午の節供を例に、地方の年中行事にまつわる口承文芸や贈答の習俗について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第６回	祭礼・民俗芸能１（備中神楽） 祭礼と民俗芸能の基本事項を概説し、備中神楽をの映像を視聴する。仮設の舞台の構造や装置、依代について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第７回	祭礼・民俗芸能２（奥三河の花祭） 奥三河の花祭の映像を視聴し、民俗芸能を支える伝承母体について考察する。仮面、反閇、白蓋など神楽の重要事項を学ぶ。	重要語句の復習をする。中間課題をまとめる。	60 分
第８回	祭礼・民俗芸能３（西浦の田楽） 西浦田楽の映像を視聴し、田楽の要素を学ぶ。	重要語句の復習をする。中間課題をまとめる。	60 分
第９回	年中行事４（江戸の正月） 東都歳事記『』などから正月を迎えるための準備、正月、小正月の行事を学び、正月という節目の意味を考察する。	重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。	60 分
第１０回	民俗の持続と変化 東日本大震災の復興を無形民俗文化財の面から考察する。災害や開発によって、景観や自然が変わることが無形民俗文化財にどのような影響をあたえたかについて学ぶ。また、年中行事や祭礼の変化、商品化についての考え方を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第１１回	年中行事５（暮らしと年中行事） 雪国（新潟県）の映像を視聴し、雪国の正月の迎え方を学ぶ。正と月は何かについての復習をする。	重要語句の復習をする。	60 分
第１２回	祭礼・民俗芸能４（成人を祝う祭礼） 祭礼の中で行われる成人の儀礼を擬死再生の視点で考察する。成人の役割、若者組の民俗を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第１３回	年中行事６（子どもが主役の年中行事） 子供が主体となって行う年中行事の地霊から、年中行事を教育の視点で考察する。子供組の民俗を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第１４回	まとめ 到達度確認テストと解説を行う。後期の授業のまとめを行う。	重要語句の復習をする。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で行う。第 6 回～8 回、11～13 回の授業では、40 分程度の映像を視聴する。映像資料の見方、学び方については第 1 回のガイダンスで行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
期末の到達度確認テストについては、解答用紙を回収後に解説する

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト 70 パーセント、平常点（リアクションペーパーなど）30 パーセントとし、総合的に評価をする。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
テキストは使用しないが、毎回、プリントを配布する。配布するプリントと同じものをポータルサイトに掲載する。

〔参考書〕
プリントに記載する。必要に応じて授業時に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業の前後に教室で対応する。

〔特記事項〕

講義名	日本の文学と思想						
教員名	木下　華子						
講義コード	125236140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

日本の古典文学と、思想の関係を考える。抽象的な思想・信仰は具体的な文学作品を支えており、それを前提としてはじめて、作品の言わんとしていることが理解できる、ということも多い。本授業では、仏教思想を基盤とする日本の前近代の思想が作品に反映し、作品を創り上げる様を、説話・和歌・芸能などの文学作品を素材として考えたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・日本の古典文学を支える仏教の世界観を理解する。
・和歌や説話など、古典文学の基礎となるジャンルについて、読解できるようになる。
・思想基盤という伝統を受け継ぎつつ、新しさを求めて革新を行ってきた文学のあり方を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入――日本文学に見える思想 文学作品に見える思想を抽出し、日本文学と思想の関係を考える。	高校時代に用いた文学史の教科書などでよいので、上代から中世にかけてのおよその日本文学史を確認しておく。	60 分
第２回	仏教の世界観　①因果応報 仏教説話集を事例として、仏教の根本原理である因果応報の世界観を理解する。	『日本霊異記』（新編日本古典文学全集、講談社学術文庫、ちくま学芸文庫など）に目を通しておく。	60 分
第３回	仏教の世界観　②三国思想 『今昔物語集』を例に、天竺（インド）・震旦（中国）・本朝（日本）の三国からなる世界観とその展開を考える。	『今昔物語集』（新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系、岩波文庫など）に目を通しておく。	60 分
第４回	仏教の世界観　③神仏習合 神と仏が習合する日本独自の信仰のあり方と、それが文学作品にどのように現出するかを考える。	佐藤弘夫『日本人と神』（講談社現代新書）、義江彰夫『神仏習合』（岩波新書）などが参考になる。	60 分
第５回	仏教の世界観　③来世と往生 説話・和歌・軍記などを読み解き、人々が抱いていた三世観（前世・現世・来世）のあり方を理解し、そのような思想が作品生成に与える影響を考える。	『発心集』（新潮日本古典集成、角川ソフィア文庫）、『平家物語』（新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系など）に目を通しておく。	60 分
第６回	和歌の力　①歌徳 和歌には、人の心、人知を超える存在を動かす「歌徳」が宿る。そのような和歌の力と文学の関係を探る。	渡部泰明『和歌とは何か』（岩波新書）、同『古典和歌入門』（岩波ジュニア新書）などが参考になる。	60 分
第７回	和歌の力　②神仏との対話 和歌という特殊な韻律を持つ文学の形態は、人が神仏に祈る、神仏と人が対話するための器であった。祈りの器としての和歌の可能性を探る。	平野多恵『おみくじの歴史　神仏のお告げはなぜ詩歌なのか』（吉川弘文館）などが参考になる。	60 分
第８回	伝統と革新　①和歌 言葉による文学作品は、伝統・類型を受け継ぎながら、新しさを求めるという革新性を秘めている。その典型的なあり方を和歌で考える。	『千載和歌集』『新古今和歌集』（新日本古典文学大系、岩波文庫など）に目を通しておく。	60 分
第９回	伝統と革新　②遁世・隠遁 日本文学の一つの軸をなす遁世・隠遁の思想、その革新のあり方を『方丈記』を素材として検討する。	『方丈記』（新潮日本古典集成、新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系、岩波文庫、講談社学術文庫、ちくま学芸文庫など）を読んでおく。	60 分
第１０回	伝統と革新　③「型」の力 「型破り」という言葉に見えるように、文学・芸能には受け継がれる「型」、象徴性を持つ「型」がある。「型」があることによって何が可能になるのか、「型」とはいかなる力を発揮するものなのかを、能を素材として考える。	能楽協会の HP などで、能楽とは何かを確認しておく。Youtube の映像などもあるので、理解しやすく、参考になる。 https://www.nohgaku.or.jp/about/welcome.html	60 分
第１１回	無常　①無常「感」か無常「観」か 日本文学を貫く一つの水脈に「無常」がある。この「無常」がどのように受けとめられ、考えられてきたのかを理解する。	小林秀雄『無常といふ事』（新潮文庫など）が参考になる。	60 分
第１２回	無常　②比喩という回路 日本文学が「無常」をどのように表現してきたのか、仏教書・和歌・物語などの場面を読み解き、その重要な回路としての「比喩」を考える。	『往生要集』（日本思想大系）、『往生要集　全現代語訳』（講談社学術文庫）、『宝物集　閑居友　比良山古人霊託』（新日本古典文学大系）などが参考になる。	60 分
第１３回	無常　③無常からの創造 「無常」とははかない様を現す言葉だが、それを水脈に持つ日本文学は思った以上にたくましく、躍動的である。このような関係が両立する機構（メカニズム）を考える。	木下華子『無常の時空　中世文学の思索と表現』（岩波書店）の「序章　中世文学像の探求』が参考になる。	60 分
第１４回	共有される古典・新しさを生む古典 類型・伝統といった共有される思考基盤を持つ日本文学の新しさは何から生まれるのかを考える。	木下華子『無常の時空　中世文学の思索と表現』（岩波書店）の「終章　新しさを生む古典』が参考になる。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で行う。教科書などは指定せず、毎回、プリントを配布する。課題レポートは授業で扱った作品や現象等についてとするが、問いを立て、論理的・実証的に自らの意見を述べることを重視する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
・平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）　30%
・期末レポート　70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	日本演劇史						
教員名	後藤　隆基						
講義コード	125236150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
近代日本の演劇はいかにして生まれたのか。明治以降の日本の演劇史を通して、演劇というジャンルの多様性と多面性を理解するとともに、文学、美術、音楽、映画といった隣接分野との関わり、そして社会や歴史との関わりを学びます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
文学、美術、音楽、映画などの隣接分野や現代社会、歴史との関わりの中で、日本の近代演劇がどのように形成されてきたのかを学びながら、舞台芸術への理解を深めます。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを確認する	60 分
第２回	明治期の文化政策と演劇	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第３回	明治期の歌舞伎と新興演劇（1）	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第４回	明治期の歌舞伎と新興演劇（2）	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第５回	明治期の歌舞伎と新興演劇（3）	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第６回	自由劇場と文芸協会	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第７回	帝国劇場の開場	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第８回	芸術座：島村抱月・松井須磨子・水谷八重子	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第９回	大正期小劇場運動	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第１０回	築地小劇場とその周辺	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第１１回	戦時下の演劇（1）	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第１２回	占領期の演劇	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第１３回	戦後演劇の展開	前回授業の資料を確認し、次回授業に備える	60 分
第１４回	まとめ	授業全体についてふり返り、レポート執筆に備える	60 分

〔授業の方法〕
PPT 等を用いた講義形式で実施。適宜音声・画像・映像資料を視聴するため、授業の進行状況に応じて計画を調整する場合がある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業時に質問等に対するフィードバックを行なう。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーの提出状況および内容）40%
期末レポート　60%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	物語と絵画						
教員名	木谷　眞理子						
講義コード	125236160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

テーマ：【平安時代の物語が作られる現場】を、絵画に注目しながら見ていきます。

平安時代の物語を読んだり作ったりしていたのは、主に貴族の女性たちでした。しかし彼女たちは、容易に外に出ることもできない、不自由な生活を強いられていたはずです。そんな彼女たちがどのようにして物語を作ったのでしょうか。本講義ではその秘密の一端を、絵画に注目することで解き明かしていきます。例としては主に『源氏物語』を取り上げ、この作品に対する理解も深めていきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

次の３点を到達目標とします。

① 平安時代の物語と絵画の関わりについて説明することができる。
② 平安時代の物語における、絵画の影響を受けた場面について、分析することができる。
③ 『源氏物語』に対する理解が深まった。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 物語をつくる女性たち	授業の進め方を確認する。	60
第２回	御簾ごしの歌	指定された課題を行う。	60
第３回	垣間見	指定された課題を行う。	60
第４回	外を見出だす男女	指定された課題を行う。	60
第５回	屏風絵・屏風歌から場面へ	指定された課題を行う。	60
第６回	屏風絵と玉鬘十帖①	指定された課題を行う。	60
第７回	屏風絵と玉鬘十帖②	指定された課題を行う。	60
第８回	源氏絵①	指定された課題を行う。	60
第９回	源氏絵②	指定された課題を行う。	60
第１０回	神護寺蔵「山水屏風」	指定された課題を行う。	60
第１１回	顔貌表現	指定された課題を行う。	60
第１２回	絵合と須磨の巻①	指定された課題を行う。	60
第１３回	絵合と須磨の巻②	指定された課題を行う。	60
第１４回	『狭衣物語』と『源氏物語』	指定された課題を行う。	60

〔授業の方法〕

講義形式で進めていきますが、毎回、課題を出します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業時の課題については、当日または次回の授業のなかで解説します。

〔成績評価の方法〕

授業時の課題を 40%、学期末に提出するレポート（CoursePower から提出）を 60%、の割合で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
① 平安時代の物語と絵画の関わりについて説明することができるか。
② 平安時代の物語における、絵画の影響を受けた場面について、分析することができるか。
③ 『源氏物語』に対する理解が深まったか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
プリントを配布しますので、購入の必要はありません。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	貴族社会の暮らしと文学						
教員名	吉田　幹生						
講義コード	125236170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
平安時代の貴族の暮らしについて、毎回１つのテーマを決めたうえで、具体的な文学作品を例に講義する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP１（専門分野の知識・技能）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①平安時代の貴族の暮らしについて、その具体的な特徴が説明できる。
②平安時代の文学作品に描かれた貴族の暮らしについて、具体的に説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	平安京	大学図書館にある概説書などを利用して、平安京の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第２回	大内裏	大学図書館にある概説書などを利用して、大内裏の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第３回	貴族の住まい	大学図書館にある概説書などを利用して、寝殿造の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第４回	貴族の服装（女性の装束）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の装束の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第５回	貴族の服装（男性の装束）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の装束の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第６回	政治のしくみ	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の政治制度の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第７回	後宮のしくみ	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の後宮の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第８回	貴族の人生（誕生・結婚）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の通過儀礼の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第９回	貴族の人生（算賀・葬送）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の通過儀礼の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１０回	年中行事	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の年中行事の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１１回	貴族の信仰（仏教）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の仏教の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１２回	貴族の信仰（神道・陰陽道）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の神道や陰陽道の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１３回	貴族の生活（音楽・芸能）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の音楽や芸能の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１４回	まとめ	これまでの授業をふりかえり、それぞれのテーマのポイントについて整理する。	60

〔授業の方法〕
講義形式による。
授業中に課す課題や、レポート課題あるいは学期末試験については、授業内容についてだけではなく、一般的な入門書や概説書に載っている内容についても理解していることが求められる。そのため、基本事項を中心に、自分自身で知識を得るという習慣を身につけてほしい。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
授業中に課す課題（４０％）及びレポート課題あるいは学期末試験（６０％）を中心とした総合評価。
ただし、私語は授業妨害と見なして「不合格」とする。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
評価にあたっては、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①平安時代の貴族の暮らしについて、基本的な知識が身についているか。
②平安時代の文学作品に描かれた貴族の暮らしについて、具体的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。
初心者を念頭に置いて講義をするので特別な知識は必要ない。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
入門書などはその都度紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	漢文基礎						
教員名	山口　旬						
講義コード	125236180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
基本的な漢文をテキストに漢文訓読の基礎を語学的側面・文学的側面の両面から学ぶ。漢文訓読法の基礎を初歩から学びながら、江戸の代表的文人の著作と、それに影響を与えた中国の漢詩文を文芸作品として読解していく。江戸時代の漢詩作品を中心として取り上げる。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
漢文の基本的な訓読法を修得する。また、具体的な漢詩文の文芸としての特色と読解法を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文芸作品読解入門／近代との接点	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第２回	注釈的読解・翻字／格調派と清新派	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第３回	注釈的読解・訓読入門／頼山陽 1	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第４回	注釈的読解・訓読・漢字の読み／頼山陽 2	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第５回	注釈的読解・訓読・文型／江馬細香 1	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第６回	注釈的読解・訓読・送り仮名／江馬細香 2	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第７回	注釈的読解・語釈／五山堂詩話 1	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第８回	注釈的読解・訳文／五山堂詩話 2	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第９回	解釈的読解・構想／五山堂詩話 3	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１０回	解釈的読解・主題／五山堂詩話 4	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１１回	解釈的読解・叙述／遊里詩	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１２回	批判的読解・叙述批判／今四家絶句	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１３回	批判的読解・構想批判／大窪詩佛 1	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１４回	批判的読解・主題批判／大窪詩佛 2	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式で進め、毎時間前半は理論、後半は実際の作品を扱う。途中に練習・考察の時間を設ける。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎時の練習問題と小考察はまとめて次の時間に解説・講評をする。期末のレポートは最終提出の前に最低一回の添削を必須とし、最終提出されたレポートは講評を加えて返却する。

〔成績評価の方法〕
毎回の小レポート４２％、レポート中間提出８％、学期末のレポート５０％の割合で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
授業資料を配布する。

〔参考書〕
『漢文訓読入門』（古田島洋介・湯城吉信、明治書院）、『江戸漢詩選 上・下』（揖斐高編訳、岩波文庫）、高等学校で使用した『国語便覧』等。購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の前後、また随時Ｅメールで受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	漢文学Ａ						
教員名	髙田　宗平						
講義コード	125237100	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

『山海経（せんがいきょう）』講読。

『山海経』は、中国の戦国時代から秦・漢にかけて、書き加えられた地理書とされている。

ただし、その内容は多面性があり、地理書のみではなく、異物志（奇怪な動物などについて説明する）、祭祀書（山の神々の名称を挙げる）、卜占書（奇怪な動物について記した後、この動物が出現すると天下に禍福をもたらすことが記される）の性格も有する。

上記のような性格を有することから、記載内容は山河の地理、動植物・鉱物、山岳祭祀、辺境の民、伝説上の帝王の系譜についてなど多岐にわたる。

全 18 巻の本書は、五蔵山経（巻 1～巻 5）・海外四経（巻 6～巻 9）・海内四経（巻 10～巻 13）・大荒海内経（巻 14～巻 18）に分かれ、それぞれ内容も文体も異なり、同時期に一人の人物によって撰せられたものでないことが看取できる。

本書を講読することにより、中国古代の地理書・異物志などの世界の一端を探り、楽しむとともに漢文読解力も養いたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・中国古典・漢文触れ、親しむ。
・『山海経』の世界観を理解する。
・漢和辞典を引きながら、返り点が施されている漢文を書き下し文と現代語訳にすることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方について及び『山海経』についての説明をする。 ※なお、以下、授業進度は履修者の読解のペースと関連する。そのため進度により授業内容に多少の変更が生じる可能性がある。	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第２回	巻１　南山経「南山經之首曰䧿山」～「佩之無瘕疾」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第３回	巻１　南山経「又東三百里、曰堂庭之山」～「可以為底」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第４回	巻１　南山経「東三百里祗山」～「食之不疥」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第５回	巻１　南山経「又東三百五十里、曰箕尾之山」～「見則其縣多放士」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第６回	巻１　南山経「東南四百五十里、曰長右之山」～「曰句餘之山、無草木、多金玉」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第７回	巻１　南山経「又東五百里、曰浮玉之山」～「而南流注于列塗」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第８回	巻１　南山経「又東五百里、曰僕勾之山」～「是食人」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第９回	巻１　南山経「東五百里、曰漆吳之山」～「可以已痔」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１０回	巻１　南山経「又東五百里、曰丹穴之山」～「無草木、多水」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１１回	巻１　南山経「又東五百里、曰灌湘之山」～「見則天下大旱」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１２回	巻１　南山経「又東三百七十里、曰侖者之山」～「有鳳皇、鵷鶵」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１３回	巻１　南山経「凡《南次三經》之首」～「萬六千三百八十里」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１４回	総括・到達度確認	予習：これまで読んできたところを目を通す。 復習：前期半年間の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

〔授業の方法〕

講読方式で行う。
授業の始めのうちは講師が講読し説明を加えていく。授業の回数を重ねて履修者が慣れてきたところで、履修者に漢文に親しんでもらうため、履修者に訓読と現代語訳、用語の説明をしてもらったり、作品の内容についてコメントを求たりする。
授業中に漢和辞典を引いてもらうため、受講に際し、紙媒体の『漢和辞典』の携帯を必須とする。紙媒体の『漢和辞典』の代替として、電子辞書、パソコン、スマートフォン、タブレットなどの電子機器による漢字の検索を認めない。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業中にフィードバックする。

〔成績評価の方法〕
期末試験 50%、平常点（自発的な発言、指名を受けた際の発言内容など授業への参加状況）50%で成績評価をする。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、期末試験受験の資格を与えない。
なお、学校保健安全法で定められている学校感染症、慶弔、就職活動などの事由により欠席した場合は、申し出ること。欠席事由が証明できるものを確認できる場合、考慮対象とする。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・高等学校卒業程度の漢文訓読と現代語訳ができること。
・紙媒体の漢和辞典が使えること。

〔テキスト〕
テキストは用意し、配布する。

〔参考書〕
既に漢和辞典を持っている場合は新たに購入する必要がないが、これから購入する場合は戸川芳郎監修、佐藤進・濱口富士雄編『全訳　漢辞海』（三省堂）を推奨する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	漢文学Ｂ						
教員名	髙田　宗平						
講義コード	125237110	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

『列女伝』講読。

『列女伝』は、前漢の劉向（りゅうきょう）が撰した女性の伝記集である。その内容は、賢母・烈婦など美徳と悪徳によって名を成した女性の事跡を記している。多くは良妻賢母など模範とされる女性が収録されるが、巻末には悪女とされるケースも収録されている。本書は女性の道徳の教科書として長く読みつがれてきた。

本授業では、巻末の「孽嬖伝（げつぺいでん。げつへいでん）」を講読する。「孽」は「災禍。わざわい」、「嬖」は「寵愛する」「寵愛されているさま」の意であり、孽嬖伝は所謂「悪女」について記されている。

本書の孽嬖伝を講読することにより、中国古代の女性の悪徳についての一端を探り、漢文読解力も養いたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・中国古典・漢文触れ、親しむ。
・『列女伝』の世界観を理解する。
・漢和辞典を引きながら、返り点が施されている漢文を書き下し文と現代語訳にすることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方について及び『列女伝』についての説明をする。 ※なお、以下、授業進度は履修者の読解のペースと関連する。そのため進度により授業内容に多少の変更が生じる可能性がある。	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第２回	巻７　孽嬖伝「小序」「夏桀末喜」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第３回	巻７　孽嬖伝「殷紂妲己」読解①	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第４回	巻７　孽嬖伝「殷紂妲己」読解②	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第５回	巻７　孽嬖伝「殷紂妲己」読解③	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第６回	巻７　孽嬖伝「周幽褒姒」読解①	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第７回	巻７　孽嬖伝「周幽褒姒」読解②	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第８回	巻７　孽嬖伝「周幽褒姒」読解③	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第９回	巻７　孽嬖伝「衛宣公姜」読解①	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１０回	巻７　孽嬖伝「衛宣公姜」読解②	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１１回	巻７　孽嬖伝「魯桓文姜」読解①	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１２回	巻７　孽嬖伝「魯桓文姜」読解②	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１３回	巻７　孽嬖伝「魯荘哀姜」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１４回	総括・到達度確認	予習：これまで読んできたところを目を通す。 復習：後期半年間の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

〔授業の方法〕

講読方式で行う。
授業の始めのうちは講師が講読し説明を加えていく。授業の回数を重ねて履修者が慣れてきたところで、履修者に漢文に親しんでもらうため、履修者に訓読と現代語訳、用語の説明をしてもらったり、作品の内容についてコメントを求たりする。
授業中に漢和辞典を引いてもらうため、受講に際し、紙媒体の『漢和辞典』の携帯を必須とする。紙媒体の『漢和辞典』の代替として、電子辞書、パソコン、スマートフォン、タブレットなどの電子機器による漢字の検索を認めない。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業中にフィードバックする。

〔成績評価の方法〕
期末試験 50%、平常点（自発的な発言、指名を受けた際の発言内容など授業への参加状況）50%で成績評価をする。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、期末試験受験の資格を与えない。
なお、学校保健安全法で定められている学校感染症、慶弔、就職活動などの事由により欠席した場合は、申し出ること。欠席事由が証明できるものを確認できる場合、考慮対象とする。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・高等学校卒業程度の漢文訓読と現代語訳ができること。
・紙媒体の漢和辞典が使えること。

〔テキスト〕
テキストは用意し、配布する。

〔参考書〕
既に漢和辞典を持っている場合は新たに購入する必要がないが、これから購入する場合は戸川芳郎監修、佐藤進・濱口富士雄編『全訳　漢辞海』（三省堂）を推奨する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	日本語表現の特質（近代語）						
教員名	常盤　智子						
講義コード	125237140	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
本科目では、日本語史の資料の一部に触れ、自ら疑問点を発見することを通して、近代語としての日本語の特質を理解する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
ＤＰ２(課題の発見と解決)、５(表現力、発信力)、６(専門分野の知識・理解)を実現するため、次の２点を到達目標とする。
①日本語史の資料について、知識を得る。
②自ら疑問を発見し、問題点について文章で指摘できる。
③日本語史上の近代語の位置づけについて理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業概要の説明 ・授業の目標、内容、スケジュール、評価基準について周知する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する	60
第２回	時代区分 ・日本語史における時代区分と近代語の位置づけについて理解を深める	【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第３回	文字表記 ・漢字・カタカナ・ひらがなの成立と、近代語の様相について理解を深める	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第４回	音声 ・音価の変化と、近代語における様相について理解を深める	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第５回	濁音符・半濁音符 ・表記の変化と、近代語における様相について理解を深める	【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第６回	句読点 ・表記の変化と、近代語における様相について理解を深める	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第７回	代名詞 ・代名詞の変化と、近代語における様相について理解を深める	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第８回	副詞 ・副詞の変化と、近代語における様相について理解を深める	【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第９回	助動詞 ・助動詞の変化と、近代語における様相について理解を深める	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第１０回	動詞 ・動詞の変化と、近代語における様相について理解を深める	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第１１回	可能表現 ・可能表現の変化と、近代語における様相について理解を深める	【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第１２回	待遇表現 ・待遇表現の変化と、近代語における様相について理解を深める	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第１３回	記録媒体 ・記録媒体の変化と、近代語における様相について理解を深める 授業のまとめ	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第１４回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備えて授業で取り扱った日本語史のトピックについて復習しておく	120

〔授業の方法〕
資料の読み取りや知識の定着、疑問点の共有のために、授業ごとに課題を提示しリアクションペーパーの提出を課す。
また、学期末には授業全体を通した理解度を測るために、到達度確認テストを行う。
なお、授業の進捗・受講人数などによって、内容を一部変更する場合がある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業のはじめに時間を設け、前回のコメントシートについてフィードバックを行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）60%、到達度確認テスト　40%　による総合評価

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①日本語史の各種資料について、知識を得ている。
②日本語史上の近代語の位置づけについて理解している。
③言語変化の方向性と近代語の特質について文章でまとめることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本語史についての理解があることが望ましいが必須ではない。

〔テキスト〕
特になし（プリントで配付）。

〔参考書〕
参考書は必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	古典文学と現代文化						
教員名	中野　貴文						
講義コード	125238100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
古典文学上に描かれた武士の表象を探求する。文学上に描かれた武士像は、実態と重なりつつも異なることはいうまでもない。その重なりとズレの中に、武士たちへの視線や期待、反感など様々なものが隠されていよう。本授業はそれら武士の表象が、現代の武士/サムライをモチーフにした様々な作品群とどのようにつながっているのかについて考究していく。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP 1 を達成すべく、以下の二点を目標とする。
・古典文学上に書き記された「武士」像について理解する。
・それらを通じて、現代文化との接続と断絶を考究する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第２回	竹取物語と武士	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第３回	源氏物語と武士	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第４回	今昔物語集と武士	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第５回	古事談と武士	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第６回	徒然草と武士	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第７回	平家物語と武士１	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第８回	平家物語と武士２	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第９回	義経記と武士	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第１０回	御伽草子と武士	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第１１回	江戸文学と武士	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第１２回	近代の武士表象	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第１３回	戦後の武士表象	配付した資料を再読し、理解を深める。	60
第１４回	まとめ	配付した資料を再読し、理解を深める。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行う。アプリ等を用い、随時、受講者から意見を求める。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
感想・質問に対し、授業内で回答する。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況、毎回の授業に対する理解度）50%、学期末試験 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
佐伯真一「戦場の精神史 武士道という幻影」NHKブックス

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(6)ＩＣＴ活用

26/2/9 15 時 45 分

講義名	翻訳と文学						
教員名	星　泉						
講義コード	125238110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
翻訳が世界の文学にどのような役割を果たしてきたのか理解するとともに、文学作品の翻訳がどのようなものか、実際の体験を通じて理解を深める。
教材には講師の専門であるチベット文学の作品（英語で書かれたもの）を用い、異文化から生まれた文学作品を翻訳することの面白さ、難しさを味わう。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
翻訳の方法を中心として、必要に応じて文化研究など学際的な視点から言語、文化を相対的に観察し分析することができる。
世界の多様な言語芸術に触れ、自己を相対化し、他者や世界との関わりの中で思考・判断を行うことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】配布資料のチベット文学の作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第２回	翻訳と何か？	【予習】翻訳に関するキーワードを集めてくる【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第３回	翻訳の種類	【予習】翻訳にどんな種類があるのか調べておく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第４回	翻訳と翻案	【予習】翻案とは何か調べておく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第５回	翻訳がつなぐ世界の文学（1）	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第６回	翻訳がつなぐ世界の文学（2）	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第７回	翻訳読み比べ（1）	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第８回	翻訳読み比べ（2）	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第９回	翻訳読み比べ（3）	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１０回	翻訳をしてみよう（1）	【予習】翻訳課題に挑戦する【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１１回	翻訳をしてみよう（2）	【予習】翻訳課題に挑戦する【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１２回	翻訳をしてみよう（3）	【予習】翻訳課題に挑戦する【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１３回	文学の翻訳と映画の翻訳	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１４回	グループディスカッション	【予習】ここまで学んできたことを振り返っておく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行いますが、グループワークを行うこともあります。受講生には毎授業後にその授業で学んだことや考えたことを CoursePower 上で小レポートとして提出してもらいます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回の小レポートに対して次回以降の授業時にフィードバックしながら講義を進めます。

〔成績評価の方法〕
毎回提出の小レポート（50%）及び学期末に 1 回課せられるレポート(50%)等により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
特定の教科書は指定しません。教材は講師が適宜配布します。

〔参考書〕
以下に挙げるのは授業で取り上げる予定の書籍の一部です。購入の必要はありません。
『ことばの白地図を歩く：翻訳と魔法のあいだ』（シリーズ「あいだで考える」）奈倉 有里（著）、創元社
『なぜ日本文学は英米で人気があるのか』（ハヤカワ新書）鴻巣 友季子（著）、早川書房
『仲介する日本――ロシアから中国への文化横断とリレー翻訳 』シャオルー・マー（著）、秋草俊一郎、今井亮一、高橋知之（訳）、文学通信
『「その他の外国文学」の翻訳者』白水社編集部（編）、白水社
『地球の文学』山口裕之（編）、東京外国語大学出版会
We Measure the Earth with Our Bodies, Tsering Yangzom Lama, Bloomsbury Publishing

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで受け付けます。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	ジェンダーで読む文学						
教員名	禹　丞美						
講義コード	125238120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
本講義では、日本文学におけるジェンダーの問題を多角的に検証する。恋愛、家族、母性、ケアといったジェンダーをめぐる主要なテーマを分析の切り口とし、近現代文学作品を読み解いていく。作品の背後にある社会情勢や規範が、いかにして言語表現や物語に影響を与えてきたのかを考察する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
日本の文学「場」についてみずから考える機会を持つことを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	ガイダンスで説明します	60
第２回	恋愛	教科書と配布資料を読んでくること	60
第３回	セクシュアリティ	教科書と配布資料を読んでくること	60
第４回	結婚・家族	教科書と配布資料を読んでくること	60
第５回	母性・生殖	教科書と配布資料を読んでくること	60
第６回	少女・学校・友情	教科書と配布資料を読んでくること	60
第７回	ケア／小テスト	教科書と配布資料を読んでくること	60
第８回	暴力	教科書と配布資料を読んでくること	60
第９回	消費社会・装い	教科書と配布資料を読んでくること	60
第１０回	労働・資本主義・社会運動	教科書と配布資料を読んでくること	60
第１１回	災害・エコロジー	教科書と配布資料を読んでくること	60
第１２回	戦争・帝国主義	教科書と配布資料を読んでくること	60
第１３回	越境・日本語文学	教科書と配布資料を読んでくること	60
第１４回	期末テスト／総論	配布資料を読んでくること	60

〔授業の方法〕
教科書を用いて授業を行いますが、理解を深めるために教員がパワーポイント資料やレジュメなどの資料を用意し、提示します。
受講生は、毎回講義内容に関するリアクションペーパーを提出してください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
平常点 20%、小テスト 40%、期末テスト 40%により総合判断します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
『ジェンダー×小説ガイドブック：日本近現代文学の読み方』、飯田祐子・小平麻衣子編、ひつじ書房、2200 円＋税、ISBN978-4-8234-1192-2

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	近現代文学とメディア						
教員名	松田　潤						
講義コード	125238130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
この講義では、第二次世界大戦後の米軍占領下の日本と沖縄の文学を、新聞・雑誌・書籍・出版市場・検閲制度・読者・言説空間といったメディア的・制度的条件との関係のなかで考察する。日本本土に限定せず、旧植民地や占領期沖縄を含む日本語メディア空間を視野に入れることで、日本近現代文学を支えてきた枠組みそのものを相対化し、文学とメディアの関係を批判的に検討する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
①米軍占領下日本および沖縄における文学作品を、メディアや制度的条件との関係のなかで捉え、分析する力を身につける。
②先行研究や批評を参照しながら、テクストを分析的・理論的に読解できるようになる。
③授業で得た視点を用いて、自ら問いを立て、論理的な文章としてまとめる基礎的能力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：米軍占領期の日本・沖縄とメディアに関する概説	【予習】シラバスを読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第２回	「戦後」表象の複数性	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第３回	玉音放送と占領の開始	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第４回	占領と検閲①	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第５回	占領と検閲②	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第６回	占領期出版文化と読者	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第７回	占領下・占領後の米軍基地表象	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第８回	米軍占領下の在日朝鮮人文学	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第９回	米軍占領下沖縄の言論統制と抵抗	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第１０回	占領と人種主義①	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第１１回	占領と人種主義②	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第１２回	占領とセクシュアリティ①	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第１３回	占領とセクシュアリティ②	【予習】テクストを指定範囲を読む 【復習】配布資料を読み直す	60
第１４回	まとめ	【予習】授業内容を振り返っておく 【復習】授業のまとめを踏まえ期末レポートを執筆する	60

〔授業の方法〕
①授業は対面による講義形式で行います。毎回、授業資料を配布し、各回のテーマに沿って文学作品やメディア的・制度的条件について解説します。次回の授業までに、配布されたテクストを読んだ上で授業に出席してください。
②授業内では、毎回出席確認を兼ねたリアクションペーパーを記入・提出してもらいます。
③期末レポートでは、授業で扱った内容を踏まえた上で、独自の視点や論点を設定し、論理的に考察することを求めます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
リアクションペーパーに記されたコメントや質問については、次回の授業冒頭に口頭でフィードバックを行います。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（4,000 字以上）：60%、平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：40%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
授業内で指示・配布する。

〔参考書〕
・鈴木登美・十重田裕一・堀ひかり・宗像和重編『検閲・メディア・文学――江戸から戦後まで」（新曜社、2012 年）
・日高昭二『占領空間のなかの文学――痕跡・寓意・差異』（［岩波現代全書］、岩波書店、2015 年）
・金ヨンロン／尾崎名津子／十重田裕一編「「言論統制」の近代を問いなおす――検閲が文学と出版にもたらしたもの』（花鳥社、2019 年）
・吉本秀子『軍隊と言論――米国占領下沖縄におけるメディア管理政策』（明石書店、二〇二五年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	現代日本語論						
教員名	片山　久留美						
講義コード	125238150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
私たちは日本語を表記する際、漢字・ひらがな・カタカナを使い分ける。このように複数の文字種を使い分けることは、世界の言語の中でも珍しいこととされている。この授業では、現代の日本語の表記の特徴や文字言語ならではの現象について、実例を挙げながら検討する。ふだん何気なく漢字と仮名を使い分けているが、なぜそのようなことができるのか。カタカナはどのような場面で使っているか。漫画や歌詞に見られるルビ（振り仮名）はどんな特徴を持っているか。現代の表記の実態について、社会的な表記の規範や表現技法としての文字の使い方なども踏まえて考えていく。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
現代の日本語の表記の特徴について説明することができる。
身の回りにある文字で表記されたものに興味を持ち、日本語学の観点から捉えることができる。
授業で学んだ日本語表記の特性を踏まえ、日頃の文章作成等に生かすことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：世界の文字と日本の文字	シラバスをよく読んでおく。	60 分
第２回	日本における文字の歴史（1）漢字との出会い	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第３回	日本における文字の歴史（2）ひらがなとカタカナ	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第４回	日本語に「正書法」はあるか	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第５回	現代日本における国語施策（1）漢字に関するもの	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第６回	現代日本における国語施策（2）送り仮名・仮名遣いなど	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第７回	現代の名付け（命名）と漢字	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第８回	表記のゆれ（1）漢字の使い分け	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第９回	表記のゆれ（2）漢字とひらがなの使い分け	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第１０回	文字の表現効果（1）カタカナの役割	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第１１回	文字の表現効果（2）ルビ（振り仮名）とは何か	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第１２回	文字の表現効果（3）特殊なルビの用法	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第１３回	現代のローマ字表記	配付資料を読み直す。 授業時に紹介する参考資料を読む。	60 分
第１４回	句読点・記号・文字の向き	配付資料を読み直す。 期末レポート課題について検討する。	60 分

〔授業の方法〕
授業は主に講義形式で行う。ふだん自分がどのように文字を使っているかを改めて意識できるように、授業中に文字を書く活動や LMS を使用した教室内でのアンケート等を実施する。また、国語施策や規範的な表記についての小テスト等を行うことがある。授業で取り扱った内容を踏まえ、現代日本語の文字表記に関する期末レポートを提出してもらう。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕
質問や課題に対するフィードバックは、毎授業の冒頭に行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況・課題の提出状況）40%
期末レポート　60%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
・日本語の文字・表記の特徴を理解し、説明することができているか。
・日頃の自分の文字・表記や身の回りの文字で書かれた物に興味を持ち、日本語学の視点から考察することができているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
参考書は授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	国際関係論入門						
教員名	川村　陶子						
講義コード	125331100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

この授業では、国際関係研究（国際関係論、International Relations）とよばれる学問分野について概説する。国境を越えるさまざまな現象を把握し理解するための基礎概念や思考枠組みを、現実の国際問題を取り上げながら解説する。

国際関係研究は、その名が示すように、「国家から成る世界」を前提として 20 世紀に確立した学問である。その一方で、研究対象たる現実の世界が大きく変化していく中、学問的意義や有効性がつねに問い直される状況にある。講義では、学問研究と現実世界の相互関係を重視し、社会・世界を研究することのおもしろさを受講者に伝えられればと考えている。

＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整、変更する可能性がある。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。

①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深めること。

②現代の国際関係、国際社会の歴史的変化を、自分なりに分析し考察できるようになること。

③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、現実の国際情勢や研究の動向、受講者の構成や反応などにより、修正することがある。） イントロダクション 講師の問題関心と授業の概要を説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係の現象や研究に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	国際社会をとらえる基礎概念（１） 国際社会という「場」の特徴を整理し、それを構成する主体の多様性についても理解を深める。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	国際社会をとらえる基礎概念（２） 国際社会のベースとなる主権・国民国家体制について、その形成過程を解説し、矛盾を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	国際関係をとらえる基礎概念（３） パワーの概念について解説し、その諸側面を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	国際社会のとらえかた（１） リアリズムの考え方について解説し、勢力均衡、安全保障のディレンマといった鍵概念への理解を深める。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	国際社会のとらえかた（２） リベラリズムと相互依存論の考え方を解説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	国際社会のとらえかた（３） 国際関係に対する「南」からの視点について解説するとともに、グローバル化の概念にも議論を広げる。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	国際関係のマネジメント（１） 主権国家間関係の運営である外交の基本原則について概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	国際関係のマネジメント（２） 一国の立場からみた対外政策について、その形成過程や主要な研究上のテーマを概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	国際関係のマネジメント（３） 外交の発展と変容について、国際関係の歴史的展開とからめながら考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	国際関係の制度化（１） 国家間の利害を調整し、国際協力を推進する仕組みとしての国際制度・国際組織について概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	国際関係の制度化（２） 前回に引き続き、国際関係をより確実なものとする仕組みについて概説する。国家間協力よりも一歩進んだ取り組みとしての地域統合にも目を向ける。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１３回	国際関係研究の拡大 今日の国際社会の現状、新たな動向を整理するとともに、そうした展開をふまえた国際関係研究の広がりを確認する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１４回	まとめ 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修を総括し、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕

講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連して行った自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義をおこなう。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業の初めに受講者のリアクションペーパーを活用して前回授業の解説をおこなう。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）70%、レポート（CoursePower で提出）30%をめやすに総合的に評価する。
（注：受講人数等によっては、期末レポートに代えて授業最終回に到達度確認テストをおこなう可能性がある。詳しくは学期はじめの授業での指示を参照すること。）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その達成度により評価する。
①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深める。
②現代の国際関係、国際社会の歴史的変化を、自分なりに分析し考察できるようになる。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
世界史や政治経済、倫理等の基礎知識があると、授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず、自主的な学修を推奨する。
関連科目：平和学入門、国際文化論、国際政治経済学等

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
山田敦・和田洋典・倉科一希編『新版 国際関係学』有信堂、2025 年。
村田晃司・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ』（第 3 版）、有斐閣、2023 年。
上記はいずれも購入の必要なし。ほか、開講時および授業中に随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	平和学入門						
教員名	墓田　桂						
講義コード	125331110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

【秩序変動期の平和を考える−安全保障の多面的考察】

「平和」とはどのような状態を指すのか。誰が、どのように維持しているのだろう。世界が大きく変動する現在、従来の体制は果たして機能するのか。

国家間のパワーバランスが変化するなかで、世界の秩序は劇的に変わりつつある。国際法は存在するものの、大国の行動によって世界は「無法地帯」の様相を呈している。「秩序なき世界」が囁かれる一方で、国際場裡では新たな秩序が次々と形成されてきた。世界の混乱に輪をかけているのは「多秩序」の現実にほかならない。

中国やロシアの覇権主義的な行動は止まない。アメリカにも依存できない。3 つの核保有国に囲まれた日本は脆弱な状態にある。混沌とした国際情勢にあって、世界と日本の平和は保てるのだろうか。従来の安全保障の体制は今でも有効だろうか。

この授業では、伝統的な安全保障論に則りつつ、平和と安全保障にかかわる学説や政策論議を多面的に考察する。

より具体的には、複雑化する現在の世界を俯瞰したうえで、紛争と戦争の諸相を概観する。その認識とともに、多岐にわたる安全保障の制度とともに、日本の防衛・戦略外交のあり方を考察する。学問領域的には国際政治学と安全保障研究を融合したものとなる。地政学の知見も取り入れるが、絶対視はしない。平和と安全保障の個別の課題（イシュー）を検証しながら、分断と対立に特徴づけられる世界の実相を読み解く。

なお、担当教員は外務省（専門調査員、外務事務官）および法務省（難民審査参与員）での実務経験を有する。保秘義務に反しない範囲で、実務経験に基づく知見を授業内で共有する機会を設けたい。

（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。）

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現し、特に DP1-1「国際関係研究の基本的な諸概念や理論枠組みを把握し、それらを用いて世界情勢の主要問題を分析することができる」ようにするため、下記を到達目標とする。

・国際関係を巨視的な観点で考えることができる。
・現代世界が直面する諸問題を理解できる。
・国際平和と安全保障における課題を自ら発見することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス―この授業で学ぶこと	授業に関連する事項を予習する。	90
第２回	世界の地殻変動―19 世紀的世界の再来	授業に関連する事項を予習する。	90
第３回	国際関係をどう捉えるか―アクターとアプローチ	授業に関連する事項を予習する。	90
第４回	脅威の認識	授業に関連する事項を予習する。	90
第５回	さまざまな戦争の形	授業に関連する事項を予習する。	90
第６回	平和と安全保障の方法論	授業に関連する事項を予習する。	90
第７回	国連を通じた平和の実現とその限界	授業に関連する事項を予習する。	90
第８回	戦争の惨害からの救済	授業に関連する事項を予習する。	90
第９回	集団で担う防衛と安全保障	授業に関連する事項を予習する。	90
第１０回	日本の防衛政策	授業に関連する事項を予習する。	90
第１１回	戦略空間としての「インド太平洋」	授業に関連する事項を予習する。	90
第１２回	安全保障の新たな課題	授業に関連する事項を予習する。	90
第１３回	到達度確認テスト	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	※到達度試験の準備学修は、個人の判断に委ねる。
第１４回	まとめ	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

〔授業の方法〕

講義形式を基本とする。なお、上記の授業計画は変更することもある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業内で講評します。

〔成績評価の方法〕
平常点（20%）、到達度確認テスト（80%）を組み合わせた総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目はなし。（※予備知識がなくとも、国際情勢への関心があれば授業についていくことは可能です。）

〔テキスト〕
特に指定しない。

〔参考書〕
授業中に配布するレジュメの中で提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	国際文化論						
教員名	川村　陶子						
講義コード	125331120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、「国際関係における文化」をめぐるさまざまなトピックを扱う。その際に、文化という概念の歴史的変遷や、その多義的な意味内容にとくに注意を払う。各トピックに関する主要な研究や実践の動向と、現実世界の歴史的展開や今日の状況、国際関係と私たち自身とのつながりを、バランスよく学修することをめざしたい。

授業の前半では、国際関係を分析する「枠組み」としての文化、後半では、国際関係を媒介する「要素」としての文化に焦点を当てる。全体を通して、「国家（政府）間だけではない国際関係」や、「いわゆる政治や経済とは異なった領域の国際関係」に注目することになるであろう。授業全体を通して、そうした「文化の国際関係」が、「国家（政府）間の国際関係」や「政治や経済とよばれる領域の国際関係」と密接に関連しており、ときにはそれらを規定し動かすことを意識できるようになればと考えている。

＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整・変更する可能性がある。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP６（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。

①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむこと。

②国際関係を、国家間の関係や狭い意味での政治・安全保障に限定せず、より幅広く身近なものとして考えられるようになること。

③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。受講者の構成や関心などによって、講義の構成や進度を調整する可能性もある。） イントロダクション 講師の問題意識と授業の概要を説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係や文化に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	文化の概念 研究の基本概念である「文化」について、その意味の広がりや概念の歴史的形成・発展を理解する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	国際関係の研究史と文化の視点 国際関係研究の発展史を概説し、「文化の視点」が必要とされる背景を明らかにする。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	文化からみる国際関係（１）　国民国家と文化 国際関係の基本的単位主体ある国民国家が「文化的まとまり」であることを解説し、国民文化という「あたりまえ」の裏にある問題性について考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	文化からみる国際関係（２）　文化と「西洋近代」 国際関係研究のもとになっている欧米や西洋の考え方と、それとは違う考え方との関係、西洋と非西洋の関係について考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	文化からみる国際関係（３）文化的境界に沿った対立・衝突 20 世紀後半以降、文化相対主義的な考え方が国際関係の現実や研究に及ぼしたインパクトを、批判的に考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	文化からみる国際関係（４）グローバル化の中の偏見と憎悪 ポスト冷戦、とりわけ「9・11」後の世界において、「対立と憎悪の負のスパイラル」が生じている状況を概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	文化からみる国際関係（５）　負のスパイラルを乗り越えるために 文化的境界線に沿った対立・衝突を乗り越え、多様な人びとが共生するための方策を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（１）国際関係の文化的運営 「国際関係が異文化間関係であるならば、文化的手段を用いて国際関係を形づくることができる」という考え方を紹介し、文化を資源・媒介とした国際関係の運営のさまざまなパターンを解説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（２）国際関係の文化的運営の歴史的展開・１ 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「帝国主義の時代」までの時期を扱う。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（３）　国際関係の文化的運営の歴史・２ 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「世界大戦の時代」から「冷戦の時代」にかけてを扱う。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（４）　グローバル化時代の国際文化関係運営・１ ポスト冷戦期、21 世紀における国際文化関係運営の新しい発想やトレンドを紹介する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１３回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（４）　グローバル化時代の国際文化関係運営・２ 前回に引き続きポスト冷戦期、21 世紀の国際文化関係運	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60

	営の新しい発想やトレンドを紹介する。また、そうした新しい動きがもたらす可能性と問題性を考察する。	レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	
第１４回	まとめ 今日の世界において、文化でみる国際関係、文化でつくる／文化がつくる国際関係がどのように展開しつつあるか、その現状と展望を整理する。 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修をふり返り、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕
講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連しておこなった自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義をおこなう。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業の初めに受講者のリアクションペーパーを活用して前回授業の解説をおこなう。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）70%、レポート（学期末に CoursePower で提出）30%をめどに総合的に評価する。
（注：受講人数等によっては、期末レポートに代えて授業最終回に到達度確認テストをおこなう可能性がある。詳しくは学期はじめの授業での指示を参照すること。）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その到達度により評価する。
①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむ。
②国際関係を、幅広く身近なものとして考えられるようになる。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
受講者は、報道や身の回りの事象に目配りするなどして、現代世界の動向につねに注意を払うことが求められる。
講義は現代史の知識を前提とした内容になる。高校での関連科目選択の有無にかかわらず、自主的な学修を行うことが望ましい。
本講義は、米国を中心に発展してきた国際関係論（International Relations、国際政治学）を批判的に乗り越える立場から組み立てられている。国際政治学の基礎的知識がなくても理解できるように講義しているが、意欲のある受講者は「参考書」欄に挙げた図書等の概説書を用いて自習することを奨めたい。
また、「国際関係論入門」、「国際政治経済学」、「平和学入門」、「文化人類学」等、関連する基礎的科目を、先に（あるいは、一緒に）履修すると、講義の理解がより容易になるであろう。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
講義内容に直接関連する文献やネットの情報は、授業中に適宜紹介する。
本欄には授業全体の参考になる文献を記載する。いずれも購入の必要なし。
日本国際文化学会編『ともに生きるための国際文化学』昭和堂、2025 年。
川村陶子『〈文化外交〉の逆説をこえて−ドイツ対外文化政策の形成』名古屋大学出版会、2024 年、第 1 章。
下記は一般的な国際関係論（国際政治学）の概説書である。本講義とは内容を異にするが、多角的に学習したい受講者には参考とすることを奨めたい（「必要な予備知識」欄を参照）。
山田敦・和田洋典・倉科一希編『新版 国際関係学』有信堂、2025 年。
ジョゼフ・S. ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ（田中明彦・村田晃司訳）『国際紛争−−理論と歴史 原書第 10 版』有斐閣、2017 年。
村田晃司・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ（第 3 版）』有斐閣、2023 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	国際政治経済学						
教員名	須田　祐子						
講義コード	125331130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義は、国際政治学のアプローチからグローバリゼーション、とくにその経済的側面に対する理解を深めることを目的とする。コースの前半では、国境を越えるモノ、サービス、情報、カネ（資本）、人の移動によって進展するグローバリゼーションのさまざまな様相を概観する。後半では、グローバリゼーションへの政策的対応を「規制」という切り口から検討し、どのような規制がグローバルおよびナショナルなレベルで作成、実施されているのかを具体例を挙げて論じる。グローバリゼーションと呼ばれる事象が現代の政治、経済、社会にどのような影響をもたらしているのかを探ることが講義全体の大きなテーマである。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

国家間の経済関係をめぐる政治に関する基礎的な知識を修得する。 政治と経済の相互作用について国際的文脈から学び、グローバリゼーション時代に世界が直面するさまざまな問題について、知識に基づき考察できるようになることを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	グローバリゼーションとは？ 「グローバリゼーション」という言葉が何を意味するのかを説明する。また「国際化」など関連する概念も合わせて説明する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第２回	WTO、貿易、環境 国際貿易を律するグローバルな枠組みであるＧＡＴＴと世界貿易機関（ＷＴＯ）の歴史的展開と現在の課題について解説する。また貿易と環境の関係について事例を挙げて解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第３回	ＴＲＩＰＳと医薬品アクセス問題 貿易関連知的財産権（ＴＲＩＰＳ）協定について学ぶ。医薬品アクセス問題を取り上げる。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第４回	情報の移動 デジタル・デバイド（情報格差）やインターネット資源の管理など情報通信をめぐる政治と経済の問題を概観する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第５回	人の移動 ＧＡＴＳと「人の移動」、ＦＴＡ・ＥＰＡによる労働力移動の自由化について解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第６回	インターネットで変わった？ インターネット時代の著作権保護、プライバシー保護、児童ポルノ規制について、国際的取り決めがどのように発展してきたのかを考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第７回	グローバルな不法経済 麻薬と資金洗浄への対策を事例として、国際的取り決めがどのように国内規制に影響を及ぼすのかを見る。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第８回	オゾン層破壊と気候変動 オゾン層と地球温暖化に関する国際的枠組みを比較しながら地球環境問題に対する国際的取組みについて考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第９回	有害物質の管理 有害物質のグローバルな規制について有害廃棄物の越境移動に関するバーゼル条約と水銀に関する水俣条約などを例として考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１０回	遺伝子組み換え作物 生物多様性条約カルタヘナ議定書とコーデックスガイドラインを対比させて、貿易と環境の交錯するところでの国際規制の難しさを考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１１回	認証と資源管理 森林管理協議会（ＦＳＣ）と海洋管理協議会（ＭＳＣ）の認証制度について学ぶ。またキンバリープロセスについて学ぶ。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１２回	宇宙開発 宇宙開発の歴史を振り返り、最近の動向と現在、大きな問題となっている宇宙ごみ（スペースデブリ）について考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１３回	パンデミック COVID-19 パンデミックを国際政治学の観点から考える。パンデミック条約について学ぶ。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１４回	たばことアルコール たばこ規制枠組み条約の事例から国際的規制の国内への影響について考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

授業は対面で実施する。毎回 CoursePower でレジュメと資料を配布する。毎回、授業の最後に CoursePower 上で授業内課題に取り組む（したがってパソコンかスマートフォンを持参する必要がある）授業内課題では、講義の内容をどの程度理解しているのかを評価する。その他に３回の到達度確認テストによっても評価する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
課題は、適宜、解説を付けて、返却する。

〔成績評価の方法〕
授業内課題（70%）
到達度確認テスト（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。授業内課題と到達度確認テストでは、授業で取り上げたさまざまな問題について基本的理解ができているかどうか、またそれらの問題の背景と経緯を的確に説明できるかどうかを評価の基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	国際協力論						
教員名	西田　一平太						
講義コード	125331140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

国際協力は、市民の国際的な連帯から非政府組織（NGO）や民間企業などによる活動、国家間の連携および支援、国際機関を通じての調整と共同行動まで、多層的に行われている。その対象とするものも、環境保全、資源管理、人権の促進・擁護、経済社会の発展、司法協力、政治的な協調、平和と安定（安全保障）などと幅広く多様な取組がある。この授業では、それらを概観しつつ、国際社会を構成する重要な単位である「国」による国際協力の重要性が近年高まっていることを踏まえ、その代表例としての人道援助、開発協力、安全保障協力に焦点をあて、政策的な視点からの理解を深める。事例としては、受講生が比較的理解しやすいであろう日本の行う国際協力を紹介することを念頭に置きつつ、現在進行形で置きつつある世界的事象についても適宜触れるように努める。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

国などが行う国際協力について多面的に理解する。特に、人道援助、開発協力、安全保障協力についての考え方や動機、手段そして課題などについて、講義やディスカッションを通じて基礎的な知見を得る。これによって、様々な形態を持つ国際協力についての思考力を養い、国際社会についての自らの見解を形成する一助とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	＜イントロダクション＞ ・授業の概要、進め方、成績評価、注意事項等についての説明、など。	・シラバスの確認 ・「協力すること」や「国際協力」について、身の回りの事象や自らの関心事項を通じて考えておく。	20
第２回	＜概論①：国際協力とは何か（講義）＞ ・国際協力はなぜ必要なのか。 ・誰が、何を目的として、どのような国際的な協力を、どのような手段を用いて、行うのか。 ・対外政策において国際協力はどう位置付けられるのか。	・キーワード（「協力」「国際」「支援/援助」「政策」「外交」）について、自分なりの考えを整理しておく。 ・事前に配布する資料などの確認。	90
第３回	＜概論②：国際協力とは何か（講義）＞ ※前回の続き ・国が行う国際協力にはどのような特徴があるのか。 ・二国間と多国間の協力はどう異なるのか。 ・それらは国際関係においてどのような意味を持つのか。	・前回授業の振返り。 ・事前に配布する資料などの確認。	90
第４回	＜人道援助①（講義）＞ ・人道的に支援すること（人道援助）とは何か。 ・人道援助の原則とは何か。 ・国や国際機関、NGO の人道援助はどう異なるのか。 ※レビュークイズ①（概論）	・「困難な状況にある人に手を差し向ける」ことについての、自分なりの考えを整理しておく。 ・事前に配布する資料などの確認。 ・レビュークイズの準備。	90
第５回	＜人道援助②（グループワーク）＞ ※前回の続き ・グループワーク（課題についての調査・検討）。 ・プレゼンテーションの準備。	・前回授業の振返り。 ・事前に配布する資料などの確認。	90
第６回	＜人道援助③（プレゼンテーション）＞ ・各グループによる報告。 ・意見交換、総括。	・前回授業の振返り。 ・事前に配布する資料などの確認。 ・プレゼンテーションの準備。	90
第７回	＜開発協力①（講義）＞ ・国が他国の経済成長や社会発展を支援すること（開発協力）の意味は何か。 ・「政府開発援助（ODA）」とは何か。 ※レビュークイズ②（人道援助）	・「他国の経済・社会発展」に協力することの意義や課題について、自分なりの考えを整理しておく。 ・事前に配布する資料などの確認。 ・レビュークイズの準備。	90
第８回	＜開発協力②（グループワーク）＞ ※前回の続き ・グループワーク（課題についての調査・検討）。 ・プレゼンテーションの準備。	・前回授業の振返り。 ・事前に配布する資料などの確認。	90
第９回	＜開発協力③（プレゼンテーション）＞ ・各グループによる報告。 ・意見交換、総括。 ※期末レポートガイダンス	・前回授業の振返り。 ・事前に配布する資料などの確認。 ・プレゼンテーションの準備。	90
第１０回	＜安全保障協力①（講義）＞ ・安全保障協力とは何か。 ・人道援助、開発協力との相違はどこにあるのか。 ・国際の平和と安定にどこまで関わるべきなのか。 ※レビュークイズ③（開発協力）	・「他国と軍事的に協力」することの意義や課題について、自分なりの考えを整理しておく。 ・事前に配布する資料などの確認。 ・レビュークイズの準備。	90
第１１回	＜安全保障協力②（グループワーク）＞ ※前回の続き ・グループワーク（課題についての調査・検討）。 ・プレゼンテーションの準備。	・前回授業の振返り。 ・事前に配布する資料などの確認。	90
第１２回	＜安全保障協力③（プレゼンテーション）＞ ・各グループによる報告。 ・意見交換、総括。	・前回授業の振返り。 ・事前に配布する資料などの確認。 ・プレゼンテーションの準備。	90
第１３回	・振返り。 ・内向きのアメリカ、中国・グローバルサウスの台頭、日本。 ・これからの世界と国際協力の今後。 ※レビュークイズ④（安全保障協力）	・授業全体に関してノートなどを用いて復習。 ・事前に配布する資料などの確認。 ・レビュークイズの準備。	90

第１４回	・期末レポート執筆～提出	・授業全体に関してノートなどを用いて復習、論点整理。	90

〔授業の方法〕
対面を基本とし、講義 - 意見交換 - リサーチ - グループワーク - プレゼンテーションを組み合わせることで受講生の主体的な学びを促す双方向・参加型授業を試みる（受講生数および理解度に応じて臨機応変に調整する）。可能な範囲で視聴覚映像やゲストスピーカーによる講演の機会を盛り込み、国際協力についての理解と関心を深める。学習素材は基本的に日本語のものを用いるが、部分的に英語での読解や聴取を必要とする場面も想定される。授業後には、ノート、配布資料、参考資料（書籍）等を用いて講義内容を振り返り、簡単なリサーチや頭の整理を通じて次の授業に備える必要がある（各回 90 分程度の事前・事後学習を想定）。原則として授業不在（欠席）時の代替措置は行わないが、事情により欠席・遅刻・早退となる見込みがある際には事前通知を推奨する。
※授業の進度や受講生の理解度、諸般の事情により、授業内容および方法については予告なく変更する場合がある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
グループワークやプレゼンテーションで PC の使用が求められる場面が想定される。ただし、特殊なソフトウェアは必要としない。

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回リアクション・ペーパーを配布し、記載してもらう。記載内容は次回以降の授業の参考とし、適宜コメントや共有するなどする。
レビュークイズ（計 4 回を想定）実施の際には、回収後に解説の時間も設ける。

〔成績評価の方法〕
総合評価
内訳:
○理解：レビュークイズ　40%（各 10% x 4 回）
○貢献：毎回の講義に関する自身の意見提示や議論への参画　30%（リアクション・ペーパー、授業中の質疑・意見、グループワークを参照し総合的に評価）
○主体的作業：期末レポート　30% （国際協力に関する自らの問題意識についての考察。問題意識の精度、文献調査等の度合い、思考の整理度などを評価）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（成蹊大学学則 第 38 条「認定の資格」、39 条「履修の評価」）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. https://www.seikei.ac.jp/university/pdf/111010.pdf.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必須となる先修科目はないが、次に該当する受講生には理解が深まりやすいと思われる。
○国際社会や国の外交政策について強い関心がある学生
○外交や途上国支援、国際ビジネスなど、国際的なキャリア形成を考えている学生
○国際関係論・開発協力論などの基礎的理解がある学生

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
※本講義を受講する学生の皆さんを念頭に、国際協力に関連する和文図書を比較的新しいものを中心にいくつか選んでみました。アカデミック・教科書的なものから講義集・新書・エッセイ集までありますが、今まさに変わりつつある国際関係についても幅広く理解や関心を深めることができると思います。この授業のためだけでなく、これからの成蹊大学での学びを深め、自分と他者（日本と他国）のつながりを理解し、卒業後の進路や社会人生活を考えるうえでも参考になるかと思います。いずれも良書ですので、授業での指示がなくとも、少しでも関心のありそうなトピックがあれば図書館や書店で手に取ってみてください（項目内は順不同）。
○国際関係全般
『新版 国際関係学 - 地域社会を理解するために』、山田敦他編、有信堂（2025 年）
『はじめての戦争と平和』、鶴岡路人著、ちくまプリマー新書（2024 年）
『インド太平洋戦略 - 大国間競争の地政学』、ブレンドン・J・キャノン/墓田桂編著、中央公論新社（2022 年）
○国際協力（人道援助・開発協力）
『国際協力を学ぶ人のために』、内海成治他編、世界思想社（2024 年）
『これからの国際協力 - 私たちが望む未来のために』、高須直子/山形辰史編、有斐閣（2025 年）
『人間の安全保障 東大駒場 15 講』、阪本拓人/キハラハント愛編、東京大学出版会（2024 年）
『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』紀谷昌彦/山形辰史著、日本評論社（2019 年）
『聞き書 緒方貞子回顧録』、緒方貞子*他著、岩波現代文庫（2020 年）*元国連難民高等弁務官
『国際協力ってなんだ？ - つながりを創る JICA 職員の仕事』、大河原誠也編、ちくまプリマー新書（2025 年）
『紛争地の看護師』、白川優子*著、小学館文庫（2023 年）*国境なき医師団
○国際協力（防衛・安全保障協力）
『防衛外交とは何か - 平時における軍事力の役割』、渡部恒雄/西田一平太編、勁草書房（2021 年）
『国際平和協力』（シリーズ戦争学入門）、山下光著、創元社（2022 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	国際関係の歩み						
教員名	後藤　春美						
講義コード	125331150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

19 世紀から 20 世紀半ばにかけての国際関係の歩みを、とくにイギリス帝国の歴史、イギリスと東アジア、国際連盟と国際連合の成立に焦点を当てて概観します。イギリスを扱うのは、当該時期の世界、国際関係においてイギリスが大きな影響力を持っていたからです。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

19 世紀から 20 世紀半ばの国際関係についての理解を深めるとともに、20 世紀後半以降の国際関係を理解する上での基盤を習得することをめざします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・ガイダンス ・19 世紀半ばの自由貿易帝国主義について	【復習】　山口育人「帝国主義論」金澤周作監修『論点・西洋史学』(ミネルヴァ書房、2020 年)（成蹊大学図書館・3F 南・和図書　230/F57）、240-241 頁を読んで、そこに載せられている問いの答えを考える。（この教材は、CoursePower にアップするつもりです。）	60
第２回	帝国主義の時代へ―イギリスのエジプト占領	後藤、『岩波講座世界歴史』所収論文、6-9 頁を読む。下記参考書参照（論文名→参考書名で記載しています。）	60
第３回	南アフリカ戦争、日英同盟、日露戦争	後藤、『岩波講座世界歴史』所収論文、9 頁の最後の段落-17 頁を読む	60
第４回	20 世紀初頭のイギリス、自由党による改革	【復習】ピーター・クラーク『イギリス現代史 1900―2000』（下記参考書参照）51-59 頁を読む。	90
第５回	グローバルな戦争としての第一次世界大戦、イギリス帝国の変容	後藤、『第一次世界大戦と帝国の遺産』所収論文（下記参考書参照）、25-37 頁を読む。	90
第６回	19 世紀以来のイギリスと東アジア、第一次世界大戦と東アジア	後藤、『岩波講座世界歴史』所収論文、17-22 頁、34-35 頁を読む。	60
第７回	パリ講和会議、国際連盟の成立	後藤、『岩波講座世界歴史』所収論文、23-34 頁を読む。	60
第８回	戦間期イギリスの平和主義、国際連盟の集団安全保障、不戦条約	後藤、『岩波講座世界歴史』所収論文、35-42 頁を読む。	60
第９回	1920 年代～30 年代のイギリスの政治と経済	【復習】　ピーター・クラーク、113-127 頁を読む。	90
第１０回	1930 年代の危機（満洲事変、エチオピア戦争など）	後藤、『岩波講座世界歴史』所収論文、42-55 頁を読む。	60
第１１回	イギリスの対ドイツ宥和政策	後藤、『岩波講座世界歴史』所収論文、55-59 頁 3 行目を読む。	60
第１２回	第二次世界大戦と戦後国際秩序の模索、国際連合の成立	後藤、『岩波講座世界歴史』所収論文、59-67 頁を読む。	60
第１３回	第二次世界大戦後の展望――冷戦、脱植民地化、国際主義のゆらぎ	・後藤、岡本・飯田・後藤編著所収論文（下記参考書参照）、153-170 頁を読む。 【予習】この日までに読書レポートを提出。 【復習】到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。	120
第１４回	・到達度確認テスト ・テスト実施後、解説・質疑応答 ・読書レポートについてのコメント・講評 ・授業のまとめ	【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学習する。	60

〔授業の方法〕

授業は担当教員による講義です。
各回ごとの小テストなどはなく、冬休み明けに提出する「読書レポート」と最終授業時間に行う「到達度確認テスト」、および授業への取り組みの度合い（質問を投げかけた場合の回答など）によって評価します。
「読書レポート」は、19 世紀から 20 世紀半ばにかけてのイギリスや国際関係に関して、新書、文庫といった長さの本を読み、内容を紹介するとともに簡単な感想を書いてもらうものです。CoursePower にアップしてもらうつもりです。どのような本を取り上げても良いですが、何も思いつかない場合のために、初回のガイダンスで何冊かおすすめの本を紹介するつもりです。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

冬休み明けに提出する「読書レポート」に関しては、簡単なコメント・講評を伝える時間を第14回の「到達度確認テスト」終了後に設けます。
第14回の「到達度確認テスト」は60分程度のものとし、テスト終了後の同じ時間内に、ポイントと正答について解説します。

〔成績評価の方法〕
最終授業時間に行う「到達度確認テスト」40%
冬休み明けに提出する「読書レポート」30%
平常点（授業の際に投げかけた質問に対する回答など）30%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
特にありません。

〔参考書〕
論文名→参考書名で記載します。
1　後藤春美「世界大戦による国際秩序の変容と残存する帝国支配」
　『岩波講座世界歴史　20』（岩波書店、2022年）所収
　ISBN 978-4-00-011430-1　（成蹊大学図書館　3F南・和図書　209/I95/20）
2　後藤春美「二十世紀における国際体制の展開と平和」
　岡本隆司・飯田洋介・後藤春美編著『国際平和を歴史的に考える』（山川出版社、2022年）所収
　ISBN 978-4-634-44521-5　（成蹊大学図書館　1F南・授業関連　209.5/042）
3　後藤春美「イギリス帝国の危機と国際連盟の成立」
　池田嘉朗編『第一次世界大戦と帝国の遺産』（山川出版社、2014年）所収
　ISBN 978-4-634-67234-5　（成蹊大学図書館　3F南・和図書　209.71/I32）
4　ピーター・クラーク『イギリス現代史　1900-2000』（名古屋大学出版会、2004年）
　ISBN 4-8158-0491-5　（成蹊大学図書館　3F南・和図書　233.07/c76、自動書庫にもあり）
1と2は購入しても良いかもしれません。3と4はこの授業のためには購入の必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	国際関係論特講Ａ						
教員名	加藤　恵美						
講義コード	125331160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

近年、人の国際移動（international migration）がグローバルに拡大し、彼らに対する関心は高まっています。しかし、メディアなどを通じて得られる情報は乏しく、また偏りがあるといわざるをえません。この授業では、英語のテキスト（教科書）を用いて、またグループワークなどを行いながら、＜移民＞と<難民＞の現状と課題についての理解を多面的に深めます。そうして、あなたが人の国際移動に関する基礎的な知識を身に付け、これまで持っていた考えを相対化し、バージョンアップすることを助けます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

1）国際文化学の主要テーマの一つである「人の国際移動」に関する知識を修得している。
2）世界情勢の主要問題である「人の国際移動」を分析することができる。
3）「人の国際移動」を、時間的及び空間的に幅広いデータから眺め、それらを分析しつつ、的確な解釈を行うことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに：授業の進め方についての説明	次回授業の予習（１章の要約）	120 分
第２回	1 Why migration matters（人の国際移動はなぜ重要か）：１章の要約などグループワーク	今回授業の復習	60 分
第３回	１章に関するフォローアップ講義と到達度確認テスト（リアクションペーパーの提出）	次回授業の予習（２章の要約）	120 分
第４回	2 Who is a migrant?（国際移動者とは誰か）：２章の要約などグループワーク	今回授業の復習	60 分
第５回	２章に関するフォローアップ講義と到達度確認テスト（リアクションペーパーの提出）	次回授業の予習（３章の要約）	120 分
第６回	3 Migration and globalization（人の国際移動とグローバル化）：３章の要約などグループワーク	今回授業の復習	60 分
第７回	３章に関するフォローアップ講義と到達度確認テスト（リアクションペーパーの提出）	次回授業の予習（４章の要約）	120 分
第８回	4 Migration and development（人の国際移動と開発）：４章の要約などグループワーク	今回授業の復習	60 分
第９回	４章に関するフォローアップ講義と到達度確認テスト（リアクションペーパーの提出）	次回授業の予習（５章の要約）	120 分
第１０回	5 Irregular migration（非正規の人の国際移動）：５章の要約などグループワーク	今回授業の復習	60 分
第１１回	５章に関するフォローアップ講義と到達度確認テスト（リアクションペーパーの提出）	次回授業の予習（６章の要約）	120 分
第１２回	6 Refugees and asylum-seekers（難民と庇護希望者）：６章の要約などグループワーク	今回授業の復習	60 分
第１３回	６章に関するフォローアップ講義と到達度確認テスト（リアクションペーパーの提出）	全体の復習	120 分
第１４回	おわりに：全体に関するフォローアップ講義と到達度確認テスト（リアクションペーパーの提出）	今回授業の復習	60 分

〔授業の方法〕

・グループワークを中心的に行う回（偶数回）と、その成果をベースとしたフォローアップ講義を行う回（奇数回）を交互に組み合わせます。
・フォローアップ講義を行う回（奇数回）の「到達度確認テスト」はリアクションペーパーの作成（自由記述）を意味します。授業を通じて得た知識をまとめることに加え、その時点で「わからないこと・もっと知りたいこと」を指摘してもらいます。
・この授業では英語のテキストを用いますが、授業の主要な到達目標があなたの英語力を上げることより人の国際移動に関する知識を身につけ考えることの方にあるため、翻訳アプリ等の利用を認めます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

・おすすめの翻訳アプリは、授業内で紹介します。

〔課題等へのフィードバック方法〕

・全体として教場でのフィードバックを重視した授業運営を行います。

〔成績評価の方法〕

平常点１００％
・授業への参加状況５０％：グループワークへの貢献度。履修者がグループメンバーの貢献度評価（ピアレビュー）を行い、その結果を反映します。
・到達度確認テスト５０％：リアクションペーパーを量的・質的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
Khalid Koser "International Migration: A Very Short Introduction (2nd edn)", Oxford University Press, 2016.
※電子書籍の購入でも問題ありません。

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング,(6)ＩＣＴ活用

講義名	平和学特講Ａ						
教員名	都築　正泰						
講義コード	125331180	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】　国連秩序と日米同盟のあいだで考える日本の外交・安全保障政策

【概要】

平和学は、「平和」を実現すべき価値として捉え、その条件を探究する学問として発展してきた。本講義はその問題意識を踏まえつつ、現実の国際政治において平和がどのような制度や政策選択によって支えられてきたのかを、安全保障政策の視点から考察する。

戦後日本の外交・安全保障政策は、国連を中心とする国際秩序と、日米同盟を中心とする同盟秩序という、二つの異なる枠組みのあいだで形成されてきた。日本の安全は実体としては日米同盟によって支えられてきた。その一方で国連は、かつて「敵国」と位置づけられた日本の行動を「平和愛好国」として国際的に位置づけ直し、日本の外交・安全保障政策を国際規範の枠組みの中で意味づけてきた。日米同盟についても、かつては日本の再軍事化を防ぐ「瓶の蓋（びんのふた）」としてとらえる見方もあったが、現在では地域や国際秩序に貢献する「希望の同盟」として位置づけられている。

本講義では、日本の事例を通じて、戦後の国連秩序と同盟秩序がそれぞれどのように形成・変容してきたのかを検討し、そうした環境変化のなかで日本自身がどのような外交・安全保障政策を選択してきたのか、その軌跡をたどる。単なる賛否ではなく、政策が選択されたその当時の国際環境と内政状況を踏まえた内在的理解を重視する。

以上を通じて、履修者が激動する国際政治のもとで、日本の平和と安全をどのように考えるべきかについて、有権者・市民として政策を選択するための判断の知的基盤を築くことを目的とする。

なお、担当教員は、日本政府および国連（おもに安保理）における政策実務経験を有する（内閣官房（国家安全保障局参事官補佐）および外務省（国連代表部専門調査員）等）。守秘義務を配慮しつつ公開可能な範囲で、政策現場の臨場感を授業内で適宜共有したい。

おおよそ下記の授業計画にしたがって講義を展開するが、履修者の関心を踏まえて部分的に変更する場合がある。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

本講義を通じて、各履修者は次の 3 点の目標に到達することを目指す。

1.　国連秩序と日米同盟という二つの国際秩序の枠組みを踏まえ、戦後日本の外交・安全保障政策の基本構造とその歴史的展開を巨視的観点から説明できるようになる。

2.　国際政治における基本的制約を理解したうえで、日本の外交・安全保障政策を、各時代の国際環境・内政状況に即した政策選択として、その背景や論理を踏まえて分析・評価できるようになる。

3.　外交・安全保障政策の選択が社会や国際秩序に与える影響を理解し、感情的な賛否に影響されることなく、責任ある有権者・市民として政策を考え議論・選択するための基礎的思考力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスに目を通し、本講義で何を学びたいかを整理しておくこと。また、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係について考えておくこと。	60 分
第２回	国際連合（国連）の創設―「不戦」体制、「世界の警察官」と「敵国」条項	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第３回	戦後日本の政策原点―日本国憲法第 9 条と「芦田修正」	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第４回	冷戦の衝撃―講和・主権回復、再軍備、日米安保条約	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第５回	日本の国連加盟、日米安保条約改定	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第６回	沖縄返還と核問題―「非核三原則」と日米同盟の選択	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第７回	米中関係の転換―国連中国代表権問題、日中関係正常化	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第８回	湾岸戦争の衝撃―PKO 協力法の制定、「国際平和協力」の模索	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第９回	9.11 テロ事件とイラク戦争の余波―国連・米国関係の緊張、安保理改革、「保護する責任」、「Robust PKO」	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第１０回	世界秩序の多極化―　国連の機能不全の再顕在化と「世界の警察官」から後退する米国に直面する日本の選択	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第１１回	第二次安倍政権の政策転換①―平和安全法制（とくに集団的自衛権の限定的容認）	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第１２回	第二次安倍政権の政策転換②―国家安全保障戦略、国家安全保障会議（NSC）	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返るこ	60 分

		と。	
第１３回	第二次安倍政権の政策転換③―「自由で開かれたインド太平洋」構想	教科書および講義資料、関係原典文書を事前に読み、授業内容と現在の外交・安全保障上の政策課題との関係を考えておくこと。授業後には、学びの内容を振り返ること。	60 分
第１４回	総括	これまでの授業全体の内容と現在の外交・安全保障上の具体的な政策課題との関係を考えておくこと。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式を基本とする。他方で、各履修者からの発言の機会を適宜確保しながら双方向性を意識した授業展開を目指す。（履修者からの発言時間の確保が困難な場合には授業終了後にリアクションペーパーの提出を求める場合がある。）
各回の講義では、テキスト、担当教員から事前に提示する講義資料（レジュメ）および関係原典資料（政策文書および当事者の回顧録等）を適宜予習したうえで参加することが期待される。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
基本的に授業内で講評する。

〔成績評価の方法〕
平常点（20%）と期末試験（80%）を組み合わせた総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
平常点とは、各回の授業の出席状況だけではなく、授業内の発言やリアクションペーパーの内容による全体の議論への貢献度を重視した評価である。
期末試験については、基礎知識の理解度を確認する問いを若干含むが、基本的には論述問題である。持込資料は、各履修者が自ら作成した手書きのメモ（A4・1 枚以内）に限定して認めるが、その詳細については授業内で説明する。なお、そのメモは試験答案と一緒に提出することを求める予定。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目はなし（※予備知識がなくとも、国際情勢への関心と学びに対する意欲があれば授業についていくことは可能）

〔テキスト〕
○教科書：五百旗頭真編『戦後日本外交史　第 3 版補訂版』（有斐閣、2014 年）。
本書は、戦後日本の外交・安全保障政策の基本的な歴史的展開を把握するための共通の基礎資料として用いる。ただし、授業内容は本書の記述を超えて展開されるため、講義資料および配布資料とあわせて参照すること。
○課題図書：安倍晋三『安倍晋三回顧録』（中央公論新社、2023 年）。
本書は、特定の政治指導者の外交・安保政策に関する内在的論理を分析するための素材として用いる。第 11 回・12 回・13 回で扱う事項について同書の関連部分の精読を求める。
○外交・安保政策文書の検索先：田中明彦　データベース「世界と日本」
各回の授業で参照する原典文書を確認するうえで適宜活用すること（活用方法は適時説明していく）。

〔参考書〕
以下は本講義内容と密接に関連する書籍である。履修者がさらに理解を深めるための参考として提示するものであり、購入の必要はない。
・田中明彦『安全保障：戦後 50 年の模索』（1997 年、読売新聞社）
・北岡伸一『日本政治史：外交と権力　増補版』（2017 年、有斐閣）
・植木安弘『国際連合：その役割と機能』（2018 年、日本評論社）
・細谷雄一『国際連合の誕生』（2025 年、ミネルヴァ書房）
・鶴岡路人『はじめての戦争と平和』（2024 年、ちくまプリマー新書）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。その他の場合には、まず E メールで担当教員に相談してください。

〔特記事項〕

講義名	グローバル・イシューズ						
教員名	丸山　則夫						
講義コード	125331200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

絡み合うグローバル・イシューズと地政学リスク　-日本はいかに立ち向かうか-

この授業では、将来グローバル人材として活躍したいと考えている学生はもちろんのこと、これまで外国で起こっていることや国と国との関係を身近なこととして感じてこなかった学生も対象に、国境を越えて影響が広がる深刻な課題であるグローバル・イシューズと、それと相互に強く影響しあう地政学リスクについて、講師の外交の現場での実務経験を踏まえ、日本はそれらにどう立ち向かうか、という視点から取り上げる。具体的には、相互に影響しあうグローバル・イシューズと地政学リスクの関連性、日本を取り巻く国際情勢、日本の脆弱性と強み、日本が持っている対応手段などを学び、それにより学生が国際問題を分野横断的・構造的にとらえる力を養うことを目的としていることから、グローバル・イシューズや地政学についての網羅的、体系的、専門的な知識の修得を求める学生は別の授業等で補完することを推奨する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

①日本の地政学的特徴や日本を取り巻く国際情勢について学び、日本が地政学リスクの影響を受けやすい国であることを理解する。
②グローバル・イシューズと地政学リスクの相互の関連性を学び、グローバル・イシューズへの対応は日本にとっては地政学リスク管理の観点からも重要であることについて理解する。
③グローバル・イシューズや地政学リスクに対応するために日本が持っている手段や強みは何かについて理解する。
④以上を修得した上で、グローバル・イシューズと地政学リスクを分野横断的・構造的にとらえる力を身に付け、その視点から、これらの課題やリスクに日本はどのように立ち向かうことができるのかについての自分の考えが説明できるようになることを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	第一回　グローバル・イシューズと地政学リスクの関連性 第一回ではグローバル・イシューズと地政学リスクがどのように相互に影響し合っているのかにつき学び、どのような人々、組織がグローバル・イシューズに関わっているのかにつき学ぶ。また、グローバル・イシューズ対応をはじめとする外交・安全保障政策についての日本の意思決定過程とそれらの政策の企画・立案・実施に関わる外務省他の仕組みにつき学ぶ。	毎回の準備学修（予習、復習等）の具体的な内容 準備としては、次の回の授業で学ぶコンテンツが掲載されているウェブサイトのページを確認し、それらに目を通しておくとともに、授業でもすぐに参照できるようにブックマークまたはダウンロード等しておくこと。どのウェブサイトを確認すべきかについては随時周知する。 復習としては、授業を通じ学んだ内容を自分の言葉で語ることができるか、実際に試してみること。学生同士で語り合うもよし、文章に落としてみるもよし。	準備学習の目安は予習、復習あわせて６０分～９０分程度だが、復習にはより多くの時間を費やすことが望ましい。
第２回	第二回　現下の国際情勢の概観 第二回ではグローバル・イシューズと地政学リスクの背景を理解するため、現下の国際情勢を概観する。また、グローバル・イシューズ、地政学リスクがいかなる「場」（国際会議等）で議論されているかを学ぶ。	同上	同上
第３回	第三回　国際連合とグローバル・イシューズ、地政学リスク 第三回では国際社会がグローバル・イシューズに取り組むにあたっての中心的な組織である国連をとりあげる。前半では国連の組織と機能を概観し、その多岐にわたる役割の中から、グローバル・イシューズに対し担っている役割を学ぶ。後半では安全保障理事会を取り上げ、地政学リスクとの関連で、その役割、課題について学ぶ。	同上	同上
第４回	第四回　地政学リスクと日本:の対応（その１）　-日本の安全保障政策- 第四回から第六回までは日本にとっての地政学リスクとその対応を取り上げる。 第四回では日本を取り巻く安全保障環境を概観し、それを踏まえての日本の安全保障政策につき学ぶ。	同上	同上
第５回	第五回　地政学リスクと日本の対応（その２）　-経済安全保障- 第五回では地政学リスクが具体的に日本の経済に与える影響を理解し、その対応としての経済安全保障の考え方につき学ぶ。	同上	同上
第６回	第六回　地政学リスクと日本の対応（その３）　-領土・主権- 第六回では地政学リスクとの関連で領土・主権を取り上げ、①北方領土、②尖閣諸島、③竹島につき、過去の経緯、現状について学び、日本と隣国との関係を理解する。また、この関連で④北朝鮮問題についても取り上げる。	同上	同上
第７回	第七回　グローバル・イシューズと政府開発援助　-その考え方と仕組み- 第七回から第十回まではグローバル・イシューズの中でも地政学リスクとの関連が強い分野をいくつかとはりあげ、それらに対応するにあたって日本にはどのような手段や強みがあるのかについて学ぶ。第七回では日本の手段と強みの中核をなす政府開発援助の基本的な考え方と、政府開発援助の形態（無償資金協力、有償資金協力、技術協力等）、実施機関（JICA）を取り上げ、それらの概要を理解する。	同上	同上
第８回	第八回　グローバル・イシューズと地政学リスク（その１）　-感染症と気候変動- 第八回では感染症と気候変動を取り上げ、グローバル・イシューが地政学リスクを高める仕組み、日本の対応の特徴、その強み等について考える。さらに、日本の技術面での強みがいかに対応手段として活用できるかにつき具体例に即して学ぶ。	同上	同上

第９回	第九回　グローバル・イシューズと地政学リスク（その２）　-防災- 第九回では防災をとりあげ、災害と他のグローバル・イシューズとの関係、災害が地政学リスクをいかに高めるかにつき学び、「防災先進国」である日本がその強みをどのように活用できるかについて考える。	同上	同上
第１０回	第十回 グローバル・イシューズと地政学リスク（その３）　-偽情報- 第十回では偽情報をとりあげる。偽情報は国境を越え、分野を横断し、国家単独では制御できないという点で典型的なグローバル・イシューであり、偽情報が引き起こす地政学リスクについて学ぶ。その対応策の関連で日本のスポークスパーソン（内閣官房長官他）と各国に駐箚する大使の役割、情報発信の手段、仕方につき学ぶ。	同上	同上
第１１回	第十一回　地政学リスクの管理　-平和構築と軍備管理・軍縮- 第十一回では地政学リスクを管理する手段として、平和構築と軍備管理・軍縮を取り上げる。地政学リスク管理のため、日本にはどのような手段があり、何ができるかにつき考える。この関連で、国連平和維持活動への参加、海賊対処といった自衛隊の国外での活動についても学ぶ。	同上	同上
第１２回	第十二回　外国にいる日本人をどう守るか: -邦人援護- 第十二回では、地政学リスクに大きな影響を受ける国外に住む日本人がトラブルに遭遇した際、政府はどのように援護できるか、実際の現場での経験に基づき具体的に学ぶ。	同上	同上
第１３回	第十三回　アフリカ開発会議（TICAD）　-日本主導の国際議論の場- 第十三回ではこれまでに学んだことのすべてに関係する日本が主導する国際会議である「アフリカ開発会議（TICAD)」を取り上げる。TICAD は日本が国連などと共に３年に１度開催する、アフリカの首脳が一堂に会する大型国際会議であり、すでに３０年以上の歴史を持つ。その日本にとっての意義を学ぶ。	同上	同上
第１４回	第十四回　総括　ディスカッション方式による演習 最終回である第十四回ではこれまでに学んだことの総括としてディスカッション方式による演習を行う。詳細については未定。	同上	同上

〔授業の方法〕
授業は講義を中心とし、授業の最後に時間が許す限り質問の時間を設ける。１４回の授業のうち、テーマによっては実務者をゲストに迎えて，簡単なプレゼンテーションと学生とのディスカッションを予定。ゲストの都合によっては授業の順番が当初の予定と前後することもあり得るため、変更がある場合には周知する。授業では必要に応じ、指定されたウェブコンテンツを各自が各自のデバイスで授業中に閲覧することを想定している。なお、時間の制約から１回で説明しきれなかった内容については原則次の回で取り上げる。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
評価項目は次のとおり。
学期末試験：４０％
平常点（授業への参加状況、授業態度)：６０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	文化人類学入門 I						
教員名	綾部　真雄						
講義コード	125332100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

文化人類学とは、世界各地の人々の文化や思考様式に対する「共感力」と、地域的な事象や一見特殊に思える現象から出発してより普遍的な人類像を確立するための力、すなわち「遠心的想像力」を養うための学問である。我々はついつい、自文化にとっての「あたりまえ」が異文化にとっての「あたりまえ」とは異なるという単純な事実を忘れがちだが、その忘却は時に、異なる文化間、国家間に横たわる大きな確執や偏見を助長する。それを避けるためには、やはり「共感力」と「遠心的想像力」が必要である。

本講義では、こうした観点から出発し、世界各地のローカルな文化や歴史的事実を紹介しながら、それぞれのトピックの中に「人間」という存在をより包括的にとらえなおすための様々なヒントを見出そうとする。それはそのまま、長期のフィールドワークに基づいて執筆されたエスノグラフィ（民族誌）や文化人類学的知見の紹介であると同時に、初学者向けの文化人類学の概説ともなる。

ただし、文化人類学は「失われた文化／失われつつある文化」のノスタルジックな探求ではない。文化人類学は、常に人類の「今」を切り取るための視点をヴァージョンアップし続けて今に至る。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・世界各地のローカルなものの見方への共感力を身につける
・自己の視点を相対化する力を身につける
・様々な民族誌的事例の学習を通じて、世界の人々の暮らしぶりや価値感の多様性を理解する
・リアクション・ペーパーの執筆とその講評を通じて、論理運用能力と分析力を身につける
・各種映像の視聴を通じて、知識とイメージを有機的にリンクさせる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	人類学という仕掛け（1）　モンシロチョウは赤いスイートピーの夢を見るか	講義資料の事前確認	30 分
第２回	人類学という仕掛け（2）　「初期設定（デフォルト）」の人類学	講義資料の事前確認	30 分
第３回	人類学という仕掛け（3）　映像視聴	リアクションペーパーの執筆	60 分
第４回	人類学の思想（1）　文化相対主義と普遍主義	講義資料の事前確認	30 分
第５回	人類学の思想（2）　生命との対話	講義資料の事前確認	30 分
第６回	人類学の思想（3）　方法としてのフィールドワーク	講義資料の事前確認	30 分
第７回	人の分類（1）　人種の虚実①	講義資料の事前確認	30 分
第８回	人の分類（2）　人種の虚実②	講義資料の事前確認	30 分
第９回	人の分類（3）　映像視聴	リアクションペーパーの執筆	60 分
第１０回	人の分類（4）　同時代のエスニシティ①	講義資料の事前確認	30 分
第１１回	人の分類（5）　同時代のエスニシティ②	講義資料の事前確認	30 分
第１２回	見えないものとの対話（1）　アイデンティティ再考①	講義資料の事前確認	３０分
第１３回	見えないものとの対話（2）　アイデンティティ再考②	講義資料の事前確認ならびにリアクションペーパーの執筆	60 分
第１４回	.総括：現代世界と向き合うための「技術」としての人類学	講義資料の事前確認	30 分

〔授業の方法〕

座学的な講義を中心とするが、合計で 4 回程度のリアクションペーパーの執筆を課し、講義中にその講評を行うことで一定のフィードバックを行う。また、受講者の人数に応じてグループワークを一定程度取り入れることも考慮する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

定期的に執筆してもらうリアクションペーパーの講評を講義内で行うと同時に、優秀なリアクション（無記名）をポータルに掲載して受講者に参照してもらえるようにする。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加態度やリアクションペーパーの提出状況）　30～40%　※リアクションペーパーの提出回数は3回もしくは4回を想定している。回数は授業の進行状況に応じて変動する可能性がある。
期末レポートの得点　60～70%（リアクションペーパーの提出回数と連動する）
なお、出席票を配布して出欠を管理し、正当な理由のない欠席回数が5回を超えた者には成績を付与しない。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
初学者向けの授業であるため、予備知識がある必要はない。ただし、参考書に掲載した文献のうちのいずれかに事前に目を通しておくことを推奨する。また、高度な英語は用いないが、一定程度の英語文献の講読力があることが望ましい。

〔テキスト〕
固定したテキストは用いず、講義中に適宜指示する。
（購入の必要なし）

〔参考書〕
・綾部恒雄・桑山敬己編　『よくわかる文化人類学』（第3版）ミネルヴァ書房、2025年
・桑山敬己・綾部真雄編　『詳論　文化人類学』ミネルヴァ書房、2018年
・綾部真雄編著　『私と世界―６つのテーマと１２の視点―』メディア総合研究所、2011年
・横山 智・湖中真哉・由井義通・綾部真雄・森本 泉・三尾裕子編『フィールドから地球を学ぶ－地理授業のための 60 のエピソード－』古今書院、2023年
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	文化人類学入門Ⅱ						
教員名	綾部　真雄						
講義コード	125332110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

前期の「文化人類学入門Ⅰ」に続き、初学者向けに文化人類学の基本について多角的な解説を行う。「入門Ⅰ」が基本的な概念や考え方の確認を中心としていたのに対し、「入門Ⅱ」では中心的なトピックを 3 点設定し、より具体的な事例を通じた説明を心がける。なお、「入門Ⅰ」の受講を経ない「入門Ⅱ」からの受講も十分に可能である。

文化人類学とは、世界各地の人々の文化や思考様式に対する「共感力」と、地域的な事象や一見特殊に思える現象か　ら出発してより普遍的な人類像を確立するための力、すなわち「遠心的想像力」を養うための学問である。我々はついつい、自文化にとっての「あたりまえ」が異文化にとっての「あたりまえ」とは異なるという単純な事実を忘れがちだが、その忘却は時に、異なる文化間、国家間に横たわる大きな確執や偏見を助長する。それを避けるためには、やはり「共感力」と「遠心的想像力」が必要である。

本講義では、こうした観点から出発し、世界各地のローカルな文化や歴史的事実を紹介しながら、それぞれのトピックの中に「人間」という存在をより包括的にとらえなおすための様々なヒントを見出そうとする。それはそのまま、長期のフィールドワークに基づいて執筆されたエスノグラフィ（民族誌）や文化人類学的知見の紹介であると同時に、初学者向けの文化人類学の概説ともなる。

ただし、文化人類学は「失われた文化／失われつつある文化」のノスタルジックな探求ではない。文化人類学は、常に人類の「今」を切り取るための視点をヴァージョンアップし続けて今に至る。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・世界各地のローカルなものの見方への共感力を身につける
・自己の視点を相対化する力を身につける
・様々な民族誌的事例の学習を通じて、世界の人々の暮らしぶりや価値感の多様性を理解する
・リアクション・ペーパーの執筆とその講評を通じて、論理運用能力と分析力を身につける
・各種映像の視聴を通じて、知識とイメージを有機的にリンクさせる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス　文化という豊かな無駄	講義資料の事前確認	30 分
第２回	人は交わす（1）　課題文読解およびリアクションペーパーの講評	講義資料の事前確認とリアクションペーパーの執筆	60 分
第３回	人は交わす（2）　交換と全体性の経済①	講義資料の事前確認	30 分
第４回	人は交わす（3）　交換と全体性の経済②	講義資料の事前確認	30 分
第５回	人は交わす（4）　贈与としての国際協力	講義資料の事前確認	60 分
第６回	人は分かつ（1）　課題文の読解およびリアクションペーパーの講評	講義資料の事前確認とリアクションペーパーの執筆	30 分
第７回	人は分かつ（2）　分類論メモランダム	講義資料の事前確認	30 分
第８回	人は分かつ（3）　ジョークとスティグマ	講義資料の事前確認	30 分
第９回	人は分かつ（4）　ケガレを読み解く①	講義資料の事前確認	60 分
第１０回	人は分かつ（5）　ケガレを読み解く②	講義資料の事前確認	30 分
第１１回	.人は祀る（1）　課題文の読解およびリアクションペーパーの講評	講義資料の事前確認とリアクションペーパーの執筆	60 分
第１２回	人は祀る（2）　儀礼的生き物としての人間	講義資料の事前確認	３０分
第１３回	人は祀る（3）　儀礼における意味と規則	講義資料の事前確認	60 分
第１４回	人は祀る（4）　調和と紛争の二律背反　/　全体のまとめ	講義資料の事前確認	30 分

〔授業の方法〕

座学的な講義を中心とするが、合計で 3 回から 4 回程度のリアクションペーパーの執筆を課し、講義中にその講評を行うことで一定のフィードバックを行う。また、受講者の人数に応じてグループワークを一定程度取り入れることも考慮する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
定期的に執筆してもらうリアクションペーパーの講評を講義内で行うと同時に、優秀なリアクション（無記名）をポータルに掲載して受講者に参照してもらえるようにする。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加態度やリアクションペーパーの提出状況）　30～40%　※リアクションペーパーの提出回数は 3 回もしくは 4 回を想定している。回数は授業の進行状況に応じて変動する可能性がある。
期末レポートの得点　60～70%（リアクションペーパーの提出回数と連動する）
なお、出席票を配布して出欠を管理し、正当な理由のない欠席回数が 5 回を超えた者には成績を付与しない。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
初学者向けの授業であるため、予備知識がある必要はない。ただし、参考書に掲載した文献のうちのいずれかに事前に目を通しておくことを推奨する。また、高度な英語は用いないが、一定程度の英語文献の講読力があることが望ましい。

〔テキスト〕
固定したテキストは用いず、講義中に適宜指示する。
（購入の必要なし）

〔参考書〕
・綾部恒雄・桑山敬己編　『よくわかる文化人類学』（第 3 版）ミネルヴァ書房、2025 年
・桑山敬己・綾部真雄編　『詳論　文化人類学』ミネルヴァ書房、2018 年
・綾部真雄編著　『私と世界―６つのテーマと１２の視点―』メディア総合研究所、2011 年
・横山 智・湖中真哉・由井義通・綾部真雄・森本 泉・三尾裕子編『フィールドから地球を学ぶ－地理授業のための 60 のエピソード－』古今書院、2023 年
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	民族文化論						
教員名	椎野　若菜						
講義コード	125332120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

異文化を理解するための、文化人類学の入門講座です。文化人類学とは、フィールドワークという調査法を通じて、人間と文化を探求する学問です。文化人類学の視点から世界を見るとどう見えるか、この授業で体験してみてください。他者を知ることで自分を知り、異文化を知って自文化を問い直すことで、新たに見えてくるものがきっとあります。知らないうちに内面化している「アタリマエ」を問い直すための視座を培い、それを実際に使ってみましょう。授業では受講者数によりますが、可能ならばグループディスカッションを積極的に行います。文化人類学がどのように生まれ展開してきたかも、テーマに沿って学びます。五感をフル回転させて、学ぶ楽しさを味わってください。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP２（教養の修得）および DP４（表現力、発信力）を身につけるため以下の４点を到達目標とする。

- 文化人類学の学説史的な展開や、ものの見方について基礎的な知識を養う。
- 自分の価値観や「当たり前」を相対化できる視点を育む。
- 異文化に対する敬意と好奇心を持ち、自分化と異文化を知的に往還する態度を培う。
- ほぼ毎回行うグループ・ディスカッションを通じてコミュニケーション力／対話力を養成する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学とは何か 異文化理解とフィールドワーク	予習：シラバスを読んで授業のテーマや目標を把握すること。 復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第２回	環境と人間	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第３回	結婚の多様性	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第４回	家族と親族	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第５回	民族と国家、植民地主義	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第６回	フィールドワークと衣食住１：衣について＜テキスト＞	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第７回	フィールドワークと衣食住２：住まいについて＜テキスト＞	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第８回	フィールドワークと衣食住３：食べ物について＜テキスト＞	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第９回	「社会問題」から考える１＜テキスト＞	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１０回	「社会問題」から考える２＜テキスト＞	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１１回	「社会問題」から考える３＜テキスト＞	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１２回	「社会問題」から考える４＜テキスト＞	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１３回	到達度確認テスト	復習：参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１４回	沖縄からみる日本と世界	復習：到達度確認テストの講評を確認し、誤答部分についてレジュメや資料を読み直して確認する。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分

〔授業の方法〕

基本的には講義形式で必要に応じて映像資料も使いながら進めます。ほぼ毎回、グループ・ディスカッションがあります。積極的に他の受講生とコミュニケーションを取ってください。グループディスカッションについては、受講生の人数が非常に多い場合には、教育効果を鑑み、他の代替的方法を取ることがありえます。また、授業はいわばライブなので、受講生の要望や必要に応じて臨機応変に進めます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業コメント（リアクションペーパー）の内容は匿名化ののち、受講生全員に共有します。質問などがあれば授業コメントに書いてください。全員に共有したうえで回答します。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（80%）および平常点（授業でのディスカッションおよび授業への参画度（10%）、コメントシート等の提出状況（10%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
到達目標に達しているかどうかを重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目は特になし。文化人類学系の関連科目を並行して取ることが望ましいです。
予備知識は要りませんが、提示された参考文献などを自発的に読む積極性を求めます。

〔テキスト〕
社会問題と出会う（ＦＥＮＩＣＳ100 万人のフィールドワーカーシリーズ 7）白石壮一郎・椎野若菜 編、古今書院、3740 円、ISBN　9784772271288
衣食住からの発見（FENICS　100 万人のフィールドワーカーシリーズ 11）佐藤靖明・村尾るみこ 編、古今書院、2860 円、ISBN9784772271325

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。
石川栄吉・大林太良・佐々木高明他編、1994『文化人類学事典』弘文堂などの辞典類が大学図書館のどこにあるかは把握しておき、適宜参照してください。購入の必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業中、ポータルサイトにて周知する。

〔特記事項〕

講義名	フィールドワーク論						
教員名	椎野　若菜						
講義コード	125332130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

文化人類学の背骨にあたるのが、フィールドワークという調査方法です。文化人類学者とは、世界中どこであっても、調査地に赴き、長期間そこに住み、自分の目で見、自分の耳で聞いて、動態的な文化を体感することを通じて研究する研究者のことです。感性を磨き、できるだけ良い目と耳を持ってフィールドに居着き、フィールドワークからできるだけ多くのことを感知し、それを第三者にわかるように言語化することが、その仕事です。その文化を内面化していない人の「異人の目」は、フィールドワークを豊かにします。
この授業は、フィールドワークの方法を学び、調査する力と書く力、両方を鍛える実践的な授業です。フィールドワーカーによる実際の経験に基づくテキストを読み、フィールド調査の方法を学ぶ。
各自で実際にフィールド調査を行い、調査にもとづいてレポートを提出していただきます。
社会学など隣接分野で調査を予定している他学科の学生も歓迎します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-4（文化人類学の基本的な理念、概念、および方法論として重要なフィールドワークの手法を習得し、自ら課題発見をして異文化理解と異文化間コミュニケーションに応用することができる）を身につけるため、以下を到達目標とします。
- 文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めます。
- 実際にフィールドワークを行う際に必要となる技法を身につけます。
- 異文化理解に必要となる知見を深化し、グローバルな社会への柔軟な適応力を培います。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第２回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ 人に受け入れられるか	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第３回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ どうやってフィールドを選ぶか	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第４回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ フィールドとの出会い	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第５回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ 協働する	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第６回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ 役割をもらう	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 ＊フィールドを選定し、フィールド予定地調査票に記入し、提出する。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第７回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ パフォーマーになる	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第８回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ それぞれの FW テーマをかためていく	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第９回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ 入ったら、どうするか	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１０回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ ジェンダー・セクシュアリティとフィールド	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１１回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ ジェンダー・セクシュアリティとフィールド	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１２回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ ジェンダー・セクシュアリティとフィールド	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１３回	「フィールドに入る」方法を経験から学ぶ 実際の FW に関する質問 子連れフィールドワーク	自分の FW に必要な事前準備を各自で行い、授業時に質問ができるようにする。	60

第１４回	まとめ―文化人類学が照射するもの	自らの FW に必要な準備を各自で行う。	60

〔授業の方法〕
授業はテキスト『フィールドに入る』『女も男もフィールドへ』の 2 冊を用いる。受講者は、担当する章を選び、発表してもらい、みなで要点をあげ議論します。
冬休みまでに実際にフィールド調査を各自で行い、結果をレポートにして提出してもらいます。各自でフィールドを設定して個々人で調査を行います。
調査先に迷惑をかけないための基本的な作法を身に着けたのちにフィールドに出ていただきます。調査先で失礼のないように、授業はきちんと受講してください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業コメントは毎回共有してフィードバックします。
意見やレポート講評の時間を設ける予定です。

〔成績評価の方法〕
授業参画 30%、レポート 70%。実際に自分で調査地を選定し、調査を行い、レポートにまとめるという作業が重要です。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深め、実践にむすびつけることができた。
異文化理解に必要となる知見を深化させることができた。
グローバルな社会への柔軟な適応力を培った。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
学科の専門科目として様々な文化人類学関係の科目が開講されているので、あわせて受講すると理解が深まります。

〔テキスト〕
1.『フィールドに入る（FENICS　100 万人のフィールドワーカーシリーズ 1）』椎野若菜・白石壮一郎 編、古今書院、2860 円、ISBN　9784772271226
2.『女も男もフィールドへ』（FENICS 100 万人のフィールドワーカーシリーズ 12）椎野若菜・的場澄人編、古今書院、3520 円、ISBN9784772271332

〔参考書〕
フィールドワークの安全対策（FENICS　100 万人のフィールドワーカーシリーズ 9）澤柿　教伸・野中　健一・椎野　若菜 編、古今書院、3740 円、ISBN 9784772271301
社会問題と出会う（ＦＥＮＩＣＳ100 万人のフィールドワーカーシリーズ 7）白石壮一郎・椎野若菜 編、古今書院、3740 円、ISBN　9784772271288

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
質問を歓迎します。質問や相談がある方は、授業内で開示するメールアドレスに適宜メールをください。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	文化人類学特講Ⅰ						
教員名	大坪　玲子						
講義コード	125332140	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
本講義では文化人類学の考え方からイスラームの基礎的な知識を習得し、担当教員が調査してきたイエメン共和国等の具体的な事例を通して、文化を比較しながら理解することを学ぶ。イスラームははるか遠くの異文化ではない。五感をフルに使い、身近にあるイスラーム文化も視野に入れて議論していきたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
イスラームの基礎的な知識を習得し、イエメンの事例を通してイスラーム文化の多様性を理解する。ディプロマシーポリシーの DP2 を目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第２回	イスラーム入門その１	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第３回	イスラーム入門その２	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第４回	嗜好品とドラッグその１	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第５回	嗜好品とドラッグその２	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第６回	イエメン概要	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第７回	部族民はどこにいるか	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第８回	カートを噛む	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第９回	コーヒーとカート	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１０回	イエメン史とカート	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１１回	カートとマナー	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１２回	カートを売買する	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１３回	移民と嗜好品	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１４回	到達度確認テスト	テストで解答できなかったところを確認する。	60 分

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で進める。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
原則として締切後の授業で講評する。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト 60%、課題 30%、平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）10%。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	文化人類学特講Ⅱ						
教員名	石田　慎一郎						
講義コード	125332150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、文化人類学の考え方と方法を学ぶ。

講義全体を貫く関心は、文化人類学の４つの方法的特徴、（１）文化相対主義（人類文化の多様性に対する寛容な理解）、現場主義（フィールドワークをつうじた実証研究）、全体論的アプローチ（文化・社会における部分と全体との関係を深く理解する）、比較（比較を通じた人類の多様性と普遍性の探求）を、具体的な研究事例を通じて理解することである。

第１回から第８回までは、家族内の人間関係をめぐる身近な（現代日本の）諸問題を、文化人類学的視点から批判的に思考し、文化相対主義の考え方と比較研究の実践例を学ぶ。第９回から第 14 回は、担当教員が実施しているケニア中央高地における文化人類学調査を参考に研究方法（フィールドワークならびに全体論的アプローチ）の具体例を学びつつ、ふたたび文化相対主義の意義と課題を考察する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

文化人類学の考え方と方法を学ぶ。上記「テーマ・概要」の学習を通じて、「文化」「社会」をキーワードに現代社会を理解するうえでの批判的的視点を身につけることを目標とする。

人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができること（DP2）を目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学への誘い：４つのアプローチ 文化人類学は、研究対象ではなく研究アプローチにおいてユニークな学問である。第１回講義では、文化相対主義・現場主義・全体論的アプローチ・比較の４つのアプローチについて概説することで、文化人類学の特徴を概説する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第２回	呼びかけのことばに現れる〈私たち〉の文化 文化人類学は、人間の社会的営み、私たちの日常生活のあらゆる側面を研究対象とするため研究テーマは多様である。だが、家族親族論についてとくに多大な研究蓄積をもっており、本講義でも前半はもっぱら家族親族論に相当するテーマを中心にとりあげる。それは家族がくらしと人間関係の基本となるため、人類学的に考えるうえで適した題材をとくに多く含むためでもある。第２回講義では、家族内におけるよびかけの言葉（親族呼称）を題材に、受講生をまじえた疑似フィールドワーク的実験を実施し、家族の人類学への誘いをおこなう。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第３回	親と子（１）「母性愛」再考 第３回講義のテーマは「母性愛」である。ここでは、現代日本の「赤ちゃんポスト」、江戸時代の捨て子を題材に、これらを「母性愛」の対極にある営みととらえるのではない視点を提示し、受講生とともに議論する。「母性愛」を絶対善とする語り口に対して、文化相対主義的視点からの批判的考察は可能か。第３回講義ではこのような問いが重要である。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第４回	親と子（２）「生みの親」　「育ての親」再考 第４回講義でのキーワードならびに論点は、「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致に対する文化的理解である。これは文化人類学の家族親族研究において古くて新しいテーマであり、かつ現代日本において新しいかたちでの問いとして各方面において注目されている。ここでの具体的事例は、代理出産をはじめとする生殖医療技術である。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第５回	結婚と家族：東アフリカの「女性婚」「幽霊婚」から考える 第５回講義は、前回講義の内容と同一のテーマを東アフリカの民族誌事例から発展的に議論するものである。すなわち「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致の問題を、東アフリカのヌアー、グシイはそれぞれ固有の問題で解決してきた。その具体的な事例として「女性婚」「幽霊婚」を議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第６回	男と女：『サモアの思春期』と文化相対主義 思春期特有の心理的葛藤は、人間が避けることのできない普遍的な現象であるのか。第６回講義では、少年少女が思春期特有の心理的葛藤を経験せずに大人になることのできる社会について論じたマーガレット・ミードの民族誌とそれに対する根本的批判を紹介し、人間存在に対する自然科学的説明にたいする文化的説明を指向してきた文化人類学の思想史的背景について概説する。ここでは、ミードの議論を一方的に退けるのではなく、これまでの講義で考察した家族親族論の視点からあらためてその意義について考察する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第７回	前半の総括、授業内レポートへのコメント 前半の授業であつかったテーマについてあらためて総括し、授業内レポートを執筆する。また、授業内レポートの内容について担当教員がコメントをおこなう。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第８回	文化相対主義の再定位 これまでの講義では、文化相対主義的態度の重要性、普遍主義に対する強力な批判としての可能性を強調して	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60

	きた。だが、文化相対主義的態度を突き詰めた先に絶対的相対主義として現れる可能性（危険性）にも目をむけていく必要がある。第８回講義では、相対主義と普遍主義との相互補完関係を、浜本満、井上達夫、ロバート・レッドフィールド等の議論をふまえて考察する。		
第９回	文化と自由 第９回講義は、ウィル・キムリッカ等の議論の紹介からはじめて、文化と自由をテーマに議論をおこなう。文化人類学は、個人の自由を束縛する存在としてではなく、補強する存在として文化を語ることはいかにして可能か。こうした問題意識を中心に議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１０回	人類学的方法としての民族誌（１） これまでの講義をふまえたうえで、ここからは担当教員がケニア中央高地ですすめている文化人類学研究の事例を手がかりに、人類学的実践としての民族誌の具体的内容と、民族誌をふまえたうえでの比較研究の可能性を議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１１回	人類学的方法としての民族誌（２）オルタナティブ・ジャスティス 第１１回講義は、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ地方におけるムーマ（無罪宣誓）を題材に、いわゆる神判的紛争処理・犯罪解決の合理性について、比較分析的視点で議論をおこなう。ここでの比較対象は日本中世の鉄火起請等である。イゲンベのムーマでは、被告側が呪物を飲み込む等のうえで無罪宣誓をおこない、それに対して原告側は呪物の効果を待ち続けなければならない。裁判人は原告と被告のどちらが正しいかをその場で結論することはしない。そうした紛争処理・犯罪解決の合理性、妥当性をどのように考えることができるのだろうか。それが第１０回講義での中心的な問いである。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１２回	人類学的方法としての民族誌（３）嗜好品と文化 第１２回講義では、東アフリカやアラビア半島で地域固有の嗜好品として古くから利用されてきたカート（ミラー）を題材に、嗜好品をめぐる文化と政治について議論する。アメリカをはじめ一部の国ではカートは違法ドラッグとして禁止されており、ケニア産カートの輸出先となっているイギリス等においても根強い禁止論がある。カートをめぐる麻薬化の語り口に対する批判的視点をふまえたうえで、第１１回講義では、映画『おいしいコーヒーの真実』においてのエチオピア農民のコーヒー栽培からカート栽培への転換の描き方について受講生とともに議論する。ケニア中央高地の農耕民イゲンベはケニア最大のカート生産者コミュニティであり、ロンドン等在住のソマリ人移民はイギリスにおける最大のカート消費者コミュニティである。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１３回	人類学的方法としての民族誌（４）無文字社会の歴史意識 第１３回講義では、分節リネージ体系を特徴とするニューギニア高地エンガ社会ならびにケニア西部高地グシイ社会との比較のなかで、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ社会における年齢組体系特有の時間世界・歴史意識について考察する。イゲンベ社会は、祖先の個人名を記憶しない社会でありながら、民族全体の歴史を記憶する社会でもある点で、そして円環的な時間的世界を持つ点で、上記２つの社会とは異なっている。本講義では、もうひとつの比較軸を小馬徹の比較分析的論考に求める。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１４回	後半の総括、到達度確認テスト 後半の授業であつかったテーマについてあらためて総括する。授業後半に、到達度確認テストを実施する。	【復習】これまでの授業内容を復習し、到達度確認テストにおいて十分に解答できなかった箇所を確認する。	120

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーまたは授業内レポートをもちいて受講生との双方向性を高めるよう工夫する。また、映像教材を用いる。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
各回課題等に対するフィードバックのため、講評、解説の時間を設ける。

〔成績評価の方法〕
授業内での筆記・提出をもとめるリアクションペーパーまたは授業内レポート（50%）と到達度確認テスト（50%）を基本として総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
各回レジメ（A４両面印刷１枚）を配付する。

〔参考書〕
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	グローバル化の人類学						
教員名	池田　昭光						
講義コード	125332160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

「日本はそのうち戦争になるのではないか」「私は会社で働いて死んでいくだけなのだろうか」、この授業は、今の時代を生きる人間がふと思うような不安や疑念の背景にグローバリゼーションが関わっているとみなし、そのような世界と人間について理解を深めることを「グローバリゼーションの人類学」ととらえる。現代という時代の構造や歴史的由来、その中で人間が生きることに現代が及ぼす影響を認識するのが主目的である。人類学は一般に、自国以外の諸外国・諸地域の文化から物事を理解する点に特徴があるが、この授業では「異文化理解」同様（あるいはそれ以上に）「いまの日本」も重視する。自分自身も「グローバリゼーションの産物」という理解を欠いた知識は他人ごとになりがちだからである。

よって、授業ではグローバリゼーションの基礎的知識を学びながら、自身の過去・現在・未来をそれらの知識や語彙にどうつなげられるかに重きを置く指導を行う。「グローバリゼーションの人類学」と呼べるようなまとまった知見は、他人から与えられるようなものではない。むしろ、すでにある手がかりをもとに、自身でいかに筋道を見つけられるかに関心を持っていただきたい。

なお、グローバリゼーションを善悪の価値観で判断する内容ではない点にも注意されたい。善悪の基準とは無関係に人間社会にふりかかる「力」をつかまえるのが大事なことである。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

「テーマ・概要」欄に記した趣旨を理解のうえで受講し、授業参加・課題作成に十分に取り組んだ場合は、以下の事項に関する知識・能力を身につけられる可能性が高い。

○主語・述語の明確な日本語を用いた話し言葉・書き言葉による基礎的なコミュニケーション能力
○反転授業にもとづいた、予習段階での初歩的な資料調査および教室での発展的な理解
○グローバリゼーションに関する歴史的・社会的・政治経済的観点からの基礎的な知識と理解
○マクロな現象がミクロなレベルに与える影響の理解
○必須語彙を専門用語としてとらえ、語句の基礎的な説明を行い、発展的な事項に結びつける能力
○学習内容を消化したうえで、質量ともに一定水準を満たした論述能力

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ○授業概要、進め方、評価方法などを説明する。	予習 ○シラバスを読み、概要を把握する。	30
第２回	私たちはグローバリゼーションを生きているのか？ ○自身のイメージを言葉にする ○世界のつながりとは？	予習 ○地球上の大まかな区分、主要地域、主要国などの把握	60
第３回	グローバリゼーションはいつ、なぜ始まったか（1）：現代史中心の見方 ○第二次世界大戦後の「近代化」 ○1980 年代以降の世界が被った変化	予習 ○冷戦崩壊、福祉国家、新保守主義、新自由主義について調べる	90
第４回	グローバリゼーションはいつ、なぜ始まったか（2）：前近代も含む見方 ○世界の「一体化」とは？ ○ローカルな地域の変化	予習 ○世界システム、植民地主義について調べる	60
第５回	グローバリゼーションの賛成派・反対派 ○グローバリズム推進政党・政策 ○反グローバリズムの動き	予習 ○英米および日本の政治家について調べる 復習 ○現代日本の政党とグローバリズムについて調べる	120
第６回	グローバリゼーションは世界の何を変えたか（1）：政治 ○国境の意味 ○国家は弱くなったのか、強くなったのか	予習 ○国民国家、ナショナリズム、ネーションについて調べる	90
第７回	グローバリゼーションは世界の何を変えたか（2）：労働 ○資本主義と人間社会	予習 ○派遣労働、格差社会、日本の移民労働者について調べる	90
第８回	到達度確認テスト 1	予習 ○ここまで学んだ事項、キーワードを用いながらグローバリゼーションおよび社会との関連について説明できるようにしておく。	（中間的な総括のため設定不能）
第９回	グローバリゼーションは世界の何を変えたか（3）：都市 ○都市間競争 ○資本主義が都市を作る	予習 ○世界都市、タワーマンションについて調べる	60
第１０回	グローバリゼーションは世界の何を変えたか（4）：教育 ○教育の競争 ○資本主義が教育を作る	予習 ○アクティブラーニングと不平等について調べる	60
第１１回	グローバリゼーションは世界の何を変えたか（5）：軍事 ○グローバリゼーションと世界の安定／不安定	予習 ○日本および東アジアの米軍基地について調べる	60
第１２回	アメリカを考える ○アメリカとイスラーム	予習 ○これまでに登場した、アメリカに関する事項について整理する。	90
第１３回	グローバルサウスの行方	予習 ○グローバルサウスに該当する国をとりあげ、最近の報道記事を調べる。	120
第１４回	到達度確認テスト 2	予習 ○グローバリゼーションに関する自身の最高度の理解が示せるよう復習する。	（最終的な総括のため設定不能）

〔授業の方法〕

○授業は講義形式にもとづく一方、教員は受講者を指名しつつ、基礎的知識の確認をはじめ様々な問いを投げかけ応答を要求する。反転授業として、一定の範囲で与えられた知識・情報をもとにその場で発展的に考えることが頻繁に求められる。これらの受け答えは「授業参加」として成績に計上される。
○授業進行に必要な予備知識や、関連トピックに関する発展的学習などを予習・復習として課題として課す。かつ、授業内で小テストを行う。これらは「各種課題」として成績に計上される。グローバリゼーションの理解にはある程度の視野の広さが求められるため、歴史、社会、政治、経済、思想など多様なトピックが扱われる。
○ある程度授業が進んだところで一回、学期末に一回、合計二回の到達度確認テスト（論述式）を行う。これらは特に高い割合で成績に計上される。
○受講者の理解度に応じ、授業計画を適宜変更する可能性がある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
○課題に対する講評を授業内で行う。
○必要に応じて課題へのコメントを受講者に送付する。

〔成績評価の方法〕
○授業参加　20%　※授業内での受け答えを中心に評価する。
○各種課題　30%　※授業進行に応じて、資料調査や論述式の課題を課す。
○到達度確認テスト　50%　※授業期間内に 2 回実施予定。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
基本的には「到達目標」に即して評価する。その他、記載にないものでも特筆すべき点があれば相応に評価する。
なお、成績不良者には一定のパターンがみられるため、本授業でも参考にされたい。
○日本語の運用能力に問題がある：他人が理解可能な文を作れない。受け答えを単語で済まそうとする。話し言葉と書き言葉の区別が適切にできない。
○論理性に問題がある：文や段落相互の関連性が不明瞭。解答が設問に即しておらず、相当程度ずれる。
○知識と記憶に問題がある：必要な知識・情報を記憶に残そうとせず、その場その場での反応の域を出ない。無知に甘んじる。
○知的体力に問題がある：まとまった量の文章を作れない。調べて書く努力を厭う。ネットと AI で努力を減らせるという世界観。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
○年齢相応の常識
○原稿用紙に即した形式による文章作成
○Word など標準的な文書作成ソフトの操作、ファイルの管理
○「です・ます体」を使わないことの認識
○以下の予備知識は、あれば望ましいが必須ではない。ただし、必要な事項は必ず身につけること：人類学、地理、歴史（特に近現代史）、政治、経済、思想・哲学

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
いずれも購入の必要はないが、これらの書籍を図書館などで利用しながら語句や事項を調べる課題を出す。その他、授業内でより詳しいリストを配布する。
【事典】
猪口孝ほか（編）　2005『国際政治事典』弘文堂。
大澤真幸ほか（編）　2012『現代社会学事典』弘文堂。
ジョーンズ，アンドリュー　2012『グローバリゼーション事典』明石書店。
人文地理学会（編）　2013『人文地理学事典』丸善出版。
日本文化人類学会（編）　2009『文化人類学事典』丸善。
松原正毅・NIRA（編）　2002『世界民族問題事典』（新訂増補）平凡社。
【入門書】
伊豫谷登士翁　2021『グローバリゼーション――移動から現代を読みとく』筑摩書房。
大澤真幸ほか　2014『ナショナリズムとグローバリズム――越境と愛国のパラドックス』新曜社。
カルルエ，ロラン　2022『地図とデータで見るグローバリゼーションの世界ハンドブック』原書房。
スティーガー，マンフレッド・B　2010『グローバリゼーション』（新版）岩波書店。
同志社大学グローバル地域文化学部（編）　2013『地域研究への扉――グローバルな視点から考える』晃洋書房。
正村俊之　2009『グローバリゼーション――現代はいかなる時代なのか』有斐閣。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
メールで受け付ける。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

26/2/9 15 時 45 分

講義名	現代人類学						
教員名	細谷　広美						
講義コード	125332170	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回			
第２回			
第３回			
第４回			
第５回			
第６回			
第７回			
第８回			
第９回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
〔特記事項〕

講義名	比較文化研究Ａ						
教員名	松浦　義弘						
講義コード	125333000	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】ヨーロッパ近代の形成をヨーロッパの人々のふるまいと感性から考える

【概要】ヨーロッパ近代は､日本人にとって長い間模範とすべきモデルとされてきた。しかしヨーロッパの近代も近代人も、長期にわたる歴史過程のなかで特定の行動様式や精神構造が形成された結果だった。この講義では、ヨーロッパ近代やヨーロッパの近代人がどう形成されてきたのかを、そのふるまいや感性の変化に焦点を当てて概観する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を目標とする。

①中世から近代にかけてのヨーロッパ（とくにフランス）の歴史について知見を深める。

②人間と人間生活における変化、社会の変化から歴史を考える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	シラバスを読んでおく。	60
第２回	15 世紀までのヨーロッパ社会 (1)：騎士の生活様式と感性	前回の添付資料の復習	60
第３回	15 世紀までのヨーロッパ社会 (2)：農民の生活様式と感性 1	前回の添付資料の復習	60
第４回	15 世紀までのヨーロッパ社会 (3)：農民の生活様式と感性 2	前回の添付資料の復習	60
第５回	宮廷社会の出現と絶対主義 (1)：行動様式と感性の変化	前回の添付資料の復習	60
第６回	宮廷社会の出現と絶対主義 (2)：宮廷人の形成	前回の添付資料の復習	60
第７回	宮廷社会の出現と絶対主義 (3)：王権のプロパガンダ	前回の添付資料の復習	60
第８回	中間的なまとめ	前回の添付資料の復習	60
第９回	宮廷社会の出現と絶対主義 (4)：裁判と社会的統制	前回の添付資料の復習	60
第１０回	宮廷社会の出現と絶対主義 (5)：都市社会の変化	これまでの添付資料の復習	60
第１１回	宮廷社会と礼儀作法書	前回の添付資料の復習	60
第１２回	18 世紀後半における行動様式と感性の変化	前回の添付資料の復習	60
第１３回	フランス革命とそれ以後の人々の行動と感性	これまでの添付資料の復習	120
第１４回	全体のまとめ(授業内試験)	これまでの添付資料の復習	120

〔授業の方法〕

授業は、講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を大きく変更する場合がある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

授業への参加状況（３０%）、レポートないしは試験（70%））などを中心に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
N. エリアス『文明化の過程』上下、法政大学出版会、１９７７年
N. エリアス『宮廷社会』法政大学出版会、１９８１年
J. ヴィガレロ『清潔になる＜私＞』同文館、１９９４年
J. デュビィ／R. マンドルー『フランス文化史 I～III』人文書院、１９６９年
J. L. フランドラン『農民の愛と性』白水社、１９８９年
福井憲彦『時間と習俗の社会史』新曜社、１９８６年
F. ルブラン『アンシャン・レジーム期の結婚生活』慶応大学出版会、２００１年
R. ミュシャンブレッド『近代人の誕生』筑摩書房、１９９２年
クルタン『クルタンの礼儀作法書』作品社、2017 年
これ以外の参考書については、授業開始後に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	比較文化研究Ｂ						
教員名	寺本　敬子						
講義コード	125333010	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

この授業は「グローバル・ヒストリーとしてのジャポニスム」をテーマとします。19 世紀後半のヨーロッパにおいて日本の文化や芸術が注目されることで誕生した「ジャポニスム Japonisme」という現象に焦点を当て、この時代に日本とヨーロッパやアメリカの諸国の間でいかなる交流が広がったのか、各国の政治・経済・文化・社会等、その背景を見ながら多角的に検討します。さらに「Japan Expo」等、21 世紀型の「文化」の伝播・交流のあり方と比較することで、近代から現代の「文化」の越境の仕方を複眼的に捉える分析力を養うことを目標とします。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

本学の Diploma Policy に基づき、DP1（専門分野の知識・技能）の「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・ 文化を多角的に理解する」ことを実現するために、本授業のテーマに基づき下記の点を到達目標とします。

19 世紀後半のヨーロッパでは、開国した日本の情報や物品が広く伝わり、政治・外交上のみならず文化的にも国際的に認知されるようになります。各国に広がった「ジャポニスム」および交流関係について多角的に検討し、新たな文化現象が形成されるときにどのような文脈があるのか、あるいはそこにどのような摩擦があるのか、これらの問いを明らかすること、そしてこうした問いについての社会史的なアプローチ（外交史・経済史・文化史を含む）の意義を理解することが本講義の目標です。

到達目標は、(1)19 世紀後半にヨーロッパやアメリカで「ジャポニスム」が誕生した歴史的背景を、政治・経済・文化・社会等から多角的に理解し、 (2)異文化コミュニケーションのあり方について、歴史的な沿革・諸問題を理解することです。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：ジャポニスムとは何か。	【予習】シラバスを読む。 【復習】 授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第２回	ジャポニスムの前史(1)日本の情報、18 世紀のシノワズリとジャポネズリ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第３回	ジャポニスムの前史(2)万国博覧会：科学技術、消費社会、異文化の発見	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第４回	フランス(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第５回	フランス(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第６回	フランス(3)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第７回	到達度確認テスト（第１回）	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第８回	到達度確認テストへの講評、イギリス(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第９回	イギリス(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１０回	アメリカ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１１回	オーストリア、ドイツ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１２回	その他の諸国	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１３回	到達度確認テスト(第２回)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１４回	到達度確認テストへの講評、ジャポニスムの現在	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60

〔授業の方法〕

基本的に講義方式で行い、パワーポイント等で図版・写真・映像資料を用います。課題のテキストは適宜、印刷あるいはポータル・Web Class 上で配布します。この授業では、(1)コメントシート（複数回）と、(2)到達度確認テスト（計２回）を課します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
提出されたコメントシートに対するフィードバックとして、教員からの講評および解説の時間を授業時に設けます。

〔成績評価の方法〕
成績評価は、(1)コメントシート（30%）と(2)到達度確認テスト（計２回：70%）の合計による総合評価となります。
・(1)コメントシートでは、授業内容について関心を持った点や疑問に思った点を中心にコメントを求めます。提出されたコメントシートの内容は、授業への取り組みの度合いを判定する材料とします。またコメントシートに対して教員から授業時にフィードバックします。
・(2)到達度確認テスト（計２回）では、 ①講義内容を正確に理解していること、 ②参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、 ③自己の見解を具体的・論理的に展開していることを重視して評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
本授業では、以下の項目を重視して評価を行います。 (1)講義内容を正確に理解していること、 (2)参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、(3)自己の見解を具体的・論理的に展開していること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、高校で学んだ世界史の知識に加え、ヨーロッパ近代史の概説書を読んでおくことを推奨します。なお、毎回の授業の中で参考文献を紹介しますので、適宜参照し、授業内容の理解を深めるように心がけて下さい。本授業は、国際文化学科の「地域文化・歴史」および「国際関係研究」の領域、他学科における広い意味での歴史(社会史・文化史・政治史・経済史等)に関わる科目と関連します。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
参考文献は、授業のなかで紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	歴史学入門						
教員名	日尾野　裕一						
講義コード	125333020	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、歴史とは何か、歴史を記すとは何か、歴史の記し方はどのように変化しているのか、そして歴史学とは何かということを、具体的な事例を用いつつ示していきます。その上で、過去を歴史学の枠組みで捉える上での方法と視座について検討します。
担当教員の専門の都合上、近代イギリスを事例として取り扱うことが多くなりますが、それ以外の時間と空間も授業では多く取り扱うとともに、現代社会と歴史との関わりについても目を向けていきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
本学の Diploma Policy に基づき、DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】 を達成するために、本授業の範囲に基づき以下の 2 点を主要な到達目標とします。
・歴史の記し方、表し方、歴史への視点等の多様性を意味のある形で意識できるようになること。
・過去を巡りさまざまな議論がなされる現代社会において、歴史学とは何か、歴史を学ぶことにはどのような意味と価値があるのかを検討するために必要な能力を獲得すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】授業内容を整理する。	60
第２回	史料とは何か	【予習・復習】前回の授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第３回	歴史における時間の捉え方	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第４回	ナショナル・ヒストリーと地域史	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第５回	グローバル・ヒストリー概論	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第６回	モノの移動から見るグローバル・ヒストリー	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第７回	人の移動と歴史	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第８回	環境と歴史	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第９回	感染症と歴史	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１０回	歴史とジェンダー (1)	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１１回	歴史とジェンダー (2)	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１２回	記憶と感情	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習・復習】これまでの授業内容をまとめる。自身の解答を振り返る。	60
第１４回	テストのフィードバック・授業のまとめ	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で実施します。スライド等で授業を進める上での資料を提示するとともに、適宜学生に講義資料を配布します。
毎回、コメントシートを提出してもらいます。コメントシートでは、質問・コメント等の自由記述を毎回書いてもらいます。回によっては質問に答えてもらうこともあります。
また、この授業では第 13 回に到達度確認テストを課します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
コメントシートに記載された質問・コメントについては内容に応じて次回の授業冒頭で回答をします。
また、到達度確認テストについて第 14 回授業でのフィードバックを実施します。

〔成績評価の方法〕

コメントシート（20%）と到達度確認テスト（80%）によって評価を行います。
・到達度確認テストでは、①授業内容を正確に理解できているか、②授業内容をもとに深い考察を展開できているか、この2点を重視し評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、近現代の日本史・世界史を挙げます。ただし、高校までの知識ではカバーできない内容も多く含みますので、図書館にある近現代史の概説書を読むこともお勧めします。

〔テキスト〕
特に指定しません。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。また、コメントシート等で質問があった場合にも対応します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	ヨーロッパの歴史と文化A						
教員名	清水　領						
講義コード	125333030	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では近現代のヨーロッパにおける宗教と社会をテーマに扱います。
近世ヨーロッパで育まれた啓蒙思想は、宗教のあり方に変化をあたえていきました。近代になって国家や社会の仕組みがかわることで、宗教と国家の関係や、宗教同士の関係も変化していきます。こうした社会における宗教の役割の変化の歴史を、フランスの事例を中心に学んでいきます。
授業の前半では、従来のカトリック体制にたいする批判が強まる中で、もともと宗教が社会の中で担っていた役割を国家が担うようになる様子を解説します。授業の後半では、近代社会のなかで経済活動や科学的活動が重視されていくと共に、宗教のありかたも変化していく様子を扱います。ヨーロッパの中心となるキリスト教とともに、宗教的マイノリティであるユダヤ教も扱いながら、さまざまな事例をとおして近代社会と宗教との関係を考えていきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
（1）近代フランス社会における宗教と社会の歴史を知り、説明できるようになること。(DP1)
（2）近現代ヨーロッパからひろがった、宗教的寛容、科学と宗教の対立、ライシテなどの概念を理解し、説明できるようになること。(DP1)
（3）現代の国際社会における宗教に関係する様々な事象について、歴史的思考をとおした考察をできること。(DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の内容と進め方、評価方法について	高校の「歴史総合」や「地理総合」(選択している場合には「世界史」) で学んだ内容のうち、とくにヨーロッパの内容を復習しておくことがのぞましい。	100
第２回	啓蒙思想の誕生と発展	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第３回	フランス革命と非キリスト教化運動	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第４回	諸宗教の共存、理神論と無神論	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第５回	ナポレオン期の宗教再編成	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第６回	ユダヤ人の歴史とフランスにおける解放	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第７回	西欧の工業化社会とサン・シモン主義	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第８回	近代科学の発展と実証主義	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第９回	社会における宗教と科学	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第１０回	ユダヤ社会の「近代化」	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第１１回	ドレフュス事件と「知識人」の誕生	予習：前回の課題の復習 復習：授業ノートと資料を見返して、理解ができていない箇所を明確にしておくこと	60
第１２回	1905 年の政教分離法と現代のライシテ	予習：前回の課題の復習 復習：授業全体の復習	60
第１３回	到達度確認のための小テスト	予習：授業全体の復習 復習：テスト内容の復習と確認	120
第１４回	授業のまとめ「歴史的に考える」	復習：最終回の内容をふまえた授業の復習	60

〔授業の方法〕
授業は講義が中心となる。各回で授業資料を配布するので、各自でノートをとること。
各回の授業では、資料の読解を中心とした課題が課される。主体的に考えて資料を読み取る力を育むことが目的であり、積極的な授業参加が評価の対象となる。
次回で課題へのフィードバックをおこなう。
授業のすすめかたについては初回のガイダンスでも説明するので、かならず出席すること。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

各回の課題にたいするフィードバックは、次の回の始めにおこなう。
小テストにたいする講評は最終回におこなう。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加）　６０％
小テスト　　４０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
（1）近世から近代のヨーロッパにおける宗教の役割とその変化について、概説できること。
（2）さまざまな歴史的な概念がうまれた背景を理解し、説明できるようになること。
（3）あらたな資料に接した際に、歴史的思考でもって読み解くことができること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
上垣豊（編）『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』 ミネルヴァ書房、978-4623087785
ジャン・ボベロ著、三浦信孝・伊達聖伸訳 『フランスにおける脱宗教性の歴史』 白水社、978-4560509364
長井伸仁 『近代パリの社会と政治』 勁草書房、978-4326200627
市川裕・臼杵陽（他編）『ユダヤ人と国民国家』 岩波書店、978-4000254083
購入の必要なし。その他、授業中に各回のテーマに関連する参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	ヨーロッパの歴史と文化B						
教員名	日尾野　裕一						
講義コード	125333040	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、近代以降のイギリス帝国について多様な地域における帝国統治や経済的進出、帝国としての関わりに焦点を当て、その影響を政治、経済、社会、文化、人の移動、国際関係などの多様な面から検討します。
イギリスが帝国として拡大していく 19 世紀、その帝国が最大版図となるとともに解体していく 20 世紀。この二つの世紀におけるイギリス帝国の実態を検討することを通じて、イギリスによる帝国支配の多様性と重層性、そして現代社会にまで至るその影響の大きさについて理解を深めることを目指します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
本学の Diploma Policy に基づき、特に DP1-2「日本を含む世界における歴史的事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、異文化理解の実践に関する基本的な知識・技能を身に付け、個人の関心テーマに応じた形でさらに専門的に修得している」ことと DP1―3「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・文化を多角的に理解することができる」能力の獲得を目指すために、本授業の範囲に基づき以下の 3 点を主要な到達目標とします。
・近現代のイギリス帝国の歴史について多様な地域との関わりという観点からその基本的な知識を得ること。
・帝国の拡大とその解体は現代に至るまでの政治、社会、経済、文化、人の移動、国際関係といった広範な領域に影響を与えたことを理解すること。
・イギリス帝国と各地域の関係に焦点を当てる中で、世界史的な視座から歴史を理解する知見を獲得すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：イギリス帝国とは何か	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】授業内容を整理する。	60
第２回	イギリスとカナダ (1)	【予習・復習】前回の授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第３回	イギリスとカナダ (2)	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第４回	イギリスとインド	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第５回	イギリスと南アジア	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第６回	イギリスとオーストラリア	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第７回	イギリスと南アフリカ	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第８回	イギリスと西アフリカ	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第９回	イギリスと東・東南アジア	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１０回	イギリスと南米	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１１回	イギリス帝国とユダヤ人	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１２回	イギリス帝国と移民	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習・復習】これまでの授業内容をまとめる。自身の解答を振り返る。	60
第１４回	テストのフィードバック・コモンウェルス	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で実施します。スライド等で授業を進める上での資料を提示するとともに、適宜学生に講義資料を配布します。
毎回、コメントシートを提出してもらいます。コメントシートでは、質問・コメント等の自由記述を毎回書いてもらいます。回によっては質問に答えてもらうこともあります。
また、この授業では第 13 回に到達度確認テストを課します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
コメントシートに記載された質問・コメントについては内容に応じて次回の授業冒頭で回答をします。
また、到達度確認テストについて第 14 回授業でのフィードバックを実施します。

〔成績評価の方法〕
コメントシート（20%）と到達度確認テスト（80%）によって評価を行います。
・到達度確認テストでは、①授業内容を正確に理解できているか、②授業内容をもとに深い考察を展開できているか、この2点を重視し評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、近現代の世界史を挙げます。ただし、高校までの知識ではカバーできない内容も多く含みますので、図書館にある近現代史の概説書を読むことや、他の「ヨーロッパの歴史と文化」の授業など関連する授業の履修することもお勧めします。また、授業が取り扱う空間はヨーロッパに限定されませんので、南北アメリカ大陸、アジア、アフリカ、オセアニアなどの歴史と文化にも関心を持っていると良いです。

〔テキスト〕
特に指定しません。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。また、コメントシート等で質問があった場合にも対応します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	ヨーロッパの歴史と文化C						
教員名	髙橋　稜央						
講義コード	125333050	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

前近代のイベリア半島においてイスラーム王朝とキリスト教諸王国が長い間せめぎあいを続けてきたことはよく知られている。この事は、それぞれの領域に住む人々が単一の宗教の信徒で構成されているような状態を想起させるかもしれないが、実際はそうではない。イスラーム支配下の地域には多数の先住民キリスト教徒やユダヤ教徒が存在したし、そうした地域を征服していったキリスト教諸王国は逆にムスリムやユダヤ教徒を領内に抱えることになった。このような「異教徒」たちは二級市民的な「マイノリティ」として、支配者側の宗教の信徒と公私両面で接触した。それは、一方では様々な文化交流や変容を、他方では種々の問題を引き起こした。

本講義ではそのような前近代のイベリア半島における「マイノリティ」について扱う。講義の前半ではムスリムのイベリア半島上陸から中世後期辺りまでの歴史を概観し、後半ではそれぞれの領域における「マイノリティ」たちが置かれていた状況や彼らの活動について紹介する。暗黙の前提としてイベリア半島に付き纏う「カトリック」「ラテン」「ヨーロッパ」といった要素だけではないイベリア半島史を理解する一助となることを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・古代末期から中世盛期までのイベリア半島史の基礎的な知識を獲得すること。
・「レコンキスタ」に囚われずに中世イベリア半島におけるイスラーム教徒・キリスト教徒・ユダヤ教徒の関係を把握すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション―イベリア半島史のなかのマイノリティたち	高校世界史の初期イスラーム史と中世スペイン史の部分を軽く復習しておくこと。	60
第２回	ムスリムによるイベリア半島征服と西ゴート王国	高校の教科書のイスラーム史（～アッバース朝の成立まで）を復習しておくこと。	60
第３回	後ウマイヤ朝からムラービト朝まで	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第４回	カスティーリャ王国、レオン王国、アラゴン王国	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第５回	ムワッヒド朝からナスル朝まで	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第６回	半島外との関係	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第７回	ムスリム支配下のキリスト教徒概説	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第８回	アンダルスのキリスト教徒	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第９回	「モサラベ」をめぐる諸問題	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第１０回	キリスト教徒のアラビア語	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第１１回	キリスト教徒支配下のムスリム概説	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第１２回	ムデハルとモリスコ	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第１３回	ユダヤ教徒	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60
第１４回	総括―イベリア半島のマイノリティ	前回までのレジュメや自分でとった授業メモを見返しておくこと。	60

〔授業の方法〕

・全 14 回を講義形式で行う。
・冒頭で前回までの内容に関する質疑応答を行い、その後講義を行う。
・成績の評価は 2 回の記述式試験で行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

・毎回コメントペーパーで質問や反論、コメントを受け付け、次回の冒頭で回答を行う。
・中間試験については実施の翌週に解説を行い、期末試験の解説は LMS で行う。

〔成績評価の方法〕
・試験 90%（記述形式、2 回、それぞれ 45%）
・平常点 10%（授業参加態度やコメントペーパー）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・高校世界史の知識を有することを前提とする。高校時代に履修しなかった者は教科書のイスラーム史や中世ヨーロッパ史の部分を読んでおくこと。
・専門用語については、講義内で解説するため事前学習は不要です。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
・立石博高、黒田祐我『【図説】スペインの歴史』河出書房新社、2022 年、定価 2475 円、978-4-309-76316-3（購入の必要なし）
※他の参考文献については、毎回講義の中で紹介します。先の回の参考文献を知りたい場合は教員に直接問い合わせるか、コメントペーパーやメールで質問してください。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・詳細はポータルサイトで周知します。基本的には授業終了後に教室で、もしくは教員宛のメールで受け付けます。
・心身の不調が原因で長期間の欠席が見込まれる場合（入院や長期自宅療養など）は、医師の診断書を添え、なるべく早く教員まで申し出てください。

〔特記事項〕

講義名	ヨーロッパの歴史と文化D						
教員名	林　賢治						
講義コード	125333060	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、後期古代から後期中世に至るヨーロッパの歴史と文化を、修道院を中心的舞台として概観します。ヨーロッパ史においては、教会が大きな存在として注目されています。一方で各地域・時代の修道院もまた、ヨーロッパ史とその文化にの形成には欠かせない場でした。後期古代から後期中世までの大まかなヨーロッパ史の流れ（ローマ帝国の変容とキリスト教化、カロリング王国の秩序形成、盛期中世の教会改革とその拡張、大学における学知の形成、後期中世の危機）を押さえつつ、各時代の文化が修道院という空間でどのように形成されたのかということ、また教会という大きな組織と各修道院（もしくは修道会）がどのような関係を構築していたのかということを探求します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

本学の Diploma Policy(特に DP1-1, DP1-2, DP1-3)に基づき以下の 3 点を本授業の到達目標とします。
・後期古代から後期中世までのおおまかなヨーロッパ史の流れを、修道院史と結び付けて理解する。
・修道院が後期古代から後期中世における文化の形成において担った役目を具体例を挙げて説明できる。
・ヨーロッパ史とその文化の形成において、教会と修道院の関係性を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入: 修道院とはどのような場所なのか	【予習】シラバスと、参考文献（少なくとも目次）を読んでおくこと。 【復習】授業で配布したレジュメを読んでおくこと。	60
第２回	修道院前史①　ローマ帝国の変容とキリスト教化	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第３回	修道院前史②　砂漠の教父たちと、初期の共住	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第４回	アイルランドからの放浪修道士と西欧への伝播	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第５回	アウグスティヌスとベネディクトゥス：戒律の形成と規範化	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第６回	聖職者と修道士：二つの聖性と制度	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第７回	教会改革と修道院改革①　クリュニー修道院の影響	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第８回	教会改革と修道院改革②　改革の伝播と地域的展開（イギリス・フランス・ドイツ）	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第９回	アウグスティヌス律修参事会修道院とベネディクトゥス会系修道院	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第１０回	信仰集団の多様化と女性の宗教共同体：二重修道院を含めて	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第１１回	修道院における書物作製・管理・運用	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第１２回	シトー会修道院の出現と拡張	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第１３回	托鉢修道会と都市、異端、女性の信仰共同体	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60
第１４回	15 世紀の修道院改革と総括	【予習】前回授業のレジュメと、参考文献の該当部分を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメと参考文献の該当部分を読んでおくこと。	60

〔授業の方法〕

この授業はスライドを用いて、講義形式で実施します。毎回レジュメを配布します。
毎回コメントシートの提出と、学期末レポートを課します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
コメントシート（30%）と学期末レポート（70%）で評価を行います。
学期末レポートでは、①授業内容を理解しているか、②授業を通して自ら課題を見出してリサーチし、それを論理的にレポートにまとめられているか、③自身の関心に基づいて、文献を収集・精読したうえで適切に利用できているか、この 3 点で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
『修道院の歴史:聖アントニオスからイエズス会まで』、杉崎泰一郎、創元社、9784422203393「購入の必要なし」
『修道院にみるヨーロッパの心（世界史リブレット 21）』、朝倉文市、山川出版社、9784634342101「購入の必要なし」

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	アメリカの歴史と文化A						
教員名	中野　由美子						
講義コード	125333070	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

アメリカ合衆国は、日常生活から国家間の外交に至るあらゆるレベルにおいて、日本で生活する私たちにとって身近な存在であるように思われる。けれども、日本の大学生がアメリカ合衆国に対して抱くイメージは、一般的に、ニュース・映画・SNS などから断片的に得た知識や情報に基づいていることが多いのではないだろうか。

本講義では、主に 20 世紀半ば以降のアメリカ合衆国の社会史・文化史に関する基本的なテーマについて探求することを課題とする。具体的には、戦争と大衆、経済的繁栄と大衆消費社会の出現と変容、娯楽産業の興隆と変容などのテーマについて、アメリカ国内における人種・エスニシティ問題に即して検討する。さらに、現在の日本に生きる私たちにとって身近で切実な諸問題と照らし合わせながら、アメリカ合衆国の歴史と現状への理解を深める。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1、DP1-3 を達成するために、以下の３点を到達目標とする。
①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得する。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解し、説明できる。
③社会の諸問題を理解するために必要な一次史料・二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	アメリカ合衆国の歴史と文化　―社会史的アプローチ ・講義の内容、進め方、課題等を説明する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第２回	戦争とマイノリティ ・マイノリティの戦争体験について二次史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第３回	第二次世界大戦とマイノリティ（その１） ・マイノリティの戦争体験について一次史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第４回	第二次世界大戦とマイノリティ（その２） ・マイノリティの戦争体験について映像史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第５回	第二次世界大戦とマイノリティ（その３） ・マイノリティの戦争体験についてドキュメンタリー映像の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第６回	戦争とマイノリティ　小括　＋　中間テスト ・講義の後半では、前回までの講義内容に関する中間テストを実施する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第７回	大衆消費社会の発展 ・戦間期の娯楽産業の発展について、音楽と「人種」の観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第８回	大衆消費社会の変容 ・戦間期の娯楽産業の発展について、音楽と「人種」の観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第９回	20 世紀の「人種」問題（その１） ・人種の隔離から統合への動きについて、チームスポーツの観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１０回	20 世紀の「人種」問題（その２） ・人種の隔離から統合への動きについて、娯楽産業の観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１１回	20 世紀の「人種」問題（その３） ・公民権運動の拡大について、複数の映像史料を比較しながら検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１３回	テストのレヴュー＋論述のトレーニング ・リアクションペーパーの作成・提出を行う。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１４回	全体のまとめ ・配布資料に基づき、講義全体の論点を整理する。	配布資料をよく読んでおくこと。	60

〔授業の方法〕

講義形式で行う。毎回、コースパワーを使ってリアクションペーパーの提出を求める。他の受講生の迷惑になるので、遅刻は厳禁。また、レジュメや史資料の配布の際には、主にコースパワーを使用するので、毎回の講義の直前までに必ずコースパワーにアクセスして確認をすること。なお、紙媒体でのみ配布可能な資料等については、後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。また、中間テスト・到達度確認テストは、コースパワーで解答を提出する形で実施するため、ノート PC・タブレット等を必ず持参すること。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

・毎回の講義の最初に、前回の課題に対するフィードバックを行う。
・中間テストと到達度確認テスト実施の翌週に、同テストのレヴューを行う。

〔成績評価の方法〕
授業中に出す課題（授業時間内に提出していただくリアクションペーパーなど）＝平常点（55%程度）、中間テスト（15%程度）、到達度確認テスト（30%程度）による総合評価。なお、第13回、第14回のリアクションペーパーについては、総括を兼ねた課題であるため、10%を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①20世紀のアメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目は、後期の「アメリカの歴史と文化B」のほか、ヨーロッパ、日本、アジアの歴史、現状、国際関係に関する講義・セミナーなど。世界各国・各地域の歴史・文化への関心と理解を深めると同時に、自国の歴史・文化と比較する視点や現代社会の諸制度・価値観を相対化する視点を身につけ、「暗記」ではなく「思考」のトレーニングを繰り返すことが肝要である。

〔テキスト〕
有賀夏紀『アメリカの20世紀（下）1945年～2000年』中公新書、2002年。
ISBN: 4-12-101665-3
※(下)（＝下巻）を使用する。購入の際はISBNを確認すること。
※※本講義では、主に第6章・第7章を使用する。

〔参考書〕
アメリカ学会訳編『原典アメリカ史–社会史史料集』岩波書店、2006年。
有賀夏紀、油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣アルマ、2003年。
網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014年。
西田慎、梅崎透編『グローバル・ヒストリーとしての「1968年」』ミネルヴァ書房、2015年。
その他、講義中に適宜紹介する。（上記の参考書は、購入の必要はありません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	アメリカの歴史と文化Ｂ						
教員名	中野　由美子						
講義コード	125333080	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

アメリカ合衆国は、日常生活から国家間の外交に至るあらゆるレベルにおいて、日本で生活する私たちにとって身近な存在であるように思われる。けれども、日本の大学生がアメリカ合衆国に対して抱くイメージは、一般的に、ニュース・映画・SNS などから断片的に得た知識や情報に基づいていることが多いのではないだろうか。

本講義では、アメリカ合衆国の社会史・文化史に関する以下の２つのテーマについて探求することを課題とする。講義の前半では、アメリカ先住民の視点からみたアメリカ合衆国史の再検討と題して、アメリカ先住民の歴史と文化に関する主要なトピックを取り上げる。次に、講義の後半では、卒業論文のテーマとしても常に一定の関心を集めているアメリカの娯楽産業（映画産業など）の事例に即して、人種、エスニシティ、ジェンダーに関するトピックを取り上げる。さらに、現在の日本に生きる私たちにとって身近で切実な諸問題と照らし合わせながら、アメリカ合衆国の歴史と現状への理解を深める。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1、DP1-3 を達成するために、以下の３点を到達目標とする。
①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得する。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティ、ジェンダー、ポストコロニアリズムなど）について理解し、説明できる。
③アメリカ社会の諸問題を理解するために必要な一次史料・二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	南北アメリカ史と先住民 ・歴史における視点・視角とはなにかを学修する。 ・講義の内容、進め方、課題等を説明する。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第２回	もう一つのコロニアル・ヒストリー ・現在のアメリカ合衆国の植民地時代の歴史と先住民について、史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第３回	もう一つのアメリカ史 ・現在のアメリカ合衆国南西部の歴史と先住民について、史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第４回	もう一つのアメリカ史 ・現在のアメリカ合衆国南西部の歴史と先住民について、映像史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第５回	観光業と先住民（その１） ・ポストコロニアリズムの観点から、今日の先住民社会が直面する諸問題を検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第６回	観光業と先住民（その２） ・ポストコロニアリズムの観点から、今日の先住民社会が直面する諸問題を検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第７回	アメリカ史における先住民　小括　＋　中間テスト ・講義の後半では、前回までの講義内容に関する中間テストを実施する。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第８回	娯楽産業の興隆―1950 年代　（その１） ・娯楽産業の興隆と人種・エスニシティ・ジェンダーとの関連を考察する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第９回	娯楽産業の興隆―1950 年代　（その２） ・娯楽産業の興隆と人種・エスニシティ・ジェンダーとの関連を考察する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１０回	娯楽産業の変容―1960 年代～1970 年代 ・娯楽産業における人種・エスニシティ・ジェンダーに関する問題を取り上げる。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１１回	娯楽産業の変容―1980 年代以降 ・娯楽産業における人種・エスニシティ・ジェンダーに関する問題を取り上げる。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト ・講義の後半では、これまでの講義内容に関する到達度確認テストを実施する。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１３回	テストのレヴュー　＋　論述のトレーニング ・テストのレヴューと論述のトレーニングを行う。 ・リアクションペーパーの作成・提出を行う。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１４回	全体のまとめ ・配布資料に基づき、講義全体の論点を整理する。 ・リアクションペーパーの作成・提出を行う。	配布資料をよく読んでおくこと。	60

〔授業の方法〕

講義形式で行う。毎回、コースパワーを使ってリアクションペーパーの提出を求める。他の受講生の迷惑になるので、遅刻は厳禁。また、レジュメや史資料の配布や課題の提出の際には、コースパワーを使用する。毎回の講義開始直前までに、必ずコースパワーにアクセスして確認をすること。なお、紙媒体でのみ配布可能な史資料については、後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。また、中間テスト・到達度確認テストは、コースパワーで解答を提出する形で実施するため、ノート PC・タブレット等を必ず持参すること。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

・毎回の講義の最初に、前回の課題に対するフィードバックを行う。
・中間テスト・到達度確認テスト実施の翌週に、同テストについて解説する。

〔成績評価の方法〕
授業中に出す課題（授業時間内に提出していただくリアクションペーパーなど）＝平常点（55%程度）、中間テスト（15%程度）、到達度確認テスト（30%程度）による総合評価。課題への積極的・独創的な貢献に対しては、10%を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティ、ジェンダー、ポストコロニアリズムなど）について理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目は、後期の「アメリカの歴史と文化 B」のほか、ヨーロッパ、日本、アジアの歴史、現状、国際関係に関する講義・セミナーなど。世界各国・各地域の歴史・文化への関心と理解を深めると同時に、自国の歴史・文化と比較する視点や現代社会の諸制度・価値観を相対化する視点を身につけ、「暗記」ではなく「思考」のトレーニングを繰り返すことが肝要である。

〔テキスト〕
特になし。史資料やレジュメを適宜配布する。

〔参考書〕
阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための 62 章』明石書店、2016 年。
網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014 年。
有賀夏紀『アメリカの 20 世紀（下）1945 年～2000 年』中公新書、2002 年。
荒木和華子、福本圭介編『帝国のヴェール―人種・ジェンダー・ポストコロニアリズムから解く世界』明石書店、2021 年。
テイラー、アラン『先住民 vs. 帝国 興亡のアメリカ史–北米大陸をめぐるグローバル・ヒストリー』（橋川健竜訳）ミネルヴァ書房、2020 年。
Calloway, Colin G. First Peoples: A Documentary Survey of American Indian History, 4th ed.
New York: Bedford/St. Martin's, 2012.
その他、講義中に紹介する。（上記の参考書は、購入の必要はありません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	日本の歴史と文化Ａ						
教員名	有富　純也						
講義コード	125333090	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】前近代における仏教文化

【概要】一般的に、日本人で信仰を持つ人は少ないと言われています。にもかかわらず、我々は七五三で神社を詣で、チャペルで結婚式をあげ、仏式のお葬式を執り行います。それはなぜでしょうか。この講義では、仏教を歴史的に取り上げることで、日本人の「無宗教」について考えてみようと思います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。

・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。

・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】提示された参考文献をチェックする。	60
第２回	仏教伝来	【予習】インターネットなどで「蘇我氏と物部氏」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第３回	飛鳥寺の成立	【予習】インターネットなどで「飛鳥寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第４回	弥勒寺と百済大寺	【予習】インターネットなどで「百済大寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第５回	白鳳寺院の成立	【予習】インターネットなどで「白鳳寺院」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第６回	東大寺と国分寺	【予習】インターネットなどで「東大寺と国分寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第７回	授業内到達度確認試験（中間）	【予習】到達度確認試験に備える。 【復習】到達度確認試験を復習する。	60
第８回	空海と最澄	【予習】インターネットなどで「天台宗と真言宗」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第９回	末法思想と浄土思想	【予習】インターネットなどで「空也」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１０回	鎌倉新仏教と顕密体制論	【予習】インターネットなどで「鎌倉新仏教の開祖」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１１回	中世の禅宗と対外関係	【予習】インターネットなどで「五山」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１２回	戦国時代仏教論と江戸時代	【予習】インターネットなどで「蓮如」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１３回	【特別講義】マンガの現在と未来	【予習】マンガに関する自分の知識を整理する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１４回	授業内到達度確認試験（期末）	【予習】到達度確認試験に備える。 【復習】到達度確認試験を復習する。	60

〔授業の方法〕

講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。まれに小グループにわかれてディスカッションも行います。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、質問などにはその次の回で回答します。

〔成績評価の方法〕

２回の到達度確認試験（８０％）、リアクションペーパーや短めのレポート課題など（２０％）。
目に余る遅刻やが多い人は減点対象となりますので注意してください。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で日本史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。ただし、中学時代の歴史を思い出しておいてください。

〔テキスト〕
プリントを配布する。

〔参考書〕
箕輪顕量『日本仏教史』春秋社、2015
その他、初回授業で提示します。
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	日本の歴史と文化B						
教員名	樋口　真魚						
講義コード	125333100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

幕末から第二次世界大戦後に至る日本の歴史を、政治、外交、社会、思想、文化など、できるだけ幅広い領域に触れながら、大まかに概観することを目的とする。とくにこの授業では、政治体制の変化や対外戦争が人々の生活および文化を大きく変容させた点に注目する。一見すると複雑な近現代史を、より身近なものとして理解できるように努めたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP 1 （専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・日本近現代史に関する基礎的知識を習得する。
・過去に生きた人々の生活様式や思考方法を理解することで、現代という時代を相対化して捉えることができる。
・現代の日本が抱える諸問題について、歴史的背景を踏まえて考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】授業時に紹介された文献などを確認し、授業の全体像を把握する。	60
第２回	幕末の動乱と明治維新	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第３回	自由民権運動と大日本帝国憲法	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第４回	近代的軍隊の創設	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第５回	日清戦争と「国民」の誕生	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第６回	明治期の社会と文化	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第７回	日露戦争・第一次世界大戦と大正デモクラシー	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第８回	満洲事変と軍部の台頭	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第９回	日中戦争と銃後社会	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１０回	総力戦と国民生活の変容	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１１回	大正・昭和期の社会と文化	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１２回	敗戦・占領・講和	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	60
第１４回	到達度確認テストの解説、総括と展望	【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

〔授業の方法〕

・講義形式の授業。
・初学者向けの内容とする予定である。
・CoursePower から小レポートを提出してもらうので、ノートパソコンを持参すること。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。その際、当該レポートの作成者に発言を求めることもある。
・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはしない。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

小レポート 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・日本近現代史に関する基礎的知識を習得したか。
・過去に生きた人々の生活様式や思考方法を理解することで、現代という時代を相対化して捉えることができたか。
・現代の日本が抱える諸問題について、歴史的背景を踏まえて考察することができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	アジア・太平洋の歴史と文化A						
教員名	小武海　櫻子						
講義コード	125333110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回			
第２回			
第３回			
第４回			
第５回			
第６回			
第７回			
第８回			
第９回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	アジア・太平洋の歴史と文化Ｂ						
教員名	小武海　櫻子						
講義コード	125333120	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回			
第２回			
第３回			
第４回			
第５回			
第６回			
第７回			
第８回			
第９回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
〔特記事項〕

講義名	アジア・アフリカの歴史と文化Ａ						
教員名	五十嵐　大介						
講義コード	125333130	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

7 世紀のイスラーム共同体の成立と発展は、人類社会の政治・社会・文化の多方面に大きな影響をもたらした、世界史上の重要な事件であった。本講義では、前近代イスラーム時代の中東・西アジアの歴史を学びます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・中東地域におけるイスラームの成立と発展の歴史を理解するとともに、その特徴を理解し、説明できるようになる。
・前近代イスラーム史の重要テーマについて、その特徴を理解し、説明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	第１回　イントロダクション：古代末期～イスラームの誕生に至る中東の歴史 授業の進め方を説明した後、7 世紀のアラビア半島でイスラームが誕生する以前の古代末期の中東の歴史について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第２回	第２回　イスラーム成立期の歴史研究 イスラームの誕生についての歴史研究の方法論と問題点について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第３回	イスラームの形成過程：正統カリフ～ウマイヤ朝 正統カリフ～ウマイヤ朝時代におけるイスラーム・アイデンティティーの形成過程について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第４回	第４回　イスラームの形成とアッバース朝革命 アッバース朝時代のイスラーム・アイデンティティーの成立とこの時代の特徴について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第５回	第５回　政治的分裂とシーア派政権 シーア派の思想の発展と宗派形成、およびシーア派政権の登場の歴史について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第６回	第６回　中世／中期イスラーム時代 中世／中期イスラーム時代（1000～1500 年）の中東・西アジアの国家と社会の特徴について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第７回	第７回　中期イスラーム時代前半（1000～1250 年） セルジューク朝とその後継国家群のもとでの中東・西アジアの歴史について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第８回	第 8 回　マムルーク朝の成立と 13 世紀のユーラシア世界 モンゴルの西アジア侵攻を契機としてエジプトにマムルーク朝が成立する過程を学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第９回	第９回　マムルーク朝とカイロの繁栄 マムルーク朝は 14 世紀前半に最盛期を迎え、西アジア・イスラーム世界の覇権国家となった。このマムルーク朝の政治・経済・社会について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第１０回	第１０回　「14 世紀の危機」の中のマムルーク朝 14 世紀後半、ユーラシア大陸は天候不順とペストの蔓延に脅かされる危機の時代を迎える。この危機の時代の中、マムルーク朝の国家と社会の変動について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第１１回	第１１回　ひとつの時代の終焉：マムルーク朝からオスマン朝へ アナトリア・バルカン半島におけるオスマン帝国の拡大は、西アジアにおけるマムルーク朝の覇権に大きな動揺をもたらした。火器の導入に注目しながら、マムルーク朝とオスマン帝国との対立、オスマン帝国のアラブ地域の征服について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第１２回	第１２回　オスマン帝国の覇権 マムルーク朝を滅ぼしたオスマン帝国のもと、アラブ地域は新たな秩序が構築された。オスマン帝国支配下のアラブ地域の政治と社会について学びます。	予習：授業で扱う時代やテーマに関して、重要なキーワードなどをあらかじめ事典等で調べておく。 復習：配布された資料に再度目を通し、紹介された文献に目を通す。	60 分
第１３回	第１３回　到達度確認テスト	予習：これまでの授業の内容を再確認しておく。 復習：テストでの自身の回答について、講義ノートや配布資料を見て確認する。	60 分
第１４回	第１４回　総復習と到達度確認テストの解説	自身の回答と教員が示す回答例を比べ、理解を深める。	60 分

〔授業の方法〕

対面での講義となります。スライドを掲示し解説します。毎回の授業終了後にコメントメーパーを提出してもらいます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
試験 70%、平常点 30%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
ジョナサン・バーキー『イスラームの形成：宗教的アイデンティティーと権威の変遷』野本晋・太田絵里奈（訳）、慶応義塾大学出版会、2013 年（定価 4,800 円＋税）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	アジア・アフリカの歴史と文化B						
教員名	佐々木　紳						
講義コード	125333140	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】

中東近現代史概説

【概要】

この授業では、アジア・アフリカの歴史と文化、とくに中東地域（西アジア・北アフリカ）の歴史と文化について、およそ 18 世紀末以降の近現代史の概説をおこなう。授業期間の前半は 18 世紀末から 20 世紀初頭までの概説、後半は 20 世紀から 21 世紀初頭までの概説をおこなう。必要に応じて、南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジアなど、中東以外の地域の歴史と文化にもふれる。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を達成すべく、以下の到達目標を設ける。

・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての基礎知識を身につける。

・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての最新の研究動向にふれる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業期間前半の紹介と導入（授業期間全体のオリエンテーションもおこないます。）	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第２回	中東近現代史のインタラクティヴィティ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第３回	中東近代史のなかのオスマン帝国（1）：オスマン帝国の近代化	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第４回	中東近代史のなかのオスマン帝国（2）：オスマン帝国と近代世界	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第５回	中東近代史のなかのイラン（1）：グレート・ゲームと「メタ・マクロな国家」	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第６回	中東近代史のなかのイラン（2）：史料から見たガージャール朝	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第７回	中東近代史のなかのアラブ地域	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第８回	授業期間前半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の前半を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60
第９回	中東現代史の形成と展開（1）：「セーヴル体制」の出現	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１０回	中東現代史の形成と展開（2）：自存自立型の国家と社会	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１１回	中東現代史の形成と展開（3）：委任統治型の国家と社会	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１２回	中東現代史から現在へ（1）：20 世紀後半から 21 世紀初頭の中東地域史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１３回	中東現代史から現在へ（2）：歴史的視点から見るパレスチナ／イスラエル問題	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１４回	授業期間後半の総括と確認（授業期間全体の総括と確認もおこないます。）	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の後半および全体を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	120

〔授業の方法〕

・講義形式で進める。
・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらう。
・授業期間の中盤と終盤に、それぞれ授業内テストをおこなう。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
・授業内容、リアクションペーパー、授業内テストについては、授業内を中心に適宜講評・解説をおこなう。
・その他、授業に関する質問や相談については、対面のほか電子メール等を通して適宜受け付ける。

〔成績評価の方法〕
・授業への取り組み（40%）、授業内テスト（60%）
・リアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みを評価する材料とする。
・授業内テストは、授業期間の中盤（中間テスト）と終盤（期末テスト）に課す予定である。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかどうかを成績評価の主たる基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・関連科目①:「アジア・アフリカの歴史と文化Ａ」では、この授業の前編にあたる中東前近代史を講義形式で扱う。
・関連科目②:「アジア文化・文化史特講Ｃ」では、オスマン帝国史を講義形式で扱う。
・関連科目③:「アジア文化・文化史特講Ｄ」では、トルコ現代史を講義形式で扱う。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
・臼杵陽『日本人のための「中東」近現代史』〈角川ソフィア文庫〉KADOKAWA、2024 年、ISBN 9784044008307
・ユージン・ローガン（白須英子訳）『アラブ 500 年史：オスマン帝国支配から「アラブ革命」まで』（上下巻）白水社、2013 年、ISBN 9784560083284
・新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001 年、ISBN 9784622033882
・吉村慎太郎『イラン現代史：従属と抵抗の 100 年』有志社、2011 年、ISBN 9784903426419
・酒井啓子『9・11 後の現代史』〈講談社現代新書〉講談社、2018 年、ISBN 9784062884594
・大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年、ISBN 9784000802017

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	古典文化研究A						
教員名	有富　純也						
講義コード	125333150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
平安時代の貴族の日記や、当時の説話を読み、平安時代の文化を考える。
独特な資料である平安時代の貴族日記に親しみ、基礎的な読解をしたいと思います。
主に、小右記や大鏡、花山天皇関連の説話を読む予定です。
くわえて、その読解を通じて平安時代の政治・社会・文化について考えていく予定です。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP６（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の２点を到達目標とする。
①古典を現代語訳だけではなく、漢文やその書き下し文などでもある程度理解できる。
②平安時代の風俗や文化について理解できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス一古典文化とはなにか	【予習】シラバスを熟読し、インターネットなどで平安時代のことを知っておく。 【復習】平安時代の史料を読むための工具書などを確認する。	60
第２回	平安時代はどういう時代か	【予習】インターネットで花山天皇や平安時代について知っておく。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第３回	摂関期とはどういう時代か	【予習】高校教科書などで平安時代について学ぶ。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第４回	国風文化とは何か	【予習】高校教科書などで国風文化について学ぶ。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第５回	国風文化研究の現状と課題	【予習】高校教科書などで国風文化について学ぶ。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第６回	長保元年八月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第７回	長保元年九月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第８回	長保二年正月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第９回	大鏡を読む１	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１０回	大鏡を読む２	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１１回	花山天皇関連説話を読む１	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１２回	花山天皇関連説話を読む２	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１３回	花山天皇関連説話を読む３	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１４回	総まとめ	【予習】御堂関白記全体を理解する。 【復習】授業全体の復習し、レポート課題に備える。	60

〔授業の方法〕
講義形式ですが、書き下しや現代語訳を読んでもらいますので、ある程度の予習が必須です。
なお受講生の多少によっては、方法を変更する可能性もあります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回の授業でリアクションペーパーを書いてもらい、次回の授業で回答します。

〔成績評価の方法〕

担当時の予習量（３０％）、簡単な確認テスト（２０％）、期末レポート（５０％）
遅刻が多い人は減点対象となりますので注意してください。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典を現代語訳だけではなく、漢文などでもある程度理解できるようになるか。
②平安時代の風俗や文化について理解できるかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本の歴史と文化 A

〔テキスト〕
適宜プリントを配布します。

〔参考書〕
説話と説話文学の会『日本説話索引』（全七巻、清文堂出版）
大津透ほか編『藤原道長事典』（思文閣出版）
そのほか、初回授業時にお示しします。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	地域文化研究Ａ						
教員名	加藤　裕人						
講義コード	125333170	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、主に朝鮮半島の前近代の歴史を扱う。
近年、世界規模の国際化が進むなかで日韓両国の交流は飛躍的に活発化した。すでに現代の社会では、さまざまな場面において韓国・朝鮮人との対話は不可避の問題であり、彼らと円滑な関係を築くためには韓国・朝鮮の歴史に対する理解が必須の要件である。そこで受講生には、本講義で朝鮮の歴史を通史的かつ体系的に学び、国際化著しい現代の社会で活躍していくための基礎的な知識を修得してもらいたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①古代から朝鮮時代までの韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得する。
②古代から朝鮮時代までの韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別し、説明できる。
③韓国・朝鮮人と日本人との歴史に対する意識や認識の差異について理解し、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス、古朝鮮と高句麗・三韓	予習：シラバスを確認し、講義内容を把握しておく。 復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第２回	三国の鼎立	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第３回	新羅の半島統一と統一新羅	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第４回	渤海の興亡と古代朝鮮の文化	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第５回	高麗王朝の成立と文治政治	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第６回	武臣政権の成立	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第７回	モンゴル帝国の侵攻と事元期高麗	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第８回	高麗の滅亡	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第９回	高麗の文化	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１０回	朝鮮王朝の成立と国家体制	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１１回	朝鮮前～中期の政治動向と対外危機	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１２回	朝鮮後期の政治動向	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１３回	朝鮮後期の社会変動	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１４回	朝鮮王朝の文化	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分

〔授業の方法〕
授業は基本的に講義形式で進めていく。
授業では適宜配付物を使用する。
なお、上記の予習・復習時間はあくまでも目安となる。受講者は各々の理解度に応じて適宜取り組むこと。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
学期末試験の解説はポータルサイトまたは Course Power を通じて行う。

〔成績評価の方法〕
平常点 30%、学期末試験 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
また、主に以下の３点を評価の基準とする。
①古代から朝鮮時代までの韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得しているか。
②古代から朝鮮時代までの韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別し、説明できるか。
③韓国・朝鮮人と日本人との歴史に対する意識や認識の差異について理解し、説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『朝鮮の歴史　―先史から現代―』、田中俊明（編）、昭和堂、2500 円、ISBN：978-4-8122-0814-4。
『韓国朝鮮の歴史と文化　―古代から現代まで―』、須川英徳・三ツ井崇、放送大学教育振興会、3850 円、ISBN：978-4-595-32256-3。
これらは購入を推奨するが、必ずしも購入する必要はない。
その他、授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後、適宜教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	地域文化研究Ｂ						
教員名	笠井　亮平						
講義コード	125333180	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

●この授業では、南アジア地域の社会および文化を対象とする。
●インドに代表されるように、南アジアは急速な経済成長を遂げつつある。同時に、南アジアは地理的条件や民族・宗教構成、歴史的経緯により、きわめて多様性に富んでいる。南アジアを理解するには、地域全体の特質とともに、個別の国の背景を踏まえることが重要であり、この授業はその両面を扱うものである。
●また、南アジアを通じて今日の世界が直面する課題について考えるほか、日本が南アジア諸国といかなる関係を構築してきたかについても講義する。
●講義では、外務省専門調査員として複数国の日本大使館で勤務してきた経験も活かしていく。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

●南アジアについて、地域全体および各国の状況、日本との関係について理解を深め、説明できる。
●南アジアを通じて、今日の世界が直面するグローバルな課題について理解を深め、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション　いまなぜ南アジアを学ぶのか？	特になし	0 分
第２回	多様性に富む地域―自然、民族、文化	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第３回	インド① 巨大国家の歩み	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第４回	インド② 変化と不変化―政治、経済、社会	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第５回	インド③ 「食」から見る多様性	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第６回	インド④ 映画というゲートウェイ	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第７回	インド⑤ 知られざるインド	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第８回	インド⑥ 日印関係の過去・現在・未来	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第９回	パキスタン 地域・国際情勢との関わり	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第１０回	バングラデシュ　民族と宗教のアイデンティティ、そして新たな役割	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第１１回	スリランカとモルディヴ　インド洋島嶼国家の試練	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第１２回	ネパールとブータン　ヒマラヤ国家が歩んだ「異なる道」	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第１３回	アフガニスタン　「タリバン」をどう考えれば良いのか？	南アジアに関するニュースのチェック	15 分
第１４回	まとめ	南アジアに関するニュースのチェック	15 分

〔授業の方法〕

●講義を中心とする。
●講義内容に関する小テストを３回実施する。
●南アジアに関する疑問や時事的なトピックを学生が出し、それに対して教員が解説する時間も設ける。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

●小テストについては次の授業の際に解説・講評を行う。

〔成績評価の方法〕

●授業への参加（発言等）・・・・ 20%
●小テスト・・・・・・・・・・・・30%
●試験・・・・・・・・・・・・・・50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし（参考図書や資料は授業の中で随時示していく）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	地域文化研究C						
教員名	藪内　聡子						
講義コード	125333190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本講義では、インドにおける仏教の成立、およびインドからスリランカへの上座部の仏教の伝道とその展開について、文化史という視点から学修します。まず仏伝、初期仏教の思想と実践について、上座仏教の聖典であるパーリ三蔵によって理解を深めた後、スリランカに流布した上座仏教の存在形態、思想、社会的役割について、スリランカの社会構造、人々の思惟方法、儀礼、生活慣行といった観点から概観します。国家仏教として位置づけられた上座仏教が、スリランカの王朝の政策とどのように関連づけながら受容されてきたのかを、広く歴史的に検討していきます。（なお授業の進捗状況によっては、内容を一部変更する場合もあります。）

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1(専門分野の知識・技能)、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 7 点を到達目標とします。

1. 上座仏教の聖典であるパーリ三蔵の編纂過程について理解し、どのように伝承されてきたかを把握する。
2. 近代仏教学の成立と上座仏教（パーリ仏教）の歴史学的研究について理解する。
3. インドにおける仏教の成立を、パーリ三蔵から理解する。
4. スリランカにおける上座仏教の存在形態とその思想を様々な視点から理解する。
5. スリランカの社会構造における上座仏教の位置づけを、王朝の政策と関連付けて歴史的に把握する。
6. 西欧列強の植民地支配からの独立の際に、スリランカにおける仏教の果たした役割について理解する。
7. 史書や碑文資料の取り扱いの方法ならびに歴史研究のための視点を捉える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 本講義の目的･進め方について説明し、現代スリランカを概観します。	【予習･復習】 教科書 I 釈尊の生涯 序章 を読むこと。	60
第２回	仏教史概観 仏教の興隆と各国への流布について学修します。	【予習･復習】 教科書 I 釈尊の生涯 第一章 を読むこと。	60
第３回	初期仏教の聖典 上座仏教の聖典語であるパーリ語と、上座仏教（パーリ仏教）の研究の歴史について、また聖典の分類について学習します。	【予習･復習】 教科書 I 釈尊の生涯 第二章 を読むこと。	60
第４回	インドにおける仏教の成立① ブッダの誕生から成道までを､『スッタニパータ』などから読み解きます。	【予習･復習】 教科書 I 釈尊の生涯 第三章 を読むこと。	60
第５回	インドにおける仏教の成立② 思想と実践について､『ダンマパダ』､『サンユッタ・ニカーヤ』などから読み解きます。	【予習･復習】 教科書 I 釈尊の生涯 第四章 を読むこと。	60
第６回	ブッダの弟子たち 主だった弟子たちについて､『テーラ・ガーター』､『テーリー・ガーター』から読み解きます。	【予習・復習】 教科書 II 人生の指針 第一章を読むこと。	60
第７回	ブッダ入滅 『マハーパリニッバーナ・スッタンタ』を読みながら、ブッダ入滅の状況を読み解きます。	【予習・復習】 教科書 II 人生の指針 第二章を読むこと。	60
第８回	上座仏教とは 上座仏教の存在形態を三宝という視点から考察します。	【予習・復習】 教科書 II 人生の指針 第三章を読むこと。	60
第９回	アヌラーダプラ時代～ポロンナルワ時代のスリランカ スリランカへの仏教伝道とその後のサンガの変容を、インド仏教の変容とあわせて検討します。スリランカの史書についてもふれます。	【予習・復習】 教科書 II 人生の指針 第四章を読むこと。	60
第１０回	ダンバデニヤ時代以降のスリランカ 南アジアからのタミル人の侵入を中心に、仏教とヒンドゥー教の融合について検討します。	【予習・復習】 教科書 II 人生の指針 第五章を読むこと。	60
第１１回	スリランカと東南アジアとの交流 ミャンマー、タイ、カンボジアなどの東南アジア諸国への上座仏教の伝道過程について検討します。	【予習・復習】 教科書 II 人生の指針 第六章を読むこと。	60
第１２回	西欧列強の植民地下のスリランカ キリスト教優位政策下での仏教衰退と復活の過程を概観します。	【予習・復習】 教科書 II 人生の指針 第七章を読むこと。	60
第１３回	スリランカのパリッタ儀礼 出家者と在家者との日常的なかかわりについて検討します。	【予習】 授業で紹介した参考文献を読んでおくこと。	120
第１４回	総括 レポートの講評とともに、これまでの授業の総括をおこないます。	【復習】到達目標と自分の理解度とを振り返り、不足している知識等を確認し、学修すること。	60

〔授業の方法〕

授業は講義を中心に進めます。資料を適宜配布します。なおシンハラ人の行動指針の基底をなしている仏教思想を理解するため、教科書を自分で読んでおくことが求められます。学修内容の理解度の確認のために、e-learning を使用した小テストを毎回実施する予定です。（上で示された準備学修の時間は目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。）なお到達目標を達成しているかどうかを課題レポートにても評価します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
小テストについては、採点終了時にポータルサイトでフィードバックする予定です。授業時にも講評し、解説します。

〔成績評価の方法〕
毎回の小テスト（40%）、課題レポート（40%）、講義中の発言や質問など授業への積極的な参加（20%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38,39.
到達目標の達成度により評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
中村元『原始仏典』筑摩書房（ちくま学芸文庫）2011 年　1430 円　ISBN978-4-480-09367-7

〔参考書〕
鈴木正崇『スリランカの宗教と社会』春秋社　1996 年　　ISBN4－393－29901－9
奈良康明『仏教史 I』　山川出版社　1979 年　ISBN4－634－43070－3
前田慧學編『現代スリランカの上座仏教』山喜房佛書林　1986 年　ISBN4-7963-0173-9
藪内聡子『古代中世スリランカの王権と佛教』　山喜房佛書林　2009 年　ISBN978－4－7963－0187－9
他、適宜授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	地域文化研究D						
教員名	吉岡　潤						
講義コード	125333200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

ヨーロッパの中でも東の方、いわゆる東欧に着眼し、その地域的特性を歴史をたどりながら考察します。
現代は国民国家というあり方が世界中を覆い、ほぼすべての陸地が国境線で区切られ、ほぼすべての人間がどこか一つの国家に所属することになった時代です。戦争が繰り返され、それに伴い難民や移民、強制移住やジェノサイドといった問題が深刻化した時代でもあります。本講義では、そうしたナショナリズムの諸問題が凝縮して現れた地域として東欧をとらえ、その地域秩序の形成と変動の過程を概観します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

- 今ある地域秩序の歴史的背景がわかるようになる。
- 一民族一国家的発想の歴史性を理解できるようになる。
- ナショナリズムの諸問題への批判的接近法を修得できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：東欧とは何か、どこか	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第２回	多民族空間としての東欧（1）：歴史的背景	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第３回	多民族空間としての東欧（2）：東欧における多民族帝国体系	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第４回	多民族空間としての東欧（3）：東欧のナショナリズム	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第５回	第一次世界大戦と東欧（1）：多民族帝国体系の崩壊	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第６回	第一次世界大戦と東欧（2）：東欧における国民国家体系の成立	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第７回	両大戦間期の東欧（1）：東欧における国際関係	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第８回	両大戦間期の東欧（2）：東欧における民族問題	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第９回	第二次世界大戦と東欧（1）：世界戦争と東欧諸民族	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第１０回	第二次世界大戦と東欧（2）：東欧における国民国家体系の再編	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第１１回	戦後の東欧（1）：冷戦下の東欧諸国	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第１２回	戦後の東欧（2）：冷戦終結と東欧	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第１３回	東欧の現在（1）：ヨーロッパ統合と東欧諸国	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分
第１４回	東欧の現在（2）：まとめ	復習：配付資料や参考文献を読み、講義内容の理解を深める。質問やコメントをリアクションペーパーにまとめ、提出する。	60 分

〔授業の方法〕

- 授業は基本的に講義形式で進めます。
- 授業回ごとにレジュメを配付する予定です。
- 授業回ごとにコメントや質問をまとめたリアクションペーパーを提出してもらいます。
- 上で示した復習時間はあくまで目安です。各々の理解度に応じて取り組んでください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

リアクションペーパーで寄せられたコメントや質問に対するリプライを文書化し、配付（もしくは配信）することでフィードバックを行う予定です。

〔成績評価の方法〕
・ リアクションペーパーの提出など平常点と、期末課題とにより評価します。
・ 評価における両者間の配分は、〈平常点のパーセンテージ：期末課題のパーセンテージ〉でおよそ 40：60 とします。

〔成績評価の基準〕
・ 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
・ 期末課題においては、授業で展開した説明の理路を、受講者なりにどれほど再現・再構成できているかを測ります。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	ヨーロッパ文化・文化史特講Ａ						
教員名	日尾野　裕一						
講義コード	125333210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

ブリテン島は、古代より現在に至るまで様々な形で外部から人を呼び込んできた地域でした。一方で、近世以降のイングランド、そしてイギリスは帝国各地に人を送り出していく地域にもなります。人の移動と社会との関わりを歴史的な視点から検討することは、グローバルな規模での人の移動と交流が展開され、移民が社会の様々なところで重要なトピックとなる現代社会をよりよく理解することにもつながります。
以上を踏まえ、この授業では、古代から現代までのイギリスの歴史を「人の移動」に焦点を当て、人の移動と社会との関わりについて、その歴史的背景を理解しながら検討します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

本学の Diploma Policy に基づき、特に DP1-2「日本を含む世界における歴史的事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、異文化理解の実践に関する基本的な知識・技能を身に付け、個人の関心テーマに応じた形でさらに専門的に修得している」ことと DP1―3「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・文化を多角的に理解することができる」能力の獲得を目指すために、本授業の範囲に基づき以下の 3 点を主要な到達目標とします。
・イギリスの歴史、社会、文化について人の移動という観点からその基本的な知識を得ること。
・人の移動における歴史的背景や人の移動がもたらす社会的な影響について理解すること。
・イギリスと人の移動との関係に焦点を当てる中で、世界史的な視座から歴史を理解する知見を獲得すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】授業内容を整理する。	60
第２回	ローマとブリテン島	【予習・復習】前回の授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第３回	アングロ・サクソン化するブリテン島	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第４回	アメリカと年季奉公人	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第５回	18 世紀の「難民」	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第６回	大西洋奴隷貿易とイギリス	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第７回	近世・近代の在英黒人	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第８回	ツーリズムとトラベル	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第９回	アイルランドと移民	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１０回	20 世紀初頭の「移民問題」	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１１回	第二次世界大戦後のイギリス社会と移民	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１２回	移民と EU 離脱	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習・復習】これまでの授業内容をまとめる。自身の解答を振り返る。	60
第１４回	テストのフィードバックと授業のまとめ	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60

〔授業の方法〕

基本的に講義形式で実施します。スライド等で授業を進める上での資料を提示するとともに、適宜学生に講義資料を配布します。
毎回、コメントシートを提出してもらいます。コメントシートでは、質問・コメント等の自由記述を毎回書いてもらいます。回によっては質問に答えてもらうこともあります。
また、この授業では第 13 回に到達度確認テストを課します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

コメントシートに記載された質問・コメントについては内容に応じて次回の授業冒頭で回答をします。
また、到達度確認テストについて第 14 回授業でのフィードバックを実施します。

〔成績評価の方法〕
コメントシート（20%）と到達度確認テスト（80%）によって評価を行います。
・到達度確認テストでは、①授業内容を正確に理解できているか、②授業内容をもとに深い考察を展開できているか、この2点を重視し評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、古代から現代の世界史の知識を挙げます。ただし、高校までの知識ではカバーできない内容も多く含みますので、図書館にあるイギリスの歴史の概説書を読むことや、他の「ヨーロッパの歴史と文化」の授業など関連する授業の履修することもお勧めします。

〔テキスト〕
特に指定しません。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。また、コメントシート等で質問があった場合にも対応します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	ヨーロッパ文化・文化史特講C						
教員名	田中　一嘉						
講義コード	125333230	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本講義では、広くヨーロッパ地域の様々な時代における文学作品や哲学的著作に見られる恋愛観の特質を探っていきます。
恋愛は、時代や地域の文化的条件によって様々にかたちを変えて語られています。
その一方で、どの時代・文化圏にも共通する普遍的な要素も見られるかもしれません。
本講義では、この二つの視点からさまざまに語られた恋愛について分析していきます。
適宜、映像資料も用いる予定です。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP２（教養の修得）、DP３（課題の発見と解決）、DP４（表現力、発信力）を実現するために、以下を到達目標とします。
①個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
②個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	ヨーロッパの歴史について	60
第２回	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(1) フランス革命前夜のヨーロッパと文学	前回の内容の復習	60
第３回	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(2) 情熱恋愛とは？ （映像資料使用予定）	前回の内容の復習	60
第４回	ジェイン・オースティン『自負と偏見』(1) 近代におけるジェンダー観	前回の内容の復習	60
第５回	ジェイン・オースティン『自負と偏見』(２) 「プライド」とは何か？ （映像資料使用予定）	前回の内容の復習	60
第６回	スタンダール『恋愛論』 恋愛の諸相についての分析論	前回の内容の復習	60
第７回	中世の「宮廷風恋愛」について（1） 騎士道と恋愛物語（アーサー王ロマンス） クレチアン・ド・トロワ『ランスロ』	前回の内容の復習	60
第８回	中世の「宮廷風恋愛」について（２） クレチアン・ド・トロワ『ランスロ』続き 中世封建体制下のヨーロッパ宮廷社会と文化 （映像資料使用予定）	前回の内容の復習	60
第９回	中世の「宮廷風恋愛」について（３） ゴットフリート・フォン・シュトラースブルク 『トリスタンとイゾルデ』 媚薬と恋愛	前回の内容の復習	60
第１０回	中世の「宮廷風恋愛」について（４） 『薔薇物語』 恋愛の寓意的解釈	前回の内容の復習	60
第１１回	オウィディウス『恋愛の技術（アルス・アマトリア)』 古代ローマの実践的恋愛テクニック集	前回の内容の復習	60
第１２回	ウェルギリウス『アエネーイス』 古代ローマ文学におけるエロスとクピドー（キューピッド）	前回の内容の復習	60
第１３回	プラトン『饗宴』、『パイドロス』 古代ギリシアにおけるエロス論とイデア論	前回の内容の復習	60
第１４回	総括、期末レポート執筆に向けて	前回の内容の復習	60

〔授業の方法〕

講義形式。
毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを評価基準とします。
期末レポートは、授業内で紹介した作品（シラバスに記載していない作品も含む）からひとつ選び、各自でテーマを設定して執筆してもらいます。
詳細は、初回オリエンテーション時に指示します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

各回で、質疑応答やリアクションペーパーへのフィードバックの時間を設けます。

〔成績評価の方法〕
毎回課すコメントペーパーの内容＋質疑応答での積極性 50%、期末レポート 50%を総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現在の興味関心が文学に向いていなくとも構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

〔テキスト〕
特になし。
講義資料は授業で配布します。

〔参考書〕
授業内で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	アメリカ文化・文化史特講A						
教員名	細谷　典子						
講義コード	125333250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

２０２０年、コロナ禍での BLM 運動の波及は、アメリカ合衆国の人種に関わる問題を、、一気に全米に、世界に知らしめた感があった。しかし、それは現代に始まった問題ではなく、積み残し不可視化されてきた問題が露呈した結果と考えられよう。そこで本講義では、現代アメリカの実情をより深く理解することを念頭において、アメリカ合衆国におけるアフリカ系アメリカ人の歴史を学ぶことをテーマとする。

講義においては、アフリカ大陸から強制的に連行され、奴隷として南部のプランテーションでの労働を強いられた時代に始まり、奴隷としての身分からは解放されたものの人種隔離という新たな差別構造の中で苦悩した時代、人種隔離制度の廃止を目指した公民権運動の時代、公民権運動後の流れを扱う。

その際、「人種」あるいは「人種主義」について、以下の観点から受講者の皆さんには深く考察、あるいは議論する機会を持ちたい。ひとつは、「人種」は歴史的に構築されてきたものという視点から、それぞれの時代について、政治・経済・社会状況を背景に「人種」がどのように定義、再定義され、人種差別を内包する社会が成立していたのか、という点。もうひとつは、南部地域で構築された制度的差別や人種主義的な思考が合衆国全体にどのような影響をもたらしたのか、また、南部とその他の地域の対立や緊張関係を産み出したのか、という点である。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

① アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史的知識を習得する。
② 多人種・多文化・多民族社会であるアメリカ合衆国のマイノリティの歴史を学び、社会の差別構造やマイノリティの復権について深く考察することによって、今後、国際社会のなかで生きていくうえでの基本的な知見を身につけ、課題や問題に対処する思考・判断能力の基礎を身につける。
③ 多様化する日本社会において、多文化社会構築に必要な、異文化を理解する力、状況を分析する力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習、復習の仕方等を説明する ・最近の新聞記事について	【予習】シラバスをよく読んで、講義内容を把握する。教科書のプロローグを読む。 【復習】授業の全体像や進め方を確認する。	60
第２回	黒人奴隷制共和国アメリカ　(第一章) ・大西洋奴隷貿易における北米植民地の位置づけを理解する。 ・アメリカ建国期における奴隷制の発展を理解する。 ・南部のプランテーションのシステムと発展を学修する。	【予習】 テキスト第一章(1～3) を熟読。 【復習】 年表を作成する。授業内で学修した事件や人物について詳細に記入する。	60
第３回	黒人奴隷制共和国アメリカ　(第一章、続き) ・奴隷制下の黒人の抵抗と奴隷制廃止運動について学修する。 ・南北の奴隷制をめぐる政治対立と南北戦争に至る過程を把握する。	【予習】 第一章(4～5) を熟読。 【復習】 学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成する。	60
第４回	『地下鉄道』 ・奴隷の逃亡を助けた組織「地下鉄道」について学ぶ。	【予習】 『アンクル・トムの小屋』を読む。 【復習】 学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成する。	60
第５回	フレデリック・ダグラスの生涯 逃亡 奴隷制廃止運動 地下鉄道	【予習】 メリーランド州について調べる。 【復習】 建国期の奴隷制廃止運動と 1830 年代以後の奴隷制廃止運動を比較し、相違点をまとめる。	60
第６回	ハリエット・タブマン 地下鉄道の車掌として 南北戦争時の活躍	【予習】 ハリエット・タブマンについて日本で出版された文献やアメリカで出版されている絵本について調べる。 【復習】 フレデリック・ダグラスとハリエット・タブマンを比較する。逃亡や解放後の人生について相違点、類似点等考察する。	90
第７回	南北戦争から「どん底」の時代へ(第二章) ・南北戦争と再建の時代を学修する。	【予習】 第二章(1～2) を熟読。 【復習】 学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成する。	60
第８回	南北戦争から「どん底」の時代へ　(第二章、続き) ・革新主義の時代、第一次世界大戦時の黒人の置かれた状況を把握する。 ・ハーレム・ルネッサンスを学修する。	【予習】 第二章(3～4) を熟読。 【復習】 学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第９回	大恐慌・第二次世界大戦期の黒人　(第三章) ・南部のプランテーションシステムの動揺を把握する。 ・ニューディール期の労働者の組織化の進展と黒人の状況の変化を把握する。	【予習】 第三章(1～2)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第１０回	大恐慌・第二次大戦期の黒人(第三章、続き) ・第二次世界大戦期の黒人の前進を把握する。	【予習】 第三章(3～4)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	90
第１１回	冷戦下の公民権運動(第四章) ・冷戦下の赤狩りの時代の人種差別を把握する。 ・公民権運動の始まり(バスボイコット運動)について学修する。	【予習】 第四章(1～2)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第１２回	冷戦下の公民権運動(第四章、続き) ・公民権運動とその成果を学修する。 ・公民権法成立後の運動と、投票権法の成立について学	【予習】 第四章(3～4)を熟読。 【復習】	60

	修する。	授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	
第１３回	到達度確認テスト	【予習】 これまでの内容について復習しテストに備える 【復習】 テストにおける論述内容について再考する	120
第１４回	授業全体を振り返り、テストの講評を行う	【予習】 授業全体を振り返り、学修の振り返りをする 【復習】 今後学ぶべき課題について考える	60

〔授業の方法〕
講義を中心とする。講義内容についてグループディスカッションを行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
講評は授業内で行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト(50%)、議論への参加度(20%)、講義中の発言や質問、授業への積極的な参加(10%)、講義内での提出物(クイズ、感想等)(20%)による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
以下の点の達成度を評価する。
・アフリカ系アメリカ人の歴史に関する知識を十分に学修できているか。。
・それぞれの時代のアフリカ系アメリカ人が置かれた状況と差別について理解し説明ができるか。
・アフリカ系アメリカ人の復権運動を理解し説明できるか。
・現代のアメリカが抱える問題と歴史的事象を関連づけて考えることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
『アメリカ黒人の歴史』上杉忍著、中公新書　ISBN978-4-12-102209-7

〔参考書〕
授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業の前後

〔特記事項〕

講義名	日本文化・文化史特講Ａ						
教員名	酒井　晃						
講義コード	125333270	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】現在の日本のジェンダー／セクシュアリティのあり方（「あたり前」）を歴史的にさかのぼって検討する。

【概要】現在のセクシュアルマイノリティや性的欲望がどのように構築されたのかについて、近現代日本の歴史を振り返りながら検討する。本講義では、LGBTQ をめぐる社会規範や人びとの実践を見ることで、近現代日本にけるジェンダー／セクシュアリティの秩序（「当たり前」）がいかに構築されたのか、そうした秩序がなぜ継続したり、変化したりするのかについて考える。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・日本近現代史のジェンダー／セクシュアリティをめぐるさまざまな実践や活動について、同時代の文脈（「当たり前」がつくられる過程、背景）を理解し、多角的に物事を把握するための思考力を獲得することができる（DP1）。

・過去と現在の違いを的確に整理し、分析する能力を養うことで、現在の状況がなぜ生じたのかを説明し、考察することができる（DP３）。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／性の認識枠組み	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する。	60
第２回	前近代社会のセクシュアリティ	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第３回	文明開化とセクシュアリティの統制	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第４回	日清・日露戦争と男色文化の継続	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第５回	女性同士の「絆」と女性同性愛の「発見」	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第６回	「変態性欲論」と近代家族	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第７回	大衆化・「エログロナンセンス」・戦争	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第８回	戦後「解放」と LGBTQ	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第９回	高度成長と性別役割分業の強化	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１０回	ゲイ商業誌の誕生とレズビアン・コミュニティの形成	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１１回	「エイズパニック」と対抗運動	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１２回	「ゲイブーム」と LGBTQ の序列化	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１３回	21 世紀と LGBTQ	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１４回	まとめ	【予習】これまでの授業を振り返る。 【復習】授業全体を復習する。	60

〔授業の方法〕

授業は講義形式でおこなう。なお、扱う時代は、第 3 回～第 5 回は 19 世紀～20 世紀初頭、第 6 回～第 7 回戦前期、第 8 回～第 9 回戦後～1970 年代前後)、第 10 回～第 13 回は 1970 年代以降となる。

1 回ごとに「問い」(課題）を提示し、リアクションペーパーで回答してもらう。

また、受講生の関心によって、多少の変更をおこなう場合もある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業冒頭に前回のリアクションペーパーに基づいて、前回授業の振り返りをおこなう。

〔成績評価の方法〕
①リアクションペーパーによる評価（40 点）
②期末テスト（60 点）
　計：100 点満点

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にないが、セクシュアルな内容を含んでいるため、注意を要する（露骨な描写は授業では触れない）。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	アジア文化・文化史特講Ａ						
教員名	加藤　裕人						
講義コード	125333290	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、主に朝鮮半島の近現代の歴史を扱う。
近年、世界規模の国際化が進むなかで日韓両国の交流は飛躍的に活発化した。すでに現代の社会では、さまざまな場面において韓国・朝鮮人との対話は不可避の問題であり、彼らと円滑な関係を築くためには韓国・朝鮮の歴史に対する理解が必須の要件である。そこで受講生には、本講義で朝鮮の歴史を通史的かつ体系的に学び、国際化著しい現代の社会で活躍していくための基礎的な知識を修得してもらいたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①近現代における韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得する。
②近現代における韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別し、説明できる。
③韓国・朝鮮人と日本人との歴史や歴史に関する諸問題に対する意識・認識の差異について理解し、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス、朝鮮前近代史概観	予習：シラバスを確認し、講義内容を把握しておく。 復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第２回	開港期の朝鮮と開化政策	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第３回	日清・日露戦争から韓国併合へ	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第４回	「武断政治」と「文化政治」	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第５回	恐慌から戦時体制へ	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第６回	近代朝鮮をめぐる諸問題　「強制動員」の神話	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第７回	到達度確認テスト	予習：第 6 回までの配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第８回	南北分断体制の成立	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第９回	南北における体制変化と独裁	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１０回	国際秩序の変容と南北の体制変化	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１１回	現代の朝鮮半島と日本	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１２回	現代の日韓関係をめぐる諸問題①　独島と竹島	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１３回	現代の日韓関係をめぐる諸問題②　慰安婦問題ほか	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１４回	期末テスト	予習：第 13 回までの配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分

〔授業の方法〕

授業は基本的に講義形式で進めていく。
授業では適宜配付物を使用する。
なお、上記の予習・復習時間はあくまでも目安となる。受講者は各々の理解度に応じて適宜取り組むこと。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

試験の解説は、講義、ポータルサイト、または Course Power を通じて行う。

〔成績評価の方法〕

平常点 30%、到達度確認テスト 30%、期末テスト 40%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
また、主に以下の３点を評価の基準とする。
①近現代における韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得しているか。
②近現代における韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別し、説明できるか。
③韓国・朝鮮人と日本人との歴史や歴史に関する諸問題に対する意識・認識の差異について理解し、説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『韓国朝鮮の歴史と文化　―古代から現代まで―』、須川英徳・三ツ井崇、放送大学教育振興会、3850 円、ISBN：978-4-595-32256-3。
『朝鮮現代史』、糟谷憲一・並木真人・林雄介、山川出版社、3500 円、ISBN：978-4-634-64085-6。
『朝鮮の歴史　―先史から現代―』、田中俊明（編）、昭和堂、2500 円、ISBN：978-4-8122-0814-4。
『反日種族主義　―日韓危機の根源―』、李栄薫（編著）、文藝春秋、1600 円、ISBN：978-4-16-391158-8。
これらは購入を推奨するが、必ずしも購入する必要はない。
その他、授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後、適宜教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	アジア文化・文化史特講C						
教員名	松尾　有里子						
講義コード	125333310	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】

オスマン帝国の社会と文化

【概要】

この授業では、オスマン帝国（1299-1922)の成立期から 18 世紀までの前近代史を中心に、その社会と文化の特徴を検討する。いつかのテーマとトピックを取り上げ、検討するとともに、同時代の中東（イラン、アラブ地域)、バルカン、北アフリカ、ヨーロッパの歴史との比較や、交流史にも触れていく。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1(専門分野の知識・技能）を深め、DP2(教養の修得）を目指すうえで、以下の到達目標を設定する。

・オスマン帝国の歴史を通じて、近代以前の中東・バルカン・北アフリカの歴史や文化の基礎的な知識を修得する。

・最近の研究動向も踏まえながら、近現代の当該地域の歴史や社会を考えるうえでの視野を広める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・オスマン帝国史を理解するために ・中東・バルカン地域の前近代史とオスマン帝国	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第２回	・征服王メフメト２世の登場 オスマン「帝国」の誕生 ・コンスタンティノープルの征服と首都イスタンブル	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第３回	・首都イスタンブルの造営（１） ・異教徒との共存	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第４回	・首都イスタンブルの造営（２） ・街区の形成と宗教寄進制度	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第５回	・「壮麗王」スレイマン１世の時代（１） ・軍人エリートの登場	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第６回	・「壮麗王」スレイマン１世の時代（２） ・イスラーム知識人（ウラマー）と司法行政	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第７回	・「壮麗王」スレイマン１世の時代（３） ・ハレム（後宮）制度と女人の統治	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第８回	・オスマン社会の変容 ・軍事国家から財政国家への変貌	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第９回	・近世オスマン地方社会を生きる ・ボスニアのイスラーム法廷を中心に	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第１０回	・新たな統合の時代へ ・第二のオスマン帝国論とは何か	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第１１回	・オスマン帝国とヨーロッパ ・ウィーン包囲からトルコ趣味の流行まで	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第１２回	・オスマン近世社会における名士たち ・ウラマーの家系史研究から見た 近世社会	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第１３回	・チューリップ時代の幕開け ・オスマン遣欧使節が見たヨーロッパ	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第１４回	・総括 ・オスマン帝国の近代化改革を理解するために	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で進める。

偶数回の講義時に小テストを行うので、理解の確認をしてください。こちらの提出も授業の取り組みへの評価に加えます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
課題（授業内容についてのクイズ）については提出後、講評と解説の時間を次回以降の授業時間内に設ける。そこで理解を深めてほしい。

〔成績評価の方法〕
・授業への取り組み（20%)、リアクションペーパー提出(20%)、定期試験(60%)
・授業についてのリアクションペーパー、小テストの提出、質問により、取り組みの内容を総合して判断する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
到達目標の欄に挙げた項目が達成できたか否かを成績評価の基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
・林佳世子　『オスマン帝国 500 年の平和』講談社、 2008
・小笠原弘幸『オスマン帝国　繁栄と衰亡の 600 年史』中公新書、2018
・永田雄三　『トルコの歴史』（上）（下）刀水書房 2023
・永田雄三編　井谷鋼造　林佳世子　秋葉淳　新井政美　間寧著『トルコ史』2023

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	世界の宗教文化（仏教文化の伝播と変容）						
教員名	佐藤　晃						
講義コード	125334110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、仏教の伝播と変容について考えていきます。仏教は紀元前 6 世紀頃にインドで誕生したとされ、その後、アジア諸地域へと伝播していきました。インド、中国、チベットという地域を中心に、そこで展開される仏教思想・文化の伝播・継承・変容について、様々な視点から捉えていきたいと思います。まず、インドでの仏教の誕生から基礎的な事柄を確認し、その後の伝播について概観します。中国には後漢期（1 世紀半ば）に伝わったとされますが、時代や地域、また王朝によってその伝播・受容の在り方に特徴が見られます。仏教典籍の翻訳、中国の思想や文化との交流、宗派形成史等の観点から概観していきます。さらにチベットへの仏教伝播にも目を向けます。チベットへの仏教初伝は 6 世紀頃、本格的な受容は 8 世紀後半とされます。チベット仏教初期にインドのみならず中国からも仏教が伝わった点、チベット独自の宗派形成、さらにチベットで成立した宗派・思想が元朝や清朝といった王朝に伝播し独特の展開を見せた点等が注目されます。上記の仏教思想の伝播には、時代・地域に応じた多様且つ複雑な文化的事象の展開が付随します。また、上記以外の地域についても随時取り上げ、可能な限り、幅広い事例を取り上げる予定です。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

インド・中国・チベット等で展開した、仏教伝播の諸相を多角的に理解し、自分の言葉で論じられるようになることを目指す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：本講義の概要説明 インド仏教①：仏教の誕生と基本思想	・予習（要点及びキーワードの確認）	30 分
第２回	インド仏教②：南伝仏教と北伝仏教へ	・授業後の課題 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第３回	インドからチベットへ①：中国への仏教初伝と仏典翻訳	・復習 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第４回	インドからチベットへ②：北方・南方諸王朝での仏教受容の特徴	・授業後の課題 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第５回	中国仏教①：隋朝での国家仏教と諸宗成立	・復習 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第６回	中国仏教②：唐朝での禅宗の形成	・授業後の課題 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第７回	中国からチベットへ①：吐蕃王国（古代チベット）と公主の降嫁	・復習 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第８回	中国からチベットへ②：チベットでのインド仏教と中国仏教の対論	・授業後の課題 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第９回	チベット仏教①：吐蕃王国の崩壊と仏教	・復習 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第１０回	チベット仏教②：チベット独自の宗派形成	・授業後の課題 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第１１回	チベットから中国へ①：サキャ派とモンゴル・元朝	・復習 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第１２回	チベットから中国へ②：ゲルク派と清朝	・授業後の課題 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第１３回	その他の地域への伝播と現代	・復習 ・予習（要点及びキーワードの確認）	60 分
第１４回	全体のまとめ	・復習	60 分

〔授業の方法〕

・この授業は、講義形式で進めます。
・履修者の理解度を踏まえて進度を調整しますので、場合によっては、シラバス通りに進まない場合もあります。
・授業で使用した PPT や各種資料を配布します。また、前の週に次回の要点・キーワードを提示します。予習や復習の参考にしてください。
・適時、授業後に課題を出すので、期日までに提出してください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
レポート：６０％（学期末レポート）
平常点：４０％（授業への取り組み・授業後の課題提出等）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
・平川彰『インド仏教史』（上・下）春秋社、1974 年、1979 年。
・鎌田茂雄『中国仏教史』（岩波全書）1978 年。
・山口瑞鳳『チベット』（上・下）東京大学出版会、1987 年、1988 年。
上記の購入は必要ありません。上記以外については、授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問がある場合は、ポータルサイトを通じて、また、教場で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	国際文化研究A						
教員名	中野　由美子						
講義コード	125334120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義の課題は、主にハリウッド映画を題材として、第二次世界大戦を経て超大国となったアメリカ合衆国の自画像の変遷を社会史・文化史的に検討することである。戦禍を免れたアメリカ合衆国は、絶対的な軍事力と経済力を誇る強国として、国際社会において圧倒的な存在感をもつ存在となった。その一方で、国内においては、人種・エスニシティにまつわる様々な矛盾や葛藤を抱え、それが次第にアメリカ社会全体を揺るがす問題として表出することになった。本講義では、このような国内外の状況の変化を踏まえ、アメリカ合衆国の自画像がどのように形成され、そして変容せざるを得なかったのかを、映画を題材として探求していく。なお、本講義では、上記のテーマに即して、適宜、史料分析のトレーニングも行う。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1、DP2-1 を実現するため、以下の 3 点を到達目標とする。
① 20 世紀の合衆国に関する社会史・文化史の基礎知識を修得する。
② 人種・エスニシティという観点から、合衆国における娯楽産業の歴史の特質を説明できる。
③ 映像史料とそれに関連する二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方などを確認する。	テキストの指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第２回	映像の可能性―社会史的考察 ・映像資料の活用方法について理解する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第３回	創られる先住民像（その１） ・20 世紀前半の西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第４回	創られる先住民像（その２） ・20 世紀半ばの西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第５回	創られる先住民像（その３） ・20 世紀後半の西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第６回	国境を超える西部劇 ・西部劇がヨーロッパ・日本においてどのように受け入れられたのかを検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第７回	先住民の表象　小括　＋　中間テスト ・講義の後半では、これまでの講義内容に関する中間テストを実施する。	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60
第８回	映画の中のアジア人像（その１） ・20 世紀前半のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第９回	映画の中のアジア人像（その２） ・20 世紀半ばのハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１０回	映画の中のアジア人像（その 3） ・20 世紀末のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１１回	映画の中のアジア人像　小括 ・映画を題材として、「人種」問題について探求する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト ・講義の後半では、これまでの講義内容に関する到達度確認テストを実施する。	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60
第１３回	テストのレヴュー　＋　小括 ・近年の論争と改革について探究する。 ・小括　リアクションペーパーを作成・提出する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１４回	全体のまとめ ・総括　リアクションペーパーを作成・提出する。	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60

〔授業の方法〕

・講義形式で行う。レジュメや史料の配布の際にコースパワーを使用するので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスをして確認をすること。（なお、コースパワーにアップロードすることができない史料等は、講義中に紙媒体で配布する。後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。）
・毎回、コースパワーを使ってリアクションペーパーの提出を求める。
・中間テストと到達度確認テストは、コースパワーで解答を提出する形で実施するため、ノート PC・タブレット等を必ず持参すること。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

・毎回の講義の最初に、前回の課題に対するフィードバックを行う。
・中間テスト・到達度確認テスト実施の翌週に、同テストについて解説する。

〔成績評価の方法〕
授業中に出す課題（リアクションペーパー等のコースパワーで一定期間内に提出していただく課題も含む）＝平常点（55％程度）、中間テスト（15％程度）、到達度確認テスト（30％程度）による総合評価。なお、第13回、第14回のリアクションペーパーについては、総括を兼ねた課題であるため、10％を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①合衆国における娯楽産業の歴史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②世界史全体の流れのなかに、アメリカの映画産業を位置づけ、その特質を理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校卒業レベルの世界史の基礎知識は必要であるが、未履修者はテキスト・参考書を事前に熟読して基礎知識の習得に努めること。アメリカの歴史と文化A・Bの他、日本を含む世界各国・地域の歴史と現状に関する科目を幅広く受講することが望ましい。

〔テキスト〕
北野圭介『新版　ハリウッド100年史講義―夢の工場から夢の王国へ―』平凡社新書、2017年。
ISBN: 978－4－582－85849－5
※購入の必要なし。
　ただし、アメリカ合衆国の社会史・文化史に関する予備知識がない場合は、予習・復習用として購入することを推奨する。

〔参考書〕
Decherney, Peter. Hollywood: A Very Short Introduction. Oxford University Press, 2016.
阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための62章』明石書店、2016年。
有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣、2003年。
※上記の参考書は、購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	国際文化研究Ｂ						
教員名	川村　陶子						
講義コード	125334130	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

テーマ：「文化多様性からみる現代ドイツ」

この授業では、ひとつの国ないし社会を、文化多様性という見地から、多角的かつ歴史的にとらえ直すことを試みる。具体例として、ヨーロッパの中心国であり、西ドイツ時代以来「ひらかれた民主主義」の建設を目指してきたドイツ連邦共和国をとりあげる。メインとなる部分では、現代ドイツを構成するさまざまな「文化（多様性）の次元」を、時間的・空間的な広がりに留意しつつ読み解いていく。そうした作業をとおして、ドイツという〈くに〉の成り立ちやその魅力、抱える問題や困難、それらを克服する努力などを理解することを試みる。私たちの住む日本との比較も織り込む予定である。

多様なものの共生は、今日の世界において摩擦や対立を生み出す契機となりうるが、同時に活力ある社会、新たな創造性の源ともなりうる。多様性のこうした二面性を理解しつつ、そのダイナミクスをより肯定的に生かすには、社会に多様性をもたらす文化のさまざまな次元を意識することが重要である。授業ではドイツやヨーロッパで行われている多様性マネジメントの試み（政策、活動等）にも注目し、文化多様性をよりよい社会づくりに生かすためのヒントを考えたい。

＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって修正・調整する可能性がある。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、以下のことを目標とする。

①現代ドイツが内包するさまざまな意味での「多様性」をひもとくことにより、ドイツを新たな目で理解すること。

②多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げること。

③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養うこと。

④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、受講者の人数や構成、現実の社会や研究の動きなどの要因をふまえて適宜修正する。） 《イントロダクション》 講師の問題関心と授業の概要について説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。テーマに関連した自分の関心や事前知識を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	《文化の多様性と現代の諸問題》 文化多様性とはどのようなことか、それが今日の世界におけるどのような事象と関連しているかについて、概略的に整理する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	《ドイツとは何か》 ドイツという国、社会がはらむ複雑さと、それを規定する多様性について理解を深める。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	《多様性からみるドイツ（１）地方とヨーロッパ①》 地理的な広がりと多彩な地方色について理解を深める。歴史的な経緯にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	《多様性からみるドイツ（２）地方とヨーロッパ②》 地理的な広がりと多彩な地方色について理解を深める。現代的な状況にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	《多様性からみるドイツ（３）冷戦と東西①》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。とくに、20 世紀後半の冷戦と国家分断がもたらした影響に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	《多様性からみるドイツ（４）冷戦と東西②》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。今日における東西ドイツの違いや、それが政治や社会に及ぼす影響にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	《多様性からみるドイツ（５）世代と歴史・社会観①》 人びとを分ける世代について理解を深める。近現代史の流れの中で、世代を形成する要因となった出来事にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	《多様性からみるドイツ（６）世代と歴史・社会観②》 人びとを分ける世代について理解を深める。現代史の諸問題に関する公的認識の形成に、世代が及ぼした役割についても考察する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	《多様性からみるドイツ（７）人の移動と受け入れ・統合①》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。ドイツをめぐる人の移動の歴史的な流れに、とりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	《多様性からみるドイツ（８）人の移動と受け入れ・統合②》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 20 世紀後半における外国人労働者の受け入れや統合に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	《多様性からみるドイツ（９）人の移動と受け入れ・統合③》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 21 世紀における移民・難民の受け入れや統合に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１３回	《多様性からみるドイツ（１０）ジェンダーとセクシュアリティ》 ジェンダーや家族に関する考え方、性的指向や性的自認の多様性の扱いについて理解を深める。歴史的な経緯と	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60

	現代における展開の双方に注目する。		
第１４回	《多様性がもたらす課題と可能性》 今日、多様性がもたらす諸問題と、それが生み出す革新や創造を再確認するとともに、文化多様性を肯定的に生かすためのドイツの取り組みとその課題を総括的に議論する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。 授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。 レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕
講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。履修者の人数等によっては、より参加型の性格が強い授業とする可能性もある。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパーで授業内容に関する質問や意見、講義に関連しておこなった自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説をおこなう。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義をおこなう。授業内容に関連する映画を紹介し、小課題の形で鑑賞、批評をおこなってもらうことも検討している。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業のはじめに受講者のリアクションペーパーを活用して前回授業の解説をおこなう。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）80%、期末レポート 20%をめやすに総合的に評価する。
（注：受講人数等によっては、期末レポートに代えて授業最終回に到達度確認テストをおこなう可能性がある。詳しくは学期はじめの授業での指示を参照すること。）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その到達度により評価する。
①現代ドイツが内包するさまざまな「多様性」を理解する。
②多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げる。
③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養う。
④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
履修者は、ドイツやヨーロッパ、世界の情勢について文献やネット等で自主的な情報収集をおこなうことが望ましい。
世界史、とくに近現代史に関する基礎知識があると授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず自主的な学習を推奨する。
ドイツの歴史や文化に関する事前の知識は必須ではないが、関連授業の履修や自主的な学習は授業の内容理解に役立つ。
ドイツ語に関する知識は必要ないが、あれば授業の内容理解に役立つ。
関連科目：国際文化論、ヨーロッパの歴史と文化、ヨーロッパ文化・文化史特講、その他近現代史およびドイツ・ヨーロッパに関する科目

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
板橋拓己・妹尾哲志（編著）『現代ドイツ政治外交史』ミネルヴァ書房、2023 年。
田野大輔・柳原伸洋編著『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房、2016 年。
森井裕一『現代ドイツの外交と政治【第 2 版】』信山社、2024 年。
『ドイツの実情』2018 年（ドイツ外務省制作の e ブック、インターネットから無料ダウンロード可能）。
ほか、開講時および授業中に適宜指示する。（上掲した参考書はいずれも購入の必要なし。）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	国際文化研究C						
教員名	樋口　真魚						
講義コード	125334140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

よく知られているように、日本は 1931 年 9 月に勃発した満洲事変を契機として、国際連盟を脱退した。そして 37 年 7 月の日中戦争勃発、40 年 9 月の日独伊三国同盟を経て、41 年 12 月ついに対米開戦へと踏み切った。満洲事変以降の歴史は「孤立への道」「戦争への道」だったといっても過言ではないだろう。しかしながら、その過程は決して平たんなものではなく、実に複雑であった。この授業では、日米開戦へと至る日本の外交政策について検討する。当時の日本は世界をどのように捉え、いかなる外交を展開していたのだろうか。近年の研究成果などを踏まえながら、できるだけ分かりやすく説明するつもりである。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP 1 （専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・日本外交史に関する基礎的知識を習得する。
・日本と国際社会の関わりについて、歴史的観点から説明することができる。
・日本近代史を、グローバルな視点から把握することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】授業時に紹介された文献などを確認し、授業の全体像を把握する。	60
第２回	第一次世界大戦の終結	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第３回	パリ講和会議と国際連盟	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第４回	ワシントン体制の成立	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第５回	戦争の違法化と不戦条約	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第６回	満洲事変と国際秩序	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第７回	国際連盟脱退	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第８回	広田（弘毅）外交の展開	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第９回	日中戦争と「東亜新秩序」	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１０回	松岡（洋右）外交と三国同盟	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１１回	日米交渉	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１２回	戦時外交と敗戦	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	60
第１４回	到達度確認テストの解説、総括と展望	【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

〔授業の方法〕

・講義形式の授業。
・やや専門的な内容を扱う予定である。
・CoursePower から小レポートを提出してもらうので、ノートパソコンを持参すること。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。
・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはしない。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

・授業の初めに、小レポートの講評を行う予定である。
・最終授業で、到達度確認テストについて解説する。

〔成績評価の方法〕

小レポート 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・日本外交史に関する基礎的知識を習得できたか。
・日本と国際社会の関わりについて、歴史的観点から説明することができたか。
・日本近代史を、グローバルな視点から把握することができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本史に関する基礎知識（高校レベル）が必要である。自信がない履修者は初回授業で紹介する概説書に目を通すなど、各自で予習しておくこと。

〔テキスト〕
なし。

〔参考書〕
なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	世界美術史						
教員名	人見　伸子						
講義コード	125334160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
イギリスの文化について語るとき、文学や演劇、あるいは音楽に関しては話題がつきないだろう。しかし「イギリス美術」といえば、2、3 の画家の名前は出てくるが、ルネサンスや印象派の画家たちに比べれば知名度が低く、具体的な作品まで思い浮かばないかもしれない。それはイギリスがヨーロッパ大陸から切り離された島国であるという地理的な要因ばかりでなく、国の成り立ちや国民性とも関わってくる。しかしイギリスには他の地域とは一線を画す美意識や美術史が存在し、それ故に発見が多く、魅力に富んだテーマだと考える。
この授業では、イギリスにおける独自の美術の誕生から始まり、18～19 世紀を中心にした風景画や文学的作品の流行、そしてバンクシーに代表される現代美術にいたるまで、幅広い時代やジャンルの美術作品を紹介し、イギリス美術の多面性に注目し、考察していきたい。(今回取り上げる「イギリス」とは、イングランド・ウェールズ・スコットランド・北アイルランドからなる「連合王国 United Kingdom」を指すとご理解いただきたい)。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
①イギリス美術の成り立ちや独自性を検討し、その存在意義を考察する。
②世界史全体の流れのなかに世界美術史を位置づけ、その特質や意義を説明できるようにする。
③DP2（教養の修得）を実現するため、歴史的思考力を養うことを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の概要 / エリザベス朝以前 ・中世から 16 世紀後半のエリザベス朝までのイギリスに焦点をあて、国の成り立ちや建築・美術について学ぶ。	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60 分
第２回	肖像画：レノルズ、ゲインズバラ ・18 世紀に誕生したロイヤル・アカデミーの中心メンバーとして活躍した二人の画家を中心に、イギリスの肖像画について考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第３回	風俗画：ホガース、カリカチュア ・風俗画のジャンルで活躍したホガースの個性的な作品や、国民性とも結びついたカリカチュアの流行について考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第４回	水彩画の隆盛 ・イギリスでは、水彩画がひとつの独立したジャンルとして存在し、多くの画家が活躍した。その真髄に触れる。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第５回	風景画（1）ターナー ・イギリスを代表する風景画家ターナーを取り上げ、その様式の変遷や時代への対応について考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第６回	風景画（2）カンスタブル ・ターナーと同時代の画家カンスタブルを中心に、19 世紀のイギリス風景画の多様性について学ぶ。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第７回	演劇と絵画 ・イギリスでは古くから芝居が好まれ、とくに 16 世紀末には多くの劇作家が輩出した。シェイクスピアの戯曲を中心に、絵画化された作例について考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第８回	アーサー王伝説と絵画 ・中世の騎士物語に基づくアーサー王伝説は、多くの美術作品の主題として取り上げられた。その背景や具体例について学ぶ。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第９回	絵本 / 文学書の挿絵 ・ピーター・ラビットや不思議の国のアリスなど、文字と絵が結ぶついた作例について考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１０回	ラファエル前派の登場 ・1948 年に結成されたラファエル前派について、主要メンバーの作品を中心に、その後の展開や影響について検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１１回	モリスと新しいデザイン ・「中世の職人の手仕事」を理想としてモリスが、19 世紀イギリスにもたらしたものは何だったのか、多彩な活動とともに考えてみる。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１２回	ジャポニスム ・19 世紀後半のヨーロッパを席巻した日本文化の影響（ジャポニスム）について、具体例やその後の展開を考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１３回	世紀末の唯美主義 ・19 世紀末から 20 世紀初頭に流行した唯美主義と美術との関係を、具体的な作品を通して考えてみる。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１４回	イギリスの現代美術 ・長い歴史や伝統をもつイギリスは、新しい価値観や文化の受け皿としても、重要な役割を果たしてきた。20 世紀以降、現代にいたる芸術家やその作品について検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分

〔授業の方法〕
Course Power を利用して毎回の授業のレジュメを配信し、スライドの画像を見ながら、講義形式で授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答してもらう。学期末には課題レポートの提出が必要である。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕
特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業終了後に提出するアンケートについて、、次回授業の冒頭で全体の講評を行う。

〔成績評価の方法〕
アンケートを基にした平常点（30%)、および課題レポート（70%）から、総合的に判断して評価する。単位認定には、3 分の 2 以上の出席と期末の課題レポートの提出が必須条件である。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
全般的な世界史の知識が必要だが、必須ではない。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
高橋裕子 『イギリス美術』 岩波新書　1998
高階秀爾監修　増補新装　『カラー版：西洋美術史』　美術出版社　2002 年初版
その他、テーマ毎に授業で随時紹介するが、購入の必要は特にない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了時に教室で受け付ける。
Course Power Q&A を利用することも可能である。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	世界美術史 B						
教員名	教員　未定						
講義コード	125334170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回			
第２回			
第３回			
第４回			
第５回			
第６回			
第７回			
第８回			
第９回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	現代社会入門						
教員名	内藤　準						
講義コード	125411100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

この講義では現代社会のさまざまなトピックを学びます。わたしたちの生きる現代社会は、どのような社会であり、どのような社会問題が生じているのでしょうか。ある社会問題について、どのような立場の違いがあり、いかなる解決策が考えられるのでしょうか。また、社会はどのように変化するのでしょうか。

この授業ではこうした問いに対して、とくに人びとの「自由」や「アイデンティティ」、社会の「秩序」や「社会規範」、そして「社会の変化」という観点から取り組んでいきます。各回のテーマについて学びながら、みなさんの研究と暮らしに役立つ「社会と人についての見方」を身につけていきましょう。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の到達目標を設定します。
①現代社会のさまざまな現象について、その成り立ちや問題点を理解できるようになる。(DP1、DP3)
②さまざまな資料やデータや文献の見方を学び、自ら調べて確かめる姿勢を身につける。(DP1、DP3)
③現代社会の諸問題について分析するための、基礎的な概念や基本的な理論枠組みを理解し、身につける。(DP1、DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション・授業の説明 （以下の各回のテーマは一例です。その時々の社会情勢や授業の進捗に応じて入れ替わる可能性があります。また1つのトピックを複数回にわたって取りあげることもあります。）	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第２回	現代社会の分析の基礎 1 ～社会的行為と社会規範	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第３回	現代社会の分析の基礎 2 ～相互行為と社会的協力，コンフリクト	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第４回	現代社会の分析の基礎 3 ～社会秩序と社会構造、社会変動	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第５回	現代社会の分析の基礎 4 ～さまざまな差別のメカニズム	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第６回	障害者差別と自立生活，ノーマライゼーション	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第７回	性の多様化とジェンダー	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第８回	貧困の連鎖と社会的排除	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第９回	仕事と家庭，ワークライフバランス	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１０回	近代家族と家族の多様化	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１１回	少子高齢化と社会福祉	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１２回	監視社会における自律性，リスク社会と個人化	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１３回	公共性，ボランティア，町内会	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１４回	授業のまとめ	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60

〔授業の方法〕

基本的に講義形式（オンライン）でおこないます。
毎回、事前にレジュメの PDF を配布します。
受講者の皆さんは、それを印刷したりタブレット（iPad など）に読み込むなどして、書き込めるようにしておくと、スムーズに授業を受けることができます。
毎回の最後に、リアクションペーパー（Microsoft Forms によるコメント）を集めます。
リアクションペーパーの提出をもって出席とします。
皆さんからのコメントについては、毎回の授業で紹介し議論を深めます。
毎回リアルタイム講義をおこないますが、授業後に授業動画がアップロードされます。
授業動画の視聴による受講も可能です。
講義では学術的な概念を用いるので、適宜簡単な小テストなどをおこなう可能性があります。
進捗と復習の必要に応じて、中間テストなどをおこなう可能性があります。
授業の進捗度やその都度の重要トピックに応じて、各回の内容は変更されることがあります。
テスト（学期末試験，小テスト，中間テストなど）の範囲は、授業で扱った内容全般です。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

Zoom（リアルタイム講義の受講用）

〔課題等へのフィードバック方法〕
各回のリアクションペーパー（forms コメント）の内容や質問について紹介し、受講者が相互に意見を知ったり，検討しあったりすることができるようにします。
その他の課題については、授業時間内の説明や、教育システム（CoursePower や Office365 の機能など）を用いて適宜フィードバックをおこないます。

〔成績評価の方法〕
平常点，小テストや課題、学期末テスト（または到達度確認テスト）から総合的に評価します。
基本的には学期末テスト（または到達度確認テスト）を重視します。テストの出題範囲は授業で扱った内容全般です。
学期末テストは対面で行う予定です。
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況） 10%，小テストや課題 30%，学期末テスト（または到達度確認テスト） 60%
進捗状況によって、課題や小テストがおこなわれなかった場合や、おこなわれても回数が少なかった場合には，その分の配点を平常点や学期末テストなどに割り振ります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識はとくに必要ありませんが、社会階層論、労働社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学などについて、また、社会学的な相互行為論（ゴッフマン、ガーフィンケル、シュッツなどの理論）について学んでいると、より理解が深まります。

〔テキスト〕
授業時に資料を配付し、テキストとして使用するほか、適宜授業内で指示します。

〔参考書〕
浜日出夫『戦後日本社会論』有斐閣．（購入の必要なし）
長谷川公一ほか『社会学［新版］』有斐閣．（購入の必要なし）
小林盾ほか『社会学入門』朝倉書店．（購入の必要なし）
本田由紀編『現代社会論』有斐閣．（購入の必要なし）
江原由美子『増補　女性解放という思想』筑摩書房．（購入の必要なし）
E．ゴッフマン『行為と演技』誠信書房．（購入の必要なし）
E．ゴッフマン『スティグマの社会学』せりか書房．（購入の必要なし）
前田泰樹・水川喜文編『エスノメソドロジー』新曜社．（購入の必要なし）
岡田章『ゲーム理論　入門・新版』有斐閣．（購入の必要なし）
小熊英二『日本社会のしくみ　雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社．（購入の必要なし）
など、授業内で随時指定します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業後のリアクションペーパー（forms）で受け付けます。
リアルタイム講義中は Zoom のチャット，または音声で受け付けます。
その他の連絡手段はポータルサイト等で周知します。

〔特記事項〕

講義名	社会学入門						
教員名	長谷川　拓人						
講義コード	125411150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
当たり前を問い、さまざまな状況について理解することが、社会学の基本的な考え方である。この授業では、コミュニケーションや家族といった日常生活をめぐるトピックや、格差やジェンダーなどの現代社会の重要なテーマを扱いながら、社会への多角的な見方を勉強する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能の修得）、ＤＰ２（教養の修得）、ＤＰ３（課題の発見と解決に向けた力の修得）を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
・社会学の代表的な理論や基本的な知識を身につける。
・現代社会の諸問題を、社会学の視点から広く捉えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配布資料を読み、理解する。	60
第２回	親密性と公共性	配布資料を読み、理解する。	60
第３回	相互行為と自己	配布資料を読み、理解する。	60
第４回	自殺論	配布資料を読み、理解する。	60
第５回	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	配布資料を読み、理解する。	60
第６回	監獄の誕生	配布資料を読み、理解する。	60
第７回	格差と階層	配布資料を読み、理解する。	60
第８回	逸脱と文化的再生産	配布資料を読み、理解する。	60
第９回	医療・福祉と自己決定	配布資料を読み、理解する。	60
第１０回	国家とグローバリゼーション	配布資料を読み、理解する。	60
第１１回	家族とライフコース	配布資料を読み、理解する。	60
第１２回	ジェンダーとセクシュアリティ	配布資料を読み、理解する。	60
第１３回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、空間と場所	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

〔授業の方法〕
毎回プリントを配布し、必要に応じて、映像やインターネット等を使いながら、講義を行う。授業の中で、課題を行うこともある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
最終授業で到達度確認テストの解説を行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（50%）と平常点（授業中の課題など）（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「現代社会入門」がある。

〔テキスト〕
必要に応じて資料を配布する。

〔参考書〕
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2019，『社会学（新版）』有斐閣.（3500 円＋税、ISBN978-4-641-05389-2） 購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	コミュニケーション論入門						
教員名	見城　武秀						
講義コード	125411200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

『ドラえもん』に出てくる「ほんやくコンニャク」が欲しいと思ったことはないでしょうか？食べればどんな言葉をしゃべる人とでもコミュニケーションできる「ほんやくコンニャク」は、夢のような道具です。しかも、人工知能や機械翻訳についての研究が急速に進んでいる今、そう遠くない将来実現しそうな道具、部分的にはすでに実現している道具であるようにも思えます。

ところが驚くべきことに、現在のコミュニケーション論に大きな影響をおよぼしている「構造主義」という考え方は、「ほんやくコンニャク」という道具が原理上存在し得ないということを示しました。一体構造主義は、どのような仕方で「ほんやくコンニャクが存在し得ないこと」を示したのでしょう。そもそも構造主義とは、どのような物の見方なのでしょう。また、現在進みつつある機械翻訳研究は無駄な試みなのでしょうか。これらの問いに答えながら、一体コミュニケーションとは何か、多角的に考察していきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

次の３点を到達目標とします。

（1）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解する。

（2）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解する。

（3）構造主義的翻訳観と現在の機械翻訳技術の根底にある翻訳観を比較することで、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。課題文献を読む。	60
第２回	＜モノ語り＞と現代のコミュニケーション	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第３回	“やさしさ”と現代のコミュニケーション	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第４回	“やさしさ”という呪縛	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第５回	大衆社会としての現代とコミュニケーション－現代人の「不安」	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第６回	言葉の「意味」とは何か－言葉と文化の「構造」性	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第７回	構造主義の源流－ソシュールの言語学	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第８回	言語の差異性／恣意性／体系性―構造主義の基礎概念	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第９回	言語は「現実」や「思考」とどのように関係するか	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１０回	「ほんやくコンニャク」があれば本当に「異文化理解」ができるのか？	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１１回	コミュニケーションにとって言語とは何か	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１２回	構造主義以後のコミュニケーション論がかかえる問題	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１３回	機械は言語を「理解」できるのか？	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１４回	まとめ	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。	60

〔授業の方法〕

配布資料に基づく講義形式。毎週、課題文献を読んでから授業に臨んでもらいます。また、授業内容に関連する課題を毎回出し、その総合点で評価をおこないます。提出された課題の評価基準は以下の通りです。

(1) 課題が求めている事柄、またその前提となる授業内容を理解しているか。

(2) 記述が論理的に展開されているか、誰が読んでも納得できる内容か。

(3) 自分の体験に基づいた独自の視点から書かれているか、自分の頭で考えていることがうかがえるか。

(4) 他人の書いたことを参考にしている場合、出典が示されているか。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕

履修者が提出した課題の一部を次回授業時に紹介し、解説を加えます。

〔成績評価の方法〕
毎回の提出課題に基づく平常点 100%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。
（1）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解しているか。
（2）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解しているか。
（3）講義内容を踏まえ、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深めることができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
多数。授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトの「オフィスアワー」で周知します。

〔特記事項〕

講義名	メディア論入門						
教員名	西　兼志						
講義コード	125411250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、メディアを「メディア行為＝メディアは何を為しているのか」という観点から捉え返すことで、私たちの環境となっているメディア広く理解できるようにしていきます。講義は、「理論編」「メディアと意識＝アテンション」「メディアと身体＝身振り」の 3 部から構成されています。講義を通じて、メディアの歴史的展開と同時に、現代のメディアのあり方を考えていきたいと思います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定してます：メディア論の基礎となる諸概念を理解することで、現代のメディア社会の成り立ちを各々で考えられるようになることを目ざします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第２回	理論編（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第３回	理論編（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第４回	理論編（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第５回	メディアと意識＝アテンション（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第６回	メディアと意識＝アテンション（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第７回	メディアと意識＝アテンション（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第８回	メディアと意識＝アテンション（４）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第９回	メディアと身体＝身振り（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１０回	メディアと身体＝身振り（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１１回	メディアと身体＝身振り（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１２回	メディアと身体＝身振り（４）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１３回	メディアと身体＝身振り（５）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
提出されたリアクション・ペーパーは、毎回できるかぎり取りあげ、講義に組み込んでいきます。
CoursePower にアップロードした資料のアクセスは、出席にあたって必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回、授業の冒頭で、リアクション・ペーパーについての講評・回答を行います。

〔成績評価の方法〕

授業への参加（≠出席）＝50%、リアクション・ペーパーの内容（≠投稿）＝50%
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・授業で取り上げた各メディアの特質を理解できているか。
・授業で参照したメディア論の古典的なテクストをきちんと理解できているか。
・各自にとって身近なメディア現象を、メディア論の観点から位置づけられているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕
CoursePower を通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.
『アイドル/メディア論講義』東京大学出版会、2017.
その他、授業中に随時、指示します。
CoursePower にアップロードした資料のアクセスは出席にあたって必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	社会学史						
教員名	金　善美						
講義コード	125411300	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
社会学の歴史的な歩みをたどりながら、社会学という学問の基礎的な概念と理論について学ぶ授業です。毎回、代表的な社会学者（学説）を取り上げ、その理論・思想を生み出した時代的背景や主な業績の内容、他の学問分野との関連などを解説していきます。
社会学が扱う領域は幅広く、また、抽象的な考え方や馴染みの薄い用語が出てくることもあるため、難しいと感じる人もいるかもしれません。授業ではそれらをなるべく分かりやすくかつ具体的に解説することで、それぞれの受講者が「好きな社会学者」「今後のレポートや卒論に活用したい概念・理論」に出会うきっかけを提供したいと思います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1（専門分野の知識・技能）・DP2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①社会学の主要な概念と理論を修得する。
②さまざまな学説を社会学全体の流れの中で位置づけ、その特徴と意義を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する	シラバスを読み、講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	60
第２回	近代の成立と社会学の誕生	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第３回	ウェーバーの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第４回	デュルケムの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第５回	ジンメルの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第６回	実証主義の社会学：シカゴとコロンビア	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第７回	到達度確認テスト	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第８回	パーソンズの社会学と現象学的社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第９回	意味学派の社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１０回	ルーマンの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１１回	ハーバーマスの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１２回	ブルデューの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１３回	フーコーの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１４回	ギデンズの社会学と全体のとりまとめ	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式。授業内容への理解度を確認するために、毎回の授業後にコメントペーパーの提出を求めます。到達度確認テスト１回、学期末試験あり。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業内でのフィードバックの他、Coursepower やメールを通じて個別質問への回答や講評・解説をします。

〔成績評価の方法〕

平常点（積極的な質問・コメントなど授業への参加状況、到達度確認テスト）50%＋学期末試験 50%で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・社会学の大まかな歴史について、基礎的な知識を修得しているか
・特定の学者（学派）の理論・概念を社会学史全体の流れの中で位置づけ、その特徴を自分の言葉で説明できるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現代社会学科の 1 年生必修科目（現代社会入門・社会学入門・コミュニケーション論入門など）や 2 年生演習科目の内容を身につけておくと、授業内容を理解しやすいと思います。

〔テキスト〕
『ブリッジブック社会学（第 2 版)』、玉野和志編、信山社、2400 円＋税、ISBN-10: 4797223529（購入の必要なし）

〔参考書〕
『社会学の歴史Ⅰ』奥村隆著、有斐閣、1900 円＋税、ISBN-10: 4641220395
『クロニクル社会学』那須壽著、有斐閣、2100 円＋税、ISBN-10: 4641120412
『社会学用語図鑑』田中正人・香月孝史、1800 円＋税、ISBN-10: 4833423111
『よくわかる社会学史』早川洋行編著、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN:9784623059904
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトおよび第 1 回目授業で周知します。

〔特記事項〕

講義名	メディア史入門						
教員名	今田　絵里香						
講義コード	125411350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、さまざまなメディアの歴史を一つひとつ丹念に読み解きながら、メディアそのものの独自性に固執することなく、むしろそのメディアを取り囲んでいる社会的な文脈にこそ目を向け、日本社会の歴史的な動向を把握していくことにしたい。さまざまなメディアがどのような社会のなかでどのように創出されてきたのか。また、メディアはどのような社会的現象を創出してきたのか。このような問いに取り組んでいく。そして、歴史資料を読み解くなかで、メディアが、階級、ジェンダーなどの社会的カテゴリーを創出するプロセスを把握する。また、同時に、そのような社会的カテゴリーの生成とともに新たなメディアが生み出されるプロセスをとらえる。このような作業を繰り返すことによって、メディアは決して社会と切り離された存在ではないことを確認し、メディアというフィルターを通して社会そのものを読み解いていきたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２（教養の修得）、ＤＰ３（課題の発見と解決）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
社会の「常識」や、社会現象やメディアの定型的な語りから脱し、さまざまな視点から社会現象やメディアを捉えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	少年少女雑誌と「少年」「少女」はどのように生まれてどのように変遷したのか	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第２回	子どものメディアから「少年」のメディアへ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第３回	子どものメディアから「少年」のメディアへ（２） 「少年」のメディアから「少年」「少女」のメディアへ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第４回	「少年」のメディアから「少年」「少女」のメディアへ（１） 大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第５回	大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第６回	大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（３） 新体詩の名手と口語詩の名手（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第７回	新体詩の名手と口語詩の名手（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第８回	新体詩の名手と口語詩の名手（３） 少女雑誌のアイドルと少年雑誌のアイドルの不在（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第９回	少女雑誌のアイドルと少年雑誌のアイドルの不在（２） あこがれの才色兼備のお嬢さま（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１０回	あこがれの才色兼備のお嬢さま（２） 完全無欠の英雄（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１１回	完全無欠の英雄（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１２回	完全無欠の英雄（３） 都市新中間層の「少年」「少女」からあらゆる階層の「少年」「少女」へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１３回	都市新中間層の「少年」「少女」からあらゆる階層の「少年」「少女」へ（１） 「少年」「少女」から少国民へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１４回	「少年」「少女」から少国民へ（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90

〔授業の方法〕

講義形式。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

課題は講義の内容に盛り込む形でフィードバックをおこなう。また講評の時間を設けることでもフィードバックをおこなう。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。

〔参考書〕
とくに指定しない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	都市社会学						
教員名	金　善美						
講義コード	125421100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

学生のみなさんの中には、大学進学をきっかけに新しい街で暮らすようになった方や、大学生になって改めてあちこちの街を歩き回るようになった方も多いのではないでしょうか。この授業では、私たちのこうした日常生活の舞台としての都市を対象に、都市社会学の基本的な概念や理論、その背景にある考え方について学びます。また、都市における近年の社会現象・問題を積極的にとりあげながら、その背景や展開、課題を検討することで、現代都市への理解を深めていきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の２点を到達目標とします。
①都市社会学の基礎知識を修得する。
②受講者自身にとって興味深い都市現象・問題について、授業で学んだ内容と結びつけてその背景と展開を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する ・都市社会学が何を扱う学問なのかを概観する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	60
第２回	都市とは何か？ ・都市の定義と類型、農村との違い、歴史、都市化のプロセスなどを学ぶ	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第３回	都市論の系譜（１）都市化の問題と「シカゴ学派」のまなざし ・都市社会学の始まりであるシカゴ学派の問題意識と調査方法などを学ぶ	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第４回	都市論の系譜（２）都市に生きる人々のつながりをめぐる議論 ・アーバニズムとコミュニティ、パーソナル・ネットワークなど、都市に生きる人々のつながりに関する諸理論を学び、その変容を理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第５回	都市論の系譜（３）情報化・脱工業化とグローバル・シティの出現 ・情報化・脱工業化がもたらす都市の構造再編を把握する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第６回	日本都市の形成（１） ・東京大都市圏の空間・社会構造の形成やその変容を把握する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第７回	日本都市の形成（２） ・都市化の理論的プロセスを、日本都市の事例から理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第８回	都市をフィールドワークする：担当教員のフィールドワーク経験から ・都市フィールドワークの実例を学ぶ	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第９回	インナーエリアの危機と再生：生まれ変わる東京の下町 ・インナーエリア衰退の背景を理解し、ジェントリフィケーションを含む近年の変化について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１０回	郊外のゆくえ：少子高齢化社会における「郊外」問題 ・郊外住宅地の現状と近年の課題について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１１回	グローバル化する都市の地域社会：東京のエスニック・コミュニティ ・外国人集住地域の形成を新大久保・高田馬場の実例から把握し、都市の多様性について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１２回	都市下層の世界 ・都市下層の社会的世界を理解する ・山谷と釜ヶ崎などの事例から、現代日本における社会的排除と格差について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１３回	都市の文化とまちづくり：アートを用いた地域活性化の試み ・創造都市や都市再生、地域活性化の考え方を学び、その意味や課題を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１４回	まちの開発と保存：京都市の景観政策と町屋保存 ・歴史的景観の保存・保全をめぐる諸議論と実践を把握し、都市計画・都市開発の原理を理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

パワーポイントを用いた講義形式で進めていきます。毎回の授業終了後にコメントペーパーの提出を求めます。
課題レポート（1 回）および学期末試験があります。課題レポートは、各自が一人で行き先を選定し実際にフィールドワークを行って作成するものです。
単に授業で紹介した知識を覚えるだけでなく、それを自分なりに消化・応用した上で現代日本社会で起きている都市現象・都市問題をある程度、説明したり分析したりできるかどうかを評価します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業内でのフィードバックの他、Coursepower やメールなどを通じて個別質問への回答や講評・解説をします。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況）20%、課題レポート 30%、学期末試験 50%で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・都市社会学の基礎的な概念と理論を理解できているか。
・現代都市の社会現象・問題の背景を理解し、的確な情報を収集した上で自分なりの言葉で論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『都市社会学・入門』、松本康編、有斐閣、2014 年、2000 円＋税、ISBN-10: 4641220158
『よくわかる都市社会学』、中筋直哉・五十嵐泰正編、ミネルヴァ書房、2013 年、2800 円＋税、ISBN-10: 4623065057
いずれも購入の必要なし。なお、各回の授業テーマに関わる参考書については授業内で適宜紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトおよび初回授業で周知します。

〔特記事項〕

講義名	歴史と社会						
教員名	今田　絵里香						
講義コード	125421110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本講義の目的は、誰もが経験しているジェンダー、家族、教育を切り口にして、それらを取り巻く社会全体の歴史をとらえなおすことである。わたしたちは、ジェンダー、家族、教育にかんして、固定的なイメージを抱きやすい。たとえば、「男は仕事、女は家事・育児・介護をするべきである」、「教育はもっぱら学校で行われるべきである」、「家族はお互いに愛情を持って接するべきである」、「子どもはかわいがるべきである」などというイメージを持ちやすい。このようなイメージは、わたしたちにとっては、もはや「常識」となっているきらいもある。しかしながら、このようなイメージのほとんどは近代以降に生まれたものである。つまり、「常識」でも、「当たり前のこと」でもないのである。

本講義では、ジェンダー、家族、教育の歴史を学びながら、これらのステレオタイプ化されたイメージを疑っていくことにしたい。そして、わたしたちの「常識」を疑っていくことにしたい。その上で、ジェンダー、家族、教育とは何か、という問いに、取り組んでいくことにしたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

ＤＰ１（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。

社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。

ジェンダー、家族、教育という身近なものの歴史を社会全体の歴史と関連させて考えることができるようになる。

社会に関する固定的なイメージにとらわれず、より広い視点からそれらを把握できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「ジェンダー」の視点から歴史を見るとはどのようなことか	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第２回	「男は仕事、女は家事・育児」(性別役割分業)の歴史（１） 「主婦」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	「男は仕事、女は家事・育児」(性別役割分業)の歴史（２） 「主婦」の誕生（２）、日本の「主婦」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第４回	「男は仕事、女は家事・育児」(性別役割分業)の歴史（３） 日本の「主婦」の誕生（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	「男は仕事、女は家事・育児」(性別役割分業)の歴史（４） 日本の「主婦」の誕生（３）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	「男は仕事、女は家事・育児」(性別役割分業)の歴史（４） 日本の「主婦」の誕生（３） 家族の歴史（１） 「近代家族」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	家族の歴史（２） 「近代家族」の誕生（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第８回	家族の歴史（３） 「近代家族」の誕生（３）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	家族の歴史（４） 「近代家族」の誕生（４）、日本の「近代家族」の誕生 「子ども」の歴史（１） 「子ども」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	「子ども」の歴史（２） 「子ども」の誕生（２）、「母性愛」の誕生	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	「子ども」の歴史（３） 「子ども」の誕生（３）、現代日本社会の「子ども」をめぐる問題	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１２回	「子ども」の歴史（４） 「子ども」の誕生（４）、現代日本社会の「子ども」をめぐる問題 日本社会と子どもの教育の歴史（１） 江戸後期の社会と子どもの教育（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１３回	日本社会と子どもの教育の歴史（２） 江戸後期の社会と子どもの教育（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１４回	日本社会と子どもの教育の歴史（３） 江戸後期の社会と子どもの教育（３） 日本社会と子どもの教育の歴史（４）――明治以降の社会と子どもの教育	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

〔授業の方法〕

講義形式。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
課題は講義の内容に盛り込む形でフィードバックをおこなう。また講評の時間を設けることでもフィードバックをおこなう。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	ジェンダーの社会学						
教員名	坪田　美貴						
講義コード	125421120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
この講義では「ジェンダー」という視点から、社会の様々な側面を読みといていきます。
ジェンダーとは「性差に関する知」と言われることもあります。つまり、性差に関係する事柄の、理解の仕方や知識です。そしてそれは、男らしさ・女らしさといったふるまいにまでおよぶ、社会がつくり出している知です。
私たちは社会が求めているジェンダーに沿って育ち、生きています。そのため、ジェンダーは私たちのアイデンティティと深く根付いています。
そのため、性差に関して目の前で起きている事柄を、「当たり前」だと感じ、「当たり前でない」可能性について考えにくくなっています。
そこでこの講義ではテーマ別に、「当たり前」で「普通」であると考えてきた事柄を取り上げ、それをこれまでとは違う側面、つまり「ジェンダーの視点」からそれらを見なおしていきます。
そして、そこにはどういうジェンダー問題があるのか、自分にとってどのような意味をもっているのかを考えていきたいと思います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、ジェンダーをキーワードに、社会を理解し、説明できるようになる。
自分や身の回りの人のふるまい方や考え方について、ジェンダーを切り口に理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション： フェミニズムからジェンダーへ	【復習】配布プリントを読み直す	60
第２回	近代家族の成立	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第３回	戦後の社会制度と家族	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第４回	教育	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第５回	言語と映像	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第６回	男らしさと男の生きづらさ	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第７回	性を考える	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第８回	セクシュアルマイノリティの権利	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第９回	法	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１０回	セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１１回	生殖補助医療	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１２回	開発	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１３回	国際移動	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１４回	災害	【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式です。人数にもよりますが、グループディスカッションを行う回が設けられることもあります。
予習として、参考資料（映像資料を含む）に必ず目を通してきてください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回授業の終わりにコメントシートを書いてもらいます。次の週にコメントシートに書かれた疑問や質問などを講評します。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）50%、学期末レポート 50%。
学期末レポートは、内容だけでなく、レポートとしての形式を整えていることも重要です。形式については授業内で提示します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に必要なし。毎回 course power を通じてレジュメおよび参考資料を配信します。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後およびポータルサイトにて受付けます。

〔特記事項〕

講義名	文化社会学						
教員名	金　善美						
講義コード	125421140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

初学者の１～２年生の目線に合わせて、社会学の視点から「文化」について学んでいく授業です。まずは、社会学的な問いの対象としての「文化」概念を検討し、20 世紀以降の大衆文化の誕生を概観します。その上で、資本主義や消費社会、国民国家、グローバリゼーション、ジェンダー、観光など多様な視点に着目しながら、文化と社会の関係性や文化形成の原理を考えていきます。授業では写真や映像、新聞・雑誌の記事などの資料も積極的に活用し、理論の学習と並行して毎回の授業内容に関わる具体的事例を取り上げます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①社会学の研究対象としての文化の概念を理解し、主な理論を説明できる。
②現代社会で起きている様々な文化現象について、その特徴と意味を授業で学んだ諸理論および主要な社会変動との関連の中で理解できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	60
第２回	文化とは何か（１） ・「文化」概念の成立と変容を把握し、文化社会学が扱う領域を概観する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第３回	文化とは何か（２） ・20 世紀初頭の大都市における大衆文化の開花を把握する ・シカゴ学派の都市社会学やカルチュラルスタディーズによる文化のとらえ方を理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第４回	資本としての文化（１） ・文化産業論や文化資本論、知識産業論、クリエイティブ産業論などの考え方を把握し、資本主義経済と文化の関係を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第５回	資本としての文化（２） ・東京ディズニーランドや創造都市などの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解をかめる	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第６回	差異としての文化（１） ・消費社会論や記号論、カルチュラルスタディーズなどの考え方を把握し、消費社会と文化の関係を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第７回	差異としての文化（２） ・ファッション雑誌やアニメキャラクターなどの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解を深める	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第８回	映画から読み解く文化社会学 ・映画作品をピックアップし、そこから見えてくる文化社会学のキーワードについて考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第９回	越境する文化（１） ・文化帝国主義とオリエンタリズム、文化のグローバル化などをめぐる議論を把握する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１０回	越境する文化（２） ・ディズニーのアニメーション、K-POP などの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解を深める	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１１回	ジェンダーの文化政治（１） ・アイデンティティとフェミニズム、ジェンダーという視点から現代社会と文化の関係を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１２回	ジェンダーの文化政治（２） ・ファッションの流行やコスプレなどの事例を検討しながら、現代日本社会で描かれる女性／男性のイメージ・役割について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１３回	現代文化としての観光・地域社会 ・現代の消費文化としての観光を、J.Urry「観光のまなざし」や S. Zukin「Authenticity」などの議論から考察する ・事例として昭和ノスタルジー・下町ブームを検討する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１４回	ネットワーキングする文化 ・ネット社会の到来による文化の変容を、市民運動や新しいプラットフォーム・メディアの登場、フェイクニュースなどの事例を挙げながら考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

パワーポイントを用いた講義形式で行います。2 週間に一度、受講者の授業内容への理解度を確認するためにコメントペーパーの提出を求めます。
課題レポート（1 回）および学期末試験があります。
単に授業で紹介した知識を覚えるのではなく、①それを自分なりの言葉で説明できるかどうか②文化にまつわる社会現象・問題の事例について授業で学んだ知識を応用して自分なりに分析・考察できるかどうかを評価します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業内でのフィードバックの他、Coursepower やメールなどを通じて個別質問への回答や講評・解説をします。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況）20%、課題レポート 30%、学期末試験 50%で成績評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・文化に関する社会学の主な概念・理論を修得しているか
・特定の文化現象を社会変動の中で位置づけ、その背景や特質を説明できるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『現代文化論――新しい人文知とは何か』、吉見俊哉、有斐閣、2000 円＋税、ISBN-10: 464122076X（購入の必要なし）
なお、各回の授業内容と関連する参考文献については、授業内で適宜紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトおよび初回授業で周知します。

〔特記事項〕

講義名	家族社会学						
教員名	渡邉　大輔						
講義コード	125421150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本講義のテーマは、家族をめぐる過去・現在・未来における諸問題を理解することにある。
ごく自然な存在として理解されている、両親と子どもを中心とした家族は、戦後の日本社会において確立した制度であり、決して自明なものでも古来からの伝統でもない。本講義では、私たちが自然に感じる「家族」がいかにして形作られ、自然化していったかを産業化の過程を踏まえて議論し、またその家族が現在どのような危機を迎えているかを議論する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、家族社会学における「家族」のとらえ方やその社会的機能について理解できるようになるとともに、現在の家族を取り巻く諸問題を把握し、その実践的な対応策を構想することができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	【家族とは何か 1〜2】 イントロダクション：なぜ家族を考えるのか?	【復習】講義で指定した課題の実施（家族へのヒヤリング）	90
第２回	ファミリー・アイデンティティと家族類型：家族を主観的に捉える	【予習】自身と家族の家族観を把握する 【復習】講義での知見を踏まえ、家族と家族イメージについて議論する	90
第３回	【近代家族の成立 3〜5】 近代家族の成立 1：ロマンティックラブという考え方	【予習】参考文献 1 第 2 章を読む 【復習】参考文献 1 第 2 章を再読する	90
第４回	近代家族の成立 2:主婦の登場と性別役割分業の明確化、母性神話の構築	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第５回	近代家族の成立 3：産業革命と産業構造の変化	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第６回	【日本における戦後家族モデルの形成と解体 6〜8】 戦後家族モデルの形成：「家」制度の近代における読み替えと男性稼ぎ手ー主婦モデルの形成	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第７回	戦後家族モデルの揺らぎ：安定成長期における家族	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第８回	戦後家族モデルの解体：経済不況期における家族の機能不全	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第９回	【現代の家族をめぐる諸問題 9〜14】 配偶者選択と未婚化	【予習】『厚生労働白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第１０回	家族形成の国際比較、家族形成の諸問題	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１１回	妊娠、出産、子育ての現在	【予習】『少子化社会対策白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第１２回	家族の暗部	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１３回	グローバル化と家族	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１４回	家族の可能性、講義のまとめ	【復習】すべての配布資料を再読する	120

〔授業の方法〕

講義形式で行う。家族は私たちにとってもっとも身近な領域であり、相対化が難しい領域でもある。そこで、画像資料や映像資料などももちいて講義する。また、一部の課題では自身の家族や身近な人への聞き取りも行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

とくになし

〔課題等へのフィードバック方法〕

毎回、コメントシートを Course Power において提出する（〆切は講義日当日）。提出されたコメントシートへの講評は、次回の講義の冒頭で行う。テークホーム試験への講評は、ポータルサイトまたは Course Power にて行う。

〔成績評価の方法〕

小レポート（50%）とテークホーム試験（50%）によって行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「ライフコース論」（2 年次以降に履修可能）を履修するとより理解が深まる。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介する。いずれも購入の必要はない。
1. 岩間暁子・大和礼子・田間泰子, 2022, 『問いからはじめる家族社会学―多様化する家族の包摂に向けて　改訂版』有斐閣.
2. 湯沢雍彦, 2014, 『データで読む平成期の家族問題―四半世紀で昭和とどう変わったか』朝日新聞社.
3. 筒井淳也, 2015, 『仕事と家族』中央公論社.
4. 筒井淳也, 2023, 『未婚と少子化―この国で子どもを産みにくい理由』PHP 出版.
5. 前田正子・安藤道人, 2023, 『母の壁―子育てを追いつめる重荷の正体』岩波書店.
上記に加えて、関連する白書（いずれも下記 WEB ページから参照可能）、および、国立社会保障・人口問題研究所（{http://www.ipss.go.jp/}）にて公表されている各種データや報告書を参考にすることが望ましい。
厚生労働省『厚生労働白書』：{http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/}
内閣府共生社会政策統括官→こども家庭庁『少子化社会対策白書』：{https://www.cfa.go.jp/resources/white-paper/}
内閣府共生社会政策統括官『高齢社会白書』：{http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html}

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(6)ＩＣＴ活用

講義名	労働社会学						
教員名	森山　智彦						
講義コード	125421160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、労働社会学の入門的講義を行います。

今日の日本社会では、仕事をして報酬を得ることが、生きる糧を得るための主な手段となっています。その中心は、企業などで雇われて働く雇用労働です。

この授業では、日本的な働き方の仕組みの特徴と利点、問題点を理解することを目的とします。理解にあたっては、家族や福祉などの他の諸制度と関連づけながら、海外との比較や歴史的視点も交えて解説します。

また、キャリア形成、ワークライフバランスなど大学生にとって関心の高いトピックに加えて、外国人労働者との共生、AI 等による雇用危機の可能性といった最新の動向も扱う予定です。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標を設定します。

(1)働き方に関する様々なトピックや問題について、背後にある社会構造を理解し、自分なりの考えを整理できるようにします。(DP1、DP2、DP3)

(2)働き方の仕組みや問題点について、労働者個人だけでなく企業や社会制度といった多角的な視点から考察することで、社会科学的にバランスの取れた視点を身につけます。(DP1、DP2、DP3)

(3)さまざまな資料やデータ、文献の見方を学び、自ら調べて確かめる方法と姿勢を身につけます。(DP3)

(4)これから生きていく中で、自分自身が、仕事と生活をめぐる問題に直面した時に、冷静に問題に対処できるよう、労働をめぐる法律や権利などの実践的知識を習得します。(DP1、DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 授業全体の内容や進め方を説明し、参考資料などを紹介します。 （授業内容は、そのときどきの労働をめぐる社会的論点や授業の進捗によって変わることがあります。）	【復習】授業内容の振り返り。	60
第２回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　1 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方は他の国から見ると非常にユニークなものです。その根本的な特徴と仕組み（日本的雇用システム）について、海外との比較を交えて学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第３回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　2 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 前回に続き、日本的雇用システムの特徴に焦点を当て、日本の企業がどのようにして、正社員の仕事経験がない若者を、目標に貢献できる人材に育てているかを説明します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第４回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　3 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の昨今の変化（多様化）について解説します。また、日本的な働き方と人生設計との関係を理解するため、日本的雇用システムと福祉制度の関連を学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第５回	長時間労働は誰の責任か ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の中で、大きな問題となっているのが長時間労働です。その発生原因について、雇用システム、企業、個人など多角的な視点から迫ります。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第６回	非正規雇用の問題は解消すべきなのか ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 格差問題の大きな要因としてしばしば採り上げられる非正規雇用の問題について、歴史的な流れや背景、問題点を検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第７回	ワークライフバランス実現のために ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ ワークライフバランス（WLB）の考え方は一般的に広まっていますが、その実現には様々なハードルがあります。この回では WLB を規定する社会的な背景、制度、職場の問題を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第８回	男性の育児・介護休暇 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ WLB の議論は、子育て中心の議論から介護問題にまで拡大し、男性の育休取得の議論も盛んに行われています。このような昨今の展開と残る問題点について学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第９回	外国人との共生を考える ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ グローバル化や人口減少により、日本でも海外からの労働者の受け入れが徐々に進んできました。外国出身の労働者と日本人が共存して働く中でどのような問題が生じているのかを学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１０回	AI と共に働く ＝＝＝＝＝＝＝＝＝ AI などの技術は仕事を奪うのか、それとも補完するのかという議論が盛んに行われています。こうした技術の発達によって、日本的な働き方にどのような変化が生じ得るか、どう共存するかを議論します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60

第１１回	試験	【予習】試験のための学習。 【復習】試験の振り返り。	60
第１２回	キャリア形成１：新卒一括採用の是非を考える ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の下でどのようにキャリアが形成されるかを学びます。まずはその入り口である新卒一括採用制度の導入の経緯と長所・短所を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１３回	キャリア形成２：どのように仕事を覚えていくのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的雇用システム下のキャリア形成について、職場等で教育訓練がどのように行われ、職業経験のない若者が仕事に必要な能力をどのように身につけていくかを学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１４回	試験の解説、全体の振り返り	【予習】特になし。 【復習】授業内容の振り返り。	60

〔授業の方法〕
本講義は、主に資料（パワーポイント）によって進めながら、Forms 等を活用したフィードバックを適宜導入します。なお、教員のスケジュールや授業の進捗度によって、内容や順番を変更することがあります（初回の授業時に説明します）。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業の冒頭に、前回の授業内課題の記述内容を紹介、講評することで、フィードバックを行います。

〔成績評価の方法〕
試験（９０％）＋12 回, 13 回の課題（１０％）
試験の出題範囲は、第 1 回～第 10 回です。
合計が 60 点未満の場合、平常点を上限 20 点で加算します（加算後の合計点は 60 点になります）。
平常点は、授業時間内に行う課題の提出状況を評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は特に必要ありませんが、社会階層論、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前または並行して学ぶと、より理解が深まります。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学：変貌する働き方』有斐閣ブックス.
上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房.
小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充『産業・労働社会学：「働くこと」を社会学する』有斐閣アルマ.
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ.
西村純子・池田心豪編著（2023）『社会学で考えるライフ＆キャリア』中央経済社.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問は授業終了後に教室で受け付ける他、メールでも受けつけます。

〔特記事項〕

講義名	コミュニティの社会学						
教員名	渡邉　大輔						
講義コード	125421170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、社会学の視点からコミュニティについて議論する。
コミュニティは社会学のなかでももっとも古い概念であると同時に、現代社会の政治、経済、社会、文化のあらゆる側面において重視されている概念でもある。この講義では、コミュニティという概念の展開について議論するとともに、その概念がなぜこれほどまでに多様に、かつ、ときに無思慮にもちいられてきたかを議論する。また、近年注目されている社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の議論を整理し、流動する社会におけるネットワークとコミュニティの関係について整理する。その上で、現代のコミュニティが直面する問題について、身近な具体的例を取り上げて論じる。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、社会学におけるコミュニティという考え方の意義とその難しさについて理解できるとともに、現代社会においてコミュニティが、そしてそのコミュニティに生きる人々が直面する問題について理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：なぜ今、コミュニティを議論するのか	【復習】配布資料を読み直す	90
第２回	コミュニティ概念 1：コミュニティは伝統か	【予習】自分が「コミュニティ」だと思うもののリストを作成する 【復習】配布資料を読み直す	90
第３回	コミュニティ概念 2：都市化と人のつながり	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第４回	Social Netowrk1：弱い紐帯の強さ	【予習】配布資料を読む、ネットワーク課題に回答する 【復習】配布資料を読み直す	90
第５回	Social Netowrk2：ネットワーク分析の現在	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第６回	Social Netowrk3：ネットワークとその問題性	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第７回	社会関係資本 1：概念と展開	【予習】参考資料 4 の一部を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第８回	社会関係資本 2：なぜ効力を持つのか	【予習】社会関係資本をどうすれば測定できるか考える 【復習】配布資料を読み直す	90
第９回	日本の地域コミュニティ	【予習】自分自身が居住する地域の地域団体（町内会、自治会）を把握する 【復習】配布資料を読み直す	90
第１０回	商店街の衰退と新しいコミュニティ	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１１回	コミュニティ行政、監視社会	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１２回	コミュニティをつくる／を活用する	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１３回	IT、アイデンティティとコミュニティ	【予習】配布資料 2 を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１４回	コミュニティとコミュニケーション、講義のまとめ	【予習】配布資料を読む 【復習】すべての配布資料を読み直す	120

〔授業の方法〕

講義形式で行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

とくになし

〔課題等へのフィードバック方法〕

毎回、コメントシートを Course Power において提出する（〆切は講義日当日）。提出されたコメントシートへの講評は、次回の講義の冒頭で行う。テークホーム試験への講評は、ポータルサイトまたは Course Power にて行う。また、回によってはアンケートへの回答を求め、その回答結果を題材にした講義も行う。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（90%）、平常点（クラスアンケート、10%）によって行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「都市社会学」、「ボランティア・NPO の社会学」、「コミュニティ演習」などが関連科目として想定される。

〔テキスト〕
とくに指定しない。

〔参考書〕
以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介し、配布する。いずれも購入の必要はない。
1. 船津衛・浅川達人，2014，『現代コミュニティとは何か―「現代コミュニティの社会学」入門』恒星社厚生閣.
2. デランティ，2006，『コミュニティ-グローバル化と社会理論の変容』NTT 出版.
3. 野沢慎司，2006，『リーディングス　ネットワーク論-家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房.
4. パットナム，2006，『孤独なボーリング-米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房.
5. 祐成保志・武田俊輔編，2023，『コミュニティの社会学』有斐閣.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	教育社会学						
教員名	今田　絵里香						
講義コード	125421180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、教育社会学の「ジェンダーと教育」について学んでいく。現代社会における学校教育という営みについて考えるとき、それを取り巻く社会構造を無視することはできない。現代社会においてはジェンダー、社会階層による社会的格差が存在する。そして、そのような社会的格差はなくならないどころか、ますます拡大しているといわれている。社会的格差と学校教育はどのように関連しているのだろうか。本講義では社会問題と教育問題の関連を解き明かしていく。そして現代社会における「教育」という営みについてもう一度考え直していく。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
ジェンダー、社会階層が学校教育を通して再生産されるプロセスをとらえられるようになる。
学校教育をとおして社会の構造について考えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「ジェンダーと教育」とは何か フェミニズムとジェンダー	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第２回	「教育社会学」とは何か（１） 機能主義理論、タルコット・パーソンズの理論	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	「教育社会学」とは何か（２） 葛藤理論①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第４回	「教育社会学」とは何か（３） 葛藤理論②、ランドル・コリンズの理論、ピエール・ブルデューの理論	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	「教育社会学」とは何か（４） 葛藤理論③、ピエール・ブルデューの理論①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	「教育社会学」とは何か（５） 葛藤理論④、ピエール・ブルデューの理論②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	「教育社会学」とは何か（５） 葛藤理論⑤、ピエール・ブルデューの理論③	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第８回	「教育社会学」とは何か（６） 日本社会はメリトクラシー社会なのか①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	「教育社会学」とは何か（７） 日本社会はメリトクラシー社会なのか②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	進学・労働とジェンダー（１） 最新のデータにおける進学・労働の男女差、進学の男女差①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	進学・労働とジェンダー（２） 進学の男女差②、専攻分野の男女差①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１２回	進学・労働とジェンダー（３） 進学の男女差③、専攻分野の男女差②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１３回	進学・労働とジェンダー（４） 進学の男女差④、労働市場の男女差	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１４回	かくれたカリキュラム	【予習】参考文献の指定部分を読む。これまでの学修内容を確認する。	90

〔授業の方法〕
講義形式。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
課題は講義の内容に盛り込む形でフィードバックをおこなう。また講評の時間を設けることでもフィードバックをおこなう。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	社会心理学						
教員名	李　ウェンウェン						
講義コード	125422100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

なぜ多くの人は恋愛や結婚をするのでしょうか. なぜ人は美しさに投資するのでしょうか. 人びとはどのように幸せをみつけるので しょうか. この授業では，そうした人びとの心理が，どのようなメカニズムをもつのかを考えます. そのために，恋愛と結婚，家族関係，美容，幸せ，食事，仕事など，さまざまな身近なトピックをとりあげ，国際的な視点も取り入れつつ分析します. グループでフィールドワークやインタビューを行い，グループプレゼンテーションが中心となって進みます.

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため，次の 3 点を到達目標とします.
(1)社会心理にかんする重要な考え方を身につけ，メカニズムを説明できる.
(2)フィールドワークやインタビューを通して，本格的な研究メソッドを使いこなすことができる.
(3)人びとの喜びや希望，ときには不安や痛みに寄りそうことで，だれにもやさしく温かい，本当の意味で豊かな社会を構想できる.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	担当教員が初回授業時に説明します	60
第２回	家族関係の国際比較：個人の考え方を左右する社会文化	担当教員が初回授業時に説明します	60
第３回	幸福度の国際比較：幸福度にも地域性？	担当教員が初回授業時に説明します	60
第４回	働き方の国際比較：日本人は働きすぎ？	担当教員が初回授業時に説明します	60
第５回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第６回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第７回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第８回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第９回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１０回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１１回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１２回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１３回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１４回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60

〔授業の方法〕

講義，ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションも行われます

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業の初めに、前回の課題の講評、解説を行います

〔成績評価の方法〕

平常点(授業への参加状況，宿題の提出状況，ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション)50%，成果物(宿題レポート，到達度確認テストなど)50%による総合評価

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
社会学的思考力を身につけているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし

〔テキスト〕
初回授業時に説明します

〔参考書〕
『変貌する恋愛と結婚』，小林盾他編，新曜社(購入の必要なし)
『美容資本』，小林盾，勁草書房(購入の必要なし)
『嗜好品の社会学』，小林盾編，東京大学出版会(購入の必要なし)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	社会階層論						
教員名	森山　智彦						
講義コード	125422120	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

この授業では、社会の格差・不平等の問題を扱います。授業内容は、現代社会においてどのような不平等があるのか（現状の理解）と、なぜそのような不平等が生じているのか（メカニズムの理解）に大きく分かれます。具体的なテーマとして、経済格差や貧困、階層再生産、教育、労働市場、ジェンダー、家族、意識に関する不平等を取り上げます。また、他国の格差・不平等の状況との比較を行うことで、日本の不平等問題の特徴を学びます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標を設定します。

(1)格差・不平等問題に関する様々なトピックについて、背後にある社会構造を理解し、自分なりの考えを整理できるようにします。(DP1、DP２、DP3)

(2)格差・不平等問題の構造や問題点を多角的な視点から考察することで、社会の中の自身の立ち位置を認識すると同時に、自分の知らない他者の視点を身につけます。(DP1、DP3)

(3)さまざまな資料やデータ、文献の見方を学び、自ら調べて確かめる方法と姿勢を身につけます。(DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	なぜ社会階層論を学ぶのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 授業全体の内容や進め方を説明します。また、どのような不平等が問題視されているのか、なぜそれが問題なのかについて、概要を説明します。	【復習】授業内容の振り返り。	60
第２回	不平等問題の現状把握１：経済的格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 所得格差の把握の仕方を学び、格差拡大、固定化の背後にある社会的な構造の変化について解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第３回	不平等問題の現状把握２：なぜ貧困は生きづらさにつながるのか（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本社会の貧困問題の現状と歴史的な経緯を把握します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第４回	不平等問題の現状把握２：なぜ貧困は生きづらさにつながるのか（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ なぜ経済的な貧しさが生きづらさに結びつくのかを解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第５回	不平等問題の現状把握３：階層の再生産（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 親子間の社会階層の再生産を理解する上で重要な概念や指標について学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第６回	不平等問題の現状把握３：階層の再生産（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 階層再生産の時系列的な展開とその背景にある社会構造について解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第７回	中間試験	【予習】中間試験のための学習。 【復習】中間試験の振り返り。	60
第８回	不平等が生じるメカニズム１：社会階層と教育（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 出身階層と本人の階層を媒介する教育、学歴の機能や教育と仕事の関係を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第９回	不平等が生じるメカニズム１：社会階層と教育（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 教育機会の不平等を是正するための政策（学費の無償化）の有効性について検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１０回	不平等が生じるメカニズム２：労働市場における格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 正規雇用と非正規雇用の間には様々な面で格差が存在します。そのような不平等がなぜ生じているのか、真に問題視すべき格差とは何かを解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１１回	不平等が生じるメカニズム３：雇用・労働における男女間格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 昔に比べれば性別による不平等は緩和しましたが、それでも根深く残っています。この回では、雇用・労働面の男女間格差の原因を解説し、解決のための施策等を紹介します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１２回	不平等が生じるメカニズム４：社会階層と家族形成 ＝＝＝＝＝＝＝＝ グローバル化などによる社会構造の変化は、結婚など家族形成にも影響を及ぼしています。そのメカニズムを解説し、真に課題視すべき問題について議論します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１３回	不平等が生じるメカニズム５：社会階層と意識 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 社会階層は意識構造にも影響を与え、人々は意識を通して不平等に対する実感を持ちます。その実感を形成する階層帰属意識や希望格差に注目し、意識格差のメカニズムを解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60

第１４回	改めて問う、日本の格差は容認できるのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 第 13 回までの内容をまとめ、中流層の崩壊と社会の分断がもたらし得る帰結を考察します。その上で、改めて日本の格差が容認できるものかどうかを議論します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60

〔授業の方法〕
本講義は、主に資料（パワーポイント）によって進めながら、Forms 等を活用したフィードバックを適宜導入します。なお、授業の進捗度によって、内容を変更することがあります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業の冒頭に、前回の授業内課題の内容を紹介、講評することで、フィードバックを行います。

〔成績評価の方法〕
中間試験（４０％）＋期末試験（６０％）
ただし、合計が 60 点未満の場合、平常点を上限 20 点で加算します（加算後の合計点は 60 点になります)。
平常点は、授業時間内に行う課題の提出状況を評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する. /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の２点に着目し、その達成度により評価します。
①社会階層論に関連する概念や不平等が生じるメカニズムを理解している。
②不平等を解決するために個人や社会が何をすべきかについて、自分の言葉で考えることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は特に必要ありませんが、労働社会学、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前に学んでいるとより理解が深まります。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
原純輔・盛山和夫（1999）『社会階層ー豊かさの中の不平等』東京大学出版会，3080 円（購入の必要なし）
竹ノ下弘久（2013）『仕事と不平等の社会学』弘文堂，1540 円（購入の必要なし）
盛山和夫ほか編（2011）『日本の社会階層とそのメカニズムー不平等を問い直す』白桃書房，3080 円（購入の必要なし）
平沢和司（2014）『格差の社会学入門ー学歴と階層から考える』北海道大学出版会，2750 円（購入の必要なし）
西村純子・池田心豪編著（2023）『社会学で考えるライフ＆キャリア』中央経済社，2860 円（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
質問は授業終了後に教室で受け付ける他、メールでも受けつけます。

〔特記事項〕

講義名	ライフコースの社会学						
教員名	渡邉　大輔						
講義コード	125422130	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

10 歳のときから多くの人が働き始める社会で生きることと、22 歳で働き始める社会で生きることは、同じ働くということでもまったく異なる経験となるだろう。そして、働き始めるという一見普遍的な事柄は、社会の変化によってそのタイミングも、個人にとっての意味も、具体的な内容も常に変化するものであった。本講義で扱うライフコース・アプローチは、人間の一生を普遍的な過程としてとらえるのではなく、社会的・歴史的コンテクスト（文脈）によって構築されたものとみなす点から出発する。そして、人々の人生がその年齢や時代、世代によって影響を受け、変化してゆく過程を理解する、学際的な手法となっている。このライフコースという考え方の意義や、実践方法について 1 学期間を通して議論する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、ライフコースという視点の意味と限界を理解し、現代社会における個人の経験を年齢、歴史、世代という 3 つの観点からとらえるための基礎的な知識や概念を学び、活用することができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：変動する社会における個人の経験	【復習】家族の経験を聞き取る	90
第２回	ライフサイクルとは何か：発達心理学・役割理論の発展と限界	【予習】自分のこれまでの人生を段階として振り返る 【復習】配布資料を再読する	90
第３回	【ライフコース研究の概念と方法 3～9】 社会的地位と社会的役割、役割移行	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の社会的地位、社会的役割を確認し、その将来を予想する	60
第４回	時間の導入：変化と持続をとらえる	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のライフイベントカレンダーを作成する	60
第５回	年齢・時代・コーホート：APC 効果	【予習】参考文献を読む 【復習】家族の経験を APC 空間に図示する	60
第６回	家族時間、タイミング、コンボイ	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の家族の家族時間を整理し、自分のコンボイを概念図として描く	90
第７回	『大恐慌の子どもたち』	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のコンボイを概念図として描く	60
第８回	ライフコースを観察する：質的、量的な観察	【予習】21 世紀出生児縦断調査のサイトを調べる 【復習】21 世紀出生児縦断調査の報告書を読む	60
第９回	【現代社会とライフコース 9～14】 経済状況とライフコース：平成不況と就職活動の変遷	【予習】就職活動について両親に聞き取りをする 【復習】現在の就職活動の実態を調べる	90
第１０回	音楽とライフコース：文化とライフコースを考える	【予習】自分自身の音楽体験を言語化する 【復習】配布資料を再読する	90
第１１回	人口・家族変動とライフコース：祖父母の変容を考える	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１２回	悲劇とライフコース：震災経験のその後への影響	【予習】阪神淡路大震災について調べる 【復習】鑑賞した映像資料の感想をまとめる	90
第１３回	格差とライフコース：格差の戦後史	【予習】祖父母世代、親世代、自分自身の進学と就職を聞き取る 【復習】配布資料を再読する	90
第１４回	未来像とライフコース：想像力と時代の拘束性	【予習】2030 年の将来像を考える 【復習】配布資料を再読する	60

〔授業の方法〕

講義形式で行う。また、講義では映画の鑑賞を行うなど映像資料も用いる。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

とくになし

〔課題等へのフィードバック方法〕

毎回、コメントシートを Course Power において提出する（〆切は講義日当日）。提出されたコメントシートへの講評は、次回の講義の冒頭で行う。期末レポートへの講評は、ポータルサイトまたは Course Power にて行う。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（90%）と平常点（10%）によって行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「家族社会学」と深い関係をもつため、あわせて履修することでより理解が深まる。

〔テキスト〕
とくに指定しない。

〔参考書〕
講義時に適宜紹介する。主とするものは以下である。いずれも購入の必要はない。
嶋崎尚子，2008，『ライフコースの社会学（早稲田社会学ブックレット−社会学のポテンシャル)』 学文社.
また、重要文献としては以下があげられる（絶版が多い）。
1. エルダー，2023，『完全版・大恐慌の子どもたち−社会変動と人間発達』明石書店.
2. ハレーブン，2001，『家族時間と産業時間 新装版』早稲田大学出版部.
3. プラース，1985，『日本人の生き方−現代における成熟のドラマ』岩波書店.
4. エルダー＆ジール，2003，『ライフコース研究の方法』明石書店.
5. エルダー＆ジール，2013，『ライフコース研究の技法』明石書店.
6. セッターステン，エルダー＆ピアース，2025，『「大恐慌の子どもたち」親世代のライフコース―20 世紀を生きたアメリカ人の家族・ジェンダー・人間発達』明石書店.
内閣府共生社会政策統括官『高齢社会白書』：{http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html}
厚生労働省「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）」{http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-9.html}
厚生労働省「21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）」{http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-22.html}

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(6)ＩＣＴ活用

講義名	ボランティア・ＮＰＯの社会学						
教員名	高嶋　由布子						
講義コード	125431240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、ボランティアやNPO（非営利団体）が社会を変えてきたことを学ぶ。特にマイノリティの支援とし、外部の支援者と、当事者がさまざまな政治的・組織的な視点を持ち寄って支援を作ってきた聴覚障害者のコミュニティを切り口に、その歴史的変遷、現状とその背景、現代的な課題を学ぶ。
実際の活動や支援者の言説に触れることで、複数の視点のあり方を学び、理解を深めることを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
(1)マイノリティとその支援のことを理解できるようになる。
(2)ボランティアやNPOなどの形から、社会に働きかける活動について知る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	NPOの活動について調べる	60
第２回	マイノリティとは何か	社会的なマイノリティ集団についてひとつ取り上げ、どのような支援の不足があるか調べる	60
第３回	「ろう者」とは誰か	「ろう者」「ろう文化」について調べる	60
第４回	聴覚障害者に対する支援	聴覚障害について調べる	60
第５回	手話通訳の歴史 (1) 聴覚障害児教育と手話通訳のはじまり	手話通訳について調べる	60
第６回	手話という言語の発見	日本手話について調べる	60
第７回	手話通訳の歴史（2）手話という言語での支援	手話教師センターについて調べる	60
第８回	要約筆記と文字通訳	要約筆記について調べる	60
第９回	聴覚障害者情報提供施設	意思疎通支援事業と聴覚障害者情報提供施設について調べる	60
第１０回	手話通訳の歴史（3）ろう通訳	ろう通訳について調べる	60
第１１回	難聴者・中途失聴者の支援：ピアサポートの現場	難聴者・中途失聴者団体の勉強会について調べる	60
第１２回	デフアクター・当事者による表象	ろう者の出演する映像作品とその手話監修について調べる	60
第１３回	デフメンター：なぜ乳幼児期の手話支援に当事者が必要なのか	ろう・難聴児の言語習得について調べる	60
第１４回	まとめとディスカッション	授業で学んだことを参考に、自分で考えたことをまとめる。	60

〔授業の方法〕
授業はパワーポイントのスライドを利用した講義形式を基本に行います。受講生は予習のほか、毎回講義内容に関するリアクションペーパーを提出してください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
平常点（予習・リアクションペーパー）50%、レポート50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
樋陽子・岡典栄「日本手話がおしえてくれること」大衆館書店（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	スポーツ社会学						
教員名	稲葉　佳奈子						
講義コード	125431250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
本講義は、スポーツという社会的・文化的現象を通して、現代社会について考察することを目的とする。スポーツは、その場・その時かぎりの実践にとどまらず、社会の要請に応じてさまざまな意味や価値が付与された「社会」そのものとしての側面をもつ。そうした視点から、スポーツが抱える文化的・社会的意義や課題についての知識を身につけるとともに、現代社会におけるスポーツの位置づけについて理解を深めていく。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
①スポーツ社会学の基礎的な知識や考え方を理解することができる。
②スポーツの意味や課題を社会学的な視点から考察することができる。
③スポーツを通して現代社会の特質や課題を説明することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスの内容を把握する。	60
第２回	スポーツの成立・発展からみた近代	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第３回	オリンピックの理念と近現代社会	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第４回	日本社会と東京オリンピック	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第５回	グローバリゼーションとスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第６回	メディアとスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第７回	人種・民族とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第８回	「男らしさ」とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第９回	「女性活躍」とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１０回	LGBTQ+とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１１回	社会・性・スポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１２回	これからの社会とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１３回	到達度確認テスト	前回までの学修内容を整理・確認する。	60
第１４回	まとめ	前回確認された自己の到達状況をもとに、全体的な学修内容を復習する。	60

〔授業の方法〕
○ 資料（PowerPoint スライド、動画教材、配布資料など）を用いて、講義形式で授業を進める。
○ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
○ 各回の内容に即した課題（小テスト等）を授業時間内におこなう。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
原則として授業のはじめに前回授業時の課題について解説をする。
到達度確認テストについては第 14 回授業時に解説をする。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業時の課題への取り組み）30%および到達度確認テスト 70%をもとに、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
○授業時の課題に積極的に取り組んでいるか。
○到達度確認テストにおいて以下の 3 点が表現できているか。
１．スポーツにかかわる諸現象について社会学的な視点から理解・考察することができる。
２．スポーツが内包する現代的な課題を理解することができる。
３．スポーツに反映された現代社会の課題や可能性について理解することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。
必要に応じて CoursePower を通じて資料を配付する。

〔参考書〕
（購入の必要なし）『スポーツと LGBTQ＋　シスジェンダー男性優位文化の周縁』岡田桂・山口理恵子・稲葉佳奈子著、晃洋書房、2300 円
（購入の必要なし）『スポーツで社会学する』石岡丈昇編、有斐閣、2400 円

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。または授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	科学技術の社会学						
教員名	水田　綾奈						
講義コード	125431260	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
現代社会の生活は、科学技術と深い結びつきのもとで成立しています。科学技術は、私たちの生活を支え、便利で快適なものにするいっぽう、社会問題や地球環境問題など、それ自体がさまざまな問題をもたらす可能性を含んでいます。このような視点に立った時、私たちが考える必要があるのは、ただ科学技術を称賛したり、期待したり、あるいは忌避したり恐れたりすることではなく、科学技術とどのようにかかわり合うのかという、科学技術と社会の関係ではないでしょうか。
この授業は、科学技術と社会の関係を問う学問領域である「科学技術社会論（STS：Science and Technology Studies)」の考え方や研究動向、関連する事例についての講義を行ないます。授業を通して、科学技術と社会の関係をどのように捉えたらいいかについて理解すると同時に、現代の科学技術をめぐる問題をどのように考えたらいいかについての視点を得ることをめざします。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
科学技術と社会の相互作用について理解し、科学技術がかかわる社会問題について、多角的な視点から議論を展開することができる。【ＤＰ1-3】

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／科学技術と社会	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第２回	科学知識の社会学	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第３回	技術の社会的構成	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第４回	科学コミュニケーション	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第５回	科学とメディア	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第６回	科学とジェンダー	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第７回	リスク論	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第８回	原子力と社会	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第９回	気候変動	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第１０回	生命科学と倫理	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第１１回	AI と社会	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第１２回	インフラストラクチャーと不可視性	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第１３回	マルチスピーシーズ民族誌	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分
第１４回	まとめ	配布資料を見て授業内容を復習する。リアクションペーパーを作成する。	60 分

〔授業の方法〕
各回の講義時間は 80 分程度にとどめ、最後に 20 分程度時間を取って CoursePower にてリアクションペーパーを作成・提出してもらいます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
優れたリアクションペーパーについては、匿名化したうえで次回講義で紹介します。

〔成績評価の方法〕

・平常点（各回のミニッツレポートの合計得点）50%
・期末レポート　50%
なお本授業では、生成 AI の利用を一部認めています。具体的には、以下の場面での使用が可能です。
・アイデア出しや構想段階での補助
・課題の構成案の検討
・調査の補助的な活用（ただし情報の正確性は自身で確認すること）
ただし、以下の点に留意してください。
・AI を使用した場合は、提出物にその旨を明記してください（例：「Gemini を用いて構成案を作成」など）。
・AI による文章の無断転載や、出典不明の情報の使用は不正行為とみなす場合があります。
・レポート・課題の作成に際しては、独力での思考を求め、AI の使用を禁止します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『よくわかる現代科学技術史・STS』 、塚原東吾ほか編、ミネルヴァ書房、3,300 円、ISN978-4-623-09215-4（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	グローバリゼーションの社会学						
教員名	渡部　厚志						
講義コード	125431270	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

グローバリゼーションという言葉から、皆さんは何を想像するでしょうか。昨今の戦争やコロナウイルス感染症の広がりのような大事件を思い浮かべる人も多いでしょう。一方で、毎日の食や文化の消費、ご家族の仕事などに関して、国外の人や組織とのつながりを感じる場面が多いことを実感している人もいるでしょう。人、モノ、金、情報の国境を超えて移動し、世界中の人や組織が競争したり助け合ったりすることが当たり前になった世界に私たちは暮らしています。私たちの毎日の暮らしは、何カ国もの国、何千人もの人 たちの仕事に支えられています。また、私たちがあたりまえにしていることが、離れた場所で働いたり学んだりする人に影響します。

では、グローバリゼーションはいつから始まったのでしょうか。グローバリゼーションの時代とは、それまでの時代と何が違うのでしょうか。グローバリゼーションは、人を幸せにしているのでしょうか、それとも不幸にしているのでしょうか。グローバリゼーションという言葉が現れてもう何十年も経ちましたが、こんな基本的な問いについてさえ、決まった答えはありません。そのうえ、グローバリゼーションは現在進行中で、重要なプレーヤーや大事な出来事が、毎日のように入れ替わっていきます。グローバリゼーションに関する、今の時点での「正しい見方」を身につけても、５年後には古い知識になっているかもしれません。

そこで、この講義では、グローバルな人、モノ、情報、お金などのつながり方という大きなシステムの変化の中で位置づけて検討し、考えたことを他の人と交流することで知識を更新していく経験を積みます。題材としては、身近な食や仕事から都市や農村の変容、離れたところで起きる災害、環境破壊などまでを取り扱います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

３つのポイントに重点を置き、グローバリゼーションが進行する現代社会について、基本的な論点と、具体的なトピックを考える力を伸ばすことをめざします。

1）グローバリゼーションが毎日の暮らしに現れる場面（日本、アジアなどのケース）に触れ、離れた場所で起きているできごとと私たちの暮らし、過去に起きたできごとと今の社会とのつながりを見つける発想を身につける。

2）グローバリゼーションが世界や各国の社会と経済、地域や私たちの暮らしにもたらす影響を考えながら、社会全体の変化を追うマクロの視点と、ひとりひとりの暮らしや日々の安心などに注目してみるミクロの視点といった複数の方向から考える方法を身につける。

3）グローバリゼーションが進む中で、地域社会や人の暮らしを支える新しい取り組みに触れ、考えや能力の異なる人や組織が協力する方法や、自分の立場で関わることのできる方法を考える経験を得る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	グローバリゼーションを学ぶとはどういうことか グローバリゼーションは「正解」がない、日々変わっていく問題です。このような問題をどのように考えたらいいのか？14 回の講義を通じて鍵となるメッセージを提示します。 講義予定、レポート課題、評価方法の概要を紹介します。	学生自身の生活と「離れた場所や人」との接点を探し、３項目をノートに書き出しておくこと。	60
第２回	私達の暮らしとグローバリゼーション①　食の西欧化・食システムの複雑化と「健康な日本の食生活」 「日本食」は健康的だとされ外国でも人気が高まっています。日本に以前からあった習慣や食料供給と消費の仕組みは、日本の経済成長過程で、グローバル化するフードシステムとの結びつきを深めました。同時に、国内の流通システムや住居、働き方、家族構成などにも大きな変化がありました。つまり、日本食に限らず私たちの食生活は、食料供給システムのグローバリゼーションにより実現したものです。しかし、「フードシステム」が世界中に広がったために、外国の農地収奪、水産資源の乱獲や水の大量利用、農家の経営難、食品加工工場で働く労働者の環境など、さまざまな問題が生まれています。	過去１週間の食事のメニューから一品を選び、「原料がどこで作られたか」「どこで加工されたか」「いつから、日本の家庭で食されるようになったか」を調べる。 （講義中のグループディスカッション で使用します。以下同じ）。	60
第３回	私達の暮らしとグローバリゼーション②　農と食をつなぎなおす：提携・産直・市民参加型農園 引き続き、現代のフードシステムにおける生産者、加工・流通業者、消費者それぞれが抱える脆弱性とリスクについて考察します。フードシステムの拡大・複雑化により、分断、知識の偏在、外部依存といった問題が深刻化しています。効率重視のモノカルチャー化や市場原理の優先が、地域社会の不安定化を招いてきました。これに対し、市民参加型農園や CSA などの実践を通じて、資源や知識を共有し、フードシステムをつなぎ直す試みを検討し、持続可能で包摂的な食の未来を模索します。	学生自身あるいは家族や友人について、食べ物を作る、採るなどの経験（小学校などでの収穫体験、家庭菜園、山菜採り、釣りなど）を取り上げ、その活動が今でも続いているなら今後も続けるためにはどんな条件が必要か、続いていないなら、どうして続かなくなったのかを考察する。	60
第４回	私達の暮らしとグローバリゼーション③　生まれた土地を離れて生きる／移民とともに生きる 世界中で２億人を超える人が生まれた国とは違う国で暮らしています。移民や移動労働者は、現代の社会経済に欠かせない存在です。なかには、国民の 10 人に 1 人が外国にいるという国もあります。多くの人が、生まれ育った土地とは異なる土地で、親世代とは異なる職業を得るようになったのは、いつごろからでしょうか。また、どのような背景があるのでしょうか。 移民や移動労働者は、受入国（地域）でただ「労働力を提供する」だけの人ではありません。それぞれがこれまでの暮らしで培った知識や文化、家族や社会とのつながりがあります。そのため、移動することが、受け入れ側の社会にも、移動する人にも、送り出す社会にも様々な影響を及ぼします。 誰にどのような影響が現れるのかに注目すると、グローバリゼーションについてしばしば言及される「不平等」や「リスク」のあり方を考えることができます。	学生自身や家族、友人のうち、今までに住む場所を変えた経験のある人が、どんなきっかけでどこからどこに移動したか、その際に困ったことや適応が必要だったことはなにかを調べる。	60

第５回	私達の暮らしとグローバリゼーション④　ケアのグローバルなチェーン／移民と支え合う 移民労働者が多く従事する「ケア」セクターに注目します。ケア理論は、近代化が生産性を重視する一方で、コストと脆弱性を押し付けられてきた領域としてケアを捉えます。先進国や新興国都市部を中心とする受入れ側社会では、高齢化と女性の社会進出により、国外からの労働力に依存せざるを得ない状況が生じています。一方で送り出し側の社会では、高学歴女性を外貨獲得手段として輸出し、ジェンダー役割を強化しています。ケア労働者は家庭内での弱い立場や支え合いの仕組みからの切り離しといったリスクを負います。労働者を単なる生産要素ではなく、ケアを必要とし提供できる人間として捉え直すことが重要です。	学生自身や家族のケアを誰がどのように支えているのか、食事、介護、育児、健康や衛生の管理などのいずれかの点に注目して考察する。	60
第６回	地域とグローバリゼーション①都市の発展と都市以外の地域 都市と農村の関係に見られる変化を考察します。産業化時代に農村から都市に移動する人には労組や県人会を通じた中間組織への所属と出身地との関係が維持される手段があり、新たな場所で形成される社会集団に帰属することも可能でした。対してポスト産業化時代の国内移動は、個別のキャリア形成やライフステージの変化による移動が主流となり、中間組織への所属は希薄化しています。このような人の移動・集中を受け入れるために、都市の設計やインフラは姿を変え、人々の暮らしも様変わりしました。さらに、地方都市や農村の社会にも変化が波及しています。この回では、都市、郊外、地方都市、農村という各地域の相互依存関係がどう変容したかを整理し、現代日本の地域社会の課題を検討します。	学生自身や家族に関して、①親世代の仕事との違い、②仕事に必要な知識や技術を身につける方法、③その知識や技術、あるいは職業の機会が得られる場所について、親世代との違いを調べる。	60
第７回	地域とグローバリゼーション②現代の都市とその課題 この回では、20 世紀後半以降の都市におきた変化を検討します。第 6 回で見たように、産業化による人口集中は都心のスラム化と中間層の郊外流出をもたらし、通勤インフラの発展がこれを支えました。しかし現代の都心では、これとは異なる形の大規模な変化が進んでいます。20 世紀後半、金融・通信の発展と産業拠点の海外流出により、都市は本社機能に特化し労働市場が二極化しました。そのため、高スキルで豊かな人びとを集める都市では、高層住宅、オフィスビル、商業施設を含む大規模な再開発に投資が集まりました。消費者にとっても清潔・快適・安全な環境が提供されています。その一方で、商業や工業で暮らしてきた従来の都市住民にとっての居住環境やコミュニティが奪われる事態も起きています。	東京における「仕事（職業）」「居住」「交通」または「消費生活」の４つのトピックのうち一つについて、1960 年代と 2000 年以降の違いを調べる。	60
第８回	グローバリゼーション以前のグローバル化 グローバリゼーションという言葉で 20 世紀後半の新自由主義以降の出来事を指す人もいますが、19 世紀のヨーロッパの近代化と貿易拡大や 15 世紀から 18 世紀のアジア・アメリカへの進出、あるいはそれ以前に遡って考えるべきだと主張する人もいます。実際、西洋が世界進出する以前から世界の各地にはモノ、人、情報の活発な交流がありました。では、西洋の海外進出と近代化は何を変えたのでしょうか。経済や社会のルールと速度に注目して考えます。	予習課題はなし。 代わりに、①最終課題のテーマ、②現 時点でそのテーマについて調べようと 考えている事柄、をあわせて 500 字以内でまとめ、提出すること。 なお、最終課題のテーマは『「食」「仕事」「学習」「安全・リスク」「地域社会」のうち一つを選び、 ①自分の暮らしとの関連、②グローバリゼーションにより特に影響を受ける人、③影響を和らげるために求められる行動』を考察し、4,000 字以内でま とめること』とする。	60
第９回	グローバル化と地域社会・地域の暮らしの変動①タイ後発地域の発見 グローバリゼーションが、国の経済、社会や文化を壊すと思うかもしれません。しかし、国境の中には同じ文化を共有する国民（だけ）が暮らしているという形こそ、各地の勢力がグローバル経済に参入する中で作り上げてきたものです。一方、国と社会を形作る途上で、内側に「異質な人たち」が発見ないし発明されていくことや、グローバリゼーションが進行する現代の世界で、そのような「異質性」が、「私たちの国の経済、社会、文化」を守りたい、豊かにしたいという政治や社会の運動、闘争の焦点となります。この回では、タイを例にこうした変動を検討します。	世界のいずれかの国における都市と農村の「違い」、その「違い」が誰の暮らしにどのように影響を及ぼすかを調べる。	60
第１０回	グローバル化と地域社会・地域の暮らしの変動②タイ持続できる農村開発と「足るを知る」暮らし グローバリゼーションが「農民の暮らしを壊す」ことは、グローバリズムに反対する人たちの主な論点の一つです。ただし、こういう論点が、ときに「農民は先祖代々の土地をずっと守っていきたいと願っている」というような、外の人の願望を押し付けてしまうことにもなりかねません。社会、経済、自然の環境が変わっていく中で、毎日の行動や将来の希望も変わっていきます。グローバリゼーションに影響されながら生きている人たちが「守るもの」や「変えるもの」について考察します。	親世代またはそれ以上の年齢の方から、「これまでに経験した社会や文化、人の行動や考え方等の変化で、とくに印象に残っているもの」と「次の世代にも伝えたいもの、残したいもの」についてお話を聞き、考察する。	60
第１１回	デジタル・グローバリゼーション　デジタル化と「システムの拡張・社会の二極化」 1990 年代以降、急速に発展したデジタル技術は、私たちの日常生活を便利にしただけではなく、社会や経済のあり方そのものを大きく変えています。例えば、国境を超える人と人との情報のやり取りは時間差なく行われる	私たちが日常的に使って いるデジタル技術（スマートフォン、 パソコン、ソーシャルメディア、オンライン学習等）のどれかを取り上げ、それらの技術による良い影響と悪い影響や、どのような人がそうした影響を受けるのかを考察する。	60

	ようになり、世界中の人々が協力して仕事をすることが容易になりました。お金やものを、お店で売り買いするのではなくアプリを介して他の人とやり取りするようなこともできるようになりました。一方で、過去数十年間にわたって地域や国の経済を支えていた仕事が失われるような経済構造と雇用の変化や、デジタル技術を使った監視に基づく安全・安心の確立など、社会秩序を維持する方法にも変化が見られます。 そこで、新たな技術の影響が、ここまでに見てきたグローバリゼーションの側面（住む場所、仕事、家族や地域とのつながり…）にどんな影響を及ぼすのか、受講者の間で議論します。		
第１２回	グローバリゼーションとリスク社会①公的機関が安全を保障できない社会 過去 40 年ほどにわたり、国家が一部の機能を民間や外部組織に委託する形で手放したり、単純に放棄したりしてきました。そのようにして切り詰められることがある役割の一つが、安全・安心に関わるものです。国家に頼ることなく安全を確保する方法を探すという試みは、先進国にも途上国にも多くの例があります。グローバリゼーションに伴い都市や地方に発生するリスクへの対応が、「自分たちで安全を確保する」方法をやや極端で排他的なものとなってしまうこともあります。アフリカとアメリカを例にそうした対応のメリットとデメリットを考察します。	気になる「リスク」を一つ取り上げ、そのリスクが現実になったときに誰が被害をうけるのか、どんな方法で対処できるのかを考察する。	60
第１３回	グローバリゼーションとリスク社会②住民自ら考える「安全」と持続する社会 リスクの認識とリスクへの対応は、地域によっても当事者によっても多様です。 地域社会が自らリスクを遠ざけ管理しようとする動きが、排除の論理につながり、結果として別の人へのリスクの転嫁や社会の脆弱性を招くことがあります。それでもなお、地域社会がリスクの管理や持続可能な暮らしを目指す活動にはどのような意義があるでしょうか。 ここでは、福島原発事故後の被災地とアルメニア農村という２つの地域の例から考えてみます。福島原発事故はもともと衰退していた東北地方の地域社会に大きなダメージを与えました。除染や補償は必ずしも住民の安心向上につながらず、行政への不信と地域内の心理的な距離が広がりました。生活に根ざした安全と科学的安全との食い違いが問題の核心にあります。異なる論理のリスクや安全、安心の認識があることを認め、それでも可能な協力関係を探す粘り強い対応が必要です。 もう一つの事例として、アルメニアの高地農村における太陽光プロジェクトを紹介します。ここでも、経済停滞と燃料費高騰を背景とする苦境の中で、地域住民の課題認識をベースに外部の技術・資金や行政のニーズにも配慮しながら、住民生活を改善するための地域資源の活用を、住民の手で運営できる仕組みを育てていきました。 こうした事例は、リスク管理や持続可能な地域社会づくりが、科学と生活感覚の双方を尊重しながら、誰が排除されていないか、排除されがちな人にニーズを届けるうえで何ができるかを常に問い直していくこと、つまりケアし合う関係を築くことでもあることを示すものです。	学生が育った地域または今住んでいる地域で作られている地域総合計画、防災計画等を読み、地域社会におけるリスクの種類、ならびに対処方法（とくに市民や民間企業等の協力が必要なポイント)）を調べる。	60
第１４回	タームペーパーの講評とまとめのディスカッション これまでの 13 回の講義で、グローバリゼーションが日本や他の国の地域社会やそこで営まれる毎日の暮らしに様々な影響を与えながら展開していることを見てきました。 最終回では、受講者の皆さんがこれまで学び考えてきたことを共有するために、最終課題について報告していただき、互いにコメントする形を取ります。 最後に、これまで考察してきたポイントを振り返り、最初に提示した２つのメッセージを考え直します。	予習課題はなし。最終課題（4000 字以内）を講義 2 日前までにメール提出。 最終課題のテーマは『「食」「仕事」「学習」「安全・リスク」「地域社会」のうち一つを選び、 ①自分の暮らしとの関連、②グローバリゼーションにより特に影響を受ける人、③影響を和らげるために求められる行動』を考察し、4,000 字以内でま とめること』とする。	120

〔授業の方法〕
講義を基本としますが、各回に受講者のグループディスカッションを実施します。
グループディスカッションには、受講者が事前（講義２日前）に提出する予習課題を参考にします。
予習課題は、受講者の日常生活や住んでいる地域、これまでに習った環境問題の知識などをもとに書いていただくショートペーパーです。
美しい文章にする必要はありませんが、他の受講者が内容を理解できるように、具体的な根拠にもとづき、自分の考察した内容を含めているかどうかという基準で評価します。
最終課題は、第８回の予習課題に示した内容です。作成にやや時間がかかると思いますので、はやめに準備に取り掛かることをおすすめします。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

授業への参加にもとづき評価します。
・第 2 回から第 13 回の授業前に提出する予習課題（40%）
・第 14 回授業前に提出する最終課題（20%）
・授業中の発言と質問、及びグループディスカッションへの貢献（40%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
以下、参考になりますが購入の必要はありません。
サスキア・サッセン「グローバル・シティ」ちくま学芸文庫
ウルリッヒ・ベック「世界リスク社会論　テロ、戦争、自然破壊」ちくま学芸文庫
森千香子「ブルックリン化する世界：ジェントリフィケーションを問い直す」東京大学出版会
アンソニー・エリオット／ジョン・アーリ「モバイル・ライブズ「移動」が社会を変える」ミネルヴァ書房
岡野八代「ケアの倫理」岩波新書

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
電子メールで受け付けます。メールアドレスはポータルサイトおよび講義中に周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	社会福祉概論						
教員名	田中　悠美子						
講義コード	125431280	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
社会福祉のあり方や考え方は、その人が住んでいる地域社会、時代のあり方に大きく関係しています。現在の私たちの暮らしの中で社会福祉はどのようなものとして存在しているのか、誰もが接点のある社会福祉について学ぶことは、これからを生きる上で役立つ知識、知恵を得ることができると考えます。社会福祉概論は、社会福祉学の基本的な考え方、視点、枠組み、構造について理解を深め、よりよく生きるための思考を促す導入的な講義となります。ソーシャルワーカーの実務経験を活かした授業を行います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1「専門分野の知識・技能」、ＤＰ２「教養の修得」を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①日本の社会福祉の考え方と特徴、現在の社会的問題を理解する。
②福祉制度・サービスの特徴と種類を知り、自分が利用する時にはどうするかを思い描けるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	私たちの暮らしと社会福祉	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第２回	社会福祉の考え方と目的	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第３回	生活困窮・貧困とは何か～公的扶助制度の理解～	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第４回	生きづらさと社会的孤立	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第５回	社会保障制度の理解～社会保険と保健医療を中心に～	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第６回	地域を基盤としたソーシャルワーク	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第７回	こどもと家庭への支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第８回	高齢者への支援～介護保険制度を中心に～	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第９回	認知症の理解と支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１０回	障害を有する人の支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１１回	メンタルヘルスの不調を抱える人への支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１２回	子ども・若者への支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１３回	災害支援とソーシャルワーク	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120

〔授業の方法〕
毎回プリントを配布し、必要に応じてインターネットや映像等を使いながら、講義を行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
最終授業で到達度確認テストを行って答案を回収した後に、テストの解説を行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（50%）と、授業への参加状況や小レポートの提出状況（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「社会福祉事業史」「地域福祉論」「高齢者福祉論」がある。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
購入の必要はありませんが、以下の書籍を参考に授業を行います。
①「七訂版 社会福祉概論: その基礎学習のために」西村昇・日開野博・山下正國、中央法規出版
②「15 歳からの社会保障　人生のピンチに備えて知っておこう」横山北斗、日本評論社

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	社会福祉事業史						
教員名	長谷川　拓人						
講義コード	125431290	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、国内外の社会福祉の歴史を辿っていく。福祉とは何か、福祉の考え方はどのような経緯で誕生し発展してきたのかを理解し、現在の福祉のあり方に対して自分の意見を持てるようになることが、この授業の目的である。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP１（専門分野の知識・技能の修得)、DP2（教養の修得）を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
・社会福祉をめぐる重要な人物や概念を学び、それぞれの時代背景と結びつけて理解することができる。
・福祉はなぜ必要とされてきたのか。これからどのような福祉政策が求められるか。海外や日本の歴史をもとに考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション、イギリスの社会福祉 (1) ―産業革命と救貧法	配布資料を読み、理解する。	60
第２回	イギリスの社会福祉（2）―貧困調査、慈善組織協会（COS)、セツルメント運動	配布資料を読み、理解する。	60
第３回	アメリカの社会福祉―ソーシャルワークと医療保険制度	配布資料を読み、理解する。	60
第４回	ドイツの社会福祉―社会保険の誕生	配布資料を読み、理解する。	60
第５回	戦争と福祉国家 (1) ―ベヴァリッジ報告と戦後イギリスにおける社会保障	配布資料を読み、理解する。	60
第６回	戦争と福祉国家（2）―北欧の社会福祉	配布資料を読み、理解する。	60
第７回	日本の社会福祉（1）―明治期における慈善事業の展開	配布資料を読み、理解する。	60
第８回	日本の社会福祉 (2) ―地域福祉の始まりと社会事業の成立	配布資料を読み、理解する。	60
第９回	日本の社会福祉（3）―戦後における福祉三法の確立	配布資料を読み、理解する。	60
第１０回	日本の社会福祉（4）―高度経済成長と福祉六法体制	配布資料を読み、理解する。	60
第１１回	70 年代以降の福祉国家（1）―社会問題の増加と福祉改革	配布資料を読み、理解する。	60
第１２回	70 年代以降の福祉国家（2）―障害者福祉の発展	配布資料を読み、理解する。	60
第１３回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、東アジアにおける社会福祉―高齢化と介護保険	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

〔授業の方法〕
毎回プリントを配布し、必要に応じて映像やインターネット等を使いながら、講義を行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
最終授業で到達度確認テストの解説を行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（50%）と平常点（授業中の課題など）（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「社会福祉概論」「地域福祉論」「高齢者福祉論」がある。

〔テキスト〕
授業で配布するプリント

〔参考書〕
清水教惠・朴光駿編著，2011，『よくわかる社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房.
金子光一，2017（初版 2005），『社会福祉のあゆみ』有斐閣アルマ.
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	環境社会学						
教員名	渡部　厚志						
講義コード	125431300	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

環境という言葉は、様々な場面で使われています。海や河、山や森の動植物を保護する活動や、歴史ある町並みや里山などの景観を維持しようという取り組みに参加したことがある方もいると思います。子どもたちが育つ地域社会や私たちが働く場所を過ごしやすいものにしようという取り組みも、環境改善のひとつです。

私たち一人ひとりの暮らしや私たちの社会を取り巻くものは、環境と呼ぶことができます。その中には、生命も、生命でないもの、人工のものも含まれます。人や社会は人以外のものとの関わる営みの中で、暮らしや社会の豊かさに必要な価値を取り出し、分配します。その一方で、人の営みが、私たちを取り巻く環境を急激に撹乱してしまい、その結果、人や社会に深刻な悪影響をもたらすこともあります。様々な公害や地球環境問題について、皆さんも耳にしたことがあるでしょう。

ここで大切なのは、すべての環境問題は、地域的な公害問題でも気候変動のような世界的な課題も、人間社会の不平等と深く関わっているということです。公害や環境問題を見るには「人間社会がどのように環境を壊すのか」という見方だけでなく、「ある場所の、ある人たちの暮らしを支える環境が壊れていく背景に、どんな社会や経済の不平等があるのか」という視点をもつ必要があります。

この授業では、水俣病などの典型的な公害問題や気候変動や海洋プラスチック汚染といった課題に至る多様な環境問題、人と自然が知恵や文化を通じて関わりながら豊かさや暮らしを維持する様々な社会の知恵を題材に、人と人、人と人以外の存在の関係によって起こり得る課題や、よりよい関係を再構築・維持する方法を考えます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

次のような知識と考え方を身につけることを目指します。

1.　環境問題の背景にある構造的不正義を考えるための基本的な概念を理解する

環境の問題の背景には、「人と自然」の関係の変化（技術や社会の発展）だけでなく、「ある集団と別の集団」の関係の変化があります。「被害構造」や「受益と受苦の偏り」といった公害問題に関する基礎概念を頼りに、社会経済の発展が構造的な不正義を深刻化させ、環境の変化を通じて、特定の人びとの生存を脅かすに至る仕組みを理解します。

2.　人と自然、社会の多様な「関係性」を見る視点を身につける

人間と人間以外の生き物や無生物などとの関係には、「自然と技術（人工）」に単純に分けることができない様々なパターンがあります。たとえば完全な管理ではない「半栽培」や主たる生産活動以外の「マイナーサブシステンス」、あるいは大人たちや子どもの「遊び」でも、人は人以外の環境と関わっています。また、環境や資源に人がアクセスする仕組みには、私有と公有の区別のほかにも、共有・共同管理のようなものもあります。こうした多様な関係性を学ぶことで、いわゆる「自然」だけでなく、学生が日々を送る都市や郊外の日常での「環境」との関わりについても、今までにない見方をとることができるようになります。

3.　複雑な環境課題に対するアプローチの取り方を理解する

公害、地球環境問題や資源保全は、どれも人間社会の構造的な不正義に関わり、一つの解決策が別の課題を生むこともある「やっかいな問題」です。従来、公害問題や環境汚染には被害者への保障と加害者・汚染者である企業への規制が典型的な対応でした。しかし気候変動や生物多様性の保全、海洋プラスチック汚染などの課題への対策は、規制だけでは十分な効果を得ることが難しいため、気候や生態系に良い製品・サービスを開発・普及したり、地域社会と企業の取り組みを奨励したりする、協働型のアプローチも取り入れられています。対決から協働・協創へというアプローチの変化が、問題の背景にある構造的不正義とどのように関わるのかを考えていくことで、解決策を多角的に考える能力を養います。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	環境社会学では何を学ぶのか 環境社会学が扱うのは、人や社会と、それを取り巻く多様な環境との関わりに関する様々な問題です。社会と経済が豊かになるにつれて、人間社会と人以外の生き物や無生物、里や町や都市など私たちを取り巻く環境との関係が変化し、公害、生態系の破壊や汚染、気候変動などの問題が発生します。また、こうした問題の背景には、人間社会の不平等や構造的な不正義があります。 環境社会学では、人と自然との関わりや環境問題を扱うために、調査方法や分析のための概念を考案するとともに、そして被害者や地域社会と協働し、企業や政府とときに対決しときに協力ししながら状況を改善していく手法を磨いてきました。 第１回では、環境社会学が扱う様々な問題や、問題を見る視点を紹介し、様々な問題や取り組みを学ぶ準備をします。	「環境」と聞いて最初に思いついた言葉（出来事やモノなど、なんでも構いません）について、それが「誰にとって、どのような行為や状態を可能にする環境なのか」「その環境は、どんなきっかけで変わるのか」を考察し、800 字以内にまとめてください。授業中のディスカッションに活用します（以下同じ）	60
第２回	環境問題と対応①ふたつの水俣病 熊本と新潟 第２回から第５回は、多様な「環境問題」の発生や被害のあり方、解決に向けた対応を学びます。 第２回では、公害問題に対する政策的・社会運動的な対応が始まった重要な事例として、熊本と新潟の「ふたつの水俣病」を取り上げます。両地域の被害の背景、被害構造、社会・政治・経済の反応、その後の経過の違いを比較しながら、「被害構造論」の視点を用いて、被害がどのように発生し、なぜ被害が学者、企業、政府によって矮小化されてきたのかを分析します。熊本と新潟では、被害の認定や補償のための取り組みにも大きな違いが見られます。この２つを含む公害問題は、その後の環境問題に対する市民社会、企業、そして行政の対応に大きな影響を与えています。	水俣病などの産業公害について、小学校、中学校などで過去に学習した内容を思い出し、印象に残った点と、なぜそれが自分の印象に残っているのかを考察してまとめてください（水俣病などの公害の病状や歴史をまとめるという課題ではないので注意してください）。	60
第３回	環境問題と対応②東京ゴミ戦争 高度経済成長を背景とした東京への人口集中と生活水準の劇的な改善は、ごみ処理を巡る大きな問題につながり、都内の地域の間での争いを生みました。市民生活が原因の汚染であり、被害者と加害者が東京に混在する点で、この問題は水俣病のような産業公害と異なります。 第３回では、この対立から解決に至るまでの過程、特に、対立解消のために行政と市民の役割や、地域の関係がどのように変化したのかを学びます。鍵となるのは、発展やサービスの恩恵を受ける地域（受益圏）と、施設の建設や廃棄物処理の負担を負う地域（受苦圏）の関係性で	学生やご家族が一週間に出すゴミの内訳（どんなゴミがどのくらいの割合出ているのか）を調べ、その背景を考察する。また、そのゴミがどこでどのように処理されているのか（焼却、埋め立て、リサイクル）も、可能な範囲で調べる。	60

	す。この例から、社会発展を支える公共事業がもたらす構造的な問題を理解します。		
第４回	環境問題と対応③琵琶湖の汚染と市民運動 同じく高度経済成長を背景とした問題に、人の生活を支える食品や日用品を生産するための工業や農業、そして生活排水の流入による水質汚染があります。琵琶湖では富栄養化が大きな問題となりました。これも市民生活に関連する環境破壊ですが、その対策には市民活動が重要な役割を担いました。琵琶湖周辺の市民は、廃油の回収と石鹸の生産に始まるさまざまな活動で琵琶湖の汚染に取り組み、行政とも協力しました。さらに、洗剤を改善する企業の取り組みやグローバルな状況の変化に対応して、運動の焦点を変えてきました。とりわけ、人口減少という新たな地域課題に直面する地域では、地域経済を活性化しながら環境も守ろうという市民や地域企業の試みを支え合うモデルが生まれています。 第４回で扱うこの事例は、被害者と加害者の対決から法的な和解へと向かう従来の公害対応とは異なる解決策があること、環境対策において、地域社会が直面する多様な課題や文化などとの関連を考える重要性を示すものです。	学生が暮らす都道府県または出身地の都道府県で、環境や美化に関する市民参加型の活動を探し、いつごろ、どんな理由で始まったのかをまとめる。	60
第５回	環境問題と対応④森林保護と地域社会 これまでに取り上げた公害問題や環境汚染は、基本的には近代化や経済成長に由来するものでした。一方で、地域に暮らす人びとの伝統的な営みが環境破壊の原因だとされる場合があります。 第５回では開発途上国における森林保護区の問題を取り上げます。地域住民が維持してきた生業である焼畑農業が、国家により環境破壊と見なされ、利用や立ち入りを制限されるケースが度々発生してきました。ここでは、地域住民の生業の知恵と、経済開発や資源保護・管理における国家の論理との間の不均等な関係が、「保護」という論理で人びとを生存のための資源から切り離す方向に作用します。 もう一つの事例として、白神山地の保全も紹介します。世界遺産に登録された地域ですが、青森側と秋田側では、森林資源に異なる価値を見出しており、そのことが保護に対する異なる対応につながりました。 この２つの例を参考に、環境対応とは「何を守りたいのか、誰が関わるべきなのか、誰の価値を優先させるのか」という問いと結びつけて考える必要があります。	学生が暮らす都道府県または出身地の都道府県で、森林、河川、海岸などを保護しようとする運動があるかどうかを調べ、その活動がいつごろ、どんな理由で始まったのかをまとめる。	60
第６回	環境問題の構造 第２回から第５回までに紹介した公害・環境問題への対応事例（産業公害対策、廃棄物処理、水質汚染対策、森林保護）を振り返ります。問題発生の構造的背景、被害・加害の構造（加害の可視化の難しさなど）、そして様々な関係者（抑圧、認定、訴訟、価値創出）の対応パターンを軸に、４種類の問題を整理しながら、鍵となる考え方を検討します。 環境問題が人間活動の拡大に起因すると捉えた場合、解決策としては１）環境負荷のない技術への置き換え、２）より厳しい規制の導入、３）ライフスタイルの変化といったものがあります。このどれを採用するにしても、社会や経済にある不平等の問題を切り離して考えることは、問題の一部を覆い隠したり、新たな問題から目を逸らしたりする結果になります。 関連して、「人が自然から手を引く」という対応策が有効であるとは限りません。人と人以外の環境との関係だけでなく、人間社会の中の不平等が関わる問題社会や政策が対応することで、豊かさや暮らしを損なわない関係を再構築・維持しようとする点に特徴があることを再確認します。	第２回から５回までに学習した異なるタイプの「環境問題」のうち、もっとも印象に残ったもの一つについて、問題のあり方、関係する人や組織、対応策のあり方を考察する。	60
第７回	人・社会・自然のあいだ①半栽培とコモンズ 私たちは人間社会と自然を二分し、人の影響を自然から切り離すことで保護できると考えがちです。しかしこの単純な見方をとると、人と自然の関わりの豊かさや、関わりが壊れることで生じる問題を見誤ります。そこで、第７回と第８回では、人間と自然の多様な関係性を見ていきます。 人と自然の関わりには、完全にコントロールができない自然（自生）と技術（栽培）の間にも、多様な営みがあります。たとえば植物が自ら育つようにしながらも栽培のための活動を行わない「半栽培」は、多くの地域で暮らしの一部に組み込まれます。人間以外の生き物のリズムに対応し、人の生活と社会を織りなす営みとも言えます。 また、人間が土地、水や森林にアクセスし利用する方法にも、私的所有と公有の間に、共有や共同管理の多様な方法があります。ここでは「共有地の悲劇」論をめぐる議論や、多様な共同管理の営みを可能にする社会制度や文化を考察します。	学生自身や家族、友人などの生活の中で、他の人達と共有したり共同管理したりするものがないかを考え、どんな人と共有するか、共有・共同管理にどんなルールがあったかを考察する。	60

第８回	人・社会・自然の関係②ナリワイと遊び この回では、主たる生業ではない、狩猟採取や小規模な生産などの「マイナーサブシステンス」のあり方を考察します。これらの営みは、単に生産物を生むだけでなく、学びや知恵の伝達の場となってきましたが、社会と暮らしの近代化に伴い、次第に見られなくなっているものもあります。 社会と自然（あるいは人工の）環境の関わりのもう一つの例として、遊びを検討します。河川や森などでの遊びが変化し減少するに伴い、自然（例えば魚）に関する知識、認識や楽しさ、怖さを感じる機会も変化したことがわかっています。このような遊びの経済成長と都市化に伴い、人の住む場所と働く場所に距離が開いたことに対応します。現在でも自然の中での遊びはありますが、生業・仕事とははっきりと区別されたものとなっています。 マイナーサブシステンスや遊びの変化が、人と資源、技術との距離を遠いものとしています。	学生自身や家族、友人などの生活の中で、主たる仕事とはならないが、生活の中で欠かせない活動を探し、それが暮らしにどんな効果をもたらしているのか、その活動のためにどんな人やもの（自然、技術、文化）などと繋がっているかを考察する。	60
第９回	関係づくりとしての環境対策①食のコモニング 第９回と第 10 回は、人と環境、人と人との関係を再構築することで、環境と社会の問題に対応する可能性を考えます。 第９回は食に関する持続可能性を取り扱います。食の生産・流通・消費は、温室効果ガス、水質汚染、土壌や森林の侵食、海洋資源の破壊などの多くの問題に関わっています。けれども食は、世界中の人の健康と栄養にも、多くの人々の仕事や収入にも関わるので、環境負荷だけに対処していては、持続可能な食の生産と消費は実現しません。 この回では、「フードレジーム論」という枠組みを通じて問題の複雑さを検討します。食の生産・流通・消費を世界中に広げるために効率を優先したシステムの発展で、食料生産地と消費地の距離が開き、農業や漁業に関わる人も、都市の消費者も、食の安全や健康、値段などに関して考え決める機会と能力を失っています。食の新技術導入、食生活の変化、廃棄の削減といった個別的な対策もありますが、同時に、食システムに関する知識と決定権と行動力を人びとの手に取り戻し、共有していく「コモニング」の実践に注目します。	ご家族や友人などと、「食」に関連して気になっていることや心配なこと、その背景にある社会、経済、環境の変化について話し合い、その内容をまとめる。	60
第１０回	関係づくりとしての環境対策②移動のコモニング 第 10 回では、移動（交通）に関する問題を取り扱います。近代化、経済成長で、人やものが日々移動する距離と量が飛躍的に増えました。鉄道敷設による人と物資の輸送や都市化に対応する通勤路線の発達が、私たちの暮らしを豊かにするのに不可欠でした。さらに、戦後の道路整備と所得向上で、社会はクルマ中心に変わっていきました。 こうした交通の発展は、騒音、排気ガス、交通事故などの問題を生み出しました。また、市街地などの設計が自動車交通中心になることで、歩行者や自転車での移動も、街路での活動もしにくい街が生まれ、人びとの交流を妨げることすらあります。一方で、クルマが地方都市で中高齢者や女性たちの仕事や移動の可能性を広げた側面もあります。 交通発展の功罪や、人口減少に向かう社会の現状から、公共交通の再設計（デマンド交通、シェアリング）や、歩きやすいまちづくりといった新たな活動が生まれています。	学生自身やご家族や友人などが日常に必要な移動について、どこに、どのような理由で、どれくらいの頻度で、どのような手段で移動するのかを調べてまとめる。	60
第１１回	人新世の課題とその対応①気候変動 人間の活動による影響が地層や大気、海洋などを含む地球環境全般に及ぶ現状を「人新世」と呼ぶ考え方があります。第 11 回から 13 回までは、人新世における 3 つの重要な課題がもたらす影響やそれらへの対応策を見ていきます。 第 11 回では気候変動を扱います。気候変動の主な原因は、世界中の経済と社会を豊かにする人間の経済活動にあります。また、気候変動は、今後数百年の間、人類もそれ以外の生物にも甚大な影響を与えます。一見すると「誰もが利益を得て、誰もが被害を受ける」問題のように見えますが、実際には時代や地域の区分によって、被害やコストの負担に大きな違いがあります。この点で、過去の公害問題と同じく構造的な不正義の現れです。 気候変動への対策には、温室効果ガスを減らす緩和策と、気候変動による社会、食糧生産や産業、災害、健康被害などを抑える適応策の２種類があります。どちらの対策でも技術や社会制度、私たちの暮らしを大幅に変えていく必要があります。そのため、対応策、農業・漁業などの暮らしや生業の可能性に影響を与える「やっかいな問題」の典型例でもあります。	「(a) 食生活」「 (b)集 中豪雨や熱波など異常気象への備え」「(c)電気やガスの利用」のいずれかについて、受講者の家族には 30 年前と今の間にどんな違いがあるかを調べ、地 球温暖化との関連を考察する。	60
第１２回	人新世の課題とその対応②海洋プラスチック汚染 産業活動や私たちの日常生活の多くの場面で、20 世紀に開発されたプラスチックが活用されています。しかしプラスチックは廃棄物処理の過程で土壌や河川、ひいては	プラスチックを素材、加工手段、包装などに用いている製品やサービスを一つ取り上げ、①いつごろから必要になったのか、②その製品やサービスが原因の環境汚染が	60

	海洋に流出し、海洋生物やそれを食べる私たちの体にまで影響しています。この問題は、地域における企業や個人の行動が最終的には世界中に及ぶ深刻な被害の原因になっているという構造と、にも関わらず、産業や日常生活からプラスチックをなくすことが極めて困難であることに特徴があります。さらに背景に目を向けると、プラスチックの大量生産・消費に支えられたグローバルな産業と貿易の構造があります。また同時に、プラスチックを始めとする廃棄物の問題は、国際的な再生資源の貿易（別の言い方をすると、ゴミの輸出）という不公正にも関わる問題です。 この問題も、気候変動対策やその他のサステナビリティ課題との関係において、調和する場合と矛盾する場合があります。例えば、代替素材の開発やリサイクルの推進が、エネルギー消費や別の環境負荷を高める可能性など、複数の環境課題間のトレードオフを検討します。	起きているか、③代替するとしたらどのような手段があるか、を調べる。	
第１３回	人新世の課題とその対応③生物多様性の破壊 生態系の破壊と生物多様性の喪失は、人新世におけるもう一つの深刻な脅威だと考えられています。 生態系は、①食料、水、素材などを社会に提供する供給サービス、②気候の調整、水質浄化や洪水など自然災害の緩和といった調整サービス、③観光やレクリエーションなどの文化的サービス、④以上を支える基盤となる光合成、土壌形成、水や栄養塩の循環などの基盤サービスという４つの点で私たちの社会を支えます。しかし、生態系や生物多様性が損なわれることで具体的にどんな被害がどこで起きるのかは、気候変動と比較して予測が難しいことが特徴的です。 生態系と生物多様性に関する対策は、気候変動と比べると広がっているとは言えませんが、地域社会や市民保全活動に加え、企業が生態系資本経営（ネイチャーポジティブ経営）を取り入れるケースが増えつつあります。また、気候変動対策と生物多様性保全が、常に調和するわけではないことにも注目できます。サンゴ礁や森林の保護は両方の課題に有効ですが、メガソーラーや洋上風力発電といった再生可能エネルギーの導入が地域の生態系を破壊するなど２つの課題への取組みが両立しにくい場合もあります。	日本国内、国外を問わず、近年急激に数が減っている、あるいは急激に増加している動物か植物を１種類取り上げ、変化の背景を考察する。	60
第１４回	最終課題の講評とまとめのディスカッション 最終課題の講評とともに、講義全体のまとめとなるディスカッションを行います。 本講義全体で見てきた、地域的な課題からグローバルな課題を振り返り、被害の構造や受益と受苦、そして背景にある構造的不正義といった考え方をおさらいします。また、「人新世」という概念を強調することのメリットとデメリットを検討します。人間を「例外的な存在」と捉えるか、それとも「つながりの一部」として捉えるべきかによって、環境の保護・保全や環境問題への対策は、異なる姿で見えるようになります。 環境問題への対応が、従来の開発の規制や被害の保障を中心とするアプローチから、サステナビリティを実現するための企業・行政・市民の協働・協創へと変化していることも、再確認します。このアプローチの変化が私たちにもたらしたもの（新たな可能性や解決策）と、失ったもの（迅速性や公正性など）について考察します。	自然環境、生活環境、地球環境の具体的な問題を一つ取り上げ、問題の背景、被害者と加害者、問題解決や今後の再発予防のための対応策を考察する。授業で取り上げた主要な概念（被害構造、受益と受苦、環境正義、半栽培、コモンズ、公正な移行（ジャスト・トランジション）、人新世）のうち少なくとも２つを用いて整理し、4000 字程度にまとめる。	120

〔授業の方法〕
講義を基本としますが、各回に受講者のグループディスカッションを実施します。
グループディスカッションには、受講者が事前（講義 2 日前）に提出する予習課題を参考にします。
予習課題は、受講者の日常生活や住んでいる地域、これまでに習った環境問題の知識などをもとに書いていただくショートペーパーです。
美しい文章にする必要はありませんが、他の受講者が内容を理解できるように、具体的な根拠にもとづき、自分の考察した内容を含めているかどうかという基準で評価します。
最終課題は、第 14 回の予習課題に示した内容です。作成にやや時間がかかると思いますので、はやめに準備に取り掛かることをおすすめします。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
とくにありません。

〔課題等へのフィードバック方法〕
予習課題にフィードバックコメントをつけて、可能な限り講義前日までに返信します。

〔成績評価の方法〕
授業への参加にもとづき評価します。
・第 2 回から第 13 回の授業前に提出する予習課題（40%）
・第 14 回授業前に提出する最終課題（20%）
・授業中の発言と質問、及びグループディスカッションへの貢献（40%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
以下の書籍は参考になりますが、購入の必要はありません。
鬼頭秀一「自然保護を問い直す：環境倫理とネットワーク」ちくま新書
原田正純「豊かさと棄民たち：水俣学事始め」岩波書店
嘉田由紀子「水辺遊びの生態学：琵琶湖地域の三世代の語りから」農山漁村文化協会
宮内泰介編「半栽培の環境社会学：これからの人と自然」昭和堂
ウルリッヒ・ブラント「地球を壊す暮らし方: 帝国型生活様式と新たな搾取」岩波書店
小島道一「リサイクルと世界経済　貿易と環境保護は両立できるか」中公新書

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
電子メールで受け付けます。メールアドレスはポータルサイトおよび講義中に周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	社会調査入門						
教員名	渡邉　大輔						
講義コード	125432100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説します.

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1（専門分野の知識・技能），DP2（教養の修得），DP3（課題の発見と解決），を実現するために，社会調査の意義と諸類型について，基礎的知識と理論的枠組みを身につけることを目標とします.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第２回	社会調査史	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第３回	社会調査の目的	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第４回	調査方法論	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第５回	調査の種類と実例	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第６回	量的調査と質的調査	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第７回	統計的調査と事例研究法	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第８回	国勢調査等の公的統計	【予習】教科書 166~167 ページ、184~185 ページを読む 【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第９回	学術調査	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１０回	世論調査	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１１回	マーケティング・リサーチ	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１２回	調査票調査とフィールドワーク	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１３回	調査倫理	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１４回	まとめ	【復習】これまでの資料を読み直す	60

〔授業の方法〕
講義、および、グループワークによる演習を行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回、コメントシートを Course Power において提出する（〆切は講義日当日）。提出されたコメントシートへの講評は、次回の講義の冒頭で行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（グループ課題等）40%、期末課題 60%。
なお期末課題は第 14 回のクラス内テストを予定している。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム A)。課程登録者以外でも履修できる。

〔テキスト〕
金井雅之・小林盾・渡邉大輔編『社会調査の応用』弘文堂，ISBN: 978-4335551512　　（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング,(6)ＩＣＴ活用

26/2/9 15 時 45 分

講義名	社会調査の方法						
教員名	小林　盾						
講義コード	125432110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
次の 3 点を到達目標とする.
(1) 社会調査によって資料を収集できる.
(2) 社会調査によってデータを収集できる.
(3) それらを分析しうる形にまで整理できる.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第２回	調査目的と調査方法	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第３回	調査方法の決め方	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第４回	調査企画と設計	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第５回	仮説構成	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第６回	対象者の選定の諸方法	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第７回	サンプリング法 1：全数調査と標本調査	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第８回	サンプリング法 2：無作為抽出、標本数と誤差	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第９回	質問文・調査票の作り方	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１０回	調査の実施方法 1：調査票の配布・回収法	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１１回	調査の実施方法 2：インタビューの仕方	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１２回	調査データの整理 1：エディティング、コーディング、データクリーニング、コードブック作成	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１３回	調査データの整理 2：フィールドノート作成	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１４回	まとめ	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60

〔授業の方法〕
講義とグループワーク．他にフィールドワーク，ディスカッション，プレゼンテーションがふくまれます.
なお，各課題の狙いは以下のとおりです.
(1) 社会調査によって資料を収集できる.
(2) 社会調査によってデータを収集できる.
(3) それらを分析しうる形にまで整理できる.

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
特になし.

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業の初めに前回の課題の講評，解説を行います.

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況，宿題の提出状況，グループワーク，ディスカッション，プレゼンテーション）50%，成果物（宿題レポート，到達度確認テストなど）50%による総合評価.

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する.
つぎの点に着目し，その達成度により評価する.
(1) 社会調査によって資料を収集できる.
(2) 社会調査によってデータを収集できる.
(3) それらを分析しうる形にまで整理できる.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム B）．課程登録者以外でも履修できます.

〔テキスト〕
特になし.

〔参考書〕
『社会調査の応用』，金井雅之・小林盾・渡邉大輔編，弘文堂（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます.

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	質的調査入門（資料分析）						
教員名	坪田　美貴						
講義コード	125432130	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
会話分析、ドキュメント分析、内容分析などを中心に、質的調査のデータ収集方法と分析方法について学ぶ。また、実際にそれぞれの方法を用いて行われた調査を事例として参照し、それぞれの方法がどのような目的に適し、どのようなことを解明してきたのかを考察する。その後、質的調査の進め方について具体的に学ぶ。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するために、質的調査の技法と分析方法を習得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	質的調査とは何か：目的とデータ収集方法の種類	【復習】配布プリントを再読する	60
第２回	フィールドワーク１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	フィールドワーク２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、フィールドワークを行ったミニレポートを書く	120
第４回	会話分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	会話分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	ライフヒストリー分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	ライフヒストリー分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、会話分析かライフヒストリー分析を用いたミニレポートを書く	120
第８回	ドキュメント分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	ドキュメント分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	内容分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	内容分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、内容分析を使ったミニレポートを書く	120
第１２回	質的調査の企画・設計とデータ収集	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直し、質的調査の企画・設計を行う	120
第１３回	質的調査の公表・倫理	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す	90
第１４回	質的調査の動向と今後の展開	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す	60

〔授業の方法〕
講義および演習形式。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム F)。課程登録者以外でも履修できます。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	質的調査法（インタビュー）						
教員名	金　善美						
講義コード	125432150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

さまざまな質的データの収集や分析方法について解説します。
インタビューと参与観察を中心とする質的調査について、豊富な事例に触れながら学んでいく授業です。毎回、先人たちによる優れた質的調査の実例をとりあげ、そこで使われた手法の特徴や意義、具体的な調査のプロセスなどを解説していきます。また、参考になる例だけでなく、よくない調査設計や対象に関する薄っぺらい記述の例にも触れながら、質的調査を行う際の注意点についても学びます。
卒論などで質的調査する予定の方、自分で調査する予定はとくにないけど質的研究の文献を読んでみたい方、社会調査士過程を履修中の方、どなたでも歓迎します。さまざまな質的調査を通じて描かれる、あなたの知らない世界に触れる半年間にしてみませんか？

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するために、次の 3 点を到達目標とします。
①質的調査の各手法に関する基礎的知識を修得する。
②質的調査を用いた代表的な調査研究について知り、その内容と意義を説明できる。
③授業で学んだ知識と手法を応用し、自分が関心を持つ研究対象に関する調査計画を立てられる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法、授業時間外の実習内容などについて説明する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	60
第２回	社会調査と質的調査 ・社会調査の意味、質的調査と量的調査の違いについて解説する ・質的調査の特徴と種類、意義、調査倫理などを学ぶ	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第３回	インタビュー（1）:インタビュー法の種類，プロセス，実習時の注意点，記録の作成方法	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第４回	インタビュー（2）:インタビューにおける相互作用やラポールをめぐる議論，インタビューの社会的意味	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第５回	ライフストーリー（1）:ライフストーリー法の意味や実施のプロセス，実習時の注意点，意義	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第６回	ライフストーリー（2）:ライフストーリー法における語りの解釈や分析	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第７回	参与観察（1）:参与観察法の意味や具体的プロセス，調査対象者との関係性づくり，実習時の注意点	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第８回	参与観察（2）:現場の探し方や現場での過ごし方，参与観察法の意義，フィールドノートの取り方	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第９回	参与観察（3）:「調査する私」をめぐる諸問題	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１０回	質的データの分析と論文の執筆（1）:：質的データの整理・分析方法，「分厚い記述」の意味	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１１回	質的データの分析と論文の執筆（2）:質的データ分析の実例	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１２回	質的データの分析と論文の執筆（3）:質的データの活用と具体的な記述方法	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１３回	調査成果発表会（1）:受講者による調査成果の発表と講評	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１４回	調査成果発表会（2）:受講者による調査成果の発表と講評	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60

〔授業の方法〕

講義形式が中心となりますが、ほぼ毎回、文献資料（質的調査の実例）を授業内で配布し、各自が読んだ上でグループディスカッションをしてもらいます。質的調査に関する知識を身につけ、その上で文献に出てくる質的調査の内容を多角的に考察したり自分なりの調査計画を立てたりすることができるかどうかを評価します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業内でのフィードバックの他、Coursepower やメールなどを通じて個別質問への回答や講評・解説をします。

〔成績評価の方法〕
平常点（コメントペーパーやグループディスカッションへの参加状況など）40%、第 13 回～14 回の発表 60%で評価します。発表は、①受講生自らによる簡単な質的調査の実施とその成果の報告②自分が読んだ質的調査の文献紹介、のうち好きな方を自由に選択していただきます。
なお、受講者の人数次第では発表が課題レポート提出に代わる可能性があります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・質的調査の各手法に関する基礎的な知識を修得しているか
・研究実例に用いられた調査方法を把握し、その特徴と意義について説明できるか
・調査のテーマや対象の特徴を考慮し、適切な調査計画を立てることができるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士課程の資格対応科目（F）に該当する科目です。また、資格取得を目指さない人も自由に受講できます。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』岸政彦・石岡丈昇・丸山里美、有斐閣、1900 円＋税、 ISBN-10: 4641150370
『インタビューの社会学――ライフストーリーの聞き方』、桜井厚、せりか書房、2800 円＋税、ISBN-10: 4796702377
『質的データ分析法』、佐藤郁哉、新曜社、2100 円＋税、ISBN-10: 4788510952
いずれも購入の必要なし。その他の参考書については、授業内で随時紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトおよび初回授業で周知します。

〔特記事項〕

講義名	メディア調査						
教員名	石堂　彰彦						
講義コード	125432160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

近年はメディア上で発信される情報の多くがデジタル化され、インターネット経由での利用が可能となっています。利用できる情報にはクチコミサイトや SNS の書き込みだけでなく、新聞記事の本文や雑誌記事の見出し、さらには過去の映像作品なども含まれます。こうした膨大な情報を、適切な視点にもとづいて選択・収集・分析することで、新たな知見を得ることができます。そのため、多様なメディアを多様な視点から分析した研究が日々生み出されています。

そこで本講義では、新聞・雑誌・テレビ・ネットなどのメディアの内容を分析し、その背後にある“意味”を発見することを目的として、関連する研究事例を参照するとともに、実際のデータを用いた情報分析方法を検討します。また、調査をおこなうさいに必要となるデータの収集方法や、データの分析に用いるツールの使用方法も解説します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

次の２点を到達目標とします。
①各メディアの特徴や資料特性、データの収集方法、分析方法を説明できる。
②各自の問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の概要、進め方、期末レポートの内容などについて説明する	シラバスを読み、授業の概要を把握する	30
第２回	メディア関連の既存調査 ・既存の調査・研究を知ることが調査の第一歩	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第３回	新聞の調査方法① ・新聞の特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する ・既存の研究と同じ分析をおこない、メディア調査を実際に体験してみる	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第４回	新聞の調査方法② ・新聞の社説・記事について、調査・分析方法を検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第５回	新聞の調査方法③ ・新聞の投書について、調査・分析方法を検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第６回	雑誌の調査方法① ・雑誌の特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する ・雑誌の表紙について、調査・分析方法を検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第７回	雑誌の調査方法② ・雑誌の記事について、調査・分析方法を検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第８回	テレビの調査方法 ・テレビの特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する ・テレビドラマ・番組主題歌について、調査・分析方法を検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第９回	ネットの調査方法① ・ネットの特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する ・SNS(X)の投稿データの収集方法について検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１０回	ネットの調査方法② ・SNS(X)について、調査・分析方法を検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１１回	ネットの調査方法③ ・SNS(X)について、調査・分析方法を検討する ・クチコミ系サイトについて、調査・分析方法を検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１２回	ネットの調査方法④ ・クチコミ系サイトについて、調査・分析方法を検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１３回	複数メディアの調査方法 ・異なる種類のメディアを比較するさいの調査・分析方法を検討する	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１４回	まとめ ・授業の総括と期末レポートの説明	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90

〔授業の方法〕

１．配付資料をもとに講義形式で進行します。資料は前日までに CoursePower に掲示するので、授業開始までにダウンロードして内容を確認してください。なお、履修者の状況によっては、かんたんなグループワークや、履修者自身による分析を実施することがあります。
２．授業で取り上げるメディアの分析方法には、手作業や Excel を用いる方法、KH Coder というテキスト分析用のソフトウェアを用いる方法があります。これらの分析方法を、調査対象の性質に応じて適宜使い分け、実践的な分析方法を検討します。
３．授業の予習・復習用に、授業で使用するデータファイル等を履修者に配付し、履修者各自が必要に応じて分析の練習・確認をできるようにします。
４．調査・分析方法の説明には、Windows PC を用います。これは、Mac に上記 KH Coder を導入することが困難なためですが、詳細は初回授業時に説明しま

す。
５．授業は、毎回実施するコメント（リアクションペーパー）によって、履修者の理解を確認しつつ進めます。コメントには、調査のアイデアや講義内容にかんする質問や意見、感想等を記述します。
６．期末レポートでは、各自の問題意識をもとに簡単な調査計画を立てることが求められます。詳細は初回授業時に説明します。
７．授業中に履修者が質問できるようにするため、スマートフォンや PC から匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。これにより、授業中に生じた疑問や要望を、リアルタイムで教員に伝えて回答を得ることが可能になります。
８．なお、履修者数が中間モニタ設置教室の定員を超過すると、通常教室での授業となる可能性があり、その場合は中間モニタを利用できなくなります。この点については初回授業時に説明します。また、メディアのデータベースや SNS などの Web メディアの仕様変更や廃止により、それまで可能だった調査が実施できなくなることがあります。その場合は授業内容を変更して対応します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

・「授業の方法」に記したとおり、KH Coder を用いて授業をおこなうことがありますが、このソフトウェアのパソコンへのインストールは必須ではありません。各自の判断でインストールするかどうかを決めてかまいません。
・また、これも「授業の方法」に記したとおり、Mac に上記 KH Coder を導入することは困難ですが、詳細は初回授業時に説明します。

〔課題等へのフィードバック方法〕

・コメントに対する回答は必要に応じて翌授業時間の冒頭に提示します。
・期末レポートのフィードバック（評価）は CoursePower でおこないます。

〔成績評価の方法〕

期末レポート 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①各メディアの特徴や資料特性、データの収集方法、分析方法を理解しているか。
②問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・予備知識は不要ですが、「授業の方法」に記したとおり PC を用いた分析方法も説明するため、PC 操作が苦手という人も、この授業を通して PC を用いた分析の有用性・必要性を学ぶ心づもりで受講してください。
・関連科目は、メディアや社会調査に関する科目全般。

〔テキスト〕

特になし。講義レジュメを毎回配付します。

〔参考書〕

初回授業時に提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

・授業終了後に教室で受け付けます。
・CoursePower でも随時受け付けます。
・なお、「授業の方法」にも記したとおり、授業中も質問できるようにするため、匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。

〔特記事項〕

(5)情報リテラシー教育科目

講義名	情報社会論						
教員名	西　兼志						
講義コード	125432170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
現代社会は情報社会だと言われるようになって久しいですが、この講義では、毎回のテーマに沿った 4、5 のキーワード（「脱工業社会」「知識社会」「情報産業」「物語消費」「データベース消費」「ディズニー化」「感情労働」「アテンション・エコノミー」「監視資本主義」など）を取り上げることで、現代の情報社会を理解できるようになることを目指します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：現代のメディアのあり方について学修することを通じて、個人と社会をつなぐ関係の理解や情報化社会への対応力を解明するメディア研究の手法を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第２回	情報社会論の起源	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第３回	情報社会論の文脈	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第４回	消費社会をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第５回	消費社会論の展開	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第６回	＜キャラ＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第７回	リアル化するメディア環境をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第８回	＜推し＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第９回	アテンションをめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１０回	＜顔＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１１回	動物化をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１２回	労働をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１３回	監視をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
講義資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回、授業の冒頭で、リアクション・ペーパーについての講評・回答を行います。

〔成績評価の方法〕
平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの適切度＝50%）。
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・取り上げたキーワードを理解できているか。
・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕
ポータルサイトを通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	メディア文化論						
教員名	高岡　聖奈						
講義コード	125433100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

今日、世界上に色々な形態のメディア文化がボーダレスに存在している。このような複雑なメディア社会を理解する上で、本講義の前半では新聞、書籍、映画、音楽、テレビ、インターネットなど多様な媒体があふれる現在までの、メディア社会の由来と理論、分析視座を学ぶ。また、後半では「差別論」をサブテーマとして設定し、メディアを基盤とした社会文化や、差別をめぐる現代社会文化への理解を促進することを目的とする。
①「メディア論」概略 ②メディアの歴史 ③実践としてのメディアによる社会変化 ⑤メディアにおける差別
以上のテーマに対する知識の理解。また、現実社会の問題を考える際に必要となる、上記の分野における理論や分析視座の獲得。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1【専門分野の知識・技能】
社会学及びメディア研究の理論及び実証的研究法を通じて、現代社会の抱える諸問題を、その背景にまで遡って多角的に検討できる思考力の獲得。、現代社会を理解するための基本的枠組みの修得。
DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)
現代社会が抱える諸問題に関し、学科教育の基盤をなす諸学問分野の視点を組み合わせ、必要に応じてさらに幅広い分野の知見を加えて、学際的かつ総合的に理解する力の修得。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	①授業内容の説明 ②メディアとは 何か	吉見俊哉（1994）『メディア時代の文化社会学』新曜社。吉見俊哉（2003）『カルチュラル・タイフーン』人文書院。寄川条路（2007）『メディア論』お茶の水書房。	授業の復習 90 分
第２回	メディアの歴史１ ①パンフレット ②新聞 ③ジャー 1) 『ラジオの歴史』法政大学出版 ナリズム ④電話	吉見俊哉（1994）『メディア時代の文化社会学』新曜社。吉見俊哉（2003）『カルチュラル・タイフーン』人文書院。寄川条路（2007）『メディア論』お茶の水書房。吉見俊哉・土屋礼子編（2010）『大衆文化とメディア』ミネルヴァ書房。	授業の復習 90 分
第３回	メディアの歴史２ ①映画 ②ラジオ ③マスメディアとしてのラジオ放送 ④テレビ ⑤ナショナルメディアとしてのテレビ	吉見俊哉（1994）『メディア時代の文化社会学』新曜社。吉見俊哉（2003）『カルチュラル・タイフーン』人文書院。寄川条路（2007）『メディア論』お茶の水書房。吉見俊哉・土屋礼子編（2010）『大衆文化とメディア』ミネルヴァ書房。	授業の復習 90 分
第４回	ソーシャルメディア１ ①ソーシャルメディアと世論 ②インターネットと公共圏 ③ソーシャルメディアと社会関係	遠藤薫（2016）『ソーシャルメディアと世論形成』電機大学出版局。高橋淳一（1999）『情報と政治』新評社。西田亮介（2013）『ネット選挙とデジタル・デモクラシー』NHK 出版。吉田徹（2014）『感情の政治学』講談社。伊藤昌亮（2011）『フラッシュモブズ』NTT 出版。	授業の復習 90 分
第５回	ソーシャルメディア２ ①ソーシャルメディアとまつり ②フラッシュモブズ ③ソーシャルメディアとグローバル	遠藤薫（2016）『ソーシャルメディアと世論形成』電機大学出版局。高橋淳一（1999）『情報と政治』新評社。西田亮介（2013）『ネット選挙とデジタル・デモクラシー』NHK 出版。吉田徹（2014）『感情の政治学』講談社。伊藤昌亮（2011）『フラッシュモブズ』NTT 出版。	授業の復習 90 分
第６回	ソーシャルメディア３ ①ネット選挙とソーシャルメディア②選挙とソーシャルメディア	遠藤薫（2016）『ソーシャルメディアと世論形成』電機大学出版局。高橋淳一（1999）『情報と政治』新評社。西田亮介（2013）『ネット選挙とデジタル・デモクラシー』NHK 出版。吉田徹（2014）『感情の政治学』講談社。伊藤昌亮（2011）『フラッシュモブズ』NTT 出版。	授業の復習 90 分
第７回	ソーシャルメディア４ ①メディアと社会運動 ②ソーシャルメディアとテロ	遠藤薫（2016）『ソーシャルメディアと世論形成』電機大学出版局。高橋淳一（1999）『情報と政治』新評社。西田亮介（2013）『ネット選挙とデジタル・デモクラシー』NHK 出版。吉田徹（2014）『感情の政治学』講談社。伊藤昌亮（2011）『フラッシュモブズ』NTT 出版。	授業の復習 90 分
第８回	表象とステレオタイピング ①エスニシティ ②ジェンダーとセクシャリティ ③コンフリクト	李光鎬・渋谷明子（2017）『メディアオーディエンスの社会心理学』新曜社。岡庭昇（1994）『メディアと差別』解放出版社。	授業の復習 90 分
第９回	メディアとレイシズム１ ①アジェンダとクラスタ②雑誌からインターネットへ	高史明（2015）『レイシズムを解剖する』勁草書房。伊藤昌亮（2019）『ネット右派の歴史社会学』青土社。	授業の復習 90 分
第１０回	メデイアとレイシズム２ ①インターネットにおけるレイシズム言説形成過程 ②漫画による市民市民運動批判③マスメディア批判	高史明（2015）『レイシズムを解剖する』勁草書房。伊藤昌亮（2019）『ネット右派の歴史社会学』青土社。	授業の復習 90 分
第１１回	メデイアとレイシズム３ ①ネット右派論壇の形成②掲示板文 化とメーリングリスト文 化③ネット 右派論壇を構成するサイト	高史明（2015）『レイシズムを解剖する』勁草書房。伊藤昌亮（2019）『ネット右派の歴史社会学』青土社。	授業の復習 90 分
第１２回	メデイアとレイシズム４ ①朝日新聞叩きの系譜②フジテレビ叩きに至る経緯③新旧メディアの階級対立	高史明（2015）『レイシズムを解剖する』勁草書房。伊藤昌亮（2019）『ネット右派の歴史社会学』青土社。	授業の復習 90 分
第１３回	ソーシャルメディアと陰謀論・社会運動１ ①フリーチベット運動とネトウヨの誕生②匿名掲示板③日本の宗教団体とQア ノン的陰謀論	高史明（2015）『レイシズムを解剖する』勁草書房。伊藤昌亮（2019）『ネット右派の歴史社会学』青土社。 石井大智編（2023）『２ちゃん化する世界』新曜社。	授業の復習 90 分
第１４回	ソーシャルメディアと陰謀論・社会運動２ ①陰謀論と排外主義②ネットを飛び出して	高史明（2015）『レイシズムを解剖する』勁草書房。伊藤昌亮（2019）『ネット右派の歴史社会学』青土社。 石井大智編（2023）『２ちゃん化する世界』新曜社。	授業の復習 90 分

〔授業の方法〕
業は毎回配布するレジュメに沿って、講義形式で行う。期末テストは、レポートにて行う。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
レポート 60%、平常点（授業への参加状況、授業内の発言等）40%で評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	マス・コミュニケーション論						
教員名	本橋　春紀						
講義コード	125433110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

マス・コミュニケーションとは、マス（大衆）を対象に多様な情報や内容を届けるコミュニケーションのあり方です。テレビや新聞をはじめとするマス・メディアは、その送り手であり媒介者でもあります。マス・メディアは、報道を通じて民主主義的な政治過程に関与し、さまざまな作品によって全国的流行を生み、広告を通じて大量生産・大量消費の経済構造を維持するなど、大きな役割を果たしてきました。

インターネット、特にＳＮＳがコミュニケーションの中心になりつつある 21 世紀のデジタル・メディア社会は、不確かな情報や他者を傷つける表現の流布により、社会の分断を生みかねない様相を見せています。マス・メディアを”オールドメディア”として切り捨てるのではなく、その社会的機能を再評価していく必要があります。

現在も民間放送の事業者団体で実務を担っている立場を生かして、マス・コミュニケーションにかかわる時々のトピックスを授業内で取り上げ、マス・メディアの良い点と課題をバランスよく理解できるようになることを目指します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。

・マス・コミュニケーションの実態と構造を学び、現代社会において果たしている機能について説明できるようになる。

・マス・コミュニケーションを批判的に読み解くことで、メディアを通じたコミュニケーション全般についての思考を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	マス・コミュニケーションとは何か ～群衆、公衆、市民、大衆、マス	媒体としての新聞やテレビの自分とのかかわり、新聞やテレビが提供するコンテンツとの間接的なかかわりなどについて、振り返っておく。	60 分
第２回	マス・メディアの現在地 ～新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、ネット	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第３回	日本のメディアの生態系とその歴史 ～その誕生から 20 世紀末まで	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第４回	20 世紀のマス・コミュニケーション研究の概観 ～複製環境、強力効果研究、二段階の流れ論	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第５回	マス・メディアの影響力とは ～ＳＮＳとの対比を踏まえて	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第６回	マス・メディアと表現の自由１ ～人々の自由とマス・メディアの自由	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第７回	マス・メディアと表現の自由２ ～個別論点で考える	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第８回	ジャーナリズムとマス・メディア ～権力監視の必要性	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第９回	マス・コミュニケーションと倫理 ～信頼性を支える基準と仕組み	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	90 分
第１０回	放送というマス・メディア ～放送法に根拠を置く在り方	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１１回	デジタル・メディア社会 ～あなたが生きている情報社会	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１２回	情報空間における公共放送の役割とは ～受信料制度はなぜあるのか	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１３回	メディア・イベントとは ～オリンピックを例に	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１４回	全体の振り返り	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	90 分

〔授業の方法〕

配付資料にもとづく講義形式で進めます。必要に応じて視聴覚素材も使います。

コメントシートの提出を必須として、そこでもらった質問を次回の授業で共有しながら、極力回答していきます。また、授業の進行に即して小アンケート等を行ったり、特定テーマについてコメントを求めたりします。

学生の理解を促進するため、マス・コミュニケーションにかかわる時々のトピックスを取り上げて、授業計画を組み替えることがあります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

コメントシートへのフィードバックは授業内で行う予定です。

〔成績評価の方法〕
平常点（コメントシート、小テスト等、40%）、期末試験もしくはレポート（60%）を基本として総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。マス・メディアと自分の日常的なかかわりについて意識しておいてください。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『マスメディアとは何か』、稲増一憲、中公新書、880 円（税別）、ISBN978-4-12-102706-1（購入の必要なし）
『２１世紀メディア論 （改訂版）』水越伸、放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-14027-3（購入の必要なし）
『マス・コミュニケーションの世界』、仲川秀樹、ミネルヴァ書房、2500 円（税別）、ISBN978-4-623-08541-5（購入の必要なし）
『入門 メディア・コミュニケーション』、山越修三編著、慶應義塾大学出版会、2500 円（税別）、ISBN978-4-7664-2444-7（購入の必要なし）
のほか、授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	メディア・リテラシー論						
教員名	見城　武秀						
講義コード	125433120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

皆さんは「メディア・リテラシー」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？「メディアと主体的・批判的につき合う能力」といった説明がされることの多いこの言葉ですが、実はメディアという存在をどのように捉えるかによって、そこから導かれるメディア・リテラシー観も大きく違ってきます。

この授業ではまず、メディア・リテラシーを理解するための前提となる基礎概念（＝メディアの文法性、／メディアの文脈依存性／メディアに対する批判性）について、映像を中心とした実際のメディア作品を題材として解説します。次に、メディアの役割を「現実の反映」と見る立場から導かれる「反映主義的メディア・リテラシー観」と、メディアの役割を「現実の構成」と見る立場から導かれる「構成主義的メディア・リテラシー観」とを対比させることで、両者にとって「メディア批判」がもつ意味がまったく異なることを明らかにします。このような作業を通じて最終的にメディア・リテラシーについて論ずる上での「落とし穴」の存在に気づいてもらうことが、この講義の目的です。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

次の 2 点を到達目標とします。

(1) 反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解すること。

(2) (1) の理解に基づき、現実におこなわれている「メディア批判」における「批判」の意味を反省的に捉え直す視点を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第２回	メディア・リテラシーとは何か	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第３回	メディアの文法性–登場人物の「心の声」はどう表現される？	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第４回	メディアの文脈依存性–なぜ変身アイテムはくり返し壊れるのか？	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第５回	２つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（１）	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第６回	２つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（２）	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第７回	メディアに対する批判性とは何か（１）―ナマ信仰／リアル信仰の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第８回	メディアに対する批判性とは何か（２）―反映主義的メディア批判と構成主義的メディア批判	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第９回	ドキュメンタリーは嘘をつく	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１０回	メッセージを意味づけるフレームの多層性	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１１回	なぜ「やらせ」は繰り返されるのか？―「事実主義」および「中立・公正・客観主義」の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１２回	フェイクニュースとファクトチェックをめぐる議論の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１３回	1964 年東京／2012 ロンドン／2016 リオ・デジャネイロ―３つのオリンピックにおける映像メディアの役割を比較することで見えてくること	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１４回	まとめ	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60

〔授業の方法〕

配布資料に基づく講義形式。授業内容に関連する課題を毎回出し、その総合点で評価をおこないます。提出された課題の評価基準は以下の通りです。

(1) 課題が求めている事柄、またその前提となる授業内容を理解しているか。

(2) 記述が論理的に展開されているか、誰が読んでも納得できる内容か。

(3) 自分の体験に基づいた独自の視点から書かれているか、自分の頭で考えていることがうかがえるか。

(4) 他人の書いたことを参考にしている場合、出典が示されているか。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕

履修者が提出した課題の一部を次回授業時に紹介し、解説を加えます。

〔成績評価の方法〕
毎回の提出課題に基づく平常点 100%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。
（1）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解しているか。
（2）反映主義的メディア観に基づくメディア批判と構成主義的メディア観に基づくメディア批判が混在していることから生ずるメディア・リテラシー論の落とし穴を理解できたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、メディア・リテラシー演習Ａ、メディア・リテラシー演習Ｂ。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトの「オフィスアワー」で周知します。

〔特記事項〕

講義名	ジャーナリズム論						
教員名	石堂　彰彦						
講義コード	125433130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

今日、世界の多くの国や地域において、人びとは分断と対立、格差、憎悪、そして権力の専横にさらされています。それは日本も例外ではありません。このような状況において、人びとに事実を伝えるジャーナリズムの重要性は日ごとに増大しています。しかしジャーナリズムは同時に、さまざまな批判にもさらされています。ジャーナリズムはその役割を十全に果たしているといえるのでしょうか。本講義では、現代社会においてジャーナリズムが直面する問題と、ジャーナリズムが果たしてきた役割について、実際の報道事例を参照しつつ検討していきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

次の２点を到達目標とします。
①ジャーナリズムが果たしてきた役割と、それが重要とされる理由や背景を説明できる。
②ジャーナリズムが直面する問題と、それが問題とされる理由や背景を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の全体像や進め方などについて説明する。ジャーナリズムにかんするアンケートも実施する予定	【予習】シラバスを読み、授業の概要を把握する	30
第２回	ジャーナリズムの歴史と役割 ・ジャーナリズムはなぜ必要とされるのか、その歴史を振り返りつつ考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第３回	ニュースとは何か ・ジャーナリズムが報じる「ニュース」について、その実態と問題点を考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第４回	ネット時代のニュース環境 ・スマートフォンの普及によって劇的に変化しつつあるニュース接触環境について考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第５回	新聞ジャーナリズムの基本 ・新聞ジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第６回	新聞ジャーナリズムの実際 ・新聞ジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道事例に即して考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第７回	テレビジャーナリズムの基本 ・テレビジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第８回	テレビジャーナリズムの実際 ・テレビジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道事例に即して考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第９回	ジャーナリズムと情報公開① ・ジャーナリズムにおける情報公開の重要性について考える ・関連する動画（前編）を視聴する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第１０回	ジャーナリズムと情報公開② ・関連する動画（後編）を視聴する ・ジャーナリズムにおける情報公開と公文書管理の問題点について考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第１１回	雑誌ジャーナリズムの基本と実際 ・雑誌ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な報道事例に即して考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第１２回	オルタナティブ・ジャーナリズムの基本と実際 ・既存ジャーナリズムとは異なるオルタナティブ・ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な報道事例に即して考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第１３回	ジャーナリズム・リテラシー ・ここまでの議論を整理しつつ、われわれはジャーナリズムとどのように付き合っていけばよいのかを考える	【復習】配付資料等により論点を再確認する	120
第１４回	到達度確認テスト ・授業の到達目標に達しているかどうかを確認する	【予習】授業全体を振り返り、到達度確認テストに備える	60

〔授業の方法〕

・配付資料（PDF ファイル）を中心に講義形式で進行します。毎回実施するコメント（リアクションペーパー）によって、履修者の理解を確認しつつ進めます。情勢の変化や授業の進捗状況等に応じて内容を変更することがあります。
・授業中に履修者が質問できるようにするため、スマートフォンや PC から匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。これにより、授業中に生じた疑問や要望を、リアルタイムで教員に伝えて回答を得ることが可能になります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕

・コメントに対する回答は必要に応じて翌授業時間の冒頭に提示します。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト 40%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）60%により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・履修者自身のジャーナリズムに対する認識について、ジャーナリズムの役割や問題にかんする理解にもとづいて分かりやすく説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・予備知識は不要ですが、日頃接するニュースについて、授業内容を踏まえつつその背景や意味を考えるようにすることで、ジャーナリズムの役割や問題をより身近なこととして理解できるようになるでしょう。
・関連科目は、メディアやジャーナリズムに関する科目全般。

〔テキスト〕
特になし。講義レジュメを毎回配付します。

〔参考書〕
原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書（新赤版 1170）、2009 年、ISBN 9784004311706（購入の必要なし）
その他の参考書は初回授業時に提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・授業終了後に教室で受け付けます。
・CoursePower でも随時受け付けます。
・なお、「授業の方法」にも記したとおり、授業中も質問できるようにするため、匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。

〔特記事項〕

講義名	ネットワーク社会論						
教員名	高橋　裕行						
講義コード	125433140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
ネットワーク社会のあり方を、「未来のあるべき暮らしを想像する」という観点から学びます。
これからのネットワーク社会は、AI やロボティクス、バイオテクノロジーなどの先端技術を抜きには語ることはできません。しかし、単に技術的な知識を得るだけでは、それらが世の中にどんなインパクトを及ぼすかを予測し、使いこなすことは難しいでしょう。
現代では、あらゆるものがネットワークで相互に繋がっています。しかし、生活の利便性があがり、社会の効率化が進む一方で、余裕を持つこと、立ち止まることが難しい世の中にもなっています。
本講義では、今後のあるべきネットワーク社会の姿を一緒に考えていければと思います。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1【専門分野の知識・技能】
ネットワーク社会について考えるための枠組みとなる理論について、その概略を説明できるようになる。
DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)
ネットワーク社会を、現在の技術動向、社会動向と結びつけ理解し、「未来の暮らし」を活き活きと想像できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第２回	「家族」とネットワーク社会	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第３回	「働き方」とネットワーク社会	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第４回	講師が 20 歳までに影響を受けたもの（ネットワーク社会の観点から）	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第５回	「食」とネットワーク社会	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第６回	「物流」とネットワーク社会①	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第７回	「物流」とネットワーク社会②	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第８回	「モビリティ」とネットワーク社会	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第９回	ワークショップ「2045 年の革命家」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１０回	災害とレジリエンス	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１１回	ユートピアとディストピア	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１２回	インターネットの技術的背景と文化的背景	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１３回	贈与とコモンズ	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１４回	課題講評	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
リアクションペーパー、メールもしくは授業後に対面にて対応する。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：60%、レポート等：40%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目：情報デザイン論

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	メディア産業論						
教員名	糸永　正行						
講義コード	125433150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
マスメディアとデジタルメディアとが混淆する過程にあるものとしてのメディア産業のあり方を論じます。音楽、新聞、ラジオ、テレビ、出版、映画、アニメ、ゲーム、ネット、広告のそれぞれの領域から、メディア産業の成り立ちとその動向を捉えるとともに、その意義、問題点、将来展望などについて考えます。併せて記者や新聞社管理職、ネットメディア編集委員としての実務経験に基づき、メディア産業の現場における実状についても多角的に解説します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
①メディア産業の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。
②メディア産業をめぐるさまざまな論点について、その概略を説明し、自分なりの考えを表明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の内容や進め方、予習・復習、評価などの方法について説明する。	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第２回	音楽産業の成り立ち ・デジタル化に適応している音楽産業のビジネスモデルについて学修し、メディア産業が直面しているデジタルシフトの基本を把握できるようにする。	【予習】自分の音楽との接触体験を振り返る（初めて購入した曲は？どのように聴いているか？音楽を聴くのに、いくらまでならお金を支払うか？など）。	60
第３回	新聞産業の成り立ち ・新聞産業の歴史と変化、社会的役割、デジタル化への対応について学修し、同産業の課題を把握できるようにする。	【予習】新聞（全国紙、地方紙、経済紙、専門紙、業界紙、スポーツ紙、政党紙を問わない）を１紙以上読む。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第４回	ラジオ産業の成り立ち ・最初の放送メディアであるラジオ産業について、その発明から放送ビジネスの成立過程や、新聞・テレビとの関係について学修し、メディアの多様性を理解できるようにする。	【予習】自分のラジオとの接触体験を振り返る（ラジオを所有しているか？いつ・どこで・どんな番組を聴いているか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第５回	テレビ産業の成り立ち ・映像のメディアとして誕生したテレビ産業の歴史と、それが人々に与えた影響について学修し、大量消費社会との関わりを把握できるようにする。	【予習】自分のテレビとの接触体験を振り返る（自分専用のテレビを持っているか？いつ・どこで・誰と・どんな番組をみているか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第６回	出版産業の成り立ち ・雑誌を中心に流通の側面から出版業界のビジネスモデルについて学修し、デジタル化への対応など同業界の変化について把握できるようにする。	【予習】自分の雑誌との接触体験を振り返る（雑誌の購入頻度は？なぜ、その雑誌を購入したのか？どんな雑誌を購入しているのか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第７回	授業内レポート①	【予習】前半講義を振り返り、ポイントを整理する。	60
第８回	映画産業の成り立ち ・最も古い映像メディアで劇場型メディアの映画業界の歴史を学修し、テレビやネット動画とのメディア間競争や共存について把握できるようにする。	【予習】自分の映画との接触体験を振り返る（初めて自発的に鑑賞した映画は何か？、映画をみる頻度は？誰と映画をみるか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第９回	アニメ産業の成り立ち ・米国で始まったアニメ産業を日本がどう受け入れ、産業化したかの歴史を学修し、1970 年代後半に登場した現在のビジネスモデルを把握できるようにする。	【予習】自分のアニメとの接触体験を振り返る（初めてみたアニメは？アニメをみる頻度は？最も印象に残ったアニメなど）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１０回	ゲーム産業の成り立ち ・ベンチャー企業から始まったゲーム産業が合併や買収（M&A）を通じて巨大化した経緯を学修し、メディアと資本主義の関係について把握できるようにする。	【予習】自分のゲームとの接触体験を振り返る。（初めて遊んだゲームは？ゲームを楽しむ頻度は？いつ・どこで・何を使ってゲームをするか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１１回	ネットメディア産業の成り立ち ・インターネットの本格的な普及が始まった 1995 年からネット産業誕生の経緯を学修し、ネット産業のビジネスモデルを把握できるようにする。	【予習】自分のネットメディアとの接触体験を振り返る（最初に利用したネットメディアは？アクセス頻度は？利用している端末は？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１２回	広告産業の成り立ち ・広告産業の歴史を振り返り、新聞、ラジオ、テレビ、ネットなどメディア変遷への対応を学修し、広告と社会の関わりを把握できるようにする。	【予習】自分の広告との接触体験を考える（最近、印象に残った広告は何か？どんなメディアで広告をみるか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１３回	メディアミックス ・メディアの枠を超えたメディアミックスの現状を学修し、メディア産業界の全体像を把握できるようにする。	【予習】メディアミックスの事例を調べる。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１４回	授業内レポート②	【予習】 後半講義を振り返り、ポイントを整理する。	60

〔授業の方法〕
パワーポイント資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
リアクションペーパーなどの提出物は授業時に講評し、解説します。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパー提出の状況）:50%、レポート等:50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	メディア制度史						
教員名	塩谷　昌之						
講義コード	125433160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
この科目では、近現代の日本におけるメディアの歴史について、制度に注目しながら学んでいく。
現代において当たり前に存在しているさまざまなメディアは、それらが誕生して普及しはじめた当初には新しいものであった。新しいものが社会に受け入れられていくなかで、人々の間には驚きや困惑、そしてコンフリクトが引き起こされていく。そこでは文化が作り出されることもあれば、規制が生み出されることもあった。このような歴史的な展開について、制度のあり方を追跡することによって学修していく。メディアの初期の姿を描き出すために、主として近代の出来事を中心に取り上げるが、現代との結びつきもある程度補足する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、以下のような到達目標を設定する。
・近代日本のメディアとその制度の歴史的展開を深く理解し、メディアを読み解くためのリテラシーを身に付ける。
・現代日本のメディアの背景を多角的に捉え、自らの興味関心に基づいて、主体的に学修を継続できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第２回	メディアと制度の捉え方	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第３回	大衆の誕生	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第４回	流通・交通が生み出した文化	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第５回	出版物をめぐる制度①	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第６回	出版物をめぐる制度②	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第７回	活動写真・映画をめぐる制度①	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第８回	活動写真・映画をめぐる制度②	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第９回	蓄音機・電話・ラジオをめぐる制度	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１０回	検閲のもつ拘束性	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１１回	戦争とメディア	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１２回	計算機の登場	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１３回	受け手のもつ創造性	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１４回	講義のまとめとレポートの作法	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120

〔授業の方法〕
配布した資料および、スライドを用いて講義を行う。補足的に CoursePower を利用する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回の授業終了後にコメントシートを回収し、次回授業の冒頭で取り扱うことで、フィードバックを行う。

〔成績評価の方法〕

授業への意欲　50%
授業後に回収するコメントシートをもって評価する。
期末レポート　50%
レポートの評価基準については授業内で提示する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
履修に際して、条件は設定しない。

〔テキスト〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔参考書〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	出版メディア論						
教員名	今田　絵里香						
講義コード	125433170	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本講義の目的は、日本の出版の歴史をたどりながら、本、雑誌などという文字にかんするメディアが作り出してきたものについて考察することである。それは、たんに一つの本・雑誌が生み出され、忘れられていったことを追うのではない。それだけでなく、一つの本・雑誌が生み出された社会のありようを明らかにし、また、一つの本・雑誌が作り出した社会のありようを明らかにすることでもある。ひいては、人が文字にかんする文化、文字が紡ぎだす世界をどのようにとらえてきたかを明らかにすることでもあるのである。本講義では、一つひとつの本・雑誌の誕生と忘却とともに、それらをめぐる社会のありようを考察し、そのような問いに取り組んでいくことにしたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
出版の歴史を把握するとともに、出版が社会のなかで果たしてきた役割について把握することができる。
文字にかんする文化、文字が作り出す世界について考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	出版文化をどのようにとらえたらよいのか	【復習】配布プリントと参考文献を読む	90
第２回	総合雑誌（１） 学歴貴族と教養主義（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第３回	総合雑誌（２） 学歴貴族と教養主義（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第４回	総合雑誌（３） 学歴貴族と教養主義（３） 婦人雑誌（１） 「主婦」と新しい家族（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第５回	婦人雑誌（２） 「主婦」と新しい家族（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第６回	婦人雑誌（３） 「主婦」と新しい家族（３）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第７回	婦人雑誌（４） 「主婦」と新しい家族（４） 大衆雑誌（１） 反教養主義（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第８回	大衆雑誌（２） 反教養主義（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第９回	大衆雑誌（３） 反教養主義（３） 「少年文学」叢書と愛子叢書（１） 近代の子ども（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１０回	「少年文学」叢書と愛子叢書（２） 近代の子ども（２） 少年少女雑誌（１） 都市新中間層の子どものジェンダー（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１１回	少年少女雑誌（２） 都市新中間層の子どものジェンダー（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１２回	少年少女雑誌（３） 都市新中間層の子どものジェンダー（３）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１３回	『赤い鳥』『少年戦旗』（１） 童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１４回	『赤い鳥』『少年戦旗』（１） 童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学（１） 戦後の少年少女雑誌 戦後の異性愛文化と雑誌 少年少女雑誌	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90

〔授業の方法〕

講義形式。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

課題は講義の内容に盛り込む形でフィードバックをおこなう。また講評の時間を設けることでもフィードバックをおこなう。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
今田絵里香『新装版「少女」の社会史』勁草書房、2022 年。
今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	映像メディア論						
教員名	西　兼志						
講義コード	125433180	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、映像コンテンツをどのように分析するかを、「表現モードとしてのジャンル」―報道的表現やバラエティー的表現、ドキュメンタリー的表現など―という観点から考えていきます。今年度は、この観点から、現在のメディア環境における「ジャンルのゆらぎ」「ジャンルの混淆」「メタ・ジャンルとしてのドキュメンタリー」「ジャンルの混淆とメディア・フィギュア」という４つのテーマについて論じます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：映像コンテンツを分析する方法を身につけることを目指します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第２回	ジャンルのゆらぎ（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第３回	ジャンルのゆらぎ（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第４回	ジャンルのゆらぎ（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第５回	ジャンルの混淆（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第６回	ジャンルの混淆（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第７回	ジャンルの混淆（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第８回	「メタ・ジャンルとしてのドキュメンタリー」（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第９回	「メタ・ジャンルとしてのドキュメンタリー」（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１０回	「メタ・ジャンルとしてのドキュメンタリー」（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１１回	「ジャンルの混淆とメディア・フィギュア」（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１２回	「ジャンルの混淆とメディア・フィギュア」（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１３回	「ジャンルの混淆とメディア・フィギュア」（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
また、単位取得にあたっては、講義資料のアクセスが必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、講義内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回、授業の冒頭で、リアクション・ペーパーについての講評・回答を行います。

〔成績評価の方法〕
平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの内容＝50%）。
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・映像メディアを分析するにあたって必要な概念・考え方を理解できているか。
・その上で、各自の身の回りの映像メディアを分析できているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：「メディア論入門」「情報社会論」

〔テキスト〕
CoursePower を通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	広告論						
教員名	片山　淳						
講義コード	125433190	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

広告とは、時代や人間のさまざまな側面を反映しながら社会に浸透した、コミュニケーション形態のひとつ。人間心理や世の中の普遍性を描き出す一方で、技術の進化や産業の変化にも敏感に呼応する、いわば「社会の鏡」ともいえる存在です。本講義ではマーケティングや表現の観点のみならず、「広告という営みからの学び」を通じて、現代社会学科としてのを通じての学修につなげていきます。また授業では、講師の実務経験を活かして、学術と実践の両者を視野に入れながら理解を深めていきます。

※各テーマの内容や順番は、進捗および社会状況を考慮して変更する場合があります。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）2-1（広い視野での思考・判断）を実現するため、次の 3 点を到達目標とします。

①広告活動全般における用語や概念を正しく理解できる。

②広告施策における背景や構造を多面的に読み解くことができる。

③現代社会学の一環として、他分野にも通じる普遍的な視座を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「広告論」のガイダンス ・講義の意味と目的について考えるとともに、内容と進め方、評価方法などについて説明します。	【予習】シラバスを読み、講義のテーマと内容について考えておく。 【復習】資料を読み返し、疑問点および講義に臨んでの自身の目標を整理・確認しておく。	100 分
第２回	広告の歴史 ・広告の発祥から現在までを概観しつつ、事例を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第３回	広告の定義 ・広告の定義とその背景にあるさまざまな視座について、事例を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。次回のグループワーク用課題に回答する。	100 分
第４回	広告の「つくられ方」 ・前回の課題に基づきグループワークを行います。 ・広告の企画・制作における基本的なプロセスとその目的について学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第５回	広告におけるマーケティングの視点 ・広告の企画・制作におけるマーケティングの基礎を、文献等を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第６回	広告におけるコピーの仕事（講義） ・企画から制作を通じて広告の「軸」となるコピーについて、事例を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。次回のグループワーク用課題に回答する。	100 分
第７回	広告におけるコピーの仕事（グループワーク） ・課題として書いたコピーの分析・検討を通じて、広告への視点を広げていきます。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第８回	「広告賞」というメッセージ ・内外の広告賞事例を中心に、その役割や意味合いを考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第９回	「公共広告」というコミュニケーション ・公共広告の目的や意味合いについて、事例を参照しながら考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第１０回	広告とグローバリズム ・前回の課題に基づきグループワークを行います。 ・グローバル視点からの広告ミュニケーションについて、事例を参照しながら考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。次回のグループワーク用課題に回答する。	100 分
第１１回	広告の「現場」から（ゲスト講義） ・実務に関わるゲストスピーカーの登壇を予定しています（調整中）	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第１２回	広告を考える―企画書の作成（講義） ・広告の設計図としての「企画書」について学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第１３回	広告を考える―企画書の作成（グループワーク） ・課題として作成した企画書の分析・検討を通じて、広告への視点を広げていきます。 ・期末レポートを出題し、振り返りの機会とします。	【予習】これまでの講義資料やメモを参照して内容を確認しておく。	100 分
第１４回	「広告論」の総括 ・期末レポートからの知見や学びを共有しつつ、講義全体を振り返ります。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分

〔授業の方法〕

・各回ごとのテーマに沿って講義形式で進めます。適時、映像等の資料を参照します。

・随時発言や議論の機会を設けます。積極的な参加を希望します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

・小レポートは次回の講義で共有・講評を行います。
・個々のレポートへの回答はしませんが、具体的な質問やコメントに対しては見解を述べる場合もあります。
・グループワーク用課題は各授業での検討・議論を通じてフィードバックします。

〔成績評価の方法〕
・平常点（授業への参加状況や小レポートの提出状況）60%
・グループワーク用課題（提出状況および内容）20%
・期末レポート（提出状況および内容）20%
※ただし期末レポートの提出は必須。諸事情で欠席の場合は相談・検討のうえ考慮します

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠し、主に下記の点を考慮して評価を行います。
・広告という事象についての基本的な知識を修得し、社会との関係性の中での理解ができているか
・レポートや発言等を通じて講義における知の共有に寄与できているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありませんが、日々の生活で接する広告という営みの意義や背景について意識的であることを望みます。たとえば「あまり広告に興味がない」とすると、なぜそう感じるのか、といった問いとともに受講してください。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
講義中および終了後に教室で受け付けます。またメールでの質問・相談も可能な限り対応します。
（メールアドレスは講義時に通達します）

〔特記事項〕

講義名	デジタル・メディア論						
教員名	石堂　彰彦						
講義コード	125433200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

今日、デジタルメディアは社会の隅々にまで入り込み、私たちの生活に欠かせないものとなっています。そこで授業ではデジタルメディアと社会の関係について、関連する理論・歴史・技術的背景をふまえたうえで、人間関係や社会課題などの側面から検討していきます。デジタルメディアと社会の関係を社会学的な観点から理解することが授業の目的です。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

次の２点を到達目標とします。
① デジタルメディアと社会の関係について、具体的な事例や現象をもとに社会学的な観点から説明することができる。
② ①を前提としたうえで、その事例や現象を社会学的な観点から批判的に論じることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の全体像や進め方などについて説明する。デジタルメディアにかんするアンケートも実施する予定	【予習】シラバスを読み、授業の概要を把握する	30
第２回	デジタルメディアを捉える視点 ・メディアと社会の歴史的関係を確認し、デジタルメディアをどのような視点から捉えればよいか検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第３回	アナログメディアからデジタルメディアへ ・「モノ」としての電話の変遷をたどり、それが人間関係や他のメディアにもたらした影響を検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第４回	スマートフォンとソーシャルメディア ・現在のデジタルメディア環境の「基盤」について検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第５回	コミュニケーション ・デジタルメディアがコミュニケーション空間にもたらした変化と特徴について検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第６回	社会運動と炎上 ・デジタルメディア上で展開される集合行動について検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第７回	フェイクニュース ・フェイクニュースの実態と対策について検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第８回	世論 ・デジタルメディアが世論に影響する構造と問題点について検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第９回	プラットフォーム ・プラットフォームにかんする動画を視聴し、その実態について検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第１０回	アーキテクチャ ・プラットフォームのビジネスモデルとアーキテクチャについて検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第１１回	プライバシー ・プラットフォームが個人情報を収集する仕組みと問題点について検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第１２回	デジタルメディアとの付き合い方 ・これまでの授業をふりかえり、デジタルメディアと社会の関係の適切なありかたについて検討する	【復習】配付資料等により論点を再確認する	60
第１３回	到達度確認テスト ・授業の到達目標に達しているかどうかを確認する	【予習】授業全体を振り返り、到達度確認テストに備える	120
第１４回	テストの講評と総括	【復習】到達度確認テストを振り返り、自らの到達度を確認する	60

〔授業の方法〕

・配付資料（PDF ファイル）を中心に講義形式で進行します。短い動画を視聴することもあります。毎回実施するコメント（リアクションペーパー）によって、履修者の理解を確認しつつ進めます。情勢の変化や授業の進捗状況等に応じて内容を変更することがあります。
・授業中に履修者が質問できるようにするため、スマートフォンや PC から匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。これにより、授業中に生じた疑問や要望を、リアルタイムで教員に伝えて回答を得ることが可能になります。
・また、授業中に教員から履修者全員にかんたんな質問をすることがあります。この場合も、上記のパパパコメントから回答します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕

・コメントに対する回答は必要に応じて翌授業時間の冒頭に提示します。
・到達度確認テストについての講評を最終回におこないます（優秀な答案については、解答者を匿名としたうえで履修者に公開することもあります）。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
① デジタルメディアと社会の関係について、具体的な事例や現象をもとに社会学的な観点から説明することができるか。
② ①を前提としたうえで、その事例や現象を社会学的な観点から批判的に論じることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・予備知識は不要ですが、日頃何気なく利用しているデジタルメディアについて、なぜ、どのようにそれを利用しているのか、その背後にある仕組みは何かを考えることで、デジタルメディアが私たちに及ぼしている影響をより身近なこととして理解できるようになるでしょう。
・関連科目は、メディアに関する科目全般。

〔テキスト〕
特になし。講義レジュメを毎回配付します。

〔参考書〕
各回の授業時に提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・授業終了後に教室で受け付けます。
・CoursePower でも随時受け付けます。
・なお、「授業の方法」にも記したとおり、授業中も質問できるようにするため、匿名で質問を投稿できるツール（パパコメント）を用います。

〔特記事項〕

講義名	情報デザイン論						
教員名	高橋　裕行						
講義コード	125433210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

「自分が他の人とどう違うのか知りたい」
「就職後にも役に立つスキルを身につけたい」
そんな風に思っているひとのための講義です。
情報が人間の尺度を超えて膨大に増え続けている現在、必要なときに必要な情報を手に入れ、編集し、そこから新たなアイデアを生み出し、オリジナルな価値をもったものとして発信する「情報デザイン」が強く求められています。
この授業では、情報デザインの諸手法（収集/編集/発信）を紹介します。
演習やグループワークを通じて、実践的なスキルが身につくようにします。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、
1. 情報デザインの概略を理解する。
2. 情報の収集（インプット）、編集（プロセス）、発信（アウトプット）に関わる諸手法の基本概念と特徴を理解する。
3. 上記の諸手法を実践するための知識とスキルを身につける。

なお、授業は以下の「21 世紀スキル」の 10 のスキルの習得を念頭において構成されている。
1. 創造性、イノベーション
2. 批判的思考、意思決定、問題解決
3. 学び方の学習、メタ認知
4. コミュニケーション
5. コラボレーション
6. 情報リテラシー
7. ICT リテラシー
8. 市民性
9. 人生とキャリア
10. 個人的、社会的責任

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	インプット手法 1（情報の収集） 課題：「吉祥寺の隠れた魅力」（グループワーク） 手法：文献調査、フィールドワーク、インタビュー	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第２回	インプット手法 2（情報の収集） 課題：「吉祥寺の隠れた魅力」（グループワーク） 手法：文献調査、フィールドワーク、インタビュー	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第３回	プロセス手法 1（情報の整理と発想） 授業内課題：「ピーチ君を有名にする方法」など（グループワーク） 手法：ブレインストーミング、KJ 法、収束技法など	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第４回	プロセス手法 2（情報の整理と発想） 授業内課題：「豊かな休日の過ごし方」など（グループワーク） 手法：ブレインストーミング、KJ 法、収束技法など	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第５回	アウトプット手法 1（情報の表現） 課題：「私のお店」（個人） 手法：アイデアの平面への展開	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第６回	アウトプット手法 2（情報の表現） 課題：「私のお店」（個人） 手法：アイデアの平面への展開	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第７回	ゲストトーク 先輩のお話：成蹊大学卒業生サイバーエージェント酒井様（予定）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第８回	ワークショップデザイン 1（概論：ワークショップとはなにか）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第９回	ワークショップデザイン 2（問いのデザイン）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１０回	ワークショップデザイン 3（遊びのデザイン）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１１回	ワークショップデザイン 4（設計）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１２回	ワークショップデザイン 5（準備）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１３回	ワークショップデザイン 6（実施①） 課題：「ワークショップをつくろう」（グループワーク）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１４回	ワークショップデザイン 7（実施②） 課題：「ワークショップをつくろう」（グループワーク）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分

〔授業の方法〕
・スライドを使った講義と、学生による発表を交互に行います。
・グループワークを行います。
・授業資料は、成蹊ポータル等で配布します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
リアクションペーパーは、毎回採点して返却します。

〔成績評価の方法〕
・リアクションペーパーへの記入 50%、課題発表 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室もしくはメールで受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	メディアの理論						
教員名	西　兼志						
講義コード	125433220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、メディア論の重要論文を読むことで、メディア分析に欠かせない理論や概念を学んでいきます。それによって、現代社会におけるメディアのあり方を捉え返すこと、より具体的には、メディア論の論文を書くのに必要な観点を身に付けることを目指します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：メディアの理論の学修を通じて、各自にとって身近なメディア現象を、各自で捉え返せるようになることを目指します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第２回	メディア論の古典を読む（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第３回	メディア論の古典を読む（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第４回	メディアと記号（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第５回	メディアと記号（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第６回	メディアと記号（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第７回	メディアと記号（４）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第８回	メディアと記号（５）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第９回	メディアと身体（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１０回	メディアと身体（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１１回	メディアと身体（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１２回	メディアと身体（４）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１３回	メディアと身体（５）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
単位取得にあたっては、講義資料のアクセスが必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、講義内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回、授業の冒頭で、リアクション・ペーパーについての講評・回答を行います。

〔成績評価の方法〕
平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの内容＝50%）。
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・メディア（論）の展開を理解できているか。
・その上で、各自の身の回りのメディア現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：「メディア論入門」

〔テキスト〕
CoursePower を通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.
『アイドル/メディア論講義』東京大学出版会、2017.
その他、随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	サブカルチャー論						
教員名	飯塚　邦彦						
講義コード	125433230	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、「おたく文化」（アニメ、マンガ、ゲームを軸とした文化）を題材に、70 年代後半以降の日本のサブカルチャーが、どのように成長・変化したかをみていく。

「おたく文化」は、現在では日本を代表する文化の一つであり、文化輸出の面でも重要視されている「メインストリームカルチャー」である。しかし 70 年代半ばの成立期には、限られた若者だけが楽しむ「サブカルチャー」であった。また 80 年代末から 90 年代半ば、バブル文化が急成長した時期には、激しいバッシングの対象になった。

かつてはサブカルチャーであったおたく文化は、なぜ、どのような経緯でメインストリームカルチャーになっていったのか。本講義ではこの経緯をみていき、変化の背後にあった経済、社会、文化の変化を考えていく。また現在のおたく文化のあり方と抱える問題点について、フォームなどを使って意見交換していく。そして最終的に、こうした変化や現状から見えてくる、現在の日本の文化や社会のあり方を考えていく。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の２点を到達目標とする。

①文化の歴史的流れをつかみ、それを理解するための主な理論を説明できるようになる。

②文化の歴史的流れと政治・経済の関わりを知り、そこから現在の文化・社会のあり方を考えられるようになる。また「公共」「公益」とは何かを考えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクションと定義 ・本講義の目的 ・成績評価について ・言葉の定義と文化を研究する理論枠組みを紹介	「サブカルチャー」とはなにかを、辞典などで調べておく 過去、現在の「サブカルチャー」には何があるかを調べておく	60
第２回	全共闘運動とマンガ文化の勃興（1965～74） ・文化運動としての全共闘運動 ・マンガ、音楽、映画、演劇、SF などが若者文化として成長 ・マンガが若者の表現手段となる	（全体の予習）Teams に提示する動画を見て、分かったことや疑問点をメモしておく。その上で授業に臨む（以下同様）。 （全体の復習）理解できた点、質問したい点をまとめ、リアクションフォームに記入する。質問もフォームに記入する（以下同様）。 （この回の予習）「全共闘運動」について調べる。「左翼」「新左翼」との違いを調べておく。	60
第３回	コミックマーケットの発足と成長（1975～78） ・コミックマーケット発足に至る流れ ・映画「宇宙戦艦ヤマト」公開前後、アニメに注目する若者が現れ、アニメ雑誌が成立	（予習）ビデオに示された作家の作品を、図書館などで借りて読んでみる。また「マンガ同人誌　通販」で検索し、マンガ同人誌を買えるサイト、業者がどれぐらいあるか確認する（アダルト情報もあるので注意）。	60
第４回	「機動戦士ガンダム」の衝撃（1979～85） ・若者向けのアニメが増加し、アニメブームが起こる。アニメが急速に大きな市場になる。 ・アニメを題材にした同人誌が急増し、同人誌市場が形成される。 ・1983 年、中森明夫によって「おたく」という言葉が作られる。	（予習）この時期どのようなアニメが放送されているか、調べてみる。可能なら配信などで「機動戦士ガンダム」「超時空要塞マクロス」第１話を見てみる。	60
第５回	「キャプテン翼」ブーム（1985～89） ・同人誌では「キャプテン翼」ブームが起き、女性を中心に同人誌関連産業が爆発的に成長する。 ・次第に「おたく」という言葉がネガティブな意味で広まっていく ・バブル経済が始まる	（予習）「キャプテン翼」を調べ、この作品が世界においてどのように受け取られているかを調べる。	60
第６回	バブル文化とオタクバッシング、「サブカル」の成立（1989～95） ・バブル文化がメインストリームカルチャーとなる ・東京・埼玉連続幼女誘拐殺人事件により、激しいオタクバッシングが起こる ・バブル文化に対抗する形で、「サブカル」と呼ばれる文化グループが成立していく	（予習）「バブル文化」がどのようなものであったか、書籍などで調べる。またそれが現在の文化にどのように継承されているか、考えてみる。	60
第７回	「エヴァ」放送開始とネット文化の萌芽（1995～2000） ・「新世紀エヴァンゲリオン」の放送が始まり、社会現象になる ・Windows95 が発売され、パソコンが急速に広まる。98 年頃からインターネットも広まり、ネット上にコミュニティが作られ始める。	（予習）可能なら配信などで、テレビ放送版「エヴァンゲリオン」を何話か見てみる。	60
第８回	ネットの成長と「公式」化されるおたく文化（2001～2010） ・「2 ちゃんねる」が急成長、「匿名性を背景としたコミュニティ」ができる ・「ニコニコ動画」がユーザー製作のコンテンツの発表の場となる ・2004 年のヴェネツィア・ビエンナーレ建築展でおたく文化が本格的にヨーロッパに紹介される	（予習）VOCALOID の曲で、好きな曲はないか探してみる。	60
第９回	スマホ時代のおたく文化、グローバル化したおたく文化（2010～現在） ・スマホの急速な普及により、テレビは地位を低下させる。YouTube、SNS、配信がメディアの主役へ。 ・スマホの普及により、おたく文化のグローバル化は加速する	（予習）現在自分が使っている SNS を確認し、どのように使っているかを考える。また購読している YouTube チャンネルがいくつあるか、どのようなチャンネルを購読しているかを書き出してみる。	60

第１０回	文化理論からみたおたく文化 ・カルチュラル・スタディーズ、ファンカルチャー論、メディア論、政治学などから考える	（予習）「ソフト・パワー」について調べておく。また、現在の日本の「ソフト・パワー」には何があるか、調べてみる。	60
第１１回	討論１　ジェンダーをめぐって ・おたく文化の中で表象されるキャラクターや物語は、日本におけるどのようなジェンダー観を反映しているのか。またそれがどのような問題をはらんでいるか、討論する。	（予習）これまで学んだジェンダーに関することで、おたく文化に関係するものを探してみる。	60
第１２回	討論２　政治をめぐって ・おたく文化は「政治と距離がある」と考えられてきたが、今やおたく文化の利害を代表する政治家が現れている。 ・おたく文化は政治とどう関わっていくべきか、また政治をどのように表現するのか、討論する。	（予習）好きなミュージシャンやアーティストが政治的な発言をした例を探し、それがどんな反響をもたらしたかを調べる。アニメ、マンガ、ゲームにおける政治的表現の例も調べてみる。	60
第１３回	討論３　ソフト・パワーとポリコレをめぐって ・おたく文化は日本の国際的地位を高める「ソフト・パワー」として認識されているが、それはおたく文化の表現に影響するのではないか。また国際的に流通させることが前提となるため、ポリティカル・コレクトネスが求められるが、それもまた文化の表現に影響するのではないか。世界進出における文化の変化を討論する。	（予習）海外において、日本のアニメ、マンガ、ゲームはどのように受け入れられているかを調べる。またおたく文化系のイベントがどれぐらいあるかを調べる。	60
第１４回	まとめ ・おたく文化は、未だにサブカルチャーだった頃の表現方法を強く引きずっており、メインストリームになりきれない部分を持っている。そこから見える「日本社会・日本文化の姿」を考える。	（予習）これまでの授業・動画でわかったことをまとめ、「おたく文化はなぜ変化してきたのか」「その変化は私たちの社会の変化とどう関係するのか」について、考えをまとめておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行なう。あらかじめ授業に関する動画（30 分程度）を用意しておくので、それを見て、分かったこと、疑問点をまとめた上で、授業に臨む。授業の終わりには質問に答える時間を設ける。第 11 回から 3 回は、フォームやチャットを使って匿名で討論することを考えている。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
教材配布と連絡は Teams で行なうので、Teams をスマホ、パソコンにインストールしておくこと。

〔課題等へのフィードバック方法〕
課題については、評価基準をあらかじめ提示する。課題の解説は後に Teams やポータルで発表する。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況、毎回のリアクションフォームの提出状況など）　30%
期末レポート　70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文化社会学

〔テキスト〕
特になし　購入の必要なし

〔参考書〕
『おたくの起源』、吉本たいまつ、NTT 出版、978-4757142091　絶版のため、無理に購入する必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の最後、授業終了後に教室で受け付ける。フォーム、Teams でも受け付ける。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング,(6)ＩＣＴ活用

26/2/9 15 時 45 分

講義名	メディアとアート						
教員名	小川　希						
講義コード	125433240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
現代アートとはいったい何か？　そこで用いられるメディアに着目することで、現代アートがこれまで投げかけてきた様々な問いについて学ぶ。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
現代アートで展開される表現を、メディアごとに分類・分析することで、それぞれの表現を理解するための基本的な知識や態度を獲得する。
DP1【専門分野の知識】

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 教員紹介及び本講義の説明 現代美術についてイメージする	特になし	0
第２回	コンセプチュアルアートとは? 現代アートを学ぶ基本姿勢 前編	前回の講義の復習	60
第３回	コンセプチュアルアートとは? 現代アートを学ぶ基本姿勢 後編	前回の講義の復習	60
第４回	現代アートにおける絵画表現とは? 絵画というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第５回	現代アートにおける絵画表現とは? 絵画というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第６回	現代アートにおける彫刻表現とは? 彫刻というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第７回	現代アートにおける彫刻表現とは? 彫刻というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第８回	現代アートにおける映像表現とは? 映像というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第９回	現代アートにおける映像表現とは? 映像というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第１０回	現代アートにおけるパフォーマンス表現とは? 身体というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第１１回	現代アートにおけるパフォーマンス表現とは? 身体というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第１２回	ゲストアーティストによる講義 現在進行形で活動する作家の話を聞く	前回の講義の復習	60
第１３回	現代アートにおけるソーシャリー・エンゲージド・アートとは? 社会関与というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第１４回	現代アートにおけるソーシャリー・エンゲージド・アートとは? 社会関与というメディア 後編	前回の講義の復習	60

〔授業の方法〕
スライドを用いての講義形式の授業

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕
生徒からの質問に対して解説を行う

〔成績評価の方法〕
授業の参加態度：60%
授業への感想及びコメント：40%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	現代社会研究A						
教員名	内藤　準						
講義コード	125437100	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

「社会的ジレンマ」の数理社会学　入門

この授業では、「社会的ジレンマ」と「人びとの協力」をテーマに、数理社会学の入門的な講義をおこないます。

数理社会学とは、社会現象をできるだけシンプルに「モデル化」して、その社会的なしくみを明らかにする、社会学の研究方法です。

（大切なのは「論理的に考える」ことだけです。この授業では、＋−×÷ができればひとまず十分です。）

「社会的ジレンマ」のモデルはとてもシンプルですが、共有資源の枯渇、環境汚染、受験戦争の過熱、就職活動の早期化、ボランティアへのただ乗りなど、さまざまな問題のモデルとして幅広く応用することができます。

また、そもそも「私たちの社会の秩序が、どのように成り立っているのか」という、非常に深い問題について考えるための手がかりにもなります。

この授業では、数理社会学のごく初歩からはじめて、「理論的に考える」基本的な方法を習得します。

また、「社会的ジレンマ」の解決法を考えることを通じて、私たち自身の身近な社会生活を成り立たせている基本的なしくみ（「権利」、「賞罰の制度」、「利他的な規範」、「未来にわたる人間関係」）についても、クリアに理解できるようになるでしょう。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

(1) 社会学の基礎的モデルである「社会的ジレンマ」との分析を通じて、人間の行為と社会秩序をめぐる社会科学の考え方を身につける　(DP1【専門分野の知識・技能】)。

(2) さまざまな具体的社会現象への応用を通じて、深い教養と幅広い視野からの思考力を身につける　(DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)。

(3) 社会問題を抽象化したシンプルなモデルを構成し、解決法を理論的に考えるための高い分析能力を身につける　DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集＋分析と解釈＋論理的思考)。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 授業の概要と、学習の仕方などについて話します。 社会学における「秩序問題」についての基本的な説明、「社会的ジレンマ」についての基本的な説明をします。 また、人間と社会的相互行為をモデル化する方法である「ゲーム理論」を初歩から紹介します。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第２回	行為者のモデル まず「一人の行為者」からはじめます。 私たちは日々の生活で、誰かの行為を理解するとき、何らかの「目的」によって説明します。 このように、私たちがいつも自然に用いている「目的行為」の考え方と、そのモデル化の１つである「合理的選択理論」を学びます。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第３回	相互行為のモデル　その１ 相互行為では、複数の行為者が登場します。相互行為のモデルとして「ゲーム理論」の初歩を学びます。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第４回	相互行為のモデル　その２ 「ゲーム理論」入門の続きです。 さまざまな相互行為の状況を、ゲーム理論を通じて紹介します。相互行為の結果を予測する「ナッシュ均衡」の概念や、均衡状態の見つけ方の初歩を学びます。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第５回	「ゲーム理論」入門まとめ　/　「囚人のジレンマ」その１ 「ゲーム理論」入門編のまとめをし、「囚人のジレンマ」（社会的ジレンマ）について学びます。 社会的ジレンマは、「一人ひとりが合理的に行為すると、その結果、全員にとって望ましくない結果が生じてしまう」状況のモデルです。環境汚染、受験戦争の過熱、就職活動の早期化、社会秩序の困難など、さまざまな問題に応用することができます。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第６回	「囚人のジレンマ」その２ 社会的ジレンマ（囚人のジレンマ）をもたらす状況の特徴を明らかにします。 社会的ジレンマ（囚人のジレンマ）は、(1)人びとの「協力」が自分への負担となり、(2)「非協力」は他人に不利益をもたらすような場面で、幅広く発生します。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第７回	「社会的な良さ」について考える 社会的ジレンマでは、「社会にとって望ましくない」状態が問題となります。「社会的な良さ」の基準について、「多数決」や「功利主義」、「パレート原理」など、さまざまな考え方を学びます。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第８回	「社会的ジレンマ」その１ ここまでは２人の行為者による「囚人のジレンマ」を扱ってきました。ここでは、３人以上の行為者を含む「社会的ジレンマ」を扱います。(囚人のジレンマは社会的ジレンマの一種です。) 共有資源の管理に関する「共有地の悲劇」の問題を通して、社会的ジレンマについてより深く検討します。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第９回	「社会的ジレンマ」その２ 前回学んだ「社会的ジレンマ」のモデルを応用して、「環境汚染」の問題や、みんなのための公園や道路といった「公共財供給」の問題についても検討します。さらに理解を深めます。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60

第１０回	社会的ジレンマを解消するしくみ　その 1：財の私有・所有権の働き ここからいよいよ、社会的ジレンマを「解消するしくみ」を検討します。 現実の社会をみると、社会的ジレンマになりそうな多くの状況で、実際には「相互協力」が実現し、ジレンマが解消されています。そうした「相互協力」をもたらす社会的なしくみを検討します。 この回では、「所有権」という個人の権利が、社会的ジレンマを解消する働きと、その限界について検討します。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第１１回	社会的ジレンマを解消するしくみ　その 2：罰則・サンクションの働きと「二次的ジレンマ」 社会的ジレンマを解消するしくみとして、私たちが最初に思い浮かべるのは、裏切り（非協力）に対して「罰」を与える社会制度の存在でしょう。例えば、多くの社会では詐欺や犯罪を犯せば社会的に罰されます。ここでは、そうした「罰」の制度の働きと、その限界について学びます。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第１２回	社会的ジレンマを解消するしくみ　その 3：利他性の働き 社会的ジレンマを解消するしくみとして「利他性」の働きを検討します。利他性というのは、「他人の利益を尊重する」ことをいいます。社会的ジレンマは、人びとが「自分の利益」を追求することで生じます。それに対して、他人の利益を尊重する「利他的な行為者」が、社会的ジレンマを解消するしくみと、その限界を学びます。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第１３回	社会的ジレンマを解消するしくみ　その 4:「長期的な関係」の働き 私たちの他人との関係は、「いつ終わるか決まっていない」人間関係であることが多くあります。例えば、友人との関係や、仕事上の関係、家族関係やご近所との関係など。このような、ある程度長期的な人間関係を「繰り返しゲーム」としてモデル化します。そして、そうした長期的な人間関係で、囚人のジレンマが解消されるしくみを検討し、この授業の締めくくりとします。	配布資料を読む。課題に取り組む。	60
第１４回	授業のまとめと復習、課題の説明など （到達度確認テストをおこなう可能性有り）	配布資料を読む。課題に取り組む。	60

〔授業の方法〕
講義形式を中心におこないます。
進捗の度合い等によって、オンデマンドの補足などを設ける可能性があります。
配布した資料（プリント、PDF など）に書き込んでいく方式をとります。
授業の内容について、復習する課題を提出してもらいます。授業の進め方の参考にします。
評価は期末の「到達度確認テスト」または「学期末試験」を中心に、提出課題と平常点で総合的に判断します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業の内容を復習する課題を出します。
課題について、答え合わせをおこなう時間を設けて理解を深めます。
その他、コメントや質問には、時間を設けてフィードバックをおこないます。

〔成績評価の方法〕
成績については、原則的に以下のように評価します：
平常点（授業への貢献や課題の提出状況）10%、提出課題など 30%、学期末試験（または到達度確認テストなど）60%
課題が少なかったときなどは、その分を平常点や学期末試験に割り振る可能性があります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくに予備知識は必要ありません。
数学についても高度な計算はまったく不要です。さしあたり四則演算（＋ー×÷）が分かれば大丈夫です。
以下のトピックについて聞いたことがあると、理解の手助けになるでしょう。
社会学の「秩序問題」「社会規範」「社会的ジレンマ」「囚人のジレンマ」「共有地の悲劇」など。
社会問題論、社会運動論。社会心理学、量的調査入門、量的調査法など。

〔テキスト〕
「特になし」
テキストはプリント（PDF ファイル）を配布する予定です。
その他、授業内で適宜指示します。

〔参考書〕
小林淳一・木村博邦編，1991，『考える社会学』ミネルヴァ書房．とくに第 1 章、第 2 章、第 6 章、第 18 章。
山岸俊男，1990，『社会的ジレンマのしくみ――「自分一人ぐらいの心理」の招くもの』サイエンス社.
岡田章，2014，『ゲーム理論・入門 新版――人間社会の理解のために』有斐閣.
（岡田章，2008，『ゲーム理論・入門――人間社会の理解のために』有斐閣．でも OK）
小林 盾・金井 雅之・佐藤 嘉倫・内藤 準・浜田 宏・武藤 正義編，2014，『社会学入門――社会をモデルで読む』朝倉書店．など
「購入の必要なし」ですが、授業の参考になります。さらなる発展にもつながります。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	現代社会研究Ｂ						
教員名	田中　佑						
講義コード	125437110	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回			
第２回			
第３回			
第４回			
第５回			
第６回			
第７回			
第８回			
第９回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
〔特記事項〕

講義名	現代社会研究 C						
教員名	バラニャク平田　ズザンナ						
講義コード	125437120	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

映像文化は、人間の考え方、価値観や世界観を映し出し、社会を映す鏡である。近年、ジブリ映画のような日本の映像文化は世界中の注目を集め、多くの外国人観光客が来日する動機ともなっている。本授業では、日本の映像文化とその多様な表象を考察し、その国内やグローバルな受容について探っていく。歴史的な発展と基礎的概念を紹介したうえ、ジブリスタジオ、宝塚歌劇団と近年に人気を集める 2.5 次元の作品といった３つの事例を通じて、日本に映像文化の特徴について理解を深める。

※授業の内容やスケジュールは変更することがある。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP2【教養の修得】と DP3【課題の発見と解決】を達成するために、以下の目標を設定する。

①日本の映像文化とその多様な表象について、基礎的な特徴、概念や用語をつかまえ、説明できること。

②日本国内とグローバルな視点を用いながら、映像資料の考察で批判的思考と分析能力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握する。	60 分
第２回	日本の映像文化①：歴史的発展と「マンガ的表現」	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第３回	日本の映像文化②：デジタルメディアの発展	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第４回	日本の映像文化③：現代映像文化とグローバル化	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第５回	アニメのグローバル化①：スタジオジブリの世界観	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第６回	アニメのグローバル化②:『千と千尋の神隠し』鑑賞（前半）とディスカッション	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第７回	アニメのグローバル化③:『千と千尋の神隠し』（後半）とディスカッション	授業内容を復習し、理解を深める。前回の作品内容を振り返る。	60 分
第８回	少女文化とジェンダー①：宝塚歌劇団のジェンダーパフォーマンス	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第９回	少女文化とジェンダー②：宝塚『ポーの一族』鑑賞（前半）とディスカッション	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第１０回	少女文化とジェンダー②：宝塚『ポーの一族』鑑賞（後半）とディスカッション	授業内容を復習し、理解を深める。前回の作品内容を振り返る。	60 分
第１１回	映像文化の今①：2.5 次元文化と虚構的身体性	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第１２回	映像文化の今②：2.5 次元舞台「進撃の巨人-the Musical」鑑賞（前半）とディスカッション	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第１３回	映像文化の今③：2.5 次元舞台「進撃の巨人-the Musical」鑑賞（後半）とディスカッション	授業内容を復習し、理解を深める。前回の作品内容を振り返る。	60 分
第１４回	現代日本の映像文化の（再）考察：まとめ	第１～１３回の授業内容を復習し、理解を深める。	60 分

〔授業の方法〕

授業は主に講義形式で行い、パワーポイントと映像資料を用いるが、質疑応答やディスカッションも取り入れる予定である。この授業では、①リアクションペーパー（≠出席）と②期末レポートを課す。

①リアクションペーパーでは、授業内容を踏まえた上で自分の感想・考えと質問・コメントを求める。

②期末レポートでは、授業内容の正確な理解度と映像資料の批判的思考を評価する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

リアクションペーパーの質問やコメントは授業時に解説する。期末レポートの評価に関して個別にフィードバックする。

〔成績評価の方法〕

下記の 2 点により総合的に評価する。
①平常点：リアクションペーパー（50%）
②期末レポート（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。
【重要】AI の使用について
成績評価の対象となる論文、レポート、作品及びその他の課題において、ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_topics/2023/15058.html ）を参照のこと。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
授業中に随時指示する。
※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
初回の授業で指示する。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

26/2/9 15 時 45 分

講義名	トピック・セミナーB						
教員名	禹　丞美						
講義コード	125511250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、日本で翻訳された韓国文学を一緒に読みます。戦争、再開発、ジェンダー、災難という 4 つのテーマを軸に韓国社会の変遷について解説し、文学が韓国社会をどのように描いてきたかを考察します。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
韓国文学への理解を深めるとともに、様々な社会的背景を知り、自分なりの解釈を試みることで考察を深めることを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	特になし	10
第２回	戦争と韓国文学（１）	配布資料を読んでおくこと	60
第３回	戦争と韓国文学（２）	配布資料を読んでおくこと	60
第４回	パク・ワンソを読む	配布資料を読んでおくこと	60
第５回	再開発と韓国文学（１）	配布資料を読んでおくこと	60
第６回	再開発と韓国文学（２）	配布資料を読んでおくこと	60
第７回	ファン・ジョンウンを読む／小テスト	配布資料を読んでおくこと	60
第８回	ジェンダーと韓国文学（１）	配布資料を読んでおくこと	60
第９回	ジェンダーと韓国文学（２）	配布資料を読んでおくこと	60
第１０回	オ・ジョンヒを読む	配布資料を読んでおくこと	60
第１１回	災難と韓国文学（１）	配布資料を読んでおくこと	60
第１２回	災難と韓国文学（２）	配布資料を読んでおくこと	60
第１３回	チョン・イヒョンを読む	配布資料を読んでおくこと	60
第１４回	期末テスト	配布資料を読んでおくこと	60

〔授業の方法〕
パワーポイントを利用した講義形式で行います。理解を深めるために教員が資料を用意し、提示します。
受講生は、毎回講義内容に関するリアクションペーパーを提出してください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
平常点：20%、小テスト 40%、 最終テスト：40%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	ラテン語						
教員名	井上　秀太郎						
講義コード	125512100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

ラテン語はキリスト教やローマ法と共にヨーロッパ文明の基底をなすものである。ラテン語に関する知識があるか否かは、ヨーロッパの文化・芸術を理解するうえで今でも重要な要素となっており、その点にこそラテン語を学ぶ意義があると言える。この授業では初級文法を半年かけて学び、辞書を使って独力で簡単なラテン語文を読むことが出来るようになることを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP2【教養の修得】を実現するため、次の 3 点を到達目標とする

（1）　ラテン語の基礎的な文法事項を理解する

（2）　単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る

（3）　単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文字と発音（母音の長短・アクセントの位置）	【予習】教科書の序章を熟読 【復習】教科書序章の単語を声に出して音読	90 分
第２回	動詞の活用（第 1～4 活用）	【予習】教科書第 1・2 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第３回	名詞と形容詞（第 1・2 変化の名詞と形容詞）	【予習】教科書第 3 課を熟読 【復習】名詞・形容詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第４回	動詞（未完了過去と未来）	【予習】教科書第 4・5 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第５回	前置詞と名詞（前置詞の格支配と名詞の第 3 変化）	【予習】教科書第 6・7 課を熟読 【復習】名詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第６回	動詞（完了形）	【予習】教科書第 8 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を音読	90 分
第７回	形容詞と名詞（第 3 変化形容詞と奪格の用法）	【予習】教科書第 9・10 課を熟読 【復習】形容詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第８回	不定詞（対格＋不定詞の構文）	【予習】教科書第 11 課を熟読 【復習】例文を繰り返し音読	90 分
第９回	比較の表現（形容詞の比較級と最上級）	【予習】教科書第 12 課を熟読 【復習】比較級・最上級の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１０回	代名詞（指示代名詞と関係代名詞）	【予習】教科書第 13 課を熟読 【復習】関係代名詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１１回	受け身の表現と特殊な動詞（受動態の現在形と能動形欠如動詞）	【予習】教科書第 14・15 課を熟読 【復習】受動態および能動形欠如動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１２回	受け身の表現と分詞の用法（受動態の完了形、現在分詞と絶対的奪格）	【予習】教科書第 16・17 課を熟読 【復習】現在分詞の活用表と絶対的奪格の例文を繰り返し音読	90 分
第１３回	接続法（接続法の活用と用法、動形容詞）	【予習】教科書第 18 課を熟読 【復習】接続法の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１４回	接続法の用法（間接話法、間接疑問文、条件文）	【予習】教科書第 19・20 課を熟読 【復習】接続法の例文を繰り返し音読	90 分

〔授業の方法〕

授業は講義形式で文法事項および例文の解説を中心に進めていく。折に触れて練習問題も解説を交えつつ取り組んでいく。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

授業への取り組み（予習や授業中の質疑応答）（50%）、授業内で実施するテスト（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する
（1）　ラテン語の基礎的な文法事項を理解する
（2）　単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る
（3）　単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に無し

〔テキスト〕
岩崎務（著）『ニューエクスプレス　ラテン語（CD 付）』白水社　2011 年　ISBN 978-4-560-08580-6

〔参考書〕
特に無し

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
メールアドレスは授業時に伝達する。

〔特記事項〕

講義名	古典ギリシア語						
教員名	水元　彬人						
講義コード	125512150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、古典ギリシア語の文字、発音、初級文法を扱う。本講義で扱う初級文法は主に、名詞の格変化、時制などによる動詞変化である。名詞や形容詞が文中での働きに応じてどのような形になるのか、そして動詞が時制、法、相、人称や数によってどのように変化するのかを、具体的に理解し覚えていってもらいたい。予備知識は特に必要としない。

古典ギリシア語を学ぶことの目的や意義はもちろん人それぞれだろうが、西洋文化と関わりがある人全てにとってこの言語は学んでおきたいものかもしれない。たとえば、古典ギリシア語で書かれた作品は様々な分野において重要な位置づけにあるため、それらの作品の原文を読めるようになりたいと思う人や、読めると便利かもしれないと考える人たちにとって、広く本講義は役立つだろう。古典ギリシア語で書かれた作品として、たとえば文学に興味がある人はギリシア悲劇や喜劇（またはそれらの中に色々な形で現れるギリシア神話）を思い浮かべるかもしれない。また、哲学に興味がある人はプラトンの対話篇やアリストテレスの著作を思い浮かべるかもしれないし、歴史に興味がある人はヘロドトスやトゥキュディデスによる歴史書、弁論作家による法廷弁論などを思い浮かべるかもしれない。これらの作品は、ジャンルは多岐にわたるものの、いずれも原文で読むためには古典ギリシア語の初級文法を最低限理解していなくてはならない。

また、言語全般に興味を持っている人にとっても、古典ギリシア語の学習は大いに役立つだろう。様々な言語の文字や発音、文法に興味があるという人や、現代ギリシア語をより深く理解したいという人、文法や語を通じて西洋文化の源に触れたいという人にとって、本講義で扱う各事項は具体例として参考になるはずである。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP2（教養の修得）を実現するため、
①古典ギリシア語の文字や発音を身につける
②古典ギリシア語の格変化や動詞の変化に慣れる
③古典ギリシア語の学習を通じて、西洋文化についての理解を深める

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・ガイダンス（授業の内容や進め方、予習復習の仕方について） ・ギリシア語文字、発音、アクセントについて学ぶ	予習：教科書 I-II 章 復習：教科書 I-II 章	90 分
第２回	・ギリシア語文字、発音、アクセントの再確認	予習：教科書 I-II 章 復習：教科書 I-II 章	90 分
第３回	・動詞の現在直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 III 章 復習：教科書 III 章	90 分
第４回	・第一変化名詞の変化を学ぶ（1）	予習：教科書 IV 章 復習：教科書 IV 章	90 分
第５回	・第一変化名詞の変化を学ぶ（2）	予習：教科書 V 章 復習：教科書 V 章	90 分
第６回	・動詞の未来直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 VI 章 復習：教科書 VI 章	90 分
第７回	・授業内テスト（一回目） ・第一変化の名詞を学ぶ（3）	予習：教科書 VII 章 復習：教科書 VII 章	90 分
第８回	・第一変化の男性名詞を学ぶ	予習：教科書 VIII 章 復習：教科書 VIII 章	90 分
第９回	・動詞の未完了過去直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 IX 章 復習：教科書 IX 章	90 分
第１０回	・第二変化名詞の変化を学ぶ	予習：教科書 X 章 復習：教科書 X 章	90 分
第１１回	・第一第二変化の形容詞を学ぶ	予習：教科書 XI 章 復習：教科書 XI 章	90 分
第１２回	・前置詞を学ぶ	予習：教科書 XII 章 復習：教科書 XII 章	90 分
第１３回	・授業内テスト（二回目） ・まだ触れていない文法事項について概観する（1） アオリスト、中動相	予習：教科書 XIII 章・XX 章 復習：教科書 XIII 章・XX 章	90 分
第１４回	・まだ触れていない文法事項について概観する（2） 接続法、希求法 ・授業のまとめ	予習：教科書 XXXIV 章・XLIII 章 復習：教科書 XXXIV 章・XLIII 章	90 分

〔授業の方法〕

授業では、まずは講師が前の週のコメントシートの内容に触れ、全体で共有すべき感想や疑問は講師の回答も含めて共有する。その後、参加者はその日扱われる文法事項について講義を聞き、さらに練習問題（演習）を通じてその事項に慣れ、最後にコメントシートに感想や疑問を記入し提出する。取り扱われる文法事項の順番は基本的にはテキストに沿う。古典語は難しそうだと感じている人もついていけるよう、英文法等がこまめに比較対象に出されつつ、講義や練習問題の解説は進む。

自分の理解や暗記がうまく進んだかを参加者が把握できるように、基礎的な問題を用いたテストを授業内で計 2 回（第 7 回・第 13 回）実施し、返却時には解説をおこなう。試験範囲は、試験実施までに学んだ内容とする。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
各回の冒頭で前回のコメントシートへのフィードバックをおこない、全体で共有すべき質問等は講師の回答も含めて共有する。
授業内テストの翌週回には、冒頭でテストの返却・解説を行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業・演習への参加状況：50%、授業内テスト 2 回分：50%）による総合評価。
学期末試験は実施しない。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典ギリシア語の文字の読み書きができる。
②各文法事項を理解する。
③各語形変化を習得する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本語と英語/特になし/ラテン語, 西洋史, 欧米各国文学

〔テキスト〕
田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 新装版』（岩波 2012 年）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問は基本的には授業終了後に教室で受け付けるが、コメントシートで質問することもでき、Course Power に掲載するメールアドレスに質問を送ってもよい。

〔特記事項〕

講義名	文学部学際発展科目Ａ						
教員名	岡部　嘉幸						
講義コード	125513100	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、文学部の４つの学科を横断する形で、人文学のさまざまな側面を勉強します。人文学とは、人間そのものと、人間が生み出す多様な言語・文化・社会とを探求する学問ですが、どの時代やどの地域、あるいはどの領域を扱うのかによって、研究方法や問題設定なども変わってきます。

英語英米文学科では、英語の４技能（話す・聞く・書く・読む）を伸ばすと共に、言語学、英語教育、通訳・翻訳学、英語圏の文学・文化・社会・芸術などについて学びます。日本文学科は、上代から近世までの文学作品を扱う古典文学、明治時代以降の小説や創作などを扱う近現代文学、日本語の歴史や仕組みを探究する日本語学の三領域を学びます。国際文化学科は、《過去の文化との比較》、《他の文化との比較》、《国際社会の中での位置づけ》の３つの視点から、歴史・地域文化研究、文化人類学、国際関係研究を学びます。現代社会学科は、社会学とメディア研究を２本の柱として、社会で当たり前と捉えられている価値観や、雑誌、新聞、テレビ、SNS、ネット動画、広告などの表現に埋め込まれた意味を、読み解きます。

この授業では、こうした４つの学科の教員が３人ずつ担当する形でオムニバス授業を行うことで、人文学という学問領域の多様性を理解するとともに、それぞれの分野の研究方法や問題設定のあり方の共通点と相違点についても理解を深めることを目的とします。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP4【表現力、発信力】、DP5【多様な人々との協働】、DP6【自発性、積極性】 実現のために、以下の４点を到達目標とします。

1. 人文学の諸領域に関する基礎知識を習得できるようになる（→DP1、DP2）
2. 人文学の諸領域の研究方法や問題設定の共通点と相違点を理解できるようになる（→DP1）
3. 人文学の諸領域に関して修得した基礎的な知識を他者にわかりやすく、かつ、論理的に文章で説明できるようになる（→DP4）
4. 専門分野の異なる複数の教員、他学科の受講者との交流を通じて、人文学の多様性を理解できるようになる（→DP5）
5. 人文学の多様性を理解するために、授業中に指示された参考文献や授業後の課題に積極的に取り組めるようになる（→DP6）

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション―人文学とは、人文学の多様性― 担当：岡部　嘉幸（日本文学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第２回	フロイトの夢解釈と映画分析 担当：遠藤　不比人（英語英米文学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第３回	19 世紀アメリカ文学における土地・家・家族 担当：髙瀬　祐子（横浜国立大学教育学部）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第４回	通訳者は interpreter, 通訳行為は performance 担当：森住　史（英語英米文学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第５回	ミステリーの原稿／原稿のミステリー 担当：浜田　雄介（日本文学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第６回	竹取物語をよむ 担当：吉田　幹生（日本文学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第７回	ケーススタディで学ぶ日本語学 担当：岡部　嘉幸（日本文学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第８回	日本のインド太平洋戦略―中国の覇権主義を牽制できるか 担当：墓田　桂（国際文化学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第９回	国際秩序と日本外交―戦間期を中心に― 担当：樋口　真魚（国際文化学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第１０回	大西洋捕鯨とスコットランド 担当：日尾野　裕一（国際文化学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第１１回	現代社会とメディア 担当：見城　武秀（現代社会学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第１２回	現代社会における不平等 担当：小林　盾（現代社会学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第１３回	理論で読み解く現代社会 担当：内藤　準（現代社会学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分
第１４回	授業の振り返りとまとめ 担当：岡部　嘉幸（日本文学科）	事前にアップロードされている授業資料を読んでおく 授業内容を整理した上で、授業後の小課題に解答する	60 分

〔授業の方法〕

・この授業は、各回、担当教員が変わるオムニバス形式の授業です。基本的に講義形式で授業を行います。
・授業資料等がある場合は、事前に CoursePower にアップロードしますので、各自ダウンロードして授業中に参照できるようにしてください。
・各回の授業後に、CoursePower で授業内容に関する小課題を出すので、指定された期日までに解答すること。小課題の達成率および解答内容は成績評価の対象になります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし

〔課題等へのフィードバック方法〕
・授業後の小課題に対するフィードバックは、次回授業の冒頭で行います。

〔成績評価の方法〕
・平常点（授業への参加状況および授業後小課題の達成率）30%
・授業後小課題の内容 70%
により総合的に評価します。
授業後の小課題に関しては、授業内容を適切に理解できているか、その内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか、ということを中心に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
授業中に適宜指示します

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(3)初年次教育

講義名	AI と創作						
教員名	葦沢　かもめ.新　清士.永田　一樹.前山　和喜.宮田　龍.山口　達典						
講義コード	125514100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

生成 AI は，絵や文章を出力する便利な道具であると同時に，創作の入口を広げ，表現の作り方そのものを変えつつあります．いま起きている変化は，技術の性能評価にとどまりません．「創作とは何か」「社会はそれをどう受け止めるのか」という問いが，現場の実践とともに更新され続けています．本講義では，創作と技術（とりわけコンピュータ上で動作する AI）の関係を歴史的な視点から押さえつつ，生成 AI が創作の現場にもたらしている変化を，具体例を通じて理解します．

本年度は，写真，小説，美術，ゲームなど各分野で生成 AI を用いた創作活動を実践している講師が授業を担当します．実際の作品や制作の流れに即して，何が変わり，どのような試みが可能になったのかを紹介します．受講者は，AI を「使う／使わない」の二択ではなく，どの局面でどう付き合うと表現や創作の可能性が広がるのか，逆にどこで人間の判断が決定的になるのかなど，より実践的な生成 AI の利用法について，具体的な事例から掴んでいきます．

後半では，創作された物語を通じて社会の変容や未来のありようを考える手法である SF プロトタイピングを実践します．生成 AI の普及が文化や産業，日常のコミュニケーションに与える影響などに触れつつ，現代社会をどのように捉え直せるのかを検討します．

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

この講義を通じて，受講者が生成 AI をめぐる議論や実際の創作物の生成を自分の関心と結びつけ，今後の学習・研究・制作へ接続できるようになることを目指します．

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方と到達像を確認し，「AI と倫理」を通じて何を学ぶのかを説明する	【予習】AI に関するニュース等を調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第２回	AI と創作の歴史 コンピュータの歴史を振り返りつつ，コンピュータによって作られてきたモノ・ゴトについて俯瞰する	【予習】AI の歴史について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第３回	写真としての AI（講師：永田一樹） これまでのアナログ写真，デジタル写真の歴史を踏まえながら，写真と AI の出力するイメージの関係について考察する	【予習】アナログ写真とデジタル写真の違いを調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第４回	物語を拡張するテクノロジーの歴史と未来（講師：葦沢かもめ） 物語をつくる機械について，その源流から現代の LLM までを紹介し，生成 AI によって小説執筆などがどのように変化し得るかを予測する	【予習】生成 AI によって書かれた小説・物語について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第５回	Vision Is All You Need（講師：葦沢かもめ） AI との共創における，人間が監督としてビジョンを明確化することの重要性について，実演を含めて解説し，人間のビジョンを骨格として通した AI 執筆手法について学ぶ	【予習】創作に使える生成 AI のツールについて調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第６回	美術と AI の出会い（講師：山口達典） 「AI アート」のパイオニアと称されるハロルド・コーエンとそのプログラム「AARON」の事例を紹介し，美術は AI とどのように邂逅したかを論じる	【予習】コンピュータを利用したアート作品の歴史について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第７回	美術と AI の今後（講師：山口達典） AI は美術作品を制作することができるのか，批判・肯定双方の立場から論じた上で，どのように AI を導入すれば芸術家は創造性を発揮できるのかを考察する	【予習】コンピュータを利用した現代アートについて調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第８回	AI のプロンプト演習 実際に生成 AI を使って作品を制作する演習を通じて，現在の AI がどこまでできるのかを確かめる	【予習】生成 AI のサービスを利用できるように準備をする 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第９回	生成 AI によるゲーム制作の変容（講師：調整中） ゲーム制作における企画・シナリオ・アセット制作・デバッグ等の工程を俯瞰し，ゲーム制作の構造や創造性をどう変えつつあるのかを，具体例とともに学んでいく	【予習】自作ゲームを作る方法について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１０回	AI によるプレイとゲームの意味変容（講師：調整中） ゲームが「人間が遊ぶもの」であるという前提が崩れたとき，競技性，面白さ，観戦文化，チート概念がどう再定義されるかについて考察する	【予習】e スポーツについて調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１１回	SF プロトタイピング１（講師：宮田龍） SF プロトタイピングのこれまでの潮流を捉えながら単なる未来予測ツールとしてではなく，難解な科学技術と生活者の間にある溝を埋めるの手法として解説する	【予習】SF プロトタイピングについて調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１２回	SF プロトタイピング２（講師：宮田龍） 科学技術が社会にもたらす影響として生成 AI の普及を題材に労働，教育，公共，文化などあらゆる未来の選択肢に対して，リスクや価値衝突を含め想像し〈問い〉を発見する	【予習】Society 5.0 について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１３回	SF プロトタイピング３（講師：宮田龍） AI はそれ単体ではなく，その他の科学技術にも影響を及ぼしながら私たちの社会の在り方を変えていく．例としてニューロテックをテーマを，SF プロトタイピングを通じて検討する	【予習】ニューロテックについて調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60

第１４回	振り返りとディスカッション 　授業全体の内容を振り返り,AI と創作について再度考え直す	【予習・復習】これまでの配布資料を全て目を通して思い出す	60

〔授業の方法〕
① 各回で異なるテーマで講義を行なう（講師の表記のない回については前山が担当する）
② 毎回，リアクションペーパーを配布し，授業内で記述・提出してもらう．リアクションペーパーは「出席」確認を兼ねる
③ 学期末にレポートを課す

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業の最後に，前回の授業で提出されたリアクションペーパーに応答する時間を設ける．

〔成績評価の方法〕
レポート 30%，平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
本科目は，デジタルヒューマニティーズ科目群に含まれる．

〔テキスト〕
授業内で適宜紹介する．

〔参考書〕
授業内で適宜紹介する．

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	機械翻訳概論						
教員名	前山　和喜						
講義コード	125514110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

かつて「言葉を扱う」という行為は，生身の人間の専売特許だと考えられてきました．しかし，翻訳や言語理解の仕組みが分析され，モデル化されていくことで，その一部は機械的に再現されるようになってきます．では人の出番は終わりかというと，むしろ逆です．世の中にたくさんのテキストがあふれ，機械翻訳によって「読むことができる」テキストの量も，比べ物にならないほど増えてきました．数え切れないほどのテキストを前にして，どれを読むか，どのように受け止めるか，どのように他者に伝えるかという判断は，いっそう人間に委ねられます．

機械翻訳を学ぶことはツールの操作を覚えることではありません．この講義を通じて，「翻訳＝何かと何かをつなぐ営み」を，現代社会の基盤である機械（コンピュータやインターネット）を通じて考えることで，人間と機械がどのように役割分担し，どこで協働しうるのかを考えていきます．

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

この講義を通じて，黎明期の装置や初期の機械翻訳から，機械学習，生成 AI，そして大規模言語モデルへと至る歴史を学び，文字コードや絵文字，形式言語と自然言語，分布仮説に基づく意味空間，ベクトル表現と LLM といった計算の視点から見た言語の基礎について理解することが目標です．その上で，社会の中における多様な翻訳の営みについて実例を踏まえて考えられるようになることを目指します．

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンスとイントロダクション 授業の進め方と到達像を共有し，機械翻訳とは何かを，その歴史や具体例を通じてから確認する	【予習】翻訳の歴史について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第２回	機械の歴史と翻訳の歴史：機械翻訳の直前まで 「翻訳」という営みを拡張し，人々と機械の歴史として俯瞰する	【予習】機械（マシーン）の歴史について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第３回	機械翻訳の歴史１：コンピュータの黎明期まで タイプライターなどのメディア装置や初期の機械翻訳を学ぶ	【予習】コンピュータの歴史について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第４回	機械翻訳の歴史２：機械学習と生成 AI まで サービスとして提供され始めた機械翻訳について学ぶ	【予習】コンピュータ翻訳の歴史について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第５回	機械翻訳演習１：複数の機械翻訳のサービスの利用 実際のサービスを利用し，今日の機械翻訳のありようを捉える	【予習】機械翻訳のサービスについて調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第６回	計算言語１：符号化と絵文字 文字コード・絵文字のしくみや，「文字」の演算について学ぶ	【予習】「絵文字」の歴史について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第７回	計算言語２：形式言語と自然言語 機械にとっての言語と，人間にとっての言語の違いを学ぶ	【予習】「自然言語」とは何かを調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第８回	計算言語３：分布仮説と意味空間 コンピュータで扱う言語モデルについて学ぶ	【予習】「青空文庫」について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第９回	計算言語４：ベクトルと LLM 生成 AI の基本原理について学ぶ	【予習】「ベクトル」とは何かについて復習する 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１０回	機械翻訳演習２：手続き的に翻訳する機械の実装 プログラミングによって，初歩的な翻訳を実装する	【予習】生成 AI のサービスが使えるようにする 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１１回	異文化コミュニケーションと機械翻訳 ゲーム翻訳，SNS の自動翻訳を通じて機械翻訳について考える	【予習】好きなゲームを１つ決め，詳しく調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１２回	アクセシビリティと機械翻訳 手話，字幕，「やさしい日本語」を通じて機械翻訳について考える	【予習】「やさしい日本語」について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１３回	マルチメディアと機械翻訳 地理・実空間，画像，QR コードを通じて機械翻訳について考える	【予習】GeoGuessr について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１４回	振り返りとディスカッション 授業全体の内容を振り返り，機械翻訳について再度考え直す	【予習・復習】これまでの配布資料を全て目を通して思い出す	60

〔授業の方法〕

① 各回で異なるテーマで講義を行なう
② 毎回，リアクションペーパーを配布し，授業内で記述・提出してもらう．リアクションペーパーは「出席」確認を兼ねる
③ 学期末にレポートを課す

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業の最後に，前回の授業で提出されたリアクションペーパーに応答する時間を設ける．

〔成績評価の方法〕
レポート 30%，平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
本科目は，デジタルヒューマニティーズ科目群に含まれる.

〔テキスト〕
授業内で適宜紹介する.

〔参考書〕
授業内で適宜紹介する.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	デジタルアーカイブ概論						
教員名	前山　和喜						
講義コード	125514120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

「デジタルアーカイブ」は，「資料をスキャンして公開しているサービス」と理解されがちですが，実際には，何を資料として残すのか，どのように分類するのか，どのように検索できる形にするのか，誰にどの条件でアクセスを提供するのか，といった一連の設計と運用を含む概念であり，サービスです．つまりデジタルアーカイブは，情報技術の発展や社会のあり方に強く影響を受ける知のインフラです．そして同時に，資料が「見つかる」「読める」「比べられる」ようになる，さらには生成 AI の学習に利用されることで，研究の問いそのものを更新してしまう力も持っています．

この授業ではまず，デジタルアーカイブの基盤となる「デジタル」の思想や特徴，技術を学びます．そのうえで，図書館・博物館・文書館という異なる現場において，資料の収集・整理・提供・保存がどのように行われているかを比較し，デジタル化によって生じる利点と課題を検討します．最後に，「過去」「現在」「未来」という時間軸から，デジタルアーカイブが学術研究や社会に与える影響を整理します．

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

この講義を通じて，受講者が自分の関心領域に即して「デジタル」「アーカイブ」「デジタルアーカイブ」の思想を学び，今後の学習・研究に活用できるようになることを目指します．「デジタル」の意義を理解した上で，自分の興味・関心を広げていくために，デジタルアーカイブを利用していけるようになるような授業を，ディスカッションを多く取り入れながら進めていきます．

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：デジタルアーカイブとは 授業の進め方と到達像を共有し，デジタルアーカイブとは何かを，その歴史や具体例を通じてから確認する	【予習】「デジタルアーカイブ」とは何か調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第２回	思想としての「デジタル」 デジタルアーカイブの基盤となっている「デジタル」というものの意味について考える	【予習】「デジタル」とは何か調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第３回	思想としての「ソーティング」 ソーティング（並び替え）ができるのはなぜか，その仕組みや社会的背景について学ぶ	【予習】「ソーティング」について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第４回	思想としての「データ構造」 情報を効率的に・合理的に管理するための枠組みとして「データ構造」について学ぶ	【予習】「データ構造」について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第５回	思想としての「探索」 探索アルゴリズムについて，基本的な方法とともに，検索・発見の仕組みがもつ社会的含意を学ぶ	【予習】「探索アルゴリズム」ついて調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第６回	思想としての「メタデータ」 メタデータの役割と基本概念を学び，記述規則や分類が資料の発見・利用に与える影響を理解する	【予習】「メタデータ」について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第７回	プログラミング演習 実際にプログラムを作成し，デジタル的な手法について学ぶ	【予習】プログラミングができる環境を準備してくる（前の回で説明します） 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第８回	ライブラリとデジタルアーカイブ 図書館における資料の収集・整理・提供の仕組みを踏まえ，デジタルアーカイブとの関係を学ぶ	【予習】図書館（ライブラリ）の役割（業務内容）について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第９回	ミュージアムとデジタルアーカイブ 博物館における収集保存・展示・教育普及の枠組みを踏まえ，デジタルアーカイブの活用と課題を学ぶ	【予習】】博物館（ミュージアム）の役割（業務内容）について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１０回	アーカイブスとデジタルアーカイブ 公文書館・文書館における保存と利用の考え方を踏まえ，デジタル化の論点を学ぶ	【予習】文書館（アーカイブス）の役割（業務内容）について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１１回	過去とデジタルアーカイブ 歴史資料の特性を踏まえ，デジタルアーカイブによって歴史学研究がどのように発展するかを考える	【予習】「ジャパンアーカイブズ」で自分の興味がある事柄を検索する 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１２回	現在とデジタルアーカイブ 現代の記録（ウェブ，SNS，研究データ等）を対象に，収集・保存・公開をめぐる課題を考える	【予習】Internet Archive（https://archive.org/）で自分の興味がある事柄を検索する 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１３回	未来とデジタルアーカイブ 将来に向けたデジタルアーカイブの維持と発展の課題を考える	【予習】「次世代デジタルライブラリー」で自分の興味がある事柄を検索する 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１４回	振り返りとディスカッション 授業全体の内容を振り返り，デジタルアーカイブについて再度考え直す	【予習・復習】これまでの配布資料を全て目を通して思い出す	60

〔授業の方法〕

① 各回で異なるテーマで講義を行なう
② 毎回，リアクションペーパーを配布し，授業内で記述・提出してもらう．リアクションペーパーは「出席」確認を兼ねる
③ 学期末にレポートを課す

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業の最後に，前回の授業で提出されたリアクションペーパーに応答する時間を設ける．

〔成績評価の方法〕
レポート 30%，平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
本科目は，デジタルヒューマニティーズ科目群に含まれる．

〔テキスト〕
授業内で適宜紹介する．

〔参考書〕
授業内で適宜紹介する．

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	AI と倫理						
教員名	佐久間　弘明.武富　有香.田村　正資.前山　和喜						
講義コード	125514130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

生成 AI の普及によって，文章や画像など「何かを作ること」の前提がいま劇的に揺らいでいます．これまで創作は，書き手・作り手が経験や技術を積み重ね，試行錯誤しながら時間をかけて形にしていく営みとして位置づけられてきました．しかし現在は，生成が高速化し，誰もが一定水準の出力を即座に得られる環境が出現しています．この変化は単なる効率化ではありません．作者性やオリジナリティ，責任の所在，引用と剽窃の境界，偏見や差別の再生産，さらに表現の流通を支えるプラットフォームや制度が何を選別し何を不可視化するのかといった倫理的・政治的問題を不可避に伴っています．

本講義ではまず，コンピュータ史と AI 倫理の観点から，技術の普及に伴って社会がルールや制度をどう編み直してきたかを確認します．ついで，AI と倫理・政治の全体像，顕在化しているリスク，規制動向と企業の取組を含む AI ガバナンスの論点を学びます．後半では，語りの倫理，ナラティブ分析，測定の発想を手がかりに，言葉の流通と解釈・評価の仕組みを検討します．さらに，生成 AI の人格化やレポート代筆を題材に，自律的な学びの条件を問い直します．

なお，この文章も担当教員と生成 AI の 23 往復の丁寧なやりとりを通じてコンピュータによって生成された文章です．

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

この講義を通じて，受講者が AI をめぐる議論を他人事にせず，現代社会における表現の責任を自分の問題として引き受けられるようになることを目指します．

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方と到達像を確認し，「AI と倫理」を通じて何を学ぶのかを説明する	【予習】AI に関するニュース等を調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第２回	AI と倫理の歴史 コンピュータの歴史を振り返りつつ，コンピュータによって作られてきたモノ・ゴトについて俯瞰する	【予習】AI の歴史について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第３回	AI と倫理・政治のかかわり（講師：佐久間弘明） 技術哲学と呼ばれる領域の議論なども参照しつつ，「AI と倫理・政治」というテーマ自体の全体像を確認していく	【予習】AI と政治に関してニュースを調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第４回	AI のもたらすリスク（講師：佐久間弘明） 現在顕在化している具体的な事例を参照しながら，AI が社会に及ぼす影響とその深刻さを考察する	【予習】AI とリスクに関してニュースを調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第５回	「AI ガバナンス」の諸相と課題（講師：佐久間弘明） 「AI 法」に関して，各国の規制動向や，法規制と企業の自主的な取組とのバランスなど，制度設計における主要な論点を概観する	【予習】AI と法律に関してニュースを調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第６回	制御と共生−AI と人間の関係変容−（講師：佐久間弘明） AI を単なる道具として「制御」するという発想から，人間側の価値変容まで見据えた新たな関係としての「共生」について議論する	【予習】「人間中心の AI 社会原則」について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第７回	AI の現在地：プロンプトの演習 生成 AI のサービスを利用することを通じて，現在の AI のありようについて演習する	【予習】生成 AI のサービスを利用できるように準備をする 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第８回	語りの倫理（講師：武富有香） ウェブ上で膨大な言葉がやりとりされ，生成 AI が瞬時に文章を生成するようになった現代における，言葉の選択と解釈の問題について考察する	【予習】ニュースサイトへの AI の導入について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第９回	悪口を分解する（講師：武富有香） ソーシャルメディアの投稿を例にして，ナラティブの持つ機能，表現や言い回しなどに着目して整理し，ナラティブを測るためのラベル付けの考え方について紹介する	【予習】SNS への AI の導入について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１０回	測りづらいものを測る（講師：武富有香） 「誰もが知っているようでいて十分には検証されていないこと」（世論や言葉，差別やバイアスの問題など）について，データから新たに読み解くための方法について考察する	【予習】「バイアス」について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１１回	生成 AI を人格化してもよいのだろうか？（講師：田村正資） 人間が未知の対象や無機物に人格を付与してしまう場面を取り上げ，生成 AI ツールを人格化して扱うことの意味やそれがはらむ倫理的な問題について考える	【予習】AI チャットボットへの依存について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１２回	生成 AI は何を知っているのだろうか？（講師：田村正資） 大規模言語モデルが情報を処理する仕組みと，人間が経験を通じて知を得るプロセスの違いに着目して，生成 AI と「知識」や「理解」の関係について考える	【予習】「RAG（検索拡張生成）」について調べる 【復習】配布資料を読み，理解する	60
第１３回	生成 AI にレポートを任せてもいいのだろうか？（講師：田村正資） 「生成 AI にレポートを代筆させる」ことの考察を通じて，生成 AI ツールの存在が当たり前になった時代の自律的な学びの在り方について考える	【予習】生成 AI にレポートを代筆させてもいいと思うか考えてくる 【復習】配布資料を読み，理解する	60

第１４回	振り返りとディスカッション 　授業全体の内容を振り返り,AI と倫理について再度考え直す	【予習・復習】これまでの配布資料を全て目を通して思い出す	60

〔授業の方法〕
① 各回で異なるテーマで講義を行なう（講師の表記のない回については前山が担当する）
② 毎回，リアクションペーパーを配布し，授業内で記述・提出してもらう．リアクションペーパーは「出席」確認を兼ねる
③ 学期末にレポートを課す

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業の最後に，前回の授業で提出されたリアクションペーパーに応答する時間を設ける．

〔成績評価の方法〕
レポート 30%，平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
本科目は，デジタルヒューマニティーズ科目群に含まれる．

〔テキスト〕
授業内で適宜紹介する．

〔参考書〕
授業内で適宜紹介する．

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	文化政策学						
教員名	石橋　鼓太郎						
講義コード	125541100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本科目では、日本と欧米の文化政策の歴史を概観します。そして、世界各国の文化政策を比較することにより、それぞれの国の歴史や社会、文化と密接に絡み合い、社会状況を反映しながら変容する文化政策の有機的な性質に着目します。さらに、各国がどのような理念のもと文化政策を行い、どのような施策・事業を実施しているのか、その差異や共通点を比較検討することにより、国が文化芸術を支援する理論的根拠について考えます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

日本の文化政策のみならず、海外の文化政策を知り、相対的、客観的な視点から文化政策を考察できるようになるために、以下の視座を獲得することを目指します。

①日本の文化政策の歴史と特徴を理解する。
②各国の文化政策の目的やその変遷、具体的な政策手段の特徴が分かる。
③国が文化芸術を支援する理論的根拠を把握する。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP2 および DP3 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、本授業で扱う「文化政策」の概念等について説明する。	【予習】シラバスを読み、講義内容をあらかじめ把握する。	60
第２回	文化政策の概説 【内容】日本を中心として、文化政策の考え方や制度について概説する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第３回	日本の文化政策①：明治維新～戦前 【内容】明治維新後と戦前の、国威発揚や検閲による日本の文化政策について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第４回	日本の文化政策②：戦後～高度経済成長期 【内容】戦後から高度経済成長期にかけての、法律や制度の新設を伴う日本の文化政策について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第５回	日本の文化政策③：バブル崩壊後 【内容】バブル崩壊後の、説明責任が求められた日本の文化政策について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第６回	日本の文化政策④：21 世紀 【内容】21 世紀から現在にかけての、多様な社会的領域との連携を重視した日本の文化政策について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第７回	欧米の文化政策①：イギリス 【内容】イギリスの文化政策について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第８回	欧米の文化政策②：アメリカ 【内容】アメリカの文化政策について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第９回	欧米の文化政策③：ドイツ 【内容】ドイツの文化政策について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１０回	欧米の文化政策④：フランス 【内容】フランスの文化政策について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１１回	文化政策の理論①：公的支援はなぜ必要か 【内容】国による支援が必要とされる理論的な根拠を理解する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１２回	文化政策の理論②：公的支援に頼ると自由は失われるのか 【内容】公的支援と表現の自由の関係について理解する。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１３回	文化政策の理論③：政策で創造を促すことはできるのか 【内容】公的支援と創造性の関係について理解する。 文化政策の現在	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１４回	まとめ：これからの文化政策 【内容】未来の文化政策について考える。	【予習】全授業を振り返り、疑問点を整理しておく。 【復習】本授業を通して学んだ諸外国、そして日本の文化政策の全体像を復習する。	60

〔授業の方法〕

授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
最終的に期末レポートを執筆し、自身の考察を論理的に整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
※不正が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業のはじめにコメントシートへのフィードバックを行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%
期末レポート：50%
※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。
※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_topics/2023/15058.html ）を要参照のこと。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①日本の文化政策の歴史と特徴を理解し、説明できるか。
②各国の文化政策の目的やその変遷、具体的な政策手段の特徴を理解し、説明できるか。
③国が文化芸術を支援する理論的根拠を理解し、説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『芸術文化政策の基礎』、片山泰輔、美学出版、本体¥2,300＋税、9784902078886
『みんなの文化政策講義―文化的コモンズをつくるために』、藤野一夫、本体¥2,700＋税、9784880655192
『公共内芸術―民主主義の基盤としてのアート』、ランバート・ザイダーヴァート、篠木涼訳、本体¥5,400＋税、9784409100462
文化庁「諸外国の文化政策に関する調査研究」、https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kaigai_seisaku.html
※購入の必要なし
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	アート・アドミニストレーション						
教員名	石橋　鼓太郎						
講義コード	125541110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
アート・アドミニストレーション（以下アートマネジメント）とは、一般にアートと社会をつなぐための方法論に関する実践および研究のことを指しますが、アートと社会との関係は日々目まぐるしく変わっており、それに即してアートマネジメントのあり方も大きく変容しています。本科目では、その歴史や現状を概説したうえで、現在・未来における望ましいアートマネジメントのあり方を考えます。具体的には、アートマネジメントが必要とされた歴史的背景、その基本的な考え方、具体的な実践の事例について学んでいきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
以下の視座を獲得することを目指します。
①アートマネジメント概念の歴史や現状を把握できる。
②芸術を取り巻く社会的環境（組織・制度）の構造を理解できる。
③これからのアートマネジメント実践のあり方について各自が考え、言語化できる。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP3、および DP5 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション：アートマネジメントとは？ 【内容】アートマネジメントの考え方について概観した後、授業の全体像や進め方を説明する。	【予習】シラバスを読み、講義内容をあらかじめ把握する。	60
第２回	歴史編①：アートマネジメント以前 【内容】アートマネジメントが必要とされる以前には、どのように芸術が社会によって支えられていたかを学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第３回	歴史編②：アートマネジメントの誕生 【内容】欧米と日本においてアートマネジメントが必要とされた背景と経緯を学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第４回	歴史編③：アートマネジメントの変化 【内容】近年における芸術と社会の関係の変容によって、アートマネジメントの概念や実践がどのように変化しているかを学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第５回	基礎編①：組織の経営 【内容】芸術文化にかかわる様々な組織形態や、その運営方法の基礎を学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第６回	基礎編②：事業の企画制作 【内容】事業（公演、展覧会、ワークショップ等）を企画制作する際の基礎的な考え方や方法論を学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第７回	基礎編③：広報とマーケティング 【内容】芸術文化事業における広報とマーケティングの特徴について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第８回	基礎編④：評価と研究 【内容】組織や事業を評価・研究する必要性とその潮流について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第９回	事例編①：公立文化施設 【内容】公立文化施設（ホール、ミュージアム等）におけるアートマネジメントの事例を学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１０回	事例編②：営利組織とメセナ活動 【内容】営利組織（企業）によるアートマネジメントの特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１１回	事例編③：中間支援組織とアーツカウンシル 【内容】中間支援組織によるアートマネジメントの特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１２回	事例編④：アートプロジェクトと芸術祭 【内容】アートプロジェクト・芸術祭におけるアートマネジメントの事例を学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１３回	事例編⑤：小規模／オルタナティブな場と実践 【内容】アート NPO やオルタナティブ・スペースにおけるアートマネジメントの事例を学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を調べておく。 【復習】講義内容を振り返り、不明な点や関心を持った点を文献等で調べ、知見を深める。	60
第１４回	まとめ：これからのアートマネジメント 【内容】現在・未来における望ましいアートマネジメントのあり方について考える。	【復習】興味関心を持った内容について調査し、レポート執筆を行う。	120

〔授業の方法〕
授業は主に講義形式でおこなう。なお、トピックに応じてグループワークやディスカッションを取り入れることもある。
各回の授業内容に基づきコメントシートの提出を求める。
最終的に期末レポートを執筆し、授業内容の理解を深め自身の考えを整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
※不正行為が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業のはじめにコメントシートへのフィードバックを行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%
期末レポート：50%
※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照。
※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_topics/2023/15058.html ）を要参照。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①芸術文化にかかわる組織とそれらを取り巻くさまざまな関係性や制度を理解できているか。
②その運営に必要となる基礎知識を得ているか。
③自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
身の回りの芸術文化を取り巻く組織や制度などに目を向け、アートマネジメントの実例を探してみる。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『アーツ・マネジメント概論』、小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、本体 3,000 円＋税、9784880652191　※購入の必要なし
『はじまりのアートマネジメント　新訂版』、松本茂章 編著、水曜社、本体 2,700 円＋税、9784880655765　※購入の必要なし
※その他、授業内で参照する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	地方自治体の文化行政						
教員名	石橋　鼓太郎						
講義コード	125541120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本科目では、地方自治体の文化行政をテーマに、日本において地方自治体がおこなってきた文化行政に関する理論や制度、事例を歴史的に学び、理解を深めます。また、各地方自治体の多様な主体による文化芸術の取り組みや、その基礎となる芸術文化振興条例や計画を概観することで、誰が何のために芸術文化を振興するのかという観点から、「公」と芸術文化の関係性を紐解きます。さらに、自らの興味関心に基づいて地方自治体の文化行政の取り組みついて調査し、新たな事業の提案を行うプレゼンテーションを通じて、行政と市民、文化芸術のより良い関係性のあり方を考えます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

地方自治体の文化行政が対象とする領域を理解し、文化芸術活動と地方自治体の関係性について考察を深め、以下の視座を獲得することを目指します。
①地方自治体による取り組みを知る。
②文化行政の考え方を理解する。
③行政と市民、そして文化芸術のより良い関係性のあり方について考察する。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP2、DP3 および DP5 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、「地方自治体の文化行政」の概要等を説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	地方自治体の基礎 【内容】行政や地方自治体の基本的な仕組み、その中における文化の位置づけについて概説する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	地方自治体の文化行政の歴史①：国との関係 【内容】国による文化政策との関係において、地方自治体がどのように位置づけられてきたかを把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	地方自治体の文化行政の歴史②：社会教育としての文化芸術 【内容】文化芸術が社会教育として位置づけられ、教育委員会によって担われてきた歴史とその背景を把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	地方自治体の文化行政の歴史③：文化行政の誕生 【内容】地方の時代・文化の時代、行政の文化化という考え方に基づき、文化行政が誕生した歴史とその背景を把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	地方自治体の文化行政の歴史④：多様な領域との連携 【内容】文化行政が多様な領域との連携において捉えられるようになった歴史とその背景を把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	地方自治体文化行政の現在①：首長部局 【内容】文化振興課等による文化行政の事例について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第８回	地方自治体文化行政の現在②：外郭団体、指定管理者 【内容】文化施設を中心に、外郭団体や指定管理者による文化行政の事例について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	地方自治体文化行政の現在③：実行委員会、共催 【内容】芸術祭を中心に、実行委員会や共催の形式による文化行政の事例について把握する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	地方自治体文化行政の現在④：文化振興条例・計画 【内容】文化行政の基礎となる文化振興条例・計画について理解する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	プレゼンテーション① 【内容】地方自治体の文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションで自身の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１２回	プレゼンテーション② 【内容】地方自治体の文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションで自身の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１３回	プレゼンテーション③ 【内容】特定の地方自治体において、現状の課題を踏まえたうえで、新たな文化行政の施策を提案する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１４回	プレゼンテーション④ 【内容】特定の地方自治体において、現状の課題を踏まえたうえで、新たな文化行政の施策を提案する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120

〔授業の方法〕

授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
また、プレゼンテーションを通して、情報をまとめ、自らの考えを分かりやすく伝えるノウハウを獲得し、知識の定着を図る。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
※不正が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業のはじめにコメントシートへのフィードバックを行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%
プレゼンテーション：50%
※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_topics/2023/15058.html ）を要参照のこと。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①地方自治体による取り組みを理解できているか。
②文化行政の考え方を理解できているか。
③行政と市民、そして芸術文化のより良い関係性のあり方について考察し、自らの考えを言語化できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
生まれた地域や、育った地域などの自治体が行っていた文化行政について、改めて振り返ってみることを推奨する。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『自治体文化行政レッスン５５』、小林真理 監修・編、美学出版、本体 2,200 円＋税、9784902078701
『分権時代の自治体文化政策―ハコモノづくりから総合政策評価に向けて』、中川幾郎、勁草書房、本体 2,400 円＋税、9784326301416
『基礎自治体の文化政策―まちにアートが必要なわけ』、藤野一夫/文化・芸術を活かしたまちづくり研究会 編著、水曜社、本体 2,700 円＋税、9784880654782
※購入の必要なし。
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	文化政策と法						
教員名	小林　真理						
講義コード	125541130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

近年（2017 年、2018 年）、文化政策に関する重要な法律に関して改正が立て続けに行われた。文化芸術基本法、そして文化財保護法の一部改正は、文化そのものの振興、指定文化財の保存だけでなく、福祉や教育、観光、外交といった幅広い分野との連携が期待されている。この改正は、これまでの法律とどのような点が異なり、どのような点が変わらず維持されていることなのか。文化に関わる個別法は、戦後文化財保護法を筆頭として、それぞれの領域の課題を解決するために制定され、改正されてきた。文化政策は、国および地域（あるいは人類）の文化を振興（そのために保護）することを通じて国民を豊かにすることを目的とするものであり、文化の創造・振興（普及）・保護を対象とする政策領域である。これらを実現していくために、様々な関連の法律が存在している。法律は、単なる規範ではなく、よりよい文化社会の実現に資するものでなくてはならない。法律を十分に使いこなしていく、あるいは、実態とかけ離れていることがあれば改正をしていく必要もある。先にあげた今回の法律改正を契機に、改めて文化政策に関連する法律が、これまでどのような意味を持ち（どのような問題を孕み）、これからどのような方向性が目指されていくのかということを体系的に明らかにするのが本講義の目的である。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

公共政策における文化政策がどのような法律や、そこに含まれる原則や価値によって動いているのかを理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	本講義の受け方と知っておかなければならない基本的な知識（法律の構造と、法律の読み方）、憲法と国際条約の枠組みを知る。	法律に使われる用語等について、基本的な知識を復習する。	120
第２回	文化政策の基礎となる法 1−（1）文化芸術基本法（1）	文化芸術基本法が制定される経緯について、学び復習する。	60
第３回	文化政策の基礎となる法 1−（2）文化芸術基本法（2）	文化芸術基本法の内容について、理解を深める。	60
第４回	文化政策の基礎となる法 2−（1）著作権法（1）	著作権法の法律の全体像を理解する。	60
第５回	文化政策の基礎となる法 2−（2）著作権法（2）	著作権法の現代的課題について理解する。	60
第６回	文化政策の基礎となる法 3−（1）文化財保護法（1）	文化財保護法が制定される経緯について理解した上で、法の全体像を理解する。	60
第７回	文化政策の基礎となる法 3−（2）文化財保護法（2）	文化財保護法の展開について、現代的課題を理解する。	60
第８回	文化政策の場・組織を支える法 1 文化政策における法人論	文化政策を担う法人がどのおような法律によって規定されるかを理解する。	60
第９回	文化政策の場・組織を支える法 2 公立文化施設に関する法ーPFI、指定管理者制度、コンセッション等	公立文化施設に関する法についての多様な法律を理解する。	60
第１０回	文化政策の場・組織を支える法 3 社会教育関連法ー公民館、図書館に関する法律	公民館、図書館に関する法律について理解をする。	60
第１１回	文化政策の場・組織を支える法 4 博物館に関する法律	博物館法、その他関連法について理解する。	60
第１２回	文化政策の場・組織を支える法 5 興行場法、劇場法	舞台芸術関係を扱う施設に関する法律を理解する。	60
第１３回	社会の多様性と向き合うための法 1 障害者文化芸術活動推進法、日本語教育推進法	障害者文化芸術活動推進法・日本語教育推進法成立の経緯と運用について理解する。	60
第１４回	社会の多様性と向き合うための法 2 アイヌ施策推進法	アイヌ施策推進法が制定される経緯と運用について理解する。	60

〔授業の方法〕

講義形式で、理解度を測るためのコメントシートの提出、小テストや小レポートを課します。なお、法律の条文を参照することが必要になるので、それらを参照するための準備は必要になります。インターネットにアクセスできる状態か、あるいは事前に次回扱う法律名を伝えますので法律の条文が参照できるように準備をしてほしいと思います。なお、授業の進捗によっては、扱う法律が前後する場合があります。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕
コメントシート等、平常での課題の提出状況 50%。最終的な試験を 50%で評価をします。履修人数が少ない場合は、最終試験をレポートに変更することがあります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
世の中で法律がどのように使われているかに関心をもっていることが重要になります。

〔テキスト〕
小林真理、小島立他『法から学ぶ文化政策』(有斐閣)
定価 2,640 円（本体 2,400 円）
ISBN 978-4-641-12630-5

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	舞踊論						
教員名	越智　雄磨						
講義コード	125541140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
20 世紀初頭のバレエの革新とモダンダンスの発生にコンテンポラリーダンスの源流を見出し、バレエ・リュス 、モダンダンス、表現主義舞踊、ポストモダンダンス、舞踏、ヌーヴェルダンスなど時系列に現在のコンテンポラリー・ダンスへと至る歴史的な展開を概観します。その歴史の学習を通じて、身体が映し出してきた社会や歴史、思想を解釈していきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
・20 世紀から 21 世紀に至るモダンダンスからコンテンポラリーダンスへ至る歴史の展開を把握し、説明できるようになる。
・各時代のダンスの展開と連動している同時代の社会情勢や、芸術潮流などを理解し、説明できるようになる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	復習： 講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べる。 コメントシート課題を提出する。	120 分
第２回	バレエリュス とニジンスキー	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第３回	モダンダンス①：イザドラ・ダンカンはなぜ裸足で踊ったのか？	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第４回	モダンダンス②デニショーン 舞踊団、マーサ・グレアム他	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第５回	ドイツ表現主義舞踊：マリー・ヴィグマン、ルドルフ・フォン・ラバン他	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第６回	ピナ・バウシュとタンツ・テアター	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第７回	ポスト・モダンダンス①デモクラシーの身体	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第８回	ポストモダンダンス②外向きのモダニズム内向きのモダニズム	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第９回	日本の舞踏：肉体の叛乱と近代批判	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第１０回	ヌーヴェルダンスと作家主義	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第１１回	ノン・ダンス：ダンスの零度？：ポスト・モダンダンスの再評価	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第１２回	コンテンポラリーダンス：ヨーロッパの事例①	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第１３回	コンテンポラリーダンス：ヨーロッパの事例②	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分
第１４回	コンテンポラリーダンス：日本の事例	予習：前回の講義内容の論点を整理し、わからない語句や作家などについて調べておく。 復習：コメントシート課題を提出する。	120 分

〔授業の方法〕
講義形式です。
教員が用意したスライドをもとに、各回のテーマについて解説していきます。
毎回、内容に即したコメント課題を提示しますので、復習として、授業内容を振り返りながら、それを次の授業までに提出していただきます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
毎回、授業の冒頭に前回の授業に関するコメント課題に対する全体総評やフィードバックを実施します。
質問がある場合には個別に受け付けます。

〔成績評価の方法〕

・成績評価は普段のコメント課題と期末レポートをもとに行います。
・期末レポートの提出は必須です。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
越智雄磨『コンテンポラリーダンスの現在』国書刊行会
鈴木晶編著『バレエとダンスの歴史』平凡社
アニエス・イズリーヌ『ダンスは国歌と踊る』慶應義塾大学出版会

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、メールか授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	上演芸術論						
教員名	李　知映						
講義コード	125541160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本科目では、近代から現代にかけての日本演劇をテーマに、授業では明治維新以降から現代に至る日本の舞台芸術作品を講義と映像を通して概観します。多様な日本の演劇作品を参照しながら、現代の舞台芸術について理解を深めます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP2 及び DP 6 を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解を深める。
②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション ・授業の全体像、進め方、学習・復習の仕方等を説明する。 ・舞台芸術の魅力とは？	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	30
第２回	開国、明治時代：「西洋演劇」の輸入	【予習】文化芸術に係る法律について調べる 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	新劇の誕生	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	宝塚	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	1960 年代　寺山修司	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	1960 年代　暗黒舞踏	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。	120
第７回	小テスト① 現代演劇と伝統芸能	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第８回	1970 年代　高度経済成長：つかブームほか	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	1980 年代　バルブ経済の時代：野田秀樹の登場	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	1990 年代　バブル崩壊：静かな演劇？	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	2000 年代　ロスト・ジェネレーション世代の演劇	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１２回	2010 年代　１０（テン）世代の演劇	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	上演芸術の未来	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。	120
第１４回	小テスト② まとめ及びフィードバック	【予習】7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】授業全体の内容を振り返る。	90

〔授業の方法〕

授業は講義式を中心に進めるが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。また、2回の小テストと1回の課題の実施を通じて、知識の定着を図る。
＊外部からの実演家を招聘することも検討している。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
授業時間を活用し、授業テーマを関連ある時にフィードバック等を行う。

〔成績評価の方法〕
成績は平常点によるもの。具体的には小テスト（2回：30%）や課題（20%)、授業への参加度・積極性等（50%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解しているか。
②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にないが、上演芸術に興味を持っていること。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。さらに、授業のなかで関連資料を配る乃至コースパーワに上げておく。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	芸術文化行政特講 A						
教員名	平山　美樹子						
講義コード	125541170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、近代日本における博物館の歴史を概観します。江戸時代の物産会などの博物館前史ともいうべき例を概観したのち、近代における「博物館」の勃興、現代の博物館が直面する課題について考察します。未来の芸術文化行政に携わる皆さんが、日本の博物館がたどった歴史の分析を通じて現代社会とアートの関係性についての理解をより深め、将来の文化活動の実践に役立てることを目標とします。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

本講義では、DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とします。

１．日本における博物館の成立に関する基礎的な知識を身につける。

２．授業で得た知識と博物館の実見から得た知見とを総合し、文章にまとめる。

３．１～２を踏まえた上で、現代日本の博物館が持つ課題についての理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第２回	博物館の語源・定義	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第３回	欧米における博物館発達史	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第４回	近世日本における「博物館」とは？（１）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第５回	近世日本における「博物館」とは？（２）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第６回	中間テスト	【予習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、テストの準備をする。	120
第７回	近代的博物館の誕生とその成熟（１）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第８回	近代的博物館の誕生とその成熟（２）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第９回	『わたしたちの国立西洋美術館 奇跡のコレクションの舞台裏』鑑賞	【予習】DVD作品のＨＰを読み、作品の背景について理解しておく。 【復習】授業メモを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	10
第１０回	博物館レポート	【予習】レポート用に与えられた課題を読み、各自が博物館を訪問してレポートを作成する。	60
第１１回	現代の博物館とその課題	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第１２回	発表	【予習】博物館訪問時のメモと発表ガイドラインに基づき、パワーポイントと台本を作成し、発表の練習をする。発表後、パワーポイントと発表メモを提出する	120
第１３回	発表	【予習】博物館訪問時のメモと発表ガイドラインに基づき、パワーポイントと台本を作成し、発表の練習をする。発表後、パワーポイントと発表メモを提出する	120
第１４回	期末テスト	【予習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、テストの準備をする。	120

〔授業の方法〕

授業は基本的に講義形式ですが、毎回学生の発言を促しますので、予習は必ず行ってください。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
Course　Power において、課題の提出および質問の受付を行います。

〔成績評価の方法〕
①中間テスト＝　　20 点
②博物館レポート＝　４0 点
④期末テスト＝　　４0 点
計：100 点満点

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『日本博物館成立史　普及版』　椎名 仙卓　雄山閣　３，３００円　　9784639028123　2022 年
（購入の必要なし）

〔参考書〕
授業回ごとに提示しします。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業に関する質問・相談は、オフィスアワーおよびオンライン（メールや CoursePower 等）で随時受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	写真論						
教員名	調　文明						
講義コード	125541190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

インターネットや SNS の普及により、写真はコミュニケーションツールのひとつとして私たちの日常生活に欠かせない「お手軽」なメディアとなっています。しかし、その一方で、写真誕生から 200 年弱の比較的短い歴史ながら、写真が担い果たしてきた役割や機能はきわめて「重厚」でもあります。そこで、本講義では写真の歴史に沿いつつ、写真（論）の基本的な要素（光化学/機械/複製/身体/私など）について各回テーマを設定し、具体的な写真映像を様々に挙げながら詳しく検討していきます。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP2（教養の修得）を達成するために、19 世紀前半から始まる写真の歴史についての基礎知識を習得しつつ、写真（論）の基本的な要素について具体的な写真映像の分析・考察も交えながら学ぶことで、写真映像一般についての教養と実践的な力を身につけることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 授業キーワード：初回授業はなし	【予習】シラバスを通覧したうえで、関心を抱いたテーマや内容について図書館やインターネットを利用して事前に調査しておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	60 分
第２回	新しい象り方：手から光へ 授業キーワード：ネガティブ・ハンド/聖骸布・聖顔布/『博物誌』	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第３回	光の装置：カメラ・オブスクラとマジック・ランタン 授業キーワード：小穴投影/一眼レフカメラ/ファンタスマゴリア	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第４回	写真の一多性：ダゲレオタイプとカロタイプ 授業キーワード：ハロゲン化銀/ダゲールとタルボット/ネガポジ法	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第５回	記録としての写真：国益の視点から当事者の視点まで 授業キーワード：ロジャー・フェントンとクリミア戦争/ルイス・ハインと児童労働/SNS の現場写真	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第６回	表現としての写真：画家の目と機械の眼 授業キーワード：シャルル・ボードレール「1859 年のサロン」/写真は光の造形である/フォト・アウゲ（写真眼）	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第７回	写真論小史 I 授業キーワード：アウラの消失/コードなきメッセージ/中間芸術	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第８回	写真と複製：現代アートと複製技術の交叉 授業キーワード：マルセル・デュシャンの《泉》/アンディ・ウォーホルとシルクスクリーン/シミュレーショニズム	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第９回	写真と複製：御真影とうつし 授業キーワード：寿像と遺像/六大巡幸/エドアルド・キヨッソーネ	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１０回	写真と身体：ファッション誌における女性表象 授業キーワード：『Harper's BAZAAR』と『VOGUE』/ストリートファッション・スナップ/SNS のセルフィー	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１１回	写真と身体：肖像と生＝性 授業キーワード：ケネス・クラークの nude と naked/身体と LGBTQ/《イントラ・ヴィーナス》とセルフヌード	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１２回	写真と私：私写真とはなにか 授業キーワード：私小説と私写真/深瀬昌久と荒木経惟/洋子と陽子	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分

第１３回	写真と私：なりきること 授業キーワード:オリジナルとコピー/ジャン・ボードリヤール『シミュラークルとシミュレーション』/ヴァナキュラー写真	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１４回	写真論小史Ⅱ 授業キーワード:プンクトゥムと個別学/アラン・セクーラ「身体とアーカイブ」/デジタル写真	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分

〔授業の方法〕
対面による講義形式を中心に、WebClass もしくは Discord といったソーシャルネットワークツールを用いて授業内の質疑応答も交えながら授業を行う予定です。各回ごとに事前に授業資料を配布し、授業の最後にはリアクションペーパーを提出してもらいます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
リアクションペーパーのフィードバックにかんしては、匿名状態にしたうえで WebClass もしくは Discord といったソーシャルネットワークツールにリアクションペーパーの回答（の一部）を載せ、それにコメントする場合があります。ご理解のほどよろしくお願いします。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパー、授業内の質疑応答）：30%
期末レポート：70%
上記を基準に総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
写真論の基本的な要素を理解したうえで、様々な時代、国、領域などに登場する写真映像を分析する際に、そうした要素を的確に召喚し考察の手立てとすることができるのか、その理解度・達成度を軸に評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。
授業資料を配布します。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	日本語教育概論＜1＞						
教員名	吉田　昌平						
講義コード	125551110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本科目で受講生が学ぶ内容は、国家試験「日本語教員試験」の出題範囲である「登録日本語教員養成機関コアカリキュラム」の必須教育内容に対応している。「日本語教育の参照枠」が示す言語教育観を基盤とした日本語教育の全体像・背景・意義・現場の多様性に相当するトピックについて学ぶ。また、海外の日本語学習者を対象としたオンライン実習を取り入れることで、履修者がティーチャートーク、質問の型、フィードバック、発音指導等を実践的に学び、日本語教員が果たすべき役割を深く理解することを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP４(表現力、発信力) DP5(多様な人々との協働)、DP6(自発性、積極性)を育成するため、以下を到達目標とする。
本科目の受講生が学ぶ内容は、国家資格「日本語教員試験」の出題範囲である「登録日本語教員養成課程コアカリキュラム」の必須教育内容に対応している。同カリキュラムの示す日本語教育の方法を学び、日本語教育人材の養成段階に求められる資質と能力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	【どうして日本語教師が国家資格に？】キーワード：植民地主義と言語政策、日中国交正常化、留学生 30 万人計画、日本語教育推進法、日本語教育機関認定法等	授業参加と復習についての「ふりかえり」 次週のための「事前学習」	40 分
第２回	【日本語学習者は、どんな人たち？】キーワード：入管法、日本語教育推進法、CDFR・日本語教育の参照枠・JF スタンダード、海外の日本語教育等	ふりかえり、事前学習	40 分
第３回	【教える日本語は、標準語だけ?】キーワード：言語と方言、言語変種、海外の言語政策等	ふりかえり、事前学習	40 分
第４回	【自分の英語学習を振り返る。どうしてわからないんだろう？どうすればいいんだろう？】キーワード：談話理解、推論、スキーマ、言語処理、記憶、学習環境等	ふりかえり、事前学習	40 分
第５回	【母語は簡単なのに、外国語が難しいのは、どうして？】キーワード：L1 習得と L2 習得、間違いの理由と種類、中間言語等	ふりかえり、事前学習	40 分
第６回	【外国語を効果的に学べる方法はないの？】キーワード：認知スタイル、方略スタイル、自律学習等	ふりかえり、事前学習	40 分
第７回	【異文化に対する自分の偏見・ステレオタイプに気づいてみよう】文化的気づき、文化相対主義、文化変容モデル、エポケー、異文化受容、異文化トレーニング、コミュニケーション教育等 ジェスチャー・表情・道具も使って伝える 【市販の問題集をコピーしてテストに使っていいの？】キーワード：著作権、教育機関の例外措置 【日本語の文字体系に出会った外国人になってみよう】文字と表記	ふりかえり、事前学習	40 分
第８回	【市販の問題集をコピーしてテストに使っていいの？】キーワード：著作権、教育機関の例外措置 【日本語の文字体系に出会った外国人になってみよう】文字と表記	ふりかえり、事前学習	40 分
第９回	【文学作品を外国語に翻訳して困ったこと】キーワード：成分分析、比喩的拡張等	ふりかえり、事前学習	40 分
第１０回	【言語間の距離/「勉強させられませんでした」は、いくつに区切れる？】 キーワード:音声・音韻、形態論、統語論等	ふりかえり、事前学習	40 分
第１１回	【「ん」は子音それとも母音？】 キーワード：声帯の状態、調音点、調音法等	ふりかえり、事前学習	40 分
第１２回	【外国人にとって１番難しい日本語の発音は？】 キーワード：アクセント、モーラと音節、特殊拍等	ふりかえり、事前学習	40 分
第１３回	【日本語教育の文法は国語の文法と違うの？】 キーワード：動詞の活用、テンス、アスペクト、ヴォイス等	ふりかえり、事前学習	40 分
第１４回	【学習者の「タメロ」をどうしよう？】 キーワード：協調の原理、会話の公理、ポライトネス等	ふりかえり	40 分

〔授業の方法〕

対人コミュニケーション能力、共働に適した姿勢・態度を重視するために、グループ活動を多く行い、また担当教員は頻繁に受講生の意見を求めることがある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
各小テストは、その場で解説・評価を行う。

〔成績評価の方法〕
小テスト　90%
平常点　　10%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕

〔参考書〕
『登録日本語教員養成課程コアカリキュラム 完全攻略ガイド』
出版社　：　翔泳社
価格：￥3,960
ISBN-10　：　4798191396
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	日本語教育概論＜2＞						
教員名	山下　順子						
講義コード	125551115	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
本授業は、初めて日本語教育に触れる学生を対象に日本語教育学の領域における基本的な考え方や知識を体系的に学ぶことを目的とする。日本語教育の歴史的背景や制度的枠組みを踏まえつつ、多様な社会的・文化的背景をもつ学習者、日本語教員に求められる資質・能力、日本語能力の評価方法、コースデザイン、教授法などについて概観する。また、日本語教育プログラムのコース設計や授業の組み立てに必要な基礎的な実践活動も行う。グループ活動やピア評価を通じて理論と実践の結びつきを意識し、日本語教育という専門分野への理解を深めることを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
・外国語としての日本語の指導に必要な知識や考え方を理解し、日本語教育について深く考察できる。
・評価法やコースデザインのスキルを身につける。
・教科書分析と授業設計といった実践を通じて、教育活動で活かせる実践力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 日本語教育とは	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第２回	日本語学習者 どこで、誰が、どうやって学んでいるか	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第３回	日本語教師 国家資格化、試験、求められる資質や能力	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第４回	日本語能力の測定 評価法、日本語能力を測る試験	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第５回	コースデザイン コースの目標と評価方法	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第６回	日本語のレベルと教材 教科書を分析する　課題①	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第７回	課題① グループ活動とピア評価、講評	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第８回	外国語としての日本語 学習者の母語と日本語を比べてみる	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第９回	教授法 さまざまな外国語教授法を体験する	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第１０回	教室内の教師の役割 ティーチャートークとフィードバック	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第１１回	授業設計（1） 教案の書き方を学ぶ	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第１２回	授業設計（2） 文法の教え方を考える	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第１３回	授業設計（3） 活動を考える　課題②	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60
第１４回	課題② グループ活動とピア評価、講評 授業のまとめと振り返り	事前学習 復習（小テスト・活動の準備）（該当する週のみ）	60

〔授業の方法〕
グループ活動を中心とした参加型の授業です。受講者の主体的な姿勢が求められます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
課題や試験に対するフィードバックは授業時間内に行います。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況）　30%
小テスト　20%
課題①　20%

課題②　20%
課題　ピア評価　10%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
森篤嗣［編］『超基礎・日本語教育［改訂版］』くろしお出版　ISBN：9784874248034

〔参考書〕
国際交流基金『日本語教授法シリーズ 1 日本語教師の役割/コースデザイン』ISBN：9784894763012
北出慶子・澤邉裕子・嶋津百代・杉本香・横溝紳一郎[編著]『日本語教育実習ワークブック』ISBN：9784867460757
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

26/2/9 15 時 45 分

講義名	日本語教育方法論＜1＞						
教員名	小田切　由香子						
講義コード	125551120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

オンライン指導実践を通じて日本語母語話者と非母語話者のコミュニケーションについて考え、それを授業に反映させる方法を身につける
毎回授業の 45 分間、オンラインで初級外国人学習者に 1 対 1 または 1 対 2 で日本語会話指導を行う。
残りの時間は指導に関わる知識、理論、技術を必要に応じて学ぶ。また、外国人学習者と自分の会話を録画し音声を文字化し会話分析することで、コミュニケーションについて深く考えていく。必要に応じて教師の成長に必須の「省察力」を養うために「ふりかえり」等を実施する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）、DP4-1（表現力、発信力）、DP-5（多様な人々との協働、コミュニケーション＋協調性＋チームワーク）
上記を目的として、以下のことができるようになる。
日本語教師として学習者の学習活動を支援するために、学習者の属性やニーズ等に応じた効果的な教授法・評価の仕組みや、学習者を社会とつなげる様々な方略に関する基礎的な知識を有すると共に、それらを日本語教育の実践と関連づけて考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション ①　　【養成】日本語教師に必要な資質と能力 ②zoom と日本語教育に役立つ ICT 活用③技能実習生と日本の在留外国人施策　③目的・対象別にどのように日本語教育が区別されているか知る	予習：日本語教育についてなんでもいいのでネットで調べる。 復習：技能実習制度について調べる	60 分
第２回	第 1 回によるオンライン会話指導 1 ①　　日本語教育の参照枠からこのオンラインコースがどのようにデザインされたか知る（学習環境設定についても学ぶ） 宿題 1　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：日本語教育の参照枠について調べる 復習：「ふりかえり」を書きながら今日の指導を内省する。必要な技術や知識があれば、それを書く。小田切がコメントをする。	60 分
第３回	第 1 回オンライン会話指導 2 ①　　オンライン指導に役立つ教授法　②技能実習生の事例から学ぶ異文化適応・不適応 宿題 2　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：対面授業とオンライン授業について注意すべき点などをまとめる。 復習：異文化適応について調べる。	60 分
第４回	第 1 回オンライン指導 3 ①　　第 1 回オンライン指導について授業を分析し、自己を点検する ②　　ベトナム語と日本語、指導で気を付けること（発音指導も含む） 宿題 3　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：ベトナム語と日本語について違いを調べる。 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する	60 分
第５回	第 2 回オンライン指導 1 ①　　中間言語について　　②会話分析について　③言語・非言語行動 宿題 4　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：中間言語について調べる 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する	60 分
第６回	第 2 回オンライン会話指導 2(自分の指導を録画して、3~5 分間の会話を切り取り文字に起こす) ①　　異文化コミュニケーション　②異なる文化背景を持つ者同士（日本人とベトナム技能実習生）が共生するための教育　③どうすればベトナム技能実習生のコミュニケーション能力を育成できるか 宿題 5　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：コミュニケーション能力について調べる 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する。会話分析について調べる。	60 分
第７回	第 2 回オンライン指導 3 ①　　みんなが分析した会話を見て話し合う ②訂正とフィードバックについて 宿題 6　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：自分が文字おこししたものを、もう一度読み、丁寧に分析する。 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する	60 分
第８回	第 3 回オンライン会話指導 1 ①　　学習者の「話すこと・聞く」能力を伸ばす工夫 ②　　オンライン指導で「読むこと・聞く」能力を伸ばす工夫 宿題 7　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：日本語教育の四技能について調べる 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する。と同時、どのようにすれば担当する学習者の「聞く・話す」能力が伸ばせる指導ができるか考える。	60 分
第９回	第 3 回オンライン会話指導 2 ①　　学習者の社会言語能力と社会文化能力について　②異文化調整能力とは　③日本語教育がコミュニティと連携して学習者の役に立てる人材となる方法について考える 宿題 8　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：技能実習生に関わる行政組織等について調べる。 復習：自分が住む地域に連携できる組織等があるか調べる。「ふりかえり」を書く。	60 分
第１０回	第 3 回オンライン会話指導 3 ①　　第 4 回の授業計画を立てるために方法を学ぶ ②第 4 回の教材を作るための知識（著作権も含む） 宿題 9　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：著作権に関わる事件を読む 復習：自分が学ぶ外国語の読解教科書などを見て、著作権がどのように扱われているか知る。 「ふりかえり」を書く。	60 分
第１１回	第 4 回自作教材によるオンライン会話指導 1 ①　　自分または友達の授業と教材を分析、評価する　②評価法テストによらない評価 宿題 10　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：テストによる評価について調べる。 復習：「ふりかえり」を書く。 自作教材の評価もする。	60 分
第１２回	第 4 回自作教材によるオンライン会話指導 2 ①　　自分または友達の授業と教材を分析、評価する　②テストによる評価と分析 宿題 11　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえ	予習：教材の評価用紙をもう一度丁寧に読み、教材を見直す。 復習：「ふりかえり」を書く。 自作教材の評価もする。	60 分

	り		
第１３回	第４回自作教案と教材によるオンライン会話指導３ ①　　4-1~4-3 までの授業を分析、評価し内省報告を書く　③テストの分析 宿題 12　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：教材の評価用紙をもう一度丁寧に読み、教材を見直す。 復習：「ふりかえり」を書く。 自作教材の評価もする。	60 分
第１４回	第５回オンライン会話指導 ①　　これまでの授業で学んだことを最後の授業でどのように活かすことができたかグループで話し合い、発表 ②　　「日本語教育方法論」の授業の分析と評価 宿題 13　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：教材の評価用紙をもう一度丁寧に読み、教材を見直す。 復習：「ふりかえり」を書く。 自作教材の評価もする。	60 分

〔授業の方法〕

zoom によるオンライン日本語会話指導を 45 分。オンライン指導のコース最後の 3 回は学生がベトナム学習者のレベルとニーズを把握し適切な教材を作成し、それで指導をする課題がある。
ふりかえり：指定された日に自分の指導の「ふりかえり」を書く。
会話分析：自分の指導を録画し文字におこし、それを分析する。これにより自分が学習者の理解できる日本語で話しているか、音量は適切かなどがわかる。
テストはしないが、日本語教育指導に必要な文法を学ぶためのプリントワークはある。
上記のいずれにも、丁寧に取り組むことが成績を左右する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

PC 必須。スマホによる指導は認めない。
・PC チャージが 100%になっていることを確認する。・イヤホン必須（日本人同士の声がハウるため）

〔課題等へのフィードバック方法〕

フィードバックはコースパワーまたは教室で直接実施する。特に優秀なもの、問題が大きいものはコースパワーでコメントを伝える。それ以外、問題のないものには特にコメントはしない。

〔成績評価の方法〕

評価方法
ふりかえり　40%, 課題 40%, 平常点（提出物, オンライン指導への取り組み, 態度等）20%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特に必要なし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	日本語教育方法論＜2＞						
教員名	小田切　由香子						
講義コード	125551125	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

オンライン指導実践を通じて日本語母語話者と非母語話者のコミュニケーションについて考え、それを授業に反映させる方法を身につける
毎回授業の 45 分間、オンラインで初級外国人学習者に 1 対 1 または 1 対 2 で日本語会話指導を行う。
残りの時間は指導に関わる知識、理論、技術を必要に応じて学ぶ。また、外国人学習者と自分の会話を録画し音声を文字化し会話分析することで、コミュニケーションについて深く考えていく。必要に応じて教師の成長に必須の「省察力」を養うために「ふりかえり」等を実施する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）、DP4-1（表現力、発信力）、DP-5（多様な人々との協働、コミュニケーション＋協調性＋チームワーク）
上記を目的として、以下のことができるようになる。
日本語教師として学習者の学習活動を支援するために、学習者の属性やニーズ等に応じた効果的な教授法・評価の仕組みや、学習者を社会とつなげる様々な方略に関する基礎的な知識を有すると共に、それらを日本語教育の実践と関連づけて考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション ①　　【養成】日本語教師に必要な資質と能力 ②zoom と日本語教育に役立つ ICT 活用③技能実習生と日本の在留外国人施策　③目的・対象別にどのように日本語教育が区別されているか知る	予習：日本語教育についてなんでもいいのでネットで調べる。 復習：技能実習制度について調べる	60 分
第２回	第 1 回によるオンライン会話指導 1 ①　　日本語教育の参照枠からこのオンラインコースがどのようにデザインされたか知る（学習環境設定についても学ぶ） 宿題 1　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：日本語教育の参照枠について調べる 復習：「ふりかえり」を書きながら今日の指導を内省する。必要な技術や知識があれば、それを書く。小田切がコメントをする。	60 分
第３回	第 1 回オンライン会話指導 2 ①　　オンライン指導に役立つ教授法　②技能実習生の事例から学ぶ異文化適応・不適応 宿題 2　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：対面授業とオンライン授業について注意すべき点などをまとめる。 復習：異文化適応について調べる。	60 分
第４回	第 1 回オンライン指導 3 ①　　第 1 回オンライン指導について授業を分析し、自己を点検する ②　　ベトナム語と日本語、指導で気を付けること（発音指導も含む） 宿題 3　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：ベトナム語と日本語について違いを調べる。 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する	60 分
第５回	第 2 回オンライン指導 1 ①　　中間言語について　　②会話分析について　③言語・非言語行動 宿題 4　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：中間言語について調べる 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する	60 分
第６回	第 2 回オンライン会話指導 2(自分の指導を録画して、3~5 分間の会話を切り取り文字に起こす) ①　　異文化コミュニケーション　②異なる文化背景を持つ者同士（日本人とベトナム技能実習生）が共生するための教育　③どうすればベトナム技能実習生のコミュニケーション能力を育成できるか 宿題 5　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：コミュニケーション能力について調べる 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する。会話分析について調べる。	60 分
第７回	第 2 回オンライン指導 3 ①　　みんなが分析した会話を見て話し合う ②訂正とフィードバックについて 宿題 6　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：自分が文字おこししたものを、もう一度読み、丁寧に分析する。 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する	60 分
第８回	第 3 回オンライン会話指導 1 ①　　学習者の「話すこと・聞く」能力を伸ばす工夫 ②　　オンライン指導で「読むこと・聞く」能力を伸ばす工夫 宿題 7　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：日本語教育の四技能について調べる 復習:「ふりかえり」を書きながら今日の指導を丁寧に内省する。と同時、どのようにすれば担当する学習者の「聞く・話す」能力が伸ばせる指導ができるか考える。	60 分
第９回	第 3 回オンライン会話指導 2 ①　　学習者の社会言語能力と社会文化能力について　②異文化調整能力とは　③日本語教育がコミュニティと連携して学習者の役に立てる人材となる方法について考える 宿題 8　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：技能実習生に関わる行政組織等について調べる。 復習：自分が住む地域に連携できる組織等があるか調べる。「ふりかえり」を書く。	60 分
第１０回	第 3 回オンライン会話指導 3 ①　　第 4 回の授業計画を立てるために方法を学ぶ ②第 4 回の教材を作るための知識（著作権も含む） 宿題 9　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：著作権に関わる事件を読む 復習：自分が学ぶ外国語の読解教科書などを見て、著作権がどのように扱われているか知る。 「ふりかえり」を書く。	60 分
第１１回	第 4 回自作教材によるオンライン会話指導 1 ①　　自分または友達の授業と教材を分析、評価する　②評価法テストによらない評価 宿題 10　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：テストによる評価について調べる。 復習：「ふりかえり」を書く。 自作教材の評価もする。	60 分
第１２回	第 4 回自作教材によるオンライン会話指導 2 ①　　自分または友達の授業と教材を分析、評価する　②テストによる評価と分析 宿題 11　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえ	予習：教材の評価用紙をもう一度丁寧に読み、教材を見直す。 復習：「ふりかえり」を書く。 自作教材の評価もする。	60 分

	り		
第１３回	第４回自作教案と教材によるオンライン会話指導３ ①　　4-1~4-3 までの授業を分析、評価し内省報告を書く　③テストの分析 宿題 12　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：教材の評価用紙をもう一度丁寧に読み、教材を見直す。 復習：「ふりかえり」を書く。 自作教材の評価もする。	60 分
第１４回	第５回オンライン会話指導 ①　　これまでの授業で学んだことを最後の授業でどのように活かすことができたかグループで話し合い、発表 ②　　「日本語教育方法論」の授業の分析と評価 宿題 13　授業のふりかえりと学習した内容のふりかえり	予習：教材の評価用紙をもう一度丁寧に読み、教材を見直す。 復習：「ふりかえり」を書く。 自作教材の評価もする。	60 分

〔授業の方法〕

zoom によるオンライン日本語会話指導を 45 分。オンライン指導のコース最後の 3 回は学生がベトナム学習者のレベルとニーズを把握し適切な教材を作成し、それで指導をする課題がある。
ふりかえり：指定された日に自分の指導の「ふりかえり」を書く。
会話分析：自分の指導を録画し文字におこし、それを分析する。これにより自分が学習者の理解できる日本語で話しているか、音量は適切かなどがわかる。
テストはしないが、日本語教育指導に必要な文法を学ぶためのプリントワークはある。
上記のいずれにも、丁寧に取り組むことが成績を左右する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

PC 必須。スマホによる指導は認めない。
・PC チャージが 100%になっていることを確認する。・イヤホン必須（日本人同士の声がハウるため）

〔課題等へのフィードバック方法〕

フィードバックはコースパワーまたは教室で直接実施する。特に優秀なもの、問題が大きいものはコースパワーでコメントを伝える。それ以外、問題のないものには特にコメントはしない。

〔成績評価の方法〕

評価方法
ふりかえり　40%, 課題 40%, 平常点（提出物, オンライン指導への取り組み, 態度等）20%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特に必要なし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	日本語教育事情						
教員名	小田切　由香子						
講義コード	125551140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

ベトナムにいる日本語学習者へのオンライン授業を通して、日本語教育に関わる知識と技術を理解し学習者と共にコミュニケーション力を高める方略を身につける

毎回授業の 45 分間、オンラインで初級外国人学習者に 1 対に日本人学生 1 または 1 対複数で日本語会話指導を行う。

授業の残りの時間は指導に関わる知識、理論、技術を学ぶ。オンライン指導の後には教師の成長に必須の「省察力」を養うために「ふりかえり」を書く。この「ふりかえり」には第三者である担当講師がコメントなどによりプロの日本語教員として関わり学生の「教師としての成長」を支援する。

この授業により、日本語教育日本語教育の実践に関わる諸事情（コースの準備、授業の組み立て、授業の展開、評価）を理解し養成段階に必要な資質・技術・態度を身につける。さらに、異文化コミュニケーションに関わる知識と技術を理解し身につけることができる。

毎回の授業に PC を持ってきてください。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1-1(専門分野の知識・技能) DP4-1（表現力・発信力）DP-5（多様な人々との協働　コミュニケーション+協調性＋チームワーク）

(2)言語と社会

日本語教師として、学習者を取り巻く社会と言葉の関係を常に考え続けるために、学習者が言語活動を行う社会とその社会において実際に使用されている言語との関係や、相互理解・相互尊重のためのコミュニケーションのあり方に関する基礎的な知識を有し、それらと日本語教育の実践とを関連づけて考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	コース・オリエンテーション：このクラスについて, 日本語教師【養成】に求められる資質・能力について、日本の在留外国人施策（技能実習生について～歴史、現状、今後～)、多文化・多言語主義、ICT 利用の日本語教育について、教師の成長~授業の「ふりかえり」を書く意義~	予習：技能実習生とベトナムについて調べる。 復習：育成就労について調べ自分でまとめる	60 分
第 2 回	第 1 回オンライン会話指導 1 ①　　『みんなの日本語初級』を分析して学習者の既習項目について把握する。 ②　　ベトナム語と日本語を比較する	予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。 講師作成教材を読む。 復習:「ふりかえり」を書きながら、自分に不足していると思われる知識、技能を書き出す。	60 分
第 3 回	第 1 回オンライン会話指導 2 ①　　地域社会における技能実習生②日本語教育の参照枠で学習者の目標を設定する	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：自分の住んでいる地域にある日本語教室について調べる	60 分
第 4 回	第 1 回オンライン会話指導 3 ①　　ワークショップ「外国語教授法と実践への応用」②コミュニケーション教育の理論と手法	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習:「ふりかえり」を書きながら、自分に不足していると思われる知識、技能を書き出す。	60 分
第 5 回	第 2 回オンライン会話指導 1 聞くこと・話すことの能力向上及び社会文化能力向上の方法について考える	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：自分が学んでいる外国語について「聞く」「話す」ことの能力向上を目指し授業で使われている 方法を調べる。	60 分
第 6 回	第 2 回オンライン会話指導 2 ①　　日本語能力試験 ②敬語	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：日本語学校指導で必要となるビジネスマナーと敬語について調べる。	60 分
第 7 回	第 2 回オンライン会話指導 3 ①　　日本社会で生きる学習者に必要な言語ストラレジー②学習者の誤用とフィードバック	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習:「ふりかえり」を書きながら、自分に不足していると思われる知識、技能を書き出す。	60 分
第 8 回	第 3 回オンライン会話指導 1 ①　　授業計画（オンライン授業の授業計画を中心に）　②評価法	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：自分が学んでいる外国語の自己評価をしてみる。	60 分
第 9 回	第 3 回オンライン会話指導 2 ①　　自分の授業を分析する方法　②日本語を分析する方法	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：好きな読み物、漫画などから日本語を抜き出し、そこにある日本語を学習者に教えることを想定し、説明や教え方を考える。	60 分

第１０回	第3回オンライン会話指導3 ①　　教材作成について　②著作権	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：「ふりかえり」を書きながら、自分に不足していると思われる知識、技能を書き出す。	60分
第１１回	第4回自作教材によるオンライン会話指導 ①　　学習者のニーズとシラバスについて	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：「ふりかえり」と自作教材を評価し、次の教材作成に活かしながら、次回の教材を作成する。	60分
第１２回	第4回自作教材によるオンライン会話指導 ①　　文化的背景の異なる学習者とのコミュニケーションについて	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：復習：「ふりかえり」と自作教材を評価し、次の教材作成に活かしながら、次回の教材を作成する。	60分
第１３回	第4回自作教材によるオンライン会話指導 ①　　自分の教材を分析・評価する ②授業分析・自己点検能力 宿題　ベトナムの日本語教育事情と教えてみたい国の日本語教育事情について調べてまとめる	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：復習：「ふりかえり」と自作教材を評価し、次の教材作成に活かしながら、次回の教材を作成する。	60分
第１４回	第5回オンライン会話指導1 ①　　技能実習生以外のベトナムの日本語教育事情、世界の事情（宿題の発表） ②　　技能実習生への「ことば」の教育からみた、ことばの教育と政策の関係	予習：予習：自分が担当するベトナム学生のレベルを把握するため『みんなの日本語初級』の学生の既習課を読む。必要ならば文法の教え方をネットで調べる。講師作成教材を読む。 復習：復習：「ふりかえり」と自作教材を評価し、次の教材作成に活かしながら、次回の教材を作成する。	60分

〔授業の方法〕

オンライン日本語会話指導（45 分）・・・１２回（授業第２回めから第 13 回目まで）。外国人学習者の数によりペアまたはグループで会話指導を行うことになる。オンライン指導の教材は講師が準備。ただし、第12,13,14の指導は学生が学習者のレベルとニーズにあった教材を作成する。
指導後は通常の講義を実施する。この時間に日本語指導に役立つ理論等を学ぶ。
・テストはしない
・課題：日本語指導後に書く「ふりかえり」、学生が作成した教材（２または3回分）とその評価。コース中に実施するプリントワークなど
「ふりかえり」は自分の指導を客観的に丁寧に内省し書くことが期待される。「教材」は学習者のレベル、ニーズを把握にそれに応じた教材作成に丁寧に取り組むことが望ましい。提出物の期限厳守。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

zoom で日本語会話指導を実施する。スマホで指導することはできない。PC を忘れスマホ使用となった場合は成績に影響する。
お願い：・PC の zoom は常に更新する。・PC のチャージを忘れない。・イヤホンは必須（声がハウってしまうため）

〔課題等へのフィードバック方法〕

課題に関しては必要に応じてコメントする。問題のないものにはコメントはしないが、非常に優秀なもの、問題があるものにはコメントをする。直接学生に教室でコメントすることもある。

〔成績評価の方法〕

評価方法
ふりかえり 40%、課題 20% 宿題 10%、プリントワークシート 10%、平常点（どこまで指導に丁寧に取り組んだか、授業での気づきを実践しているか等）20%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありません

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	言語学講義（言語と社会）						
教員名	八木橋　宏勇						
講義コード	125551150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕

本授業のテーマは「開放系言語学（認知言語学・社会言語学・語用論）から考えることばと社会」である。「認知言語学」(cognitive linguistics)「社会言語学」(sociolinguistics)「語用論」(pragmatics) は、言語に関わる諸問題を認知や社会との関係で追求する言語学の分野である。音声学・音韻論・統語論・意味論など、言語の諸側面を個別に切り出し、長らく分業制を敷いて行われてきた言語学において、認知言語学・社会言語学・語用論は比較的新しい研究の枠組みであり、扱う事象は統合的かつ広範にわたる。 これらは、言語を閉じた記号体系とは考えないことから、「開放系言語学」ということができる。

授業では、「ことばと社会」の関係性に関する理解をディスカッション・グループワーク（ないしはそれに類する）形式で深化させていく。この授業を通して、開放系言語学の基本概念をしっかりと身につけ、身の回りにある様々な言語現象を分析的に捉える視点を涵養してもらいたい。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

① 開放系言語学の主要なトピックを学び、身の回りの言語現象を学問的・分析的に捉えることができる。
② 言語の社会性を理解し、語学を教える教員として必要な「言語現象を分析的に見る眼」を習得する。
③ 授業内のディスカッションを通して、相互に具体例を見つけ出し、分析し合い、的確に表現する経験を蓄積させることで、絶え間なく変容していく「ことばと社会」について自ら考え続ける力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容・進め方・予復習の仕方等を説明する。 ・「言語学の歴史と対照研究の動向」を把握する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第２回	形式と意味 ・カテゴリー化と言語の関係を理解する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第３回	言語と文化の相同性 ・言語と文化の関係を理解する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第４回	言語とコンテクスト ・コンテクストの機能を理解する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第５回	言語と身体性 ・身体性と言語の関係を理解する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第６回	言語とアフォーダンス ・言語に見られるアフォーダンスの諸相を理解する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第７回	ナラティブ考 ・コミュ二ケーション行為としての語りを理解する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第８回	助言のディスコース ・談話の目的とパターンの関係を理解する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第９回	サイバースペースコミュニケーション ・SNS を介したコミュニケーションについて理解を深める。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第１０回	スモールトーク ・スモールトークと言語の交感的機能について理解を深める。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第１１回	ポライトネス ・face という概念を知り、positive / negative face の観点から分析できる言語現象について理解を深める。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第１２回	スポーツ・コメンタリー ・言語相対論の概略を把握し、言語現象を対照的に捉える手法を理解する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第１３回	教室のディスコース ・談話の目的とパターンの関係について理解を深める。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度
第１４回	ふりかえり－開放系言語学の今と、日本語教育の明日－ ・開放系言語学の全体像を再度確認し、その論点を日本語教育に活かす工夫を学修する。	授業で取り扱った言語現象のさらなる実例を探し出し、学問的・分析的に捉えることを通して、学修内容を内在化させる。	復習を中心に 60 分程度

〔授業の方法〕

各回の授業は、 「担当者による講義」と「履修者によるディスカッション・グループワーク」の二本立てで構成される。講義に必要な資料は適宜配布する。

評価にあたっては、身の回りの言語現象を「学問的・分析的に見る眼」が身につけられているかどうかという観点で行うため、授業で提示される「理論的考え方」や「分析手法」に関する理解を積極的に積み重ねるようにしてほしい。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

ディスカッション・グループワークに関しては、授業内でフィードバックする時間を設ける。また、課題については、Course Power の機能を使って個別にコメントを返却する。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）50%
レポート 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
① 身の回りの言語現象を学問的・分析的に捉えることができているか。
② 言語の社会性を理解し、「言語現象を分析的に見る眼」を習得できているか。
③ 絶え間なく変容していく「ことばと社会」について自ら考え続ける力を身につけられているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
履修者の興味関心に合わせて授業内で随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	日本語の学習と習得【日本語教員養成コース科目】＜2＞						
教員名	山下　順子						
講義コード	125551165	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本授業では、日本語を第二言語として学ぶ過程を認知的・心理的側面から多角的に捉える。母語獲得と第二言語習得の比較を通じて言語習得のメカニズムを理解し、記憶、認知、言語適性、学習者ビリーフ、動機づけ、学習ストラテジー、不安といった学習者の個人差にまつわる要因を概観する。さらに、異文化適応やアイデンティティなども取り上げ、学習者を取り巻く社会的・文化的文脈についても考察を深める。これらの理論的知見を通じて、履修者が日本語学習者の多様な姿を理解し、日本語教師として学習者にどのような支援が可能かを考えるための基礎的な視点を身につけることを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・母語獲得および第二言語習得に関する主要な理論を理解し、言語習得過程の原理を理論的に理解できる。
・第二言語の習得に関わる情緒的・心理学的側面について理解を深めるとともに、異文化適応や多文化共生にまつわる基本的知識を踏まえ、言語習得を多角的に捉えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 母語獲得と第二言語の習得	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第２回	第二言語習得論	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第３回	記憶と認知	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第４回	言語適性	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第５回	ビリーフ（1）	授業で取り上げたトピックの復習、活動の準備など	60
第６回	ビリーフ（2）	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第７回	動機づけ（1）	授業で取り上げたトピックの復習、活動の準備など	60
第８回	動機づけ（2）	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第９回	学習ストラテジー（1）	授業で取り上げたトピックの復習、活動の準備など	60
第１０回	学習ストラテジー（2）	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第１１回	第二言語不安	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第１２回	コミュニケーション意欲	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第１３回	異文化適応、多文化共生に向けた異文化コミュニケーション	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第１４回	まとめと振り返り 期末レポートについて	これまでの授業で扱ったトピックや内容ついて振り返る	90

〔授業の方法〕

基本的には講義形式で進めていきますが、適宜授業内課題やアクティビティも取り入れつつ進めます。
授業の最後にリアクションシートを記入、提出してもらいます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
平常点（授業への参加状況）　　20%
授業内課題・リアクションシート　　30%

期末レポート　50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
小林明子・福田倫子・向山陽子・鈴木伸子　著『日本語教育に役立つ心理学入門』くろしお出版
パッツィ・M・ライトバウン，ニーナ・スパダ　著『言語はどのように学ばれるか―外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』岩波書店
大関浩美　著『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	日本語の学習と習得【日本語教員養成コース科目】＜3＞						
教員名	山下　順子						
講義コード	125551170	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本授業では、日本語を第二言語として学ぶ過程を認知的・心理的側面から多角的に捉える。母語獲得と第二言語習得の比較を通じて言語習得のメカニズムを理解し、記憶、認知、言語適性、学習者ビリーフ、動機づけ、学習ストラテジー、不安といった学習者の個人差にまつわる要因を概観する。さらに、異文化適応やアイデンティティなども取り上げ、学習者を取り巻く社会的・文化的文脈についても考察を深める。これらの理論的知見を通じて、履修者が日本語学習者の多様な姿を理解し、日本語教師として学習者にどのような支援が可能かを考えるための基礎的な視点を身につけることを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

・母語獲得および第二言語習得に関する主要な理論を理解し、言語習得過程の原理を理論的に理解できる。
・第二言語の習得に関わる情緒的・心理学的側面について理解を深めるとともに、異文化適応や多文化共生にまつわる基本的知識を踏まえ、言語習得を多角的に捉えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 母語獲得と第二言語の習得	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第２回	第二言語習得論	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第３回	記憶と認知	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第４回	言語適性	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第５回	ビリーフ（1）	授業で取り上げたトピックの復習、活動の準備など	60
第６回	ビリーフ（2）	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第７回	動機づけ（1）	授業で取り上げたトピックの復習、活動の準備など	60
第８回	動機づけ（2）	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第９回	学習ストラテジー（1）	授業で取り上げたトピックの復習、活動の準備など	60
第１０回	学習ストラテジー（2）	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第１１回	第二言語不安	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第１２回	コミュニケーション意欲	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第１３回	異文化適応、多文化共生に向けた異文化コミュニケーション	次回授業で取り上げるトピックや活動の準備など	60
第１４回	まとめと振り返り 期末レポートについて	これまでの授業で扱ったトピックや内容ついて振り返る	90

〔授業の方法〕

基本的には講義形式で進めていきますが、適宜授業内課題やアクティビティも取り入れつつ進めます。
授業の最後にリアクションシートを記入、提出してもらいます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況） 20%
授業内課題・リアクションシート 30%
期末レポート 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
小林明子・福田倫子・向山陽子・鈴木伸子 著『日本語教育に役立つ心理学入門』くろしお出版
パッツィ・M・ライトバウン，ニーナ・スパダ 著『言語はどのように学ばれるか―外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』岩波書店
大関浩美 著『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

26/2/9 15 時 45 分

講義名	言語の構造＜1＞						
教員名	吉田　昌平						
講義コード	125551180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
国家資格「日本語教員試験」の出題範囲である「登録日本語教員養成課程コアカリキュラム」の必須教育内容の中の「言語一般の構造」と「日本語の構造」に関する知識について学ぶ。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1(専門分野の知識・技能）を育成するために以下の項目を到達目標とする。
· 言語を分析的に観察する方法を理解し、世界の言語及び日本語を系統的・類型的に捉え、言語を客観的に分析する方法を理解する。
· 日本語を他の言語と比較し、相違点・共通点を分析する力を培い、教育実践に活用する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション。一般言語学：音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、比較言語学、歴史言語学、社会言語学。ソシュールのラングとパロール、シニフィアンとシニフィエ。チョムスキーの Competence と Performance。言語の二重性（言語機能の二面性）、恣意性、二重分節性、有標/無標	授業参加と復習についての「ふりかえり」 次週のための「事前学習」	40 分
第２回	対照言語学：タイポロジー、統語的類型、主要部先行・補部先行パラメーター、統語的類型と形態的類型の学習・教育への影響	ふりかえり、事前学習	40 分
第３回	国際音声記号、母音と子音、母音、子音の調音法と調音点、日本語の音素と異音、超分節的特徴（拍と音節、アクセント、特殊拍、イントネーション）	ふりかえり、事前学習	40 分
第４回	日本語と他言語の比較：日本語と英語・マレー語・モンゴル語・アラビア語の対照（基本語順、前置詞/後置詞、名詞と修飾節の位置関係、助動詞と動詞の位置関係） 日本語教育のための文字と表記：現代仮名遣い、音読みと訓読み、漢字熟語の読み、ローマ字	ふりかえり、事前学習	40 分
第５回	日本語教育のための形態・語彙体系：形態素と異形態、自由形態素と束縛形態素、語彙的形態素と文法的形態素、語形成と接辞、日本語の語彙体系	ふりかえり、事前学習	40 分
第６回	日本語教育のための文法体系 (1) 日本語教育における品詞、名詞、指示詞、形容詞、副詞、接続詞、動詞	ふりかえり、事前学習	40 分
第７回	日本語教育のための文法体系 (2) 助詞の種類：格助詞、「は」と「が」	ふりかえり、事前学習	40 分
第８回	日本語教育のための文法体系 (3) ヴォイス：受け身、使役、可能、授与表現	ふりかえり、事前学習	40 分
第９回	日本語教育のための文法体系 (4) テンスとアスペクト、辞書形・タ形動詞のテンス	ふりかえり、事前学習	40 分
第１０回	日本語教育のための文法体系 (5) 自動詞と他動詞、モダリティ、敬語、複文	ふりかえり、事前学習	40 分
第１１回	日本語教育のための文法体系 (6) 名詞修飾節、副詞節	ふりかえり、事前学習	40 分
第１２回	日本語教育のための意味体系：成分分析、上位語と下位語、類義語・対義語、比喩表現	ふりかえり、事前学習	40 分
第１３回	日本語教育のための語用論的規範：協調の原理と会話の含意、ポライトネス理論、言語行為論と間接発話行為、会話分析・ターン分析	ふりかえり、事前学習	40 分
第１４回	これまでのまとめ	ふりかえり	40 分

〔授業の方法〕
対人コミュニケーション能力、共働に適した姿勢・態度を重視するために、グループ活動を多く行い、また担当教員は頻繁に受講生の意見を求めることがある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
各小テストは、その場で解説・評価を行う。

〔成績評価の方法〕
小テスト　90%
平常点　　10%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	言語の構造＜2＞						
教員名	吉田　昌平						
講義コード	125551190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕
国家資格「日本語教員試験」の出題範囲である「登録日本語教員養成課程コアカリキュラム」の必須教育内容の中の「言語一般の構造」と「日本語の構造」に関する知識について学ぶ。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1(専門分野の知識・技能) を育成するために以下の項目を到達目標とする。
· 言語を分析的に観察する方法を理解し、世界の言語及び日本語を系統的・類型的に捉え、言語を客観的に分析する方法を理解する。
· 日本語を他の言語と比較し、相違点・共通点を分析する力を培い、教育実践に活用する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション。一般言語学：音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、比較言語学、歴史言語学、社会言語学。ソシュールのラングとパロール、シニフィアンとシニフィエ。チョムスキーの Competence と Performance。言語の二重性（言語機能の二面性）、恣意性、二重分節性、有標/無標	授業参加と復習についての「ふりかえり」 次週のための「事前学習」	40 分
第２回	対照言語学：タイポロジー、統語的類型、主要部先行・補部先行パラメーター、統語的類型と形態的類型の学習・教育への影響	ふりかえり、事前学習	40 分
第３回	国際音声記号、母音と子音、母音、子音の調音法と調音点、日本語の音素と異音、超分節的特徴（拍と音節、アクセント、特殊拍、イントネーション）	ふりかえり、事前学習	40 分
第４回	日本語と他言語の比較：日本語と英語・マレー語・モンゴル語・アラビア語の対照（基本語順、前置詞/後置詞、名詞と修飾節の位置関係、助動詞と動詞の位置関係） 日本語教育のための文字と表記：現代仮名遣い、音読みと訓読み、漢字熟語の読み、ローマ字	ふりかえり、事前学習	40 分
第５回	日本語教育のための形態・語彙体系：形態素と異形態、自由形態素と束縛形態素、語彙的形態素と文法的形態素、語形成と接辞、日本語の語彙体系	ふりかえり、事前学習	40 分
第６回	日本語教育のための文法体系 (1) 日本語教育における品詞、名詞、指示詞、形容詞、副詞、接続詞、動詞	ふりかえり、事前学習	40 分
第７回	日本語教育のための文法体系 (2) 助詞の種類：格助詞、「は」と「が」	ふりかえり、事前学習	40 分
第８回	日本語教育のための文法体系 (3) ヴォイス：受け身、使役、可能、授与表現	ふりかえり、事前学習	40 分
第９回	日本語教育のための文法体系 (4) テンスとアスペクト、辞書形・タ形動詞のテンス	ふりかえり、事前学習	40 分
第１０回	日本語教育のための文法体系 (5) 自動詞と他動詞、モダリティ、敬語、複文	ふりかえり、事前学習	40 分
第１１回	日本語教育のための文法体系 (6) 名詞修飾節、副詞節	ふりかえり、事前学習	40 分
第１２回	日本語教育のための意味体系：成分分析、上位語と下位語、類義語・対義語、比喩表現	ふりかえり、事前学習	40 分
第１３回	日本語教育のための語用論的規範：協調の原理と会話の含意、ポライトネス理論、言語行為論と間接発話行為、会話分析・ターン分析	ふりかえり、事前学習	40 分
第１４回	これまでのまとめ	ふりかえり	40 分

〔授業の方法〕
対人コミュニケーション能力、共働に適した姿勢・態度を重視するために、グループ活動を多く行い、また担当教員は頻繁に受講生の意見を求めることがある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
各小テストは、その場で解説・評価を行う。

〔成績評価の方法〕
小テスト　90%
平常点　　10%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	対照言語学（母語と目標言語の特性）						
教員名	吉田　昌平						
講義コード	125551200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期

〔テーマ・概要〕
「諸言語はどれだけ違い、どれだけ似ているのか？」
この授業では、日本語と他言語の使用上及び構造的特徴を比較しながら、言語の多様性と普遍性を学ぶ。音声・音韻・形態・統語・文字・社会的な使い方といった観点からの対照を通して、学習者の誤用の背景を理解したり、日本語の特徴を再認識したりすることを目指す。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕
DP1(専門分野の知識・技能）を育成するために以下の項目を到達目標とする。
・同一言語内における言語変種とその要因及び言語が使用される社会における言語使用の実態や、言語行動を支える社会的・文化的慣習について理解する。
・言語を分析的に観察する方法を理解し、世界の言語及び日本語を系統的・類型的に捉え、言語をａ客観的に分析する方法を理解する。
・日本語を他の言語と比較し、相違点・共通点を分析する力を培い、教育実践に活用する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	言語ってどれぐらい違う？どれくらい似ている？（言語比較の視点と方法）	授業参加と復習についての「ふりかえり」 次週のための「事前学習」	40 分
第２回	音の聞こえ方・作られ方を比べてみよう(子音・母音の比較と体験)｜訂正方法（明示的フィードバック、暗示的フィードバック、リキャスト）	ふりかえり、事前学習	40 分
第３回	音のまとまりのクセ（音韻規則や拍・ストレス）｜イントネーション｜聞き取り｜	ふりかえり、事前学習	40 分
第４回	文字の世界を旅しよう(文字体系の種類と構造）｜文字マッチング｜自分の名前を書く	ふりかえり、事前学習	40 分
第５回	書き言葉と話し言葉｜使い分け。ダイグロシア｜句読点の使い方｜	ふりかえり、事前学習	40 分
第６回	語の内部に入ってみよう（語の構成と形成）｜語形成分析｜新語作り	ふりかえり、事前学習	40 分
第７回	動詞と名詞の形と役割の違い（活用、屈折、格表示の比較）	ふりかえり、事前学習	40 分
第８回	語順にルールはある？(語順と統語構造の比較)｜語順最構成パズル｜誤用分析	ふりかえり、事前学習	40 分
第９回	言語の先祖を訪ねる。日本語は孤立言語？（語族、同系論、歴史/比較言語学）｜インドヨーロッパ語祖語｜	ふりかえり、事前学習	40 分
第１０回	ポライトネスはどこから来るの？（敬語・丁寧表現と文化背景）｜ののしり言葉は何のためにあるの？｜敬語ロールプレイ｜	ふりかえり、事前学習	40 分
第１１回	学習者の「まちがい」は間違いではない？（誤用、母語干渉、中間言語）｜コーパス事例分析	ふりかえり、事前学習	40 分
第１２回	言語は変わる、混ざる、育つ（言語変化・接触、拡散・混合）｜借用語	ふりかえり、事前学習	40 分
第１３回	私たちの言葉、私たちの学び｜バイリンガル（継承語教育）｜	ふりかえり、事前学習	40 分
第１４回	○○語話者の変な動き(非言語行動)｜まとめと発表「私は○○語のコレがきらいだ」	ふりかえり	40 分

〔授業の方法〕
対人コミュニケーション能力、共働に適した姿勢・態度を重視するために、グループ活動を多く行い、また担当教員は頻繁に受講生の意見を求めることがある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
各小テストは、その場で解説・評価を行う。

〔成績評価の方法〕
小テスト　90%
平常点　　10%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	日本語教授法＜1＞						
教員名	吉田　昌平						
講義コード	125551205	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本科目では、日本語教師として求められる資質と能力、及び期待される役割の意義を理解した上で、日本語教育の実践に関わる事項を学習する。日本語学習者の目的に適した日本語教育を選び、実施できるように、授業前の学習者の調査から始まって、計画、準備、実施（教授法、訂正方法）、学習者の評価、自己点検・評価に至るまでの各過程における理論を学習する。また、海外の日本語学校の学習者をオンラインで教える活動を複数回行い、実践を通じて抽象的な理論を体得する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1(専門分野の知識・技能)、DP4(表現力・発信力)、DP5(多用な人々との協働)を育成する。
本科目の受講生が学ぶ内容は、国家資格「日本語教員試験」の出題範囲である「登録日本語教員養成課程コアカリキュラム」の必須教育内容に対応している。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コースオリエンテーション、「日本語教師の資質・能力」：日本語教師の役割と段階、日本語教育人材に共通して求められる基本的資質・能力、専門家としての日本語教師に求められる資質・能力、欧州評議会「民主的な文化への能力モデル」	授業参加と復習についての「ふりかえり」 次週のための「事前学習」	40 分
第２回	「中間言語分析」：誤用の種類(エラー、ミステイク、ローカルエラー、グローバルエラー)、誤用の背景(転移、干渉、過剰一般化、言語外エラーと言語内エラー)、プラグマティック・トランスファー、語用論的エラー、簡略化、誤用の定着（化石化、バックスライディング)、訂正方法（明示的フィードバック、暗示的フィードバック、リキャスト）	ふりかえり、事前学習	40 分
第３回	「日本語教育プログラムの理解と実践」：学習者の多様性、「日本語教育の参照枠」に見る学習者像と言語学習の目的、日本語教育のプログラム・デザイン→コース・デザイン→シラバス・デザイン→カリキュラム・デザイン、インストラクション・デザイン（ADDIE、PDCA サイクル）	ふりかえり、事前学習	40 分
第４回	「教室・言語環境の設定」：教育環境の設定、自律学習と学習環境デザイン、学習環境(第二言語環境、教室習得環境、宗教的・文化的配慮や障害者への合理的配慮	ふりかえり、事前学習	40 分
第５回	「コースデザイン」 日本語コースデザインのための調査・分析：ニーズ調査・分析、レディネス調査・分析、目標言語調査・分析、目標言語使用調査・分析 構成方法別シラバスデザイン：構造シラバス、機能シラバス、技能シラバス、場面シラバス、話題シラバス、タスクシラバス 決定時期別シラバスデザイン: 先行シラバス、後行シラバス、プロセスシラバス 言語能力記述分(Can-do)に基づいたカリキュラム、バックワード・デザイン 実施と評価・プレースメントテスト、教室活動、学習目的の確認、個人指導・相談、分析と点検、改善	ふりかえり、事前学習	40 分
第６回	「教授法」(1)：文法訳読法、ナチュラル・メソッド、サイコロジカル・メソッド、ベルリッツ・メソッド、フォネティック・メソッド、オーラル・メソッド、GDM(段階的直接法)、アーミー・メソッド、オーディオリンガル・メソッド、パターン・プラクティスの種類	ふりかえり、事前学習	40 分
第７回	「教授法」(2)：ヒューマニスティック・アプローチ(サイレントウェイ、サジェストペディア、コミュニティー・ランゲージ・ラーニング、TPR)、コミュニカティブ・アプローチ（インフォメーションギャップ、チョイス、フィードバック、タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク)。ナチュラルアプローチ(クラッシェン)、タスク中心の教授法、フォーカス・オン・ホームズ、フォーカス・オン・ミーニング、フォーカス・オン・フォーム	ふりかえり、事前学習	40 分
第８回	「教材分析・作成・開発」：教材と教具、分析の方法、インストラクショナル・デザイン（ARCS、ADDIE、９教授事象、ID 第一原理）	ふりかえり、事前学習	40 分
第９回	「評価法」(1)：試験による評価と試験によらない評価、「日本語教育の参照枠」における評価の対象となる言語能力、評価の理念と在り方。評価の妥当性、信頼性、実行可能性。目的別評価の分類(認定評価、測定、評価、選別評価)。時期別評価の分類(事前的評価、形成的評価、総括的評価、外在的評価)、成績評価の種類(相対評価、絶対評価)	ふりかえり、事前学習	40 分
第１０回	「評価法」(2)：用途別言語テストの種類(適性テスト、現代言語、適正テスト、外国語学習、適性テスト、プレースメントテスト、アチーブメントテスト、プロフィシェンシーテスト。結果の利用別言語テストの種類(集団基準、準拠テスト、目標基準準拠テスト)。主観テストと	ふりかえり、事前学習	40 分

	客観テスト。評価の客観性、古典的テスト理論、項目応答理論、テスト結果分析、波及効果、KR 情報		
第１１回	「授業計画」 到達目標・指導項目の設定、教案作成、アクティブラーニング、４技能別言語運用の指導方法	ふりかえり、事前学習	40 分
第１２回	「授業分析・自己点検能力」:適切な発問の形式、自己研修型教師と内省的実践家。教師の成長のための活動	ふりかえり、事前学習	40 分
第１３回	「目的・対象別日本語教育法」:学習者の多様性(生活者、留学生、就労者、難民、児童生徒など)、目的別日本語(アカデミックジャパニーズ、ビジネス日本語、生活日本語、JSL…)、「日本語教育の参照枠」の活用のための手引き-Can-do ベースのカリキュラム事例、学校教育における JSL プログラム、外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント-DLA、BICS、CALP	ふりかえり、事前学習	40 分
第１４回	これまでのまとめ	ふりかえり	40 分

〔授業の方法〕
対人コミュニケーション能力、共働に適した姿勢・態度を重視するために、グループ活動を多く行い、また担当教員は頻繁に受講生の意見を求めることがある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
各小テストは、その場で解説・評価を行う。

〔成績評価の方法〕
小テスト　90%
平常点　　10%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕

〔参考書〕
『登録日本語教員養成課程コアカリキュラム 完全攻略ガイド』
出版社　：　翔泳社
価格：￥3,960
ISBN-10　：　4798191396
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	日本語教授法＜2＞						
教員名	吉田　昌平						
講義コード	125551210	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

本科目では、日本語教師として求められる資質と能力、及び期待される役割の意義を理解した上で、日本語教育の実践に関わる事項を学習する。日本語学習者の目的に適した日本語教育を選び、実施できるように、授業前の学習者の調査から始まって、計画、準備、実施（教授法、訂正方法）、学習者の評価、自己点検・評価に至るまでの各過程における理論を学習する。また、海外の日本語学校の学習者をオンラインで教える活動を複数回行い、実践を通じて抽象的な理論を体得する。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

DP1(専門分野の知識・技能)、DP4(表現力・発信力)、DP5(多用な人々との協働)を育成する。
本科目の受講生が学ぶ内容は、国家資格「日本語教員試験」の出題範囲である「登録日本語教員養成課程コアカリキュラム」の必須教育内容に対応している。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コースオリエンテーション、「日本語教師の資質・能力」:日本語教師の役割と段階、日本語教育人材に共通して求められる基本的資質・能力、専門家としての日本語教師に求められる資質・能力、欧州評議会「民主的な文化への能力モデル」	授業参加と復習についての「ふりかえり」 次週のための「事前学習」	40 分
第２回	「中間言語分析」:誤用の種類(エラー、ミステイク、ローカルエラー、グローバルエラー)、誤用の背景(転移、干渉、過剰一般化、言語外エラーと言語内エラー)、プラグマティック・トランスファー、語用論的エラー、簡略化、誤用の定着（化石化、バックスライディング)、訂正方法（明示的フィードバック、暗示的フィードバック、リキャスト）	ふりかえり、事前学習	40 分
第３回	「日本語教育プログラムの理解と実践」:学習者の多様性、「日本語教育の参照枠」に見る学習者像と言語学習の目的、日本語教育のプログラム・デザイン→コース・デザイン→シラバス・デザイン→カリキュラム・デザイン、インストラクション・デザイン（ADDIE、PDCA サイクル）	ふりかえり、事前学習	40 分
第４回	「教室・言語環境の設定」:教育環境の設定、自律学習と学習環境デザイン、学習環境(第二言語環境、教室習得環境、宗教的・文化的配慮や障害者への合理的配慮	ふりかえり、事前学習	40 分
第５回	「コースデザイン」 日本語コースデザインのための調査・分析:ニーズ調査・分析、レディネス調査・分析、目標言語調査・分析、目標言語使用調査・分析 構成方法別シラバスデザイン：構造シラバス、機能シラバス、技能シラバス、場面シラバス、話題シラバス、タスクシラバス 決定時期別シラバスデザイン: 先行シラバス、後行シラバス、プロセスシラバス 言語能力記述分(Can-do)に基づいたカリキュラム、バックワード・デザイン 実施と評価・プレースメントテスト、教室活動、学習目的の確認、個人指導・相談、分析と点検、改善	ふりかえり、事前学習	40 分
第６回	「教授法」(1)：文法訳読法、ナチュラル・メソッド、サイコロジカル・メソッド、ベルリッツ・メソッド、フォネティック・メソッド、オーラル・メソッド、GDM(段階的直接法)、アーミー・メソッド、オーディオリンガル・メソッド、パターン・プラクティスの種類	ふりかえり、事前学習	40 分
第７回	「教授法」(2)：ヒューマニスティック・アプローチ(サイレントウェイ、サジェストペディア、コミュニティー・ランゲージ・ラーニング、TPR)、コミュニカティブ・アプローチ（インフォメーションギャップ、チョイス、フィードバック、タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク)。ナチュラルアプローチ(クラッシェン)、タスク中心の教授法、フォーカス・オン・ホームズ、フォーカス・オン・ミーニング、フォーカス・オン・フォーム	ふりかえり、事前学習	40 分
第８回	「教材分析・作成・開発」:教材と教具、分析の方法、インストラクショナル・デザイン（ARCS、ADDIE、９教授事象、ID 第一原理）	ふりかえり、事前学習	40 分
第９回	「評価法」(1)：試験による評価と試験によらない評価、「日本語教育の参照枠」における評価の対象となる言語能力、評価の理念と在り方。評価の妥当性、信頼性、実行可能性。目的別評価の分類(認定評価、測定、評価、選別評価)。時期別評価の分類(事前的評価、形成的評価、総括的評価、外在的評価)、成績評価の種類(相対評価、絶対評価)	ふりかえり、事前学習	40 分
第１０回	「評価法」(2)：用途別言語テストの種類(適性テスト、現代言語、適正テスト、外国語学習、適性テスト、プレースメントテスト、アチーブメントテスト、プロフィシェンシーテスト。結果の利用別言語テストの種類(集団基準、準拠テスト、目標基準準拠テスト)。主観テストと	ふりかえり、事前学習	40 分

	客観テスト。評価の客観性、古典的テスト理論、項目応答理論、テスト結果分析、波及効果、KR 情報		
第１１回	「授業計画」 到達目標・指導項目の設定、教案作成、アクティブラーニング、４技能別言語運用の指導方法	ふりかえり、事前学習	40 分
第１２回	「授業分析・自己点検能力」:適切な発問の形式、自己研修型教師と内省的実践家。教師の成長のための活動	ふりかえり、事前学習	40 分
第１３回	「目的・対象別日本語教育法」:学習者の多様性(生活者、留学生、就労者、難民、児童生徒など)、目的別日本語(アカデミックジャパニーズ、ビジネス日本語、生活日本語、JSL…)、「日本語教育の参照枠」の活用のための手引き-Can-do ベースのカリキュラム事例、学校教育における JSL プログラム、外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント-DLA、BICS、CALP	ふりかえり、事前学習	40 分
第１４回	これまでのまとめ	ふりかえり	40 分

〔授業の方法〕
対人コミュニケーション能力、共働に適した姿勢・態度を重視するために、グループ活動を多く行い、また担当教員は頻繁に受講生の意見を求めることがある。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等)〕

〔課題等へのフィードバック方法〕
各小テストは、その場で解説・評価を行う。

〔成績評価の方法〕
小テスト　90%
平常点　　10%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕

〔参考書〕
『登録日本語教員養成課程コアカリキュラム 完全攻略ガイド』
出版社　：　翔泳社
価格：￥3,960
ISBN-10　：　4798191396
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分

#N/A

26/2/9 15 時 45 分